

安城市男女共同参画に関する
アンケート調査
【調査結果報告書】

平成 28 年 11 月

安城市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	市民調査結果	5
1	回答者の属性	6
2	家庭生活について	12
3	職業生活について	22
4	女性の活躍推進について	50
5	地域活動への参加状況について	59
6	DV（ドメスティック・バイオレンス）について	66
7	男女の平等観について	84
8	市の施策への女性意見の反映について	93
9	男女共同参画に関する考え方について	97
III	企業調査結果	101
1	回答企業の概要	102
2	育児や介護に関する制度について	107
3	女性従業員について	110
4	男女共同参画全般について	116
IV	高校生調査結果	121
1	回答者の属性	122
2	男女共同参画の意識について	123
3	将来の働き方について	128
4	男女間の暴力について	130
V	町内会調査結果	135
1	回答者の属性	136
2	町内会活動における女性の参画について	137
3	災害時対策について	141
VI	自由意見	143
1	市民	144
2	企業	154
3	高校生	155
4	町内会	157

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、過去の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに「第4次安城市男女共同参画プラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

●調査に関する事項

区 分	内 容
調査対象	市民 20歳以上の男女各1,000人を無作為抽出 企業 市内業者500社を無作為抽出 高校生 市内の高校5校からクラスごとに253人を抽出 町内会 市内79町内会の会長
調査票の配布・回収	市民 : 郵送配布・郵送回収（督促状1回） 企業 : 郵送配布・郵送回収（督促状1回） 高校生 : 学校を通じた配布・回収 町内会 : 郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成28年7月1日
調査期間	市民 : 平成28年7月20日～8月8日 企業 : 平成28年7月20日～8月8日 高校生 : 平成28年7月20日～8月8日 町内会 : 平成28年7月20日～8月8日

●配布・回収に関する事項

区 分	市民調査	企業調査	高校生調査	町内会調査
配布数（A）	2,000	500	253	79
回収件数（B）	939	243	253	68
回収率（B/A）	47.0%	48.6%	100.0%	86.1%

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

●「単数回答」「複数回答」について

図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

●表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、**最も割合の高い項目**と**二番目に割合の高い項目**を表しています。

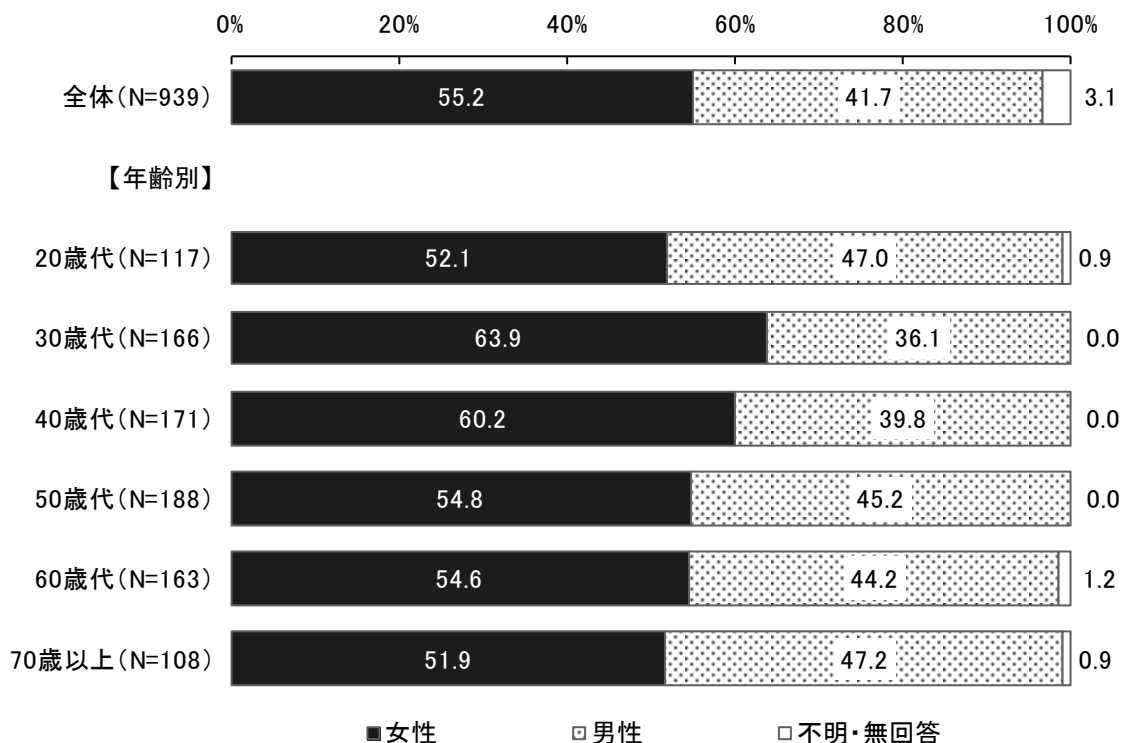
II 市民調查結果

1 回答者の属性

問1 性別（単数回答）

回答者の性別は、全体で「女性」が55.2%、「男性」が41.7%となっています。

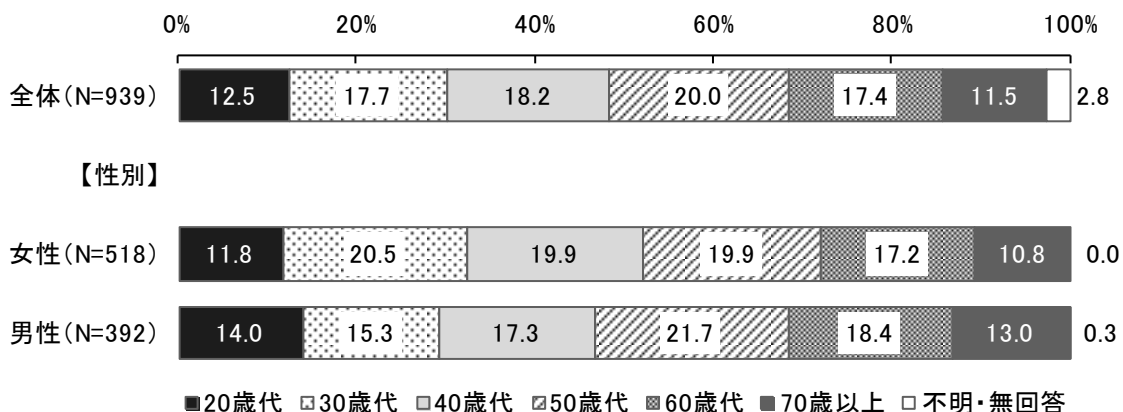
年齢別では、いずれの年代も「女性」が半数を超えており、30歳代及び40歳代では6割を超えて高くなっています。



問2 年齢（単数回答）

回答者の年齢は、全体で「50歳代」が20.0%と最も高く、次いで「40歳代」が18.2%となっています。

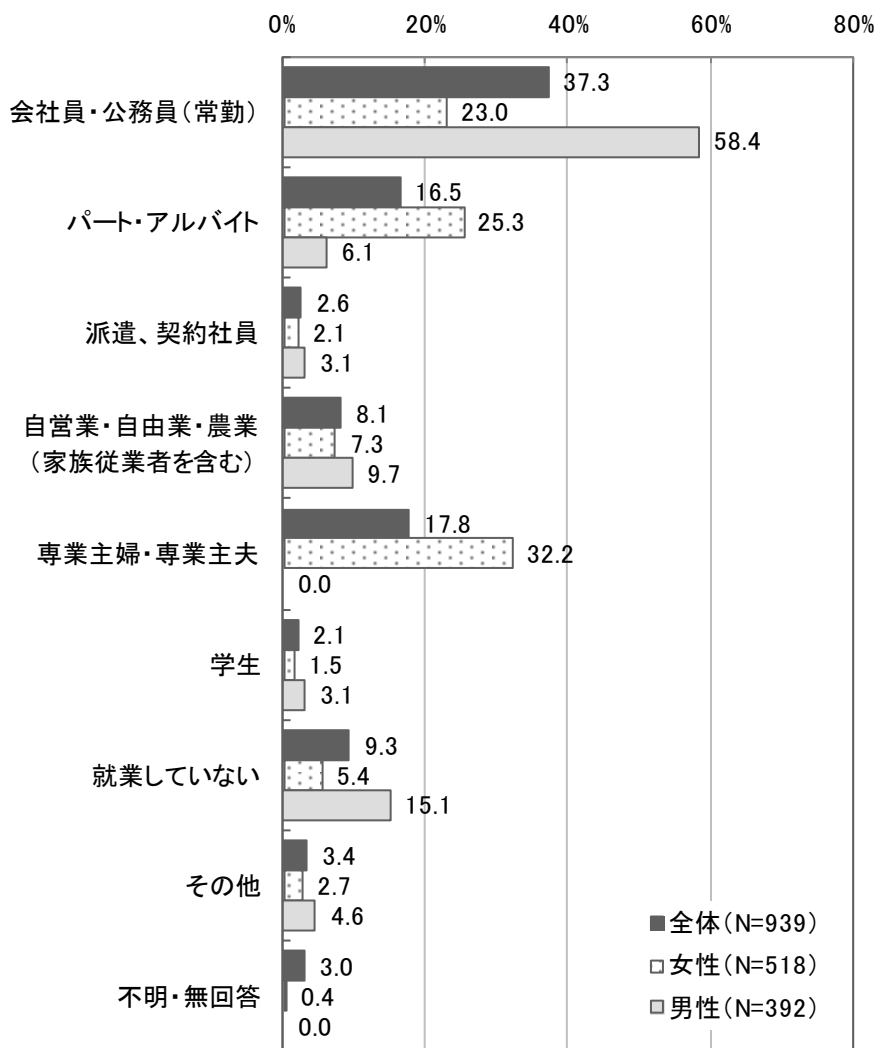
性別では、女性で30～50歳代が2割前後、男性では「50歳代」が21.7%とそれぞれ高くなっています。



問3 職業（単数回答）

回答者の職業は全体で「会社員・公務員（常勤）」が37.3%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が17.8%となっています。

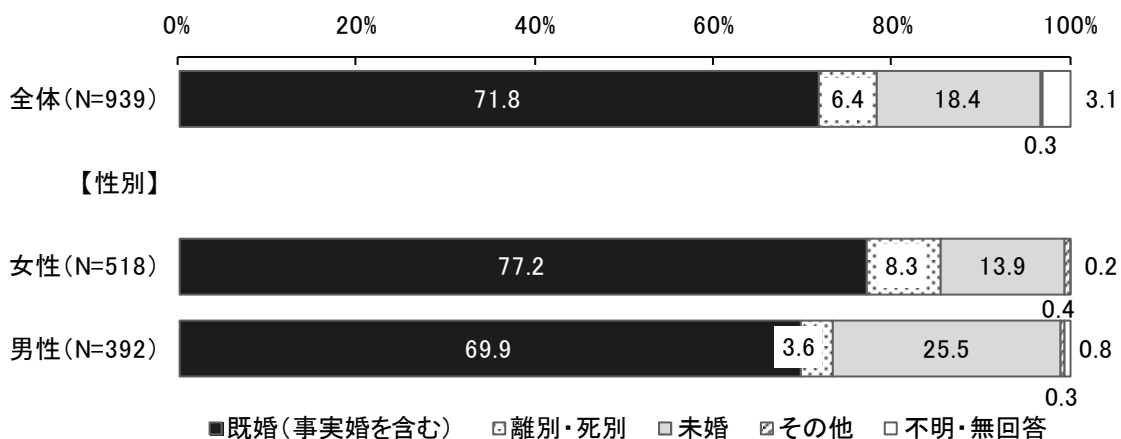
性別では、女性で「専業主婦・専業主夫」が32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が25.3%、「会社員・公務員（常勤）」が23.0%となっています。男性では「会社員・公務員（常勤）」が58.4%と最も高く、次いで「就業していない」が15.1%となっています。



問4 婚姻状況（単数回答）

回答者の婚姻状況は、全体で「既婚（事実婚を含む）」が71.8%と最も高く、次いで「未婚」が18.4%となっています。

性別では、「既婚（事実婚を含む）」が女性で77.2%と、男性よりも7.3ポイント高くなっています。一方、「未婚」は男性で25.5%と、女性よりも11.6ポイント高くなっています。

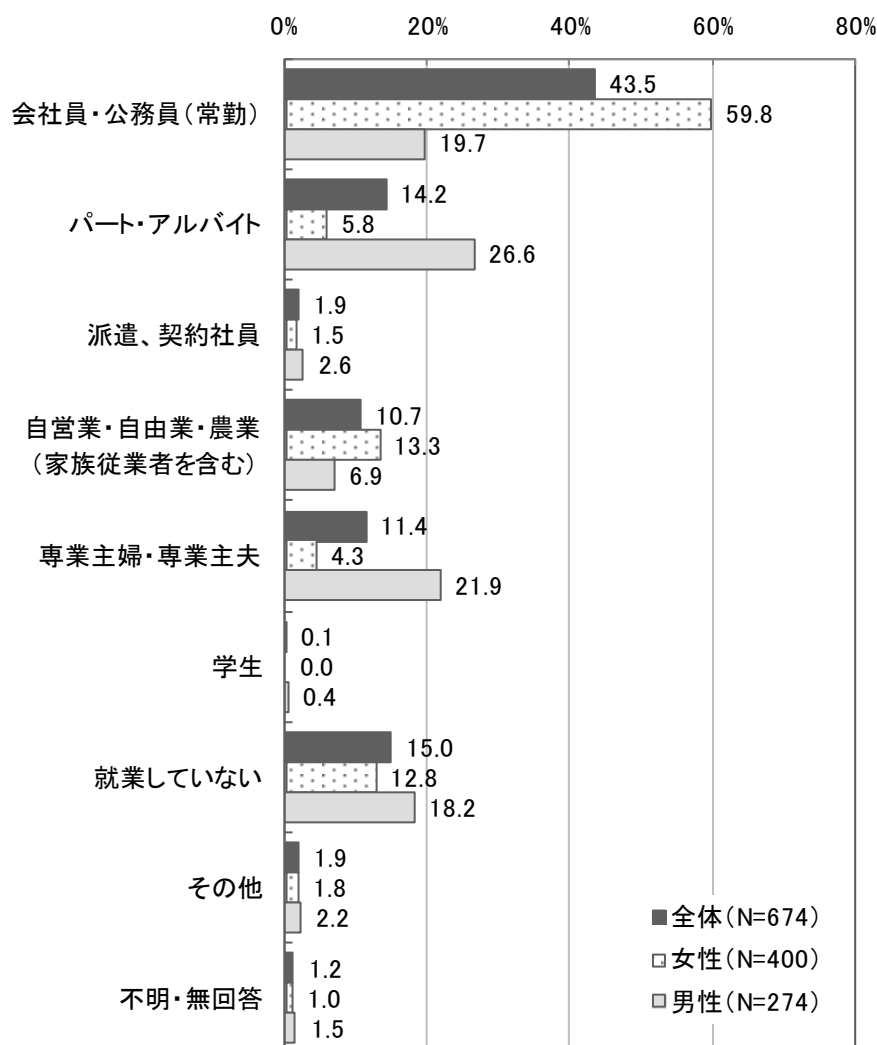


【問4で「1 既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ】

問4-1 配偶者・パートナーの職業（単数回答）

回答者の配偶者・パートナーの職業は、全体で「会社員・公務員（常勤）」が43.5%と最も高く、次いで「就業していない」が15.0%となっています。

性別では、女性回答者の配偶者・パートナーは「会社員・公務員（常勤）」が59.8%と最も高く、次いで「自営業・自由業・農業（家族従業者を含む）」が13.3%となっています。男性回答者の配偶者・パートナーは「パート・アルバイト」が26.6%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が21.9%となっています。

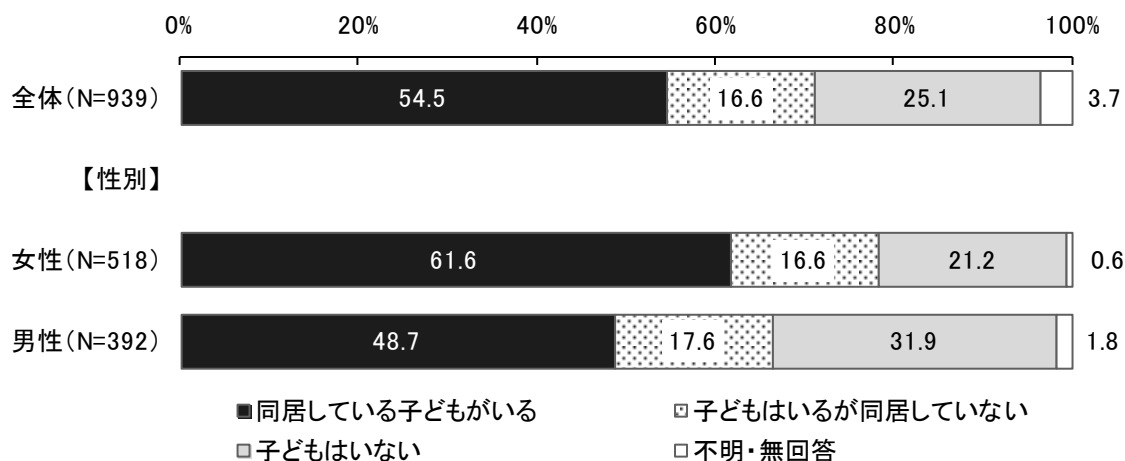


【子どものいる方のみ】

問5 子どもの有無（単数回答）

回答者の子どもの有無は、全体で「同居している子どもがいる」が 54.5%と最も高く、次いで「子どもはいない」が 25.1%となっています。

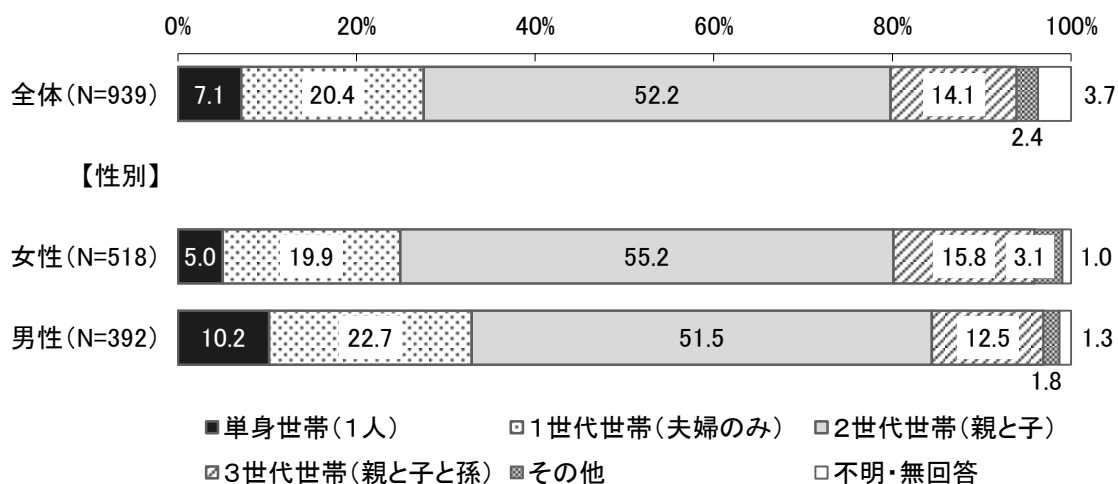
性別では、「同居している子どもがいる」が女性で 61.6%、男性で 48.7%となっています。



問6 家族構成（単数回答）

回答者の家族構成は、全体で「2世代世帯（親と子）」が 52.2%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が 20.4%となっています。

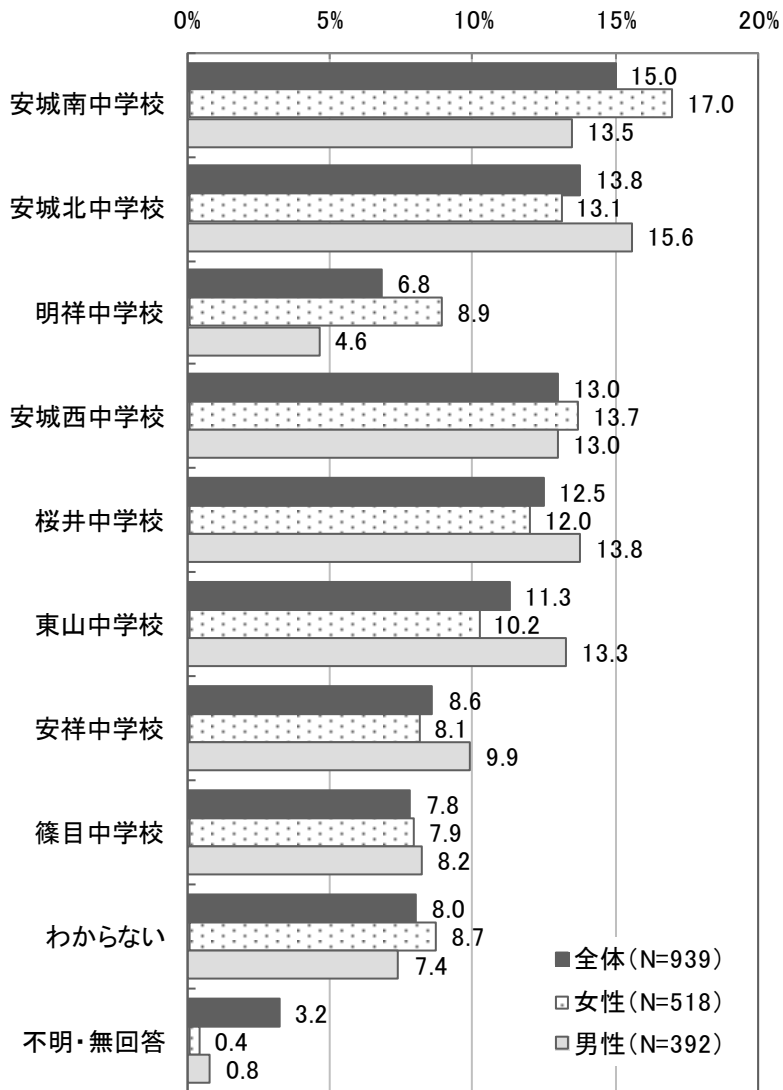
性別では、「単身世帯（1人）」が男性で 10.2%と、女性よりも 5.2ポイント高くなっています。



問7 お住まいの中学校区（単数回答）

回答者の住まいの中学校区は、全体で「安城南中学校」が15.0%と最も高く、次いで「安城北中学校」が13.8%となっています。

性別では、女性で「安城南中学校」が17.0%、男性で「安城北中学校」が15.6%と、それぞれ最も高くなっています。



2 家庭生活について

問8 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

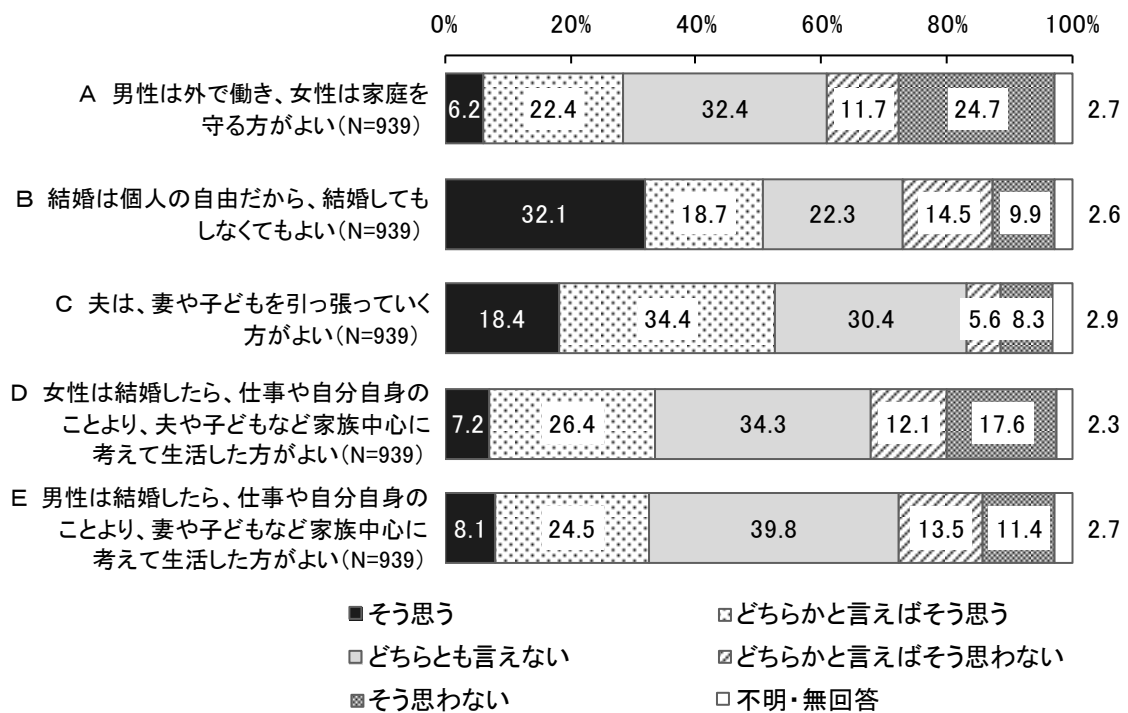
問8の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『賛成』…「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合算

『反対』…「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」の合算

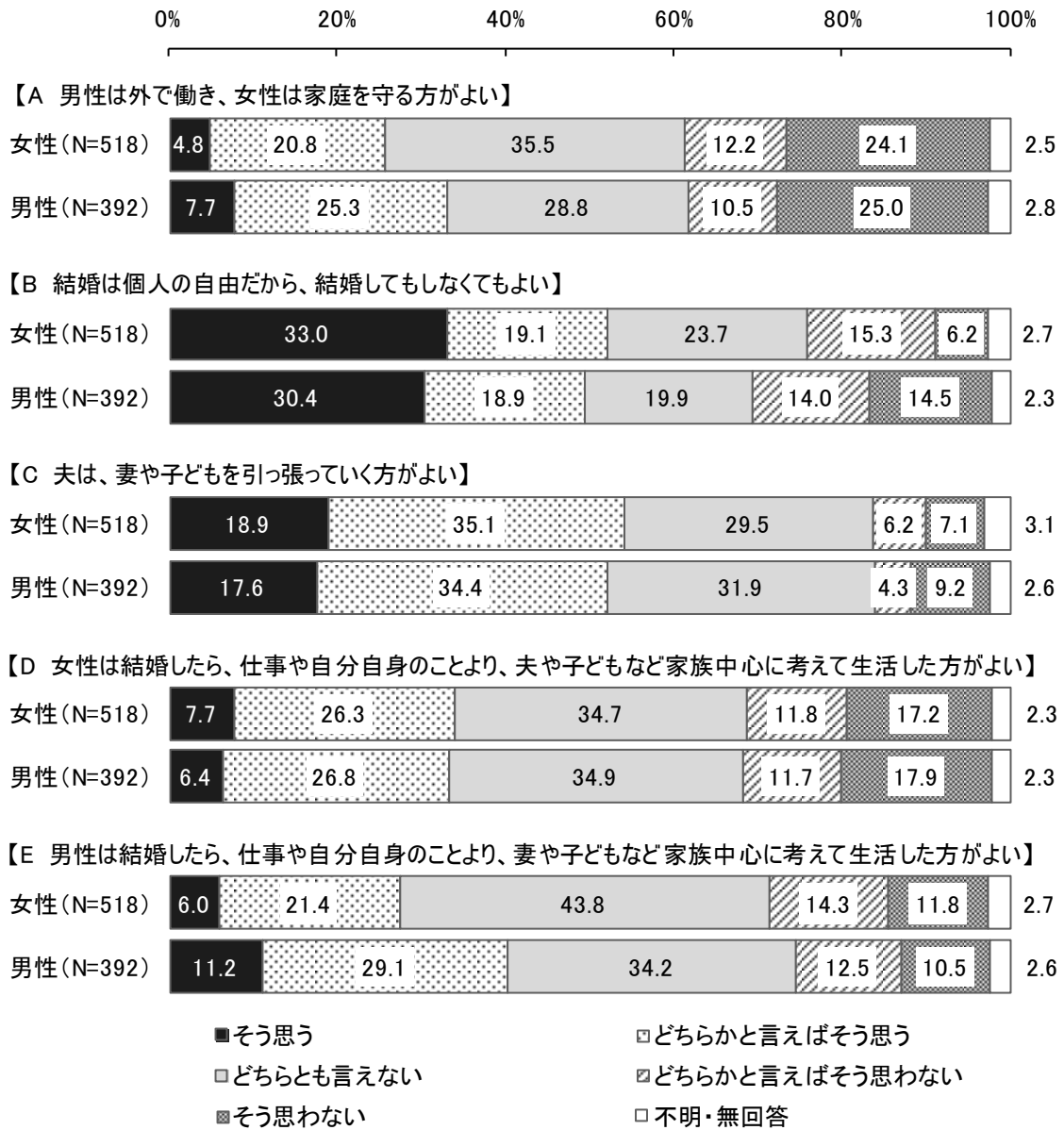
家庭生活における考えでは、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」で『賛成』が、いずれも5割を超えて高くなっています。

一方、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」で『反対』が、3割前後と高くなっています。



性別比較

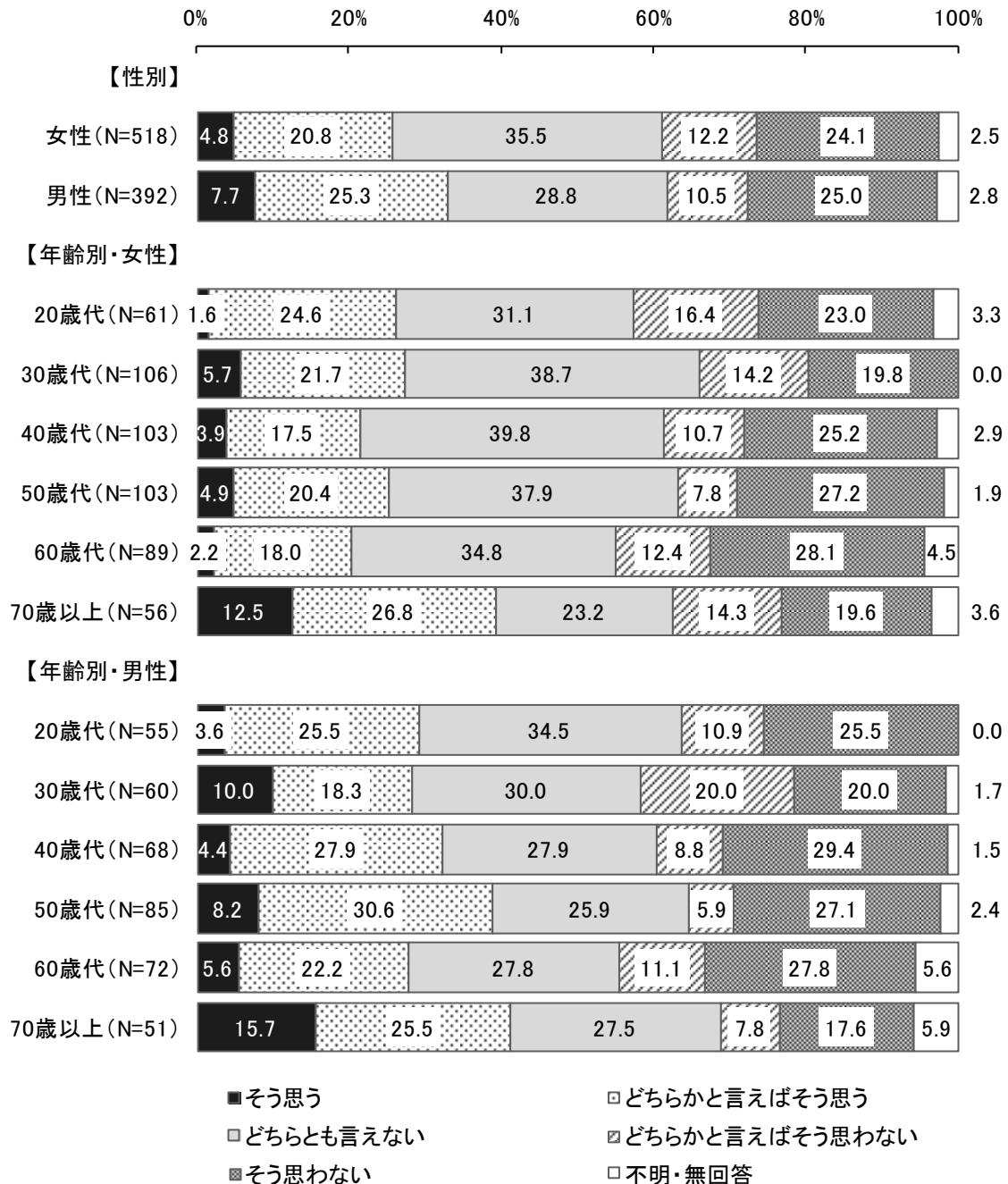
女性と男性で最も差が大きい項目は「E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」となっており、『賛成』は男性で40.3%と、女性より12.9ポイント高くなっています。



項目別集計結果

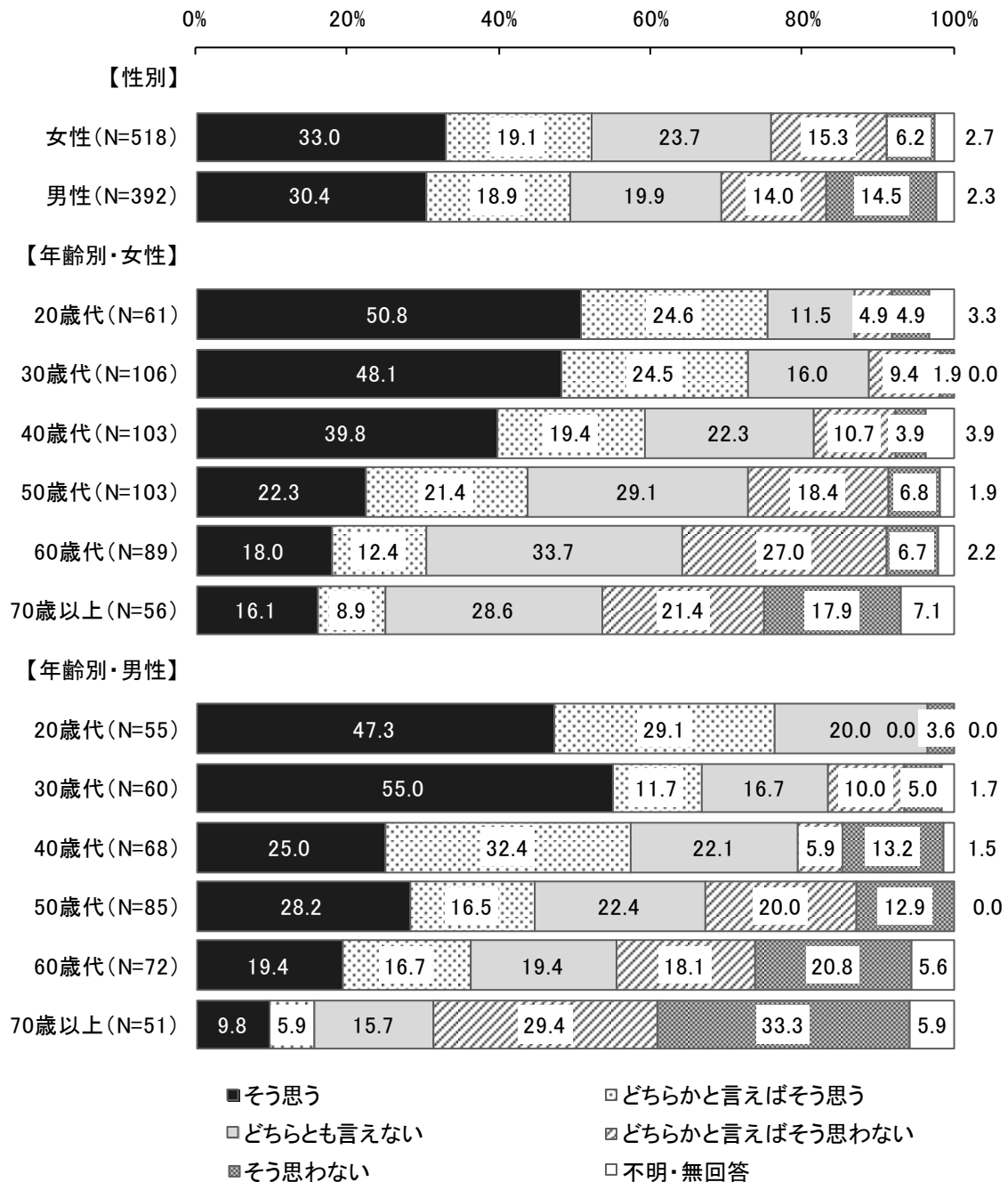
【A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい】

「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」という考えについては、女性の70歳以上、男性の50歳代、40歳代及び70歳以上で『賛成』が3割を超えて高くなっています。一方、『反対』は女性の50歳代、男性の20～40歳代及び60歳代で4割前後と高くなっています。



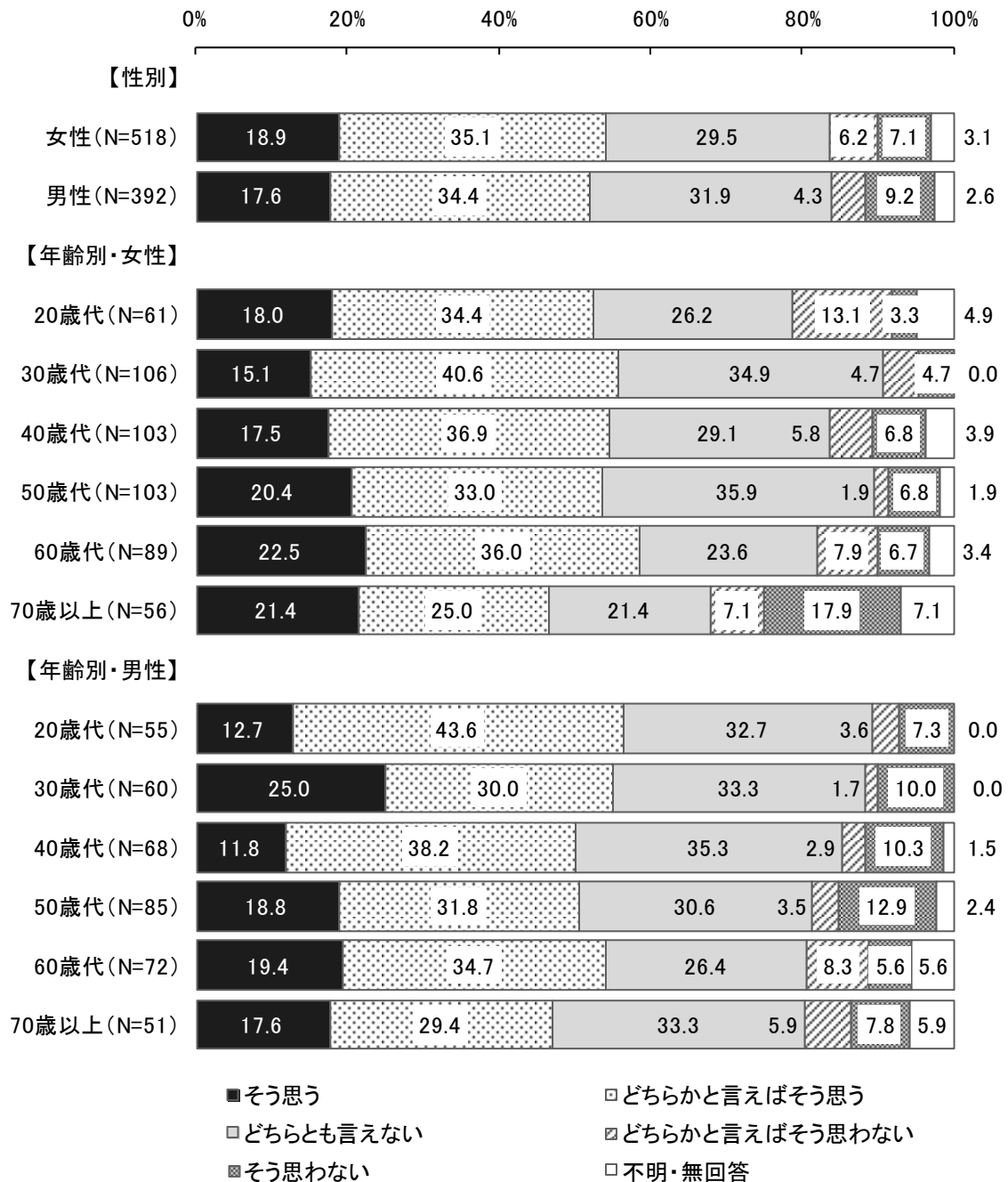
【B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい】

「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」という考えについては、女性、男性ともに 20～40 歳代で『賛成』が 5 割を超えて高く、特に女性の 20～30 歳代及び男性の 20 歳代は 7 割を超えています。また、男女ともに年齢が上がるにつれて『賛成』が低下する傾向にあります。



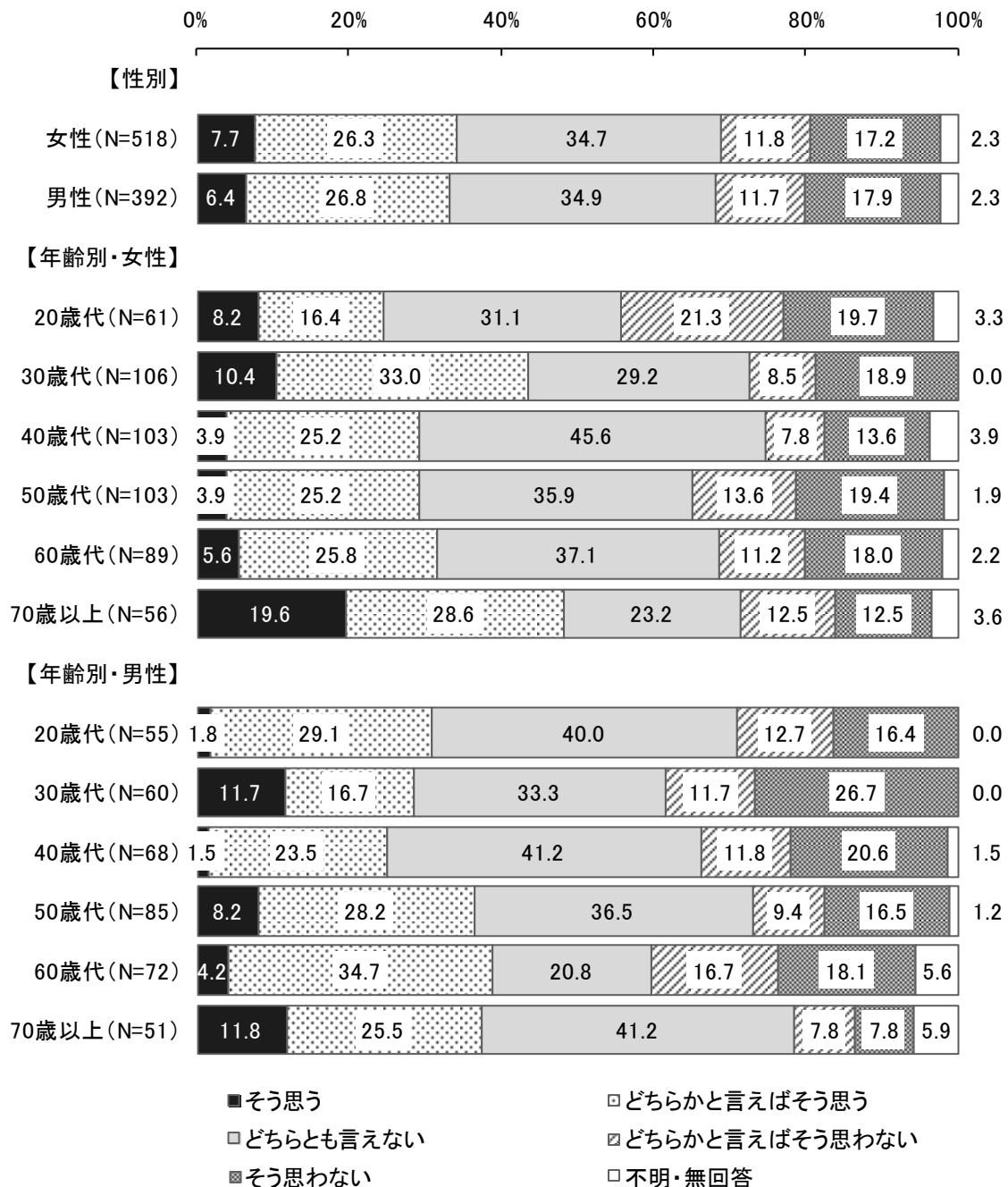
【C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい】

「夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」という考えについては、女性、男性ともに70歳以上を除いて『賛成』が5割以上と高くなっています。なお、女性の70歳以上で『反対』が25.0%と、他と比べて高くなっています。



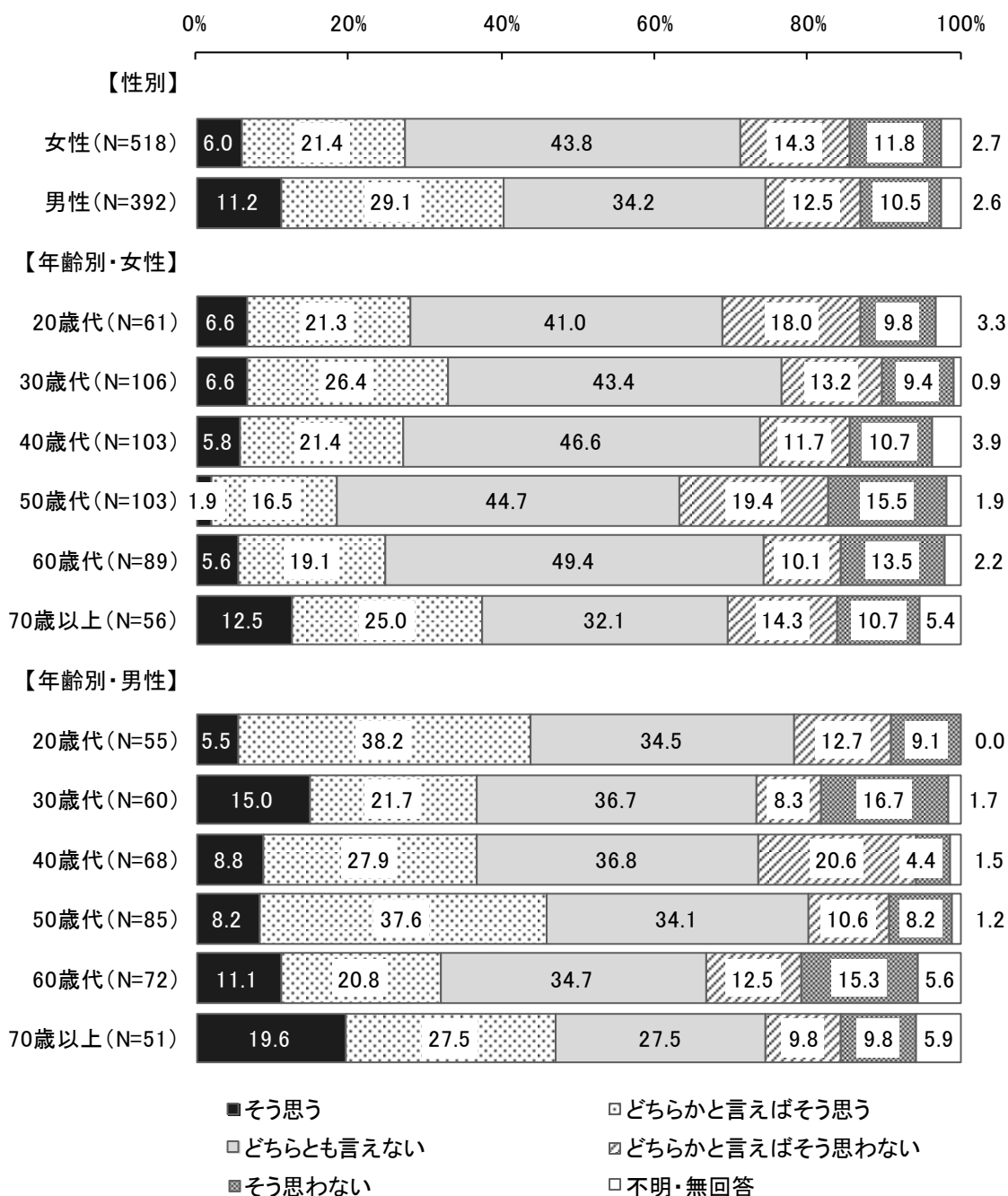
【D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

「女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、女性の30歳代及び70歳以上で『賛成』が4割を超えて高くなっています。また、女性の20歳代では『反対』の割合が41.0%と他の年代に比べて高くなっています。



【E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

「男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、男性の20歳代、50歳代及び70歳以上で『賛成』が4割を超えて高くなっています。これは、同年代の女性と比べても高い割合となっています。

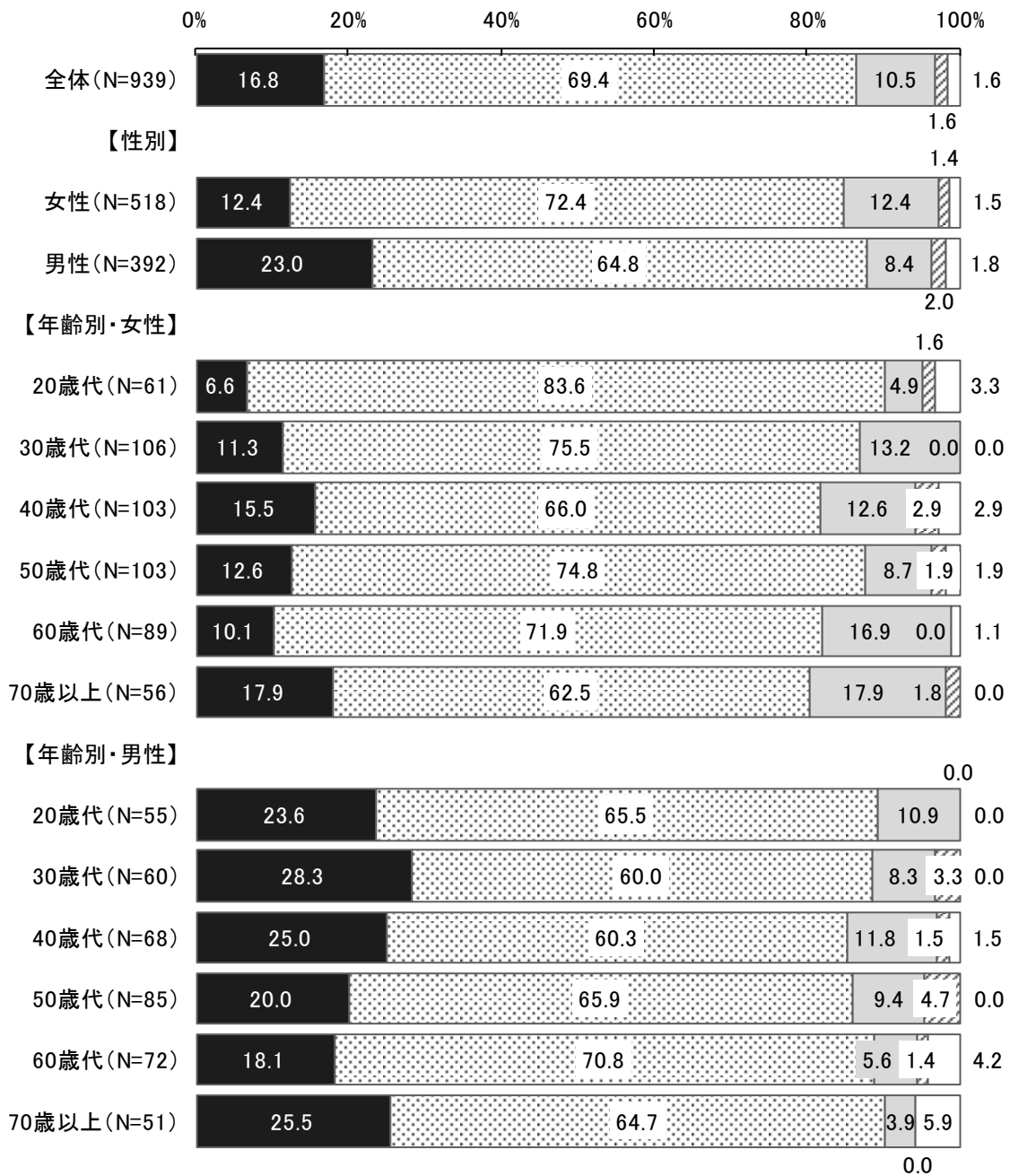


問9 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方についての考えは、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が 69.4%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が 16.8%となっています。

性別では、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が男性で 23.0%と、女性と比べて 10.6ポイント高くなっています。

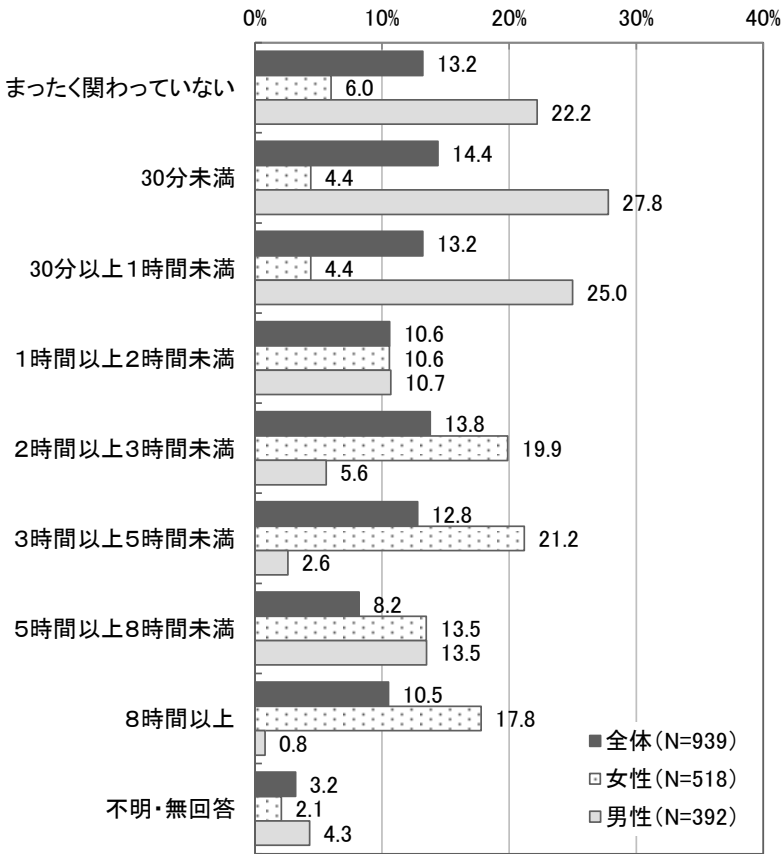
性別・年齢別では、男性の 60 歳代を除いた年代で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が 2割以上となっており、同じ年代の女性と比べても高くなっています。



- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
- ▣男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい
- どちらとも言えない
- ▣その他
- 不明・無回答

問10 あなたが、家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。(単数回答)

家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間は、女性は「3時間以上5時間未満」が、男性は「30分未満」がそれぞれ最も高くなっています。



性別・年齢別比較

女性は20歳代を除いた年代で2時間以上が高く、特に30～40歳代は半数近くが5時間以上となっています。男性は20歳代及び70歳以上で「まったく関わっていない」が最も高く、その他の年代でも1時間未満で高くなっています。

	まったく関わっていない	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上8時間未満	8時間以上	不明・無回答
(単位:%)									
【年齢別・女性】									
20歳代(N=61)	21.3	18.0	8.2	8.2	14.8	8.2	1.6	16.4	3.3
30歳代(N=106)	3.8	2.8	5.7	7.5	10.4	14.2	13.2	42.5	0.0
40歳代(N=103)	1.0	2.9	1.9	8.7	15.5	19.4	26.2	21.4	2.9
50歳代(N=103)	1.0	2.9	3.9	14.6	22.3	30.1	15.5	7.8	1.9
60歳代(N=89)	2.2	0.0	3.4	13.5	34.8	29.2	7.9	5.6	3.4
70歳以上(N=56)	17.9	5.4	5.4	10.7	23.2	23.2	8.9	3.6	1.8
【年齢別・男性】									
20歳代(N=55)	43.6	20.0	18.2	10.9	1.8	1.8	0.0	0.0	3.6
30歳代(N=60)	6.7	30.0	30.0	11.7	11.7	6.7	0.0	0.0	3.3
40歳代(N=68)	20.6	38.2	26.5	5.9	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9
50歳代(N=85)	17.6	35.3	21.2	10.6	7.1	2.4	1.2	3.5	1.2
60歳代(N=72)	20.8	22.2	34.7	6.9	4.2	1.4	0.0	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	29.4	15.7	15.7	21.6	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9

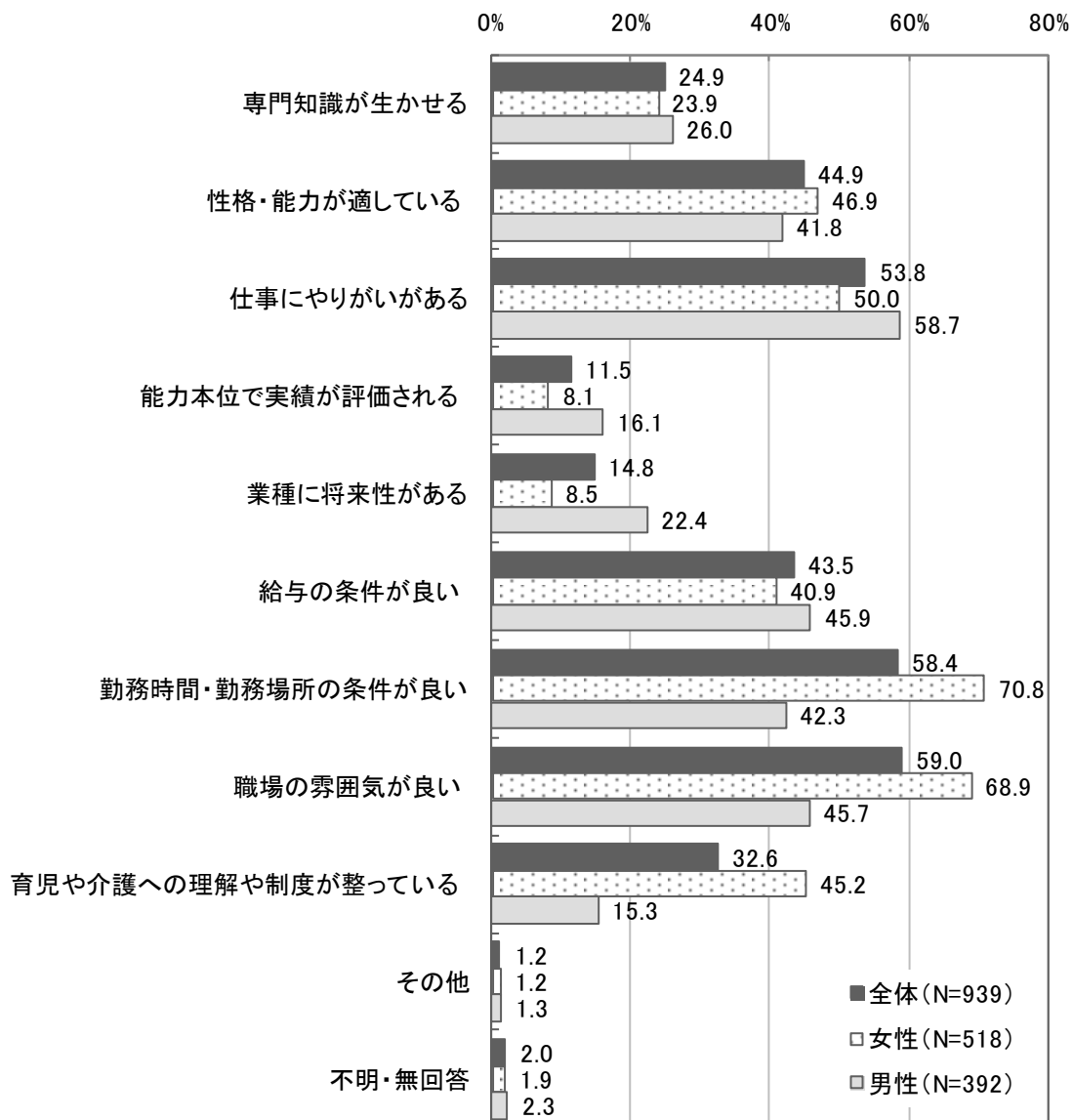
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

3 職業生活について

問 11 あなたが仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは何ですか。仕事をしていない方も、仕事をするとして仮定してお答えください。(複数回答)

仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が 59.0%と最も高く、次いで「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が 58.4%となっています。

性別では、女性で「職場の雰囲気が良い」「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「育児や介護への理解や制度が整っている」について、男性と比べてそれぞれ 28.5 ポイント、23.2 ポイント、29.9 ポイント高くなっています。一方、男性では「能力本位で実績が評価される」「業種に将来性がある」について、女性と比べてそれぞれ 8.0 ポイント、13.9 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性で「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」がいずれの年代も上位であり、特に20～50歳代では7割前後と高くなっています。なお、20歳代の女性、男性ともに「給与の条件が良い」が6割を超えており、他の年代と比べても高くなっています。

	専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間・勤務場所の条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	不明・無回答
(単位: %)											
【年齢別・女性】											
20歳代(N=61)	18.0	54.1	50.8	9.8	9.8	62.3	70.5	75.4	52.5	1.6	3.3
30歳代(N=106)	24.5	46.2	46.2	10.4	4.7	48.1	77.4	76.4	62.3	0.9	0.0
40歳代(N=103)	25.2	45.6	53.4	12.6	9.7	41.7	74.8	68.0	52.4	1.9	2.9
50歳代(N=103)	26.2	54.4	49.5	3.9	12.6	42.7	73.8	71.8	35.9	0.0	1.9
60歳代(N=89)	22.5	41.6	43.8	6.7	3.4	21.3	64.0	58.4	34.8	2.2	2.2
70歳以上(N=56)	25.0	37.5	60.7	3.6	12.5	30.4	57.1	60.7	25.0	0.0	1.8
【年齢別・男性】											
20歳代(N=55)	30.9	43.6	65.5	16.4	25.5	60.0	45.5	52.7	9.1	1.8	0.0
30歳代(N=60)	21.7	36.7	53.3	26.7	35.0	55.0	46.7	43.3	25.0	1.7	1.7
40歳代(N=68)	25.0	47.1	69.1	14.7	20.6	47.1	36.8	47.1	10.3	1.5	1.5
50歳代(N=85)	29.4	43.5	57.6	15.3	23.5	45.9	40.0	42.4	11.8	1.2	0.0
60歳代(N=72)	22.2	44.4	58.3	8.3	8.3	38.9	44.4	44.4	15.3	0.0	5.6
70歳以上(N=51)	25.5	33.3	47.1	17.6	25.5	29.4	43.1	47.1	23.5	2.0	5.9

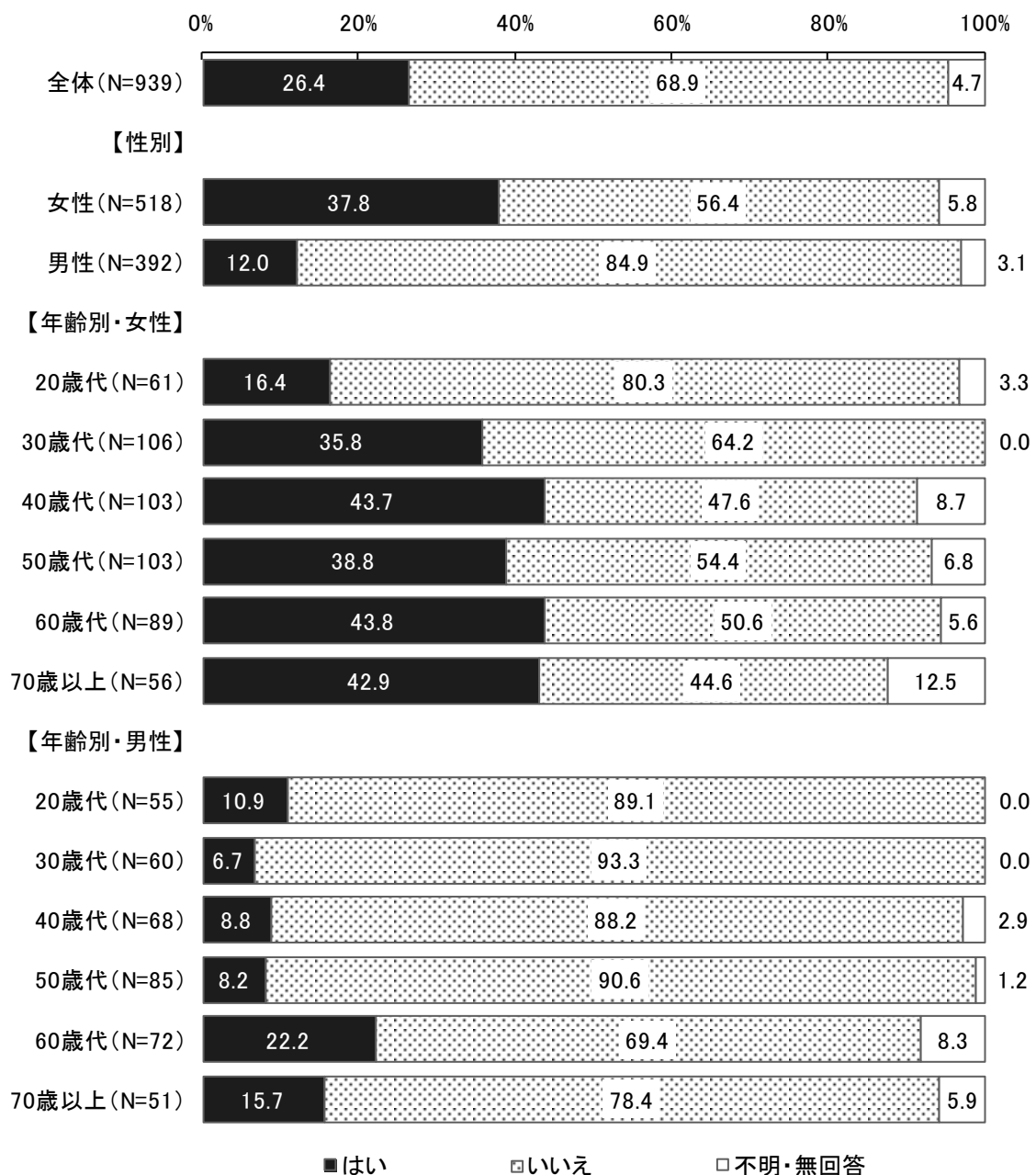
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 12 あなたは、働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことはありますか。(単数回答)

働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことの有無は、全体で「はい」が26.4%、「いいえ」が68.9%となっています。

性別では、「はい」が女性で37.8%と、男性と比べて25.8ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性の30歳以上で「はい」が3割以上と高くなっています。

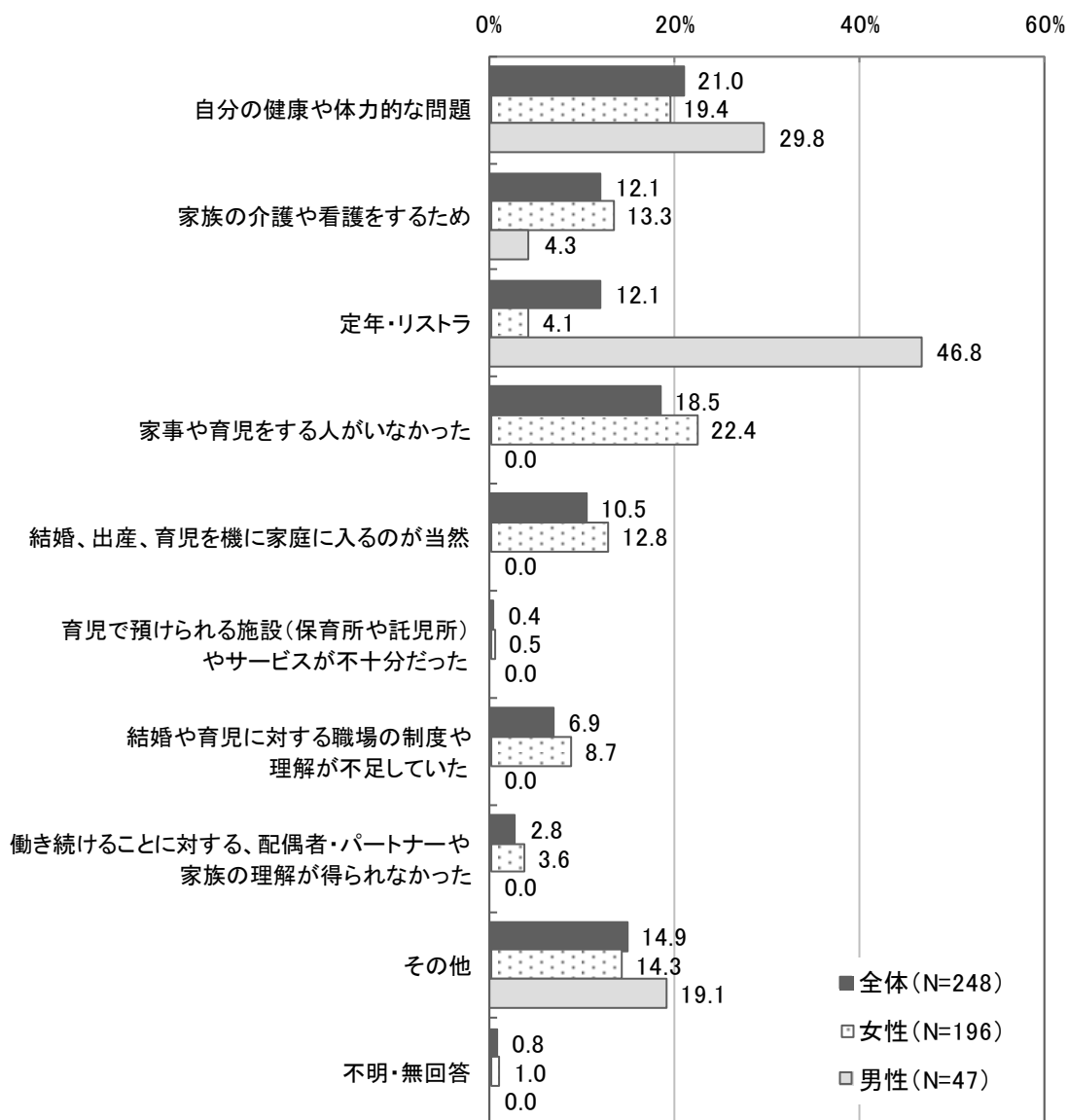


【問12で「はい」と回答した方のみ】

問12-1 仕事をやめざるを得なかった理由の一番は何ですか。(単数回答)

仕事をやめざるを得なかった一番の理由は、全体で「自分の健康や体力的な問題」が21.0%と最も高く、次いで「家事や育児をする人がいなかった」が18.5%となっています。

性別では、女性は「家族の介護や看護をするため」「家事や育児をする人がいなかった」「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」「結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた」で、男性と比べて高くなっています。男性は「自分の健康や体力的な問題」「定年・リストラ」で、女性と比べて高くなっています。



性別・年齢別比較

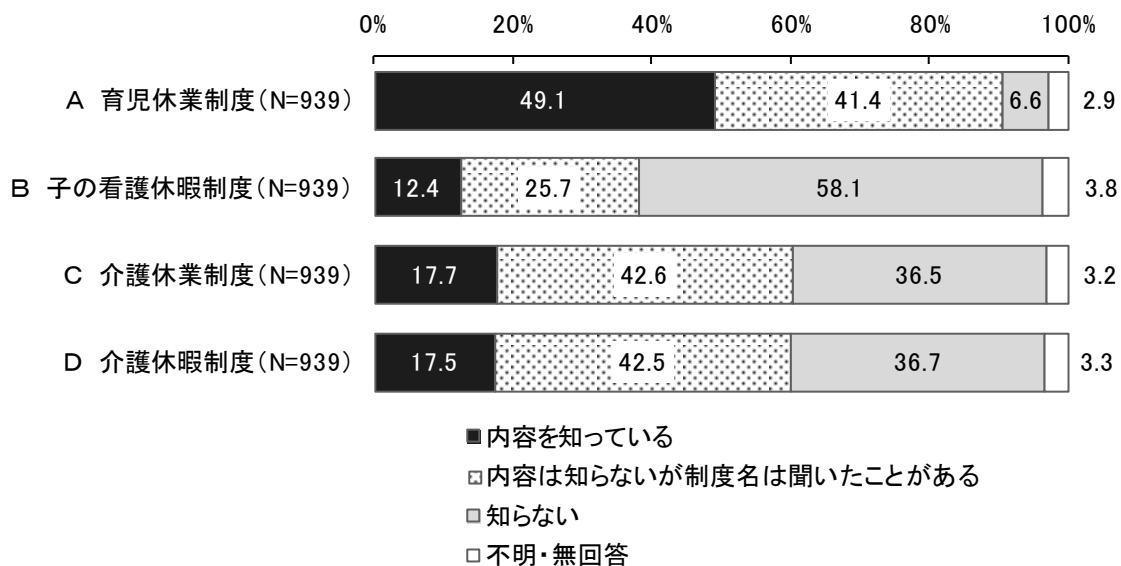
女性の20歳代で「自分の健康や体力的な問題」が50.0%と高く、30歳以降においても一定割合みられます。また、女性の各年代で「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」の理由も一定割合みられます。

(単位: %)	自分の健康や体力的な問題	家族の介護や看護をするため	定年・リストラ	家事や育児をする人がいなかった	結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然	育児で預けられる施設(保育所や託児所)やサービスが不十分だった	結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた	働き続けることに対する、配偶者・パートナーや家族の理解が得られなかった	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】										
20歳代(N=10)	50.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=38)	21.1	2.6	5.3	26.3	10.5	2.6	13.2	0.0	18.4	0.0
40歳代(N=45)	17.8	8.9	0.0	26.7	11.1	0.0	13.3	6.7	15.6	0.0
50歳代(N=40)	15.0	12.5	5.0	25.0	12.5	0.0	7.5	7.5	12.5	2.5
60歳代(N=39)	17.9	30.8	5.1	20.5	12.8	0.0	2.6	2.6	5.1	2.6
70歳以上(N=24)	16.7	16.7	8.3	12.5	20.8	0.0	4.2	0.0	20.8	0.0
【年齢別・男性】										
20歳代(N=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
30歳代(N=4)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
40歳代(N=6)	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
50歳代(N=7)	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
60歳代(N=16)	37.5	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
70歳以上(N=8)	0.0	12.5	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

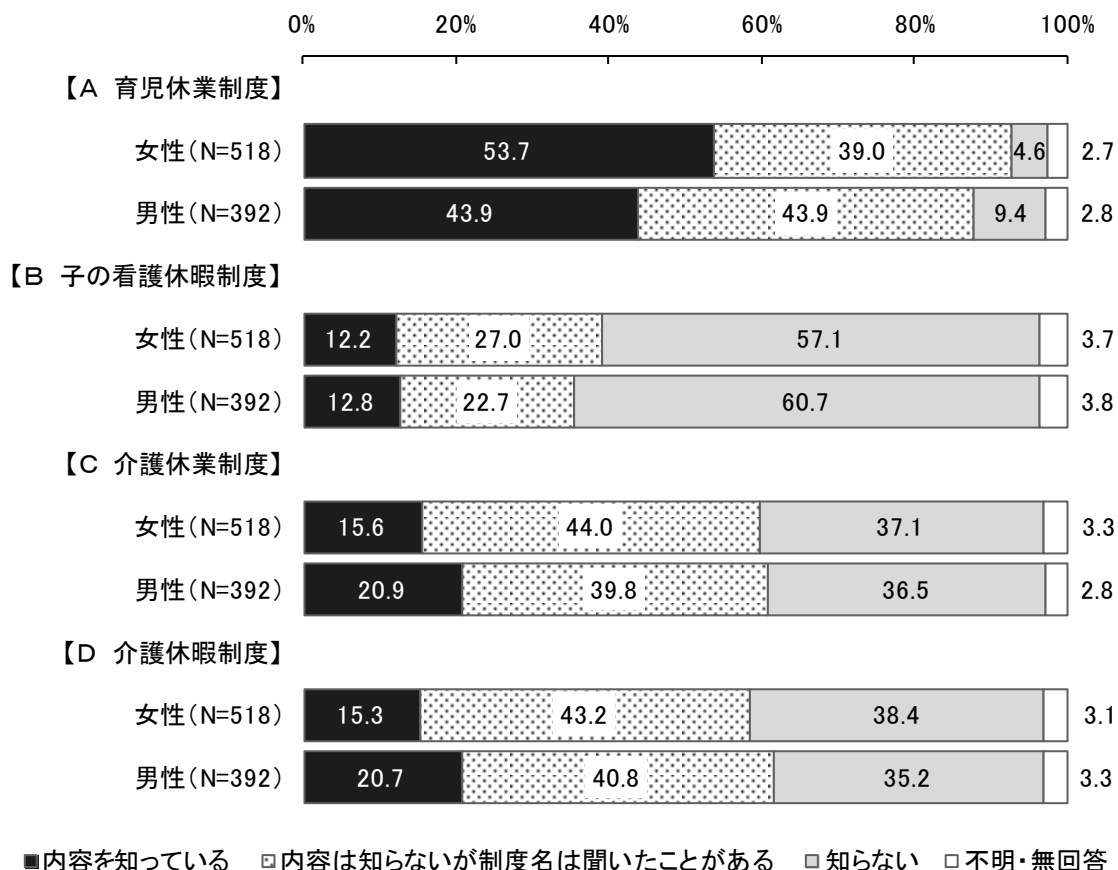
問13 次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。(単数回答)

仕事と家庭生活を両立するための制度の認知度については、「A 育児休業制度」で「内容を知っている」が49.1%と高いものの、「B 子の看護休暇制度」については「知らない」が58.1%となっています。「C 介護休業制度」「D 介護休暇制度」はいずれも「内容を知っている」が2割を下回っており、「知らない」が3割を超えています。



性別比較

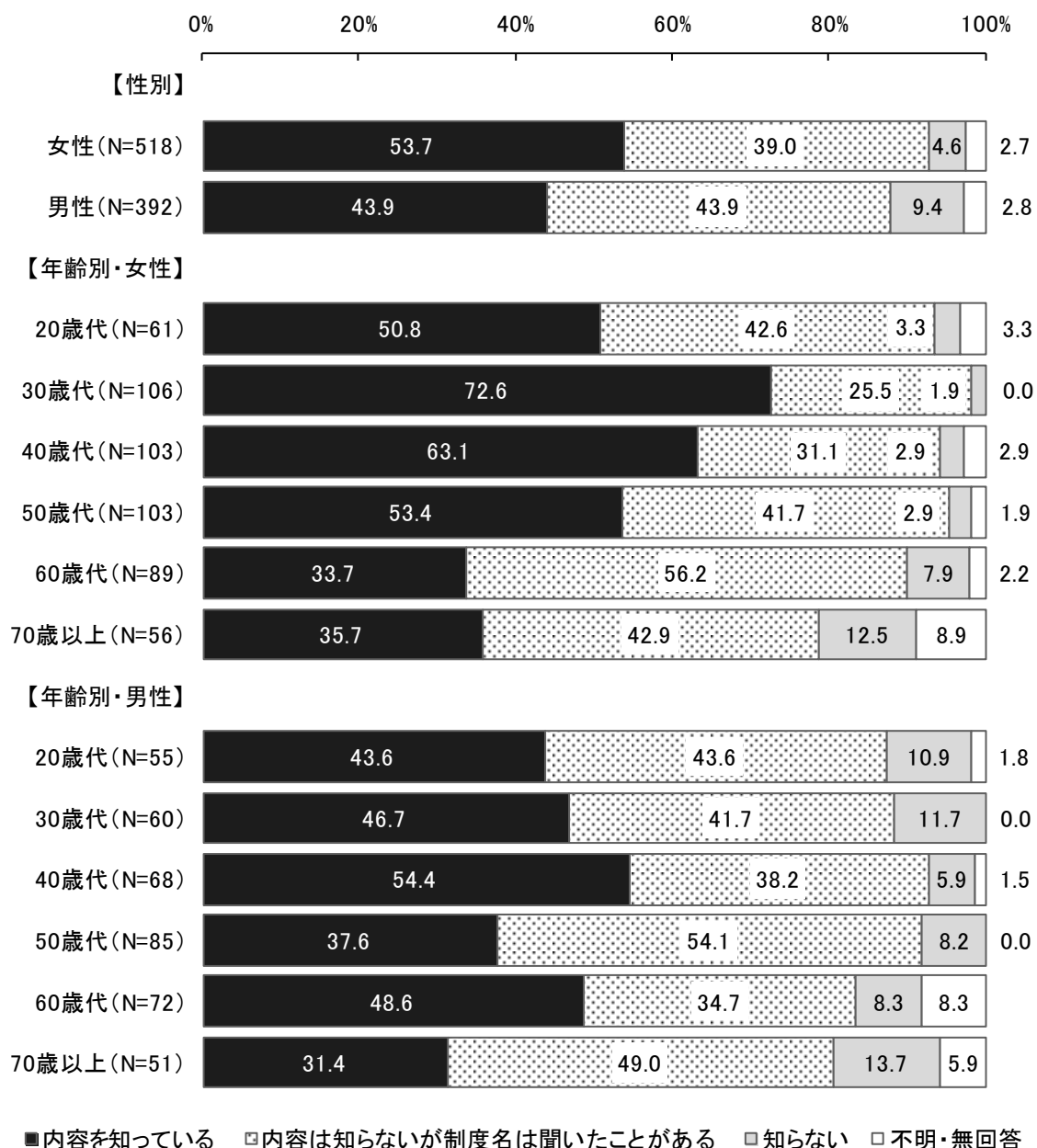
女性と男性で最も差が大きい項目は「A 育児休業制度」であり、「内容を知っている」は女性で53.7%、男性で43.9%と、女性は男性と比べて9.8ポイント高くなっています。「C 介護休業制度」「D 介護休暇制度」はいずれも「内容を知っている」が、男性は女性と比べて高くなっています。



項目別集計結果

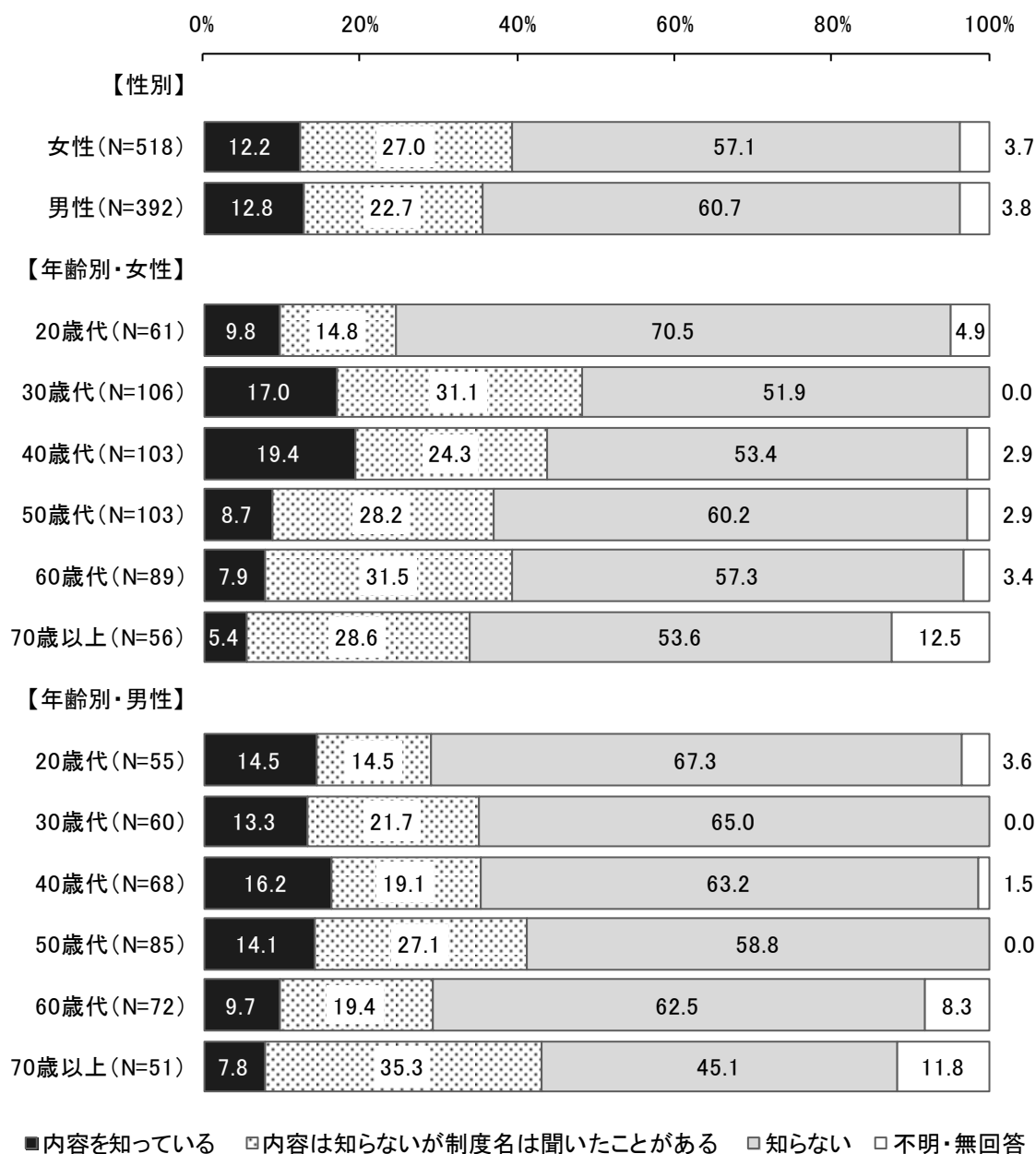
【A 育児休業制度】

「育児休業制度」の認知度は、女性の20～50歳代及び男性の40歳代で「内容を知っている」が5割を超えて高くなっています。なお、50歳代以下で「知らない」が女性で数パーセント、男性で1割前後、いずれの年代でもみられます。



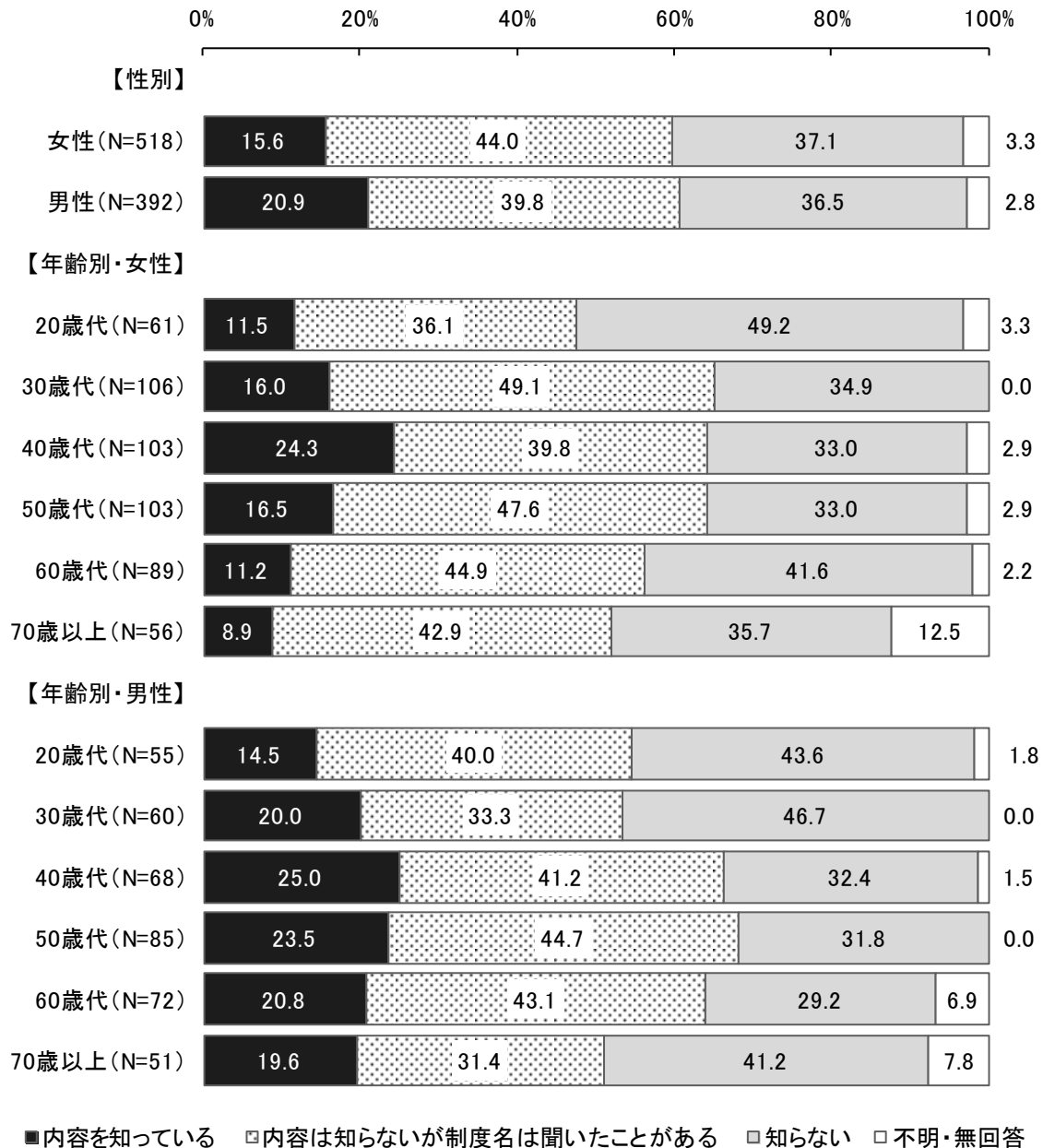
【B 子の看護休暇制度】

「子の看護休暇制度」の認知度は、女性の30～40歳代及び男性の50歳代以下で「内容を知っている」が1割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5割満たず、認知度が低い状況にあります。なお、50歳代以下で「知らない」が女性で5～7割強、男性で6割前後、いずれの年代でもみられます。



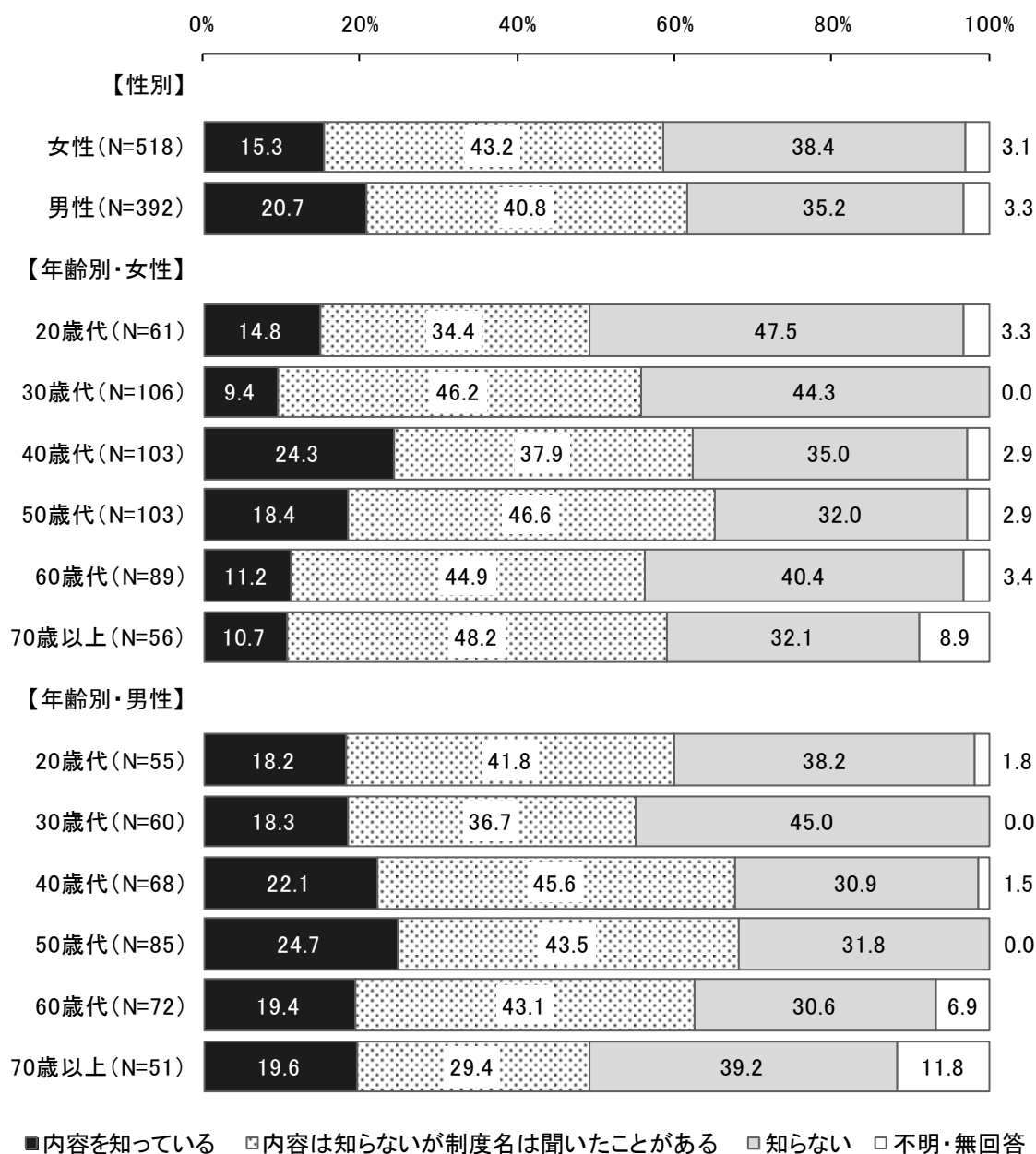
【C 介護休業制度】

「介護休業制度」の認知度は、女性の40歳代及び男性の30～60歳代で「内容を知っている」が2割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5～7割弱にとどまっています。なお、「知らない」が男性の60歳代を除いた性別・年代で3割を超えており、女性の20歳代では49.2%と高くなっています。



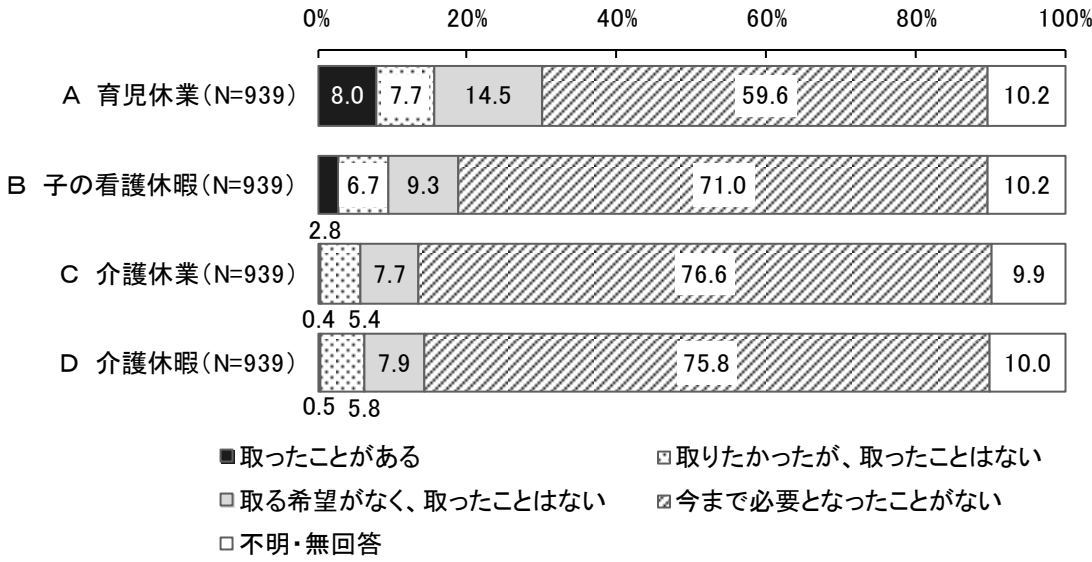
【D 介護休暇制度】

「介護休暇制度」の認知度は、女性の40歳代及び男性の40～50歳代で「内容を知っている」が2割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5～7割弱にとどまっています。なお、「知らない」が女性の20～30歳代、60歳代及び男性の30歳代で4割を超えており、女性の20歳代では47.5%と高くなっています。



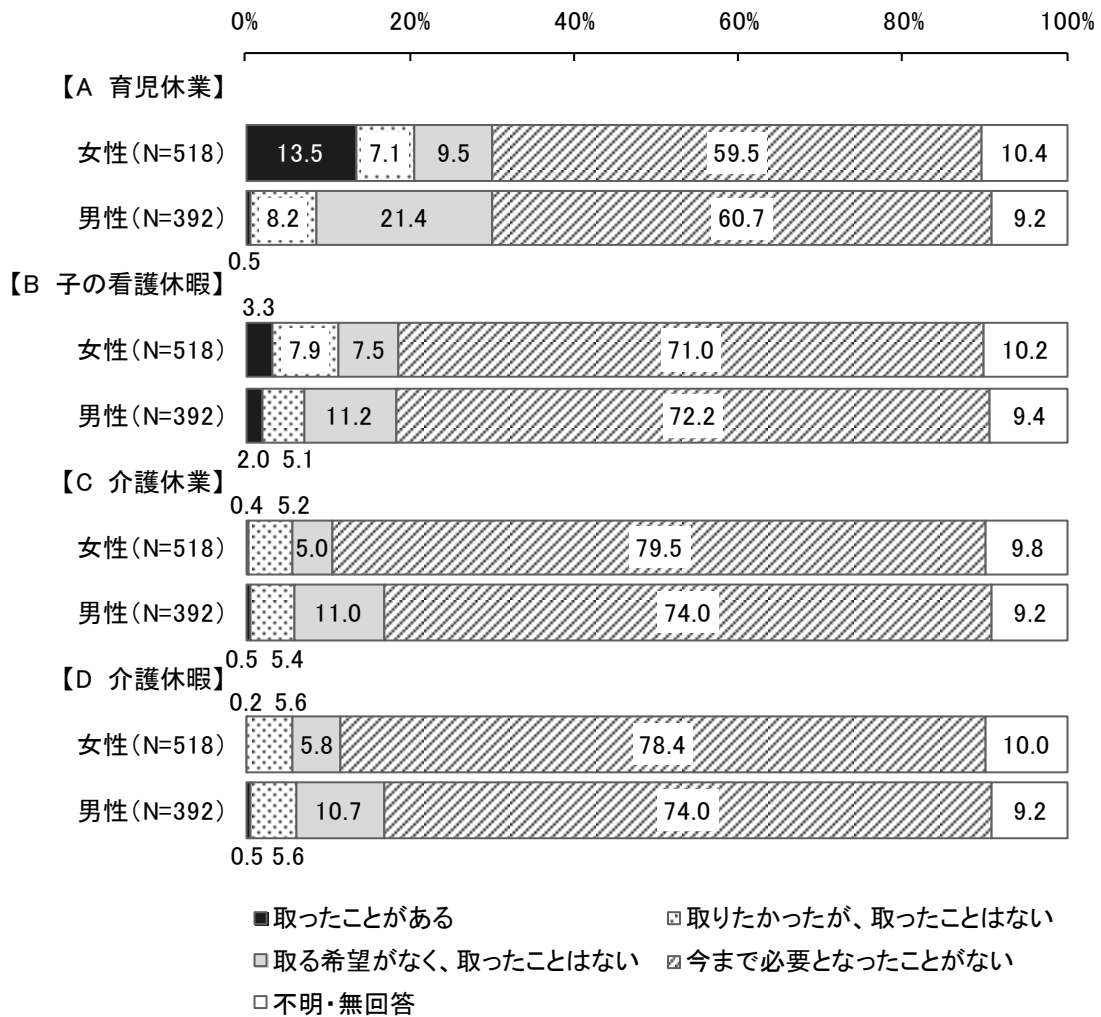
問 14 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。複数のお子さんがある場合、直近の状況でお答えください。(単数回答)

職場において各種制度を使った休暇等の取得の有無については、「取ったことがある」が「A 育児休業」で 8.0%と4制度のうちでは高いものの、「B 子の看護休暇制度」は 2.8%、「C 介護休業制度」は 0.4%、「D 介護休暇制度」は 0.5%にとどまっています。



性別比較

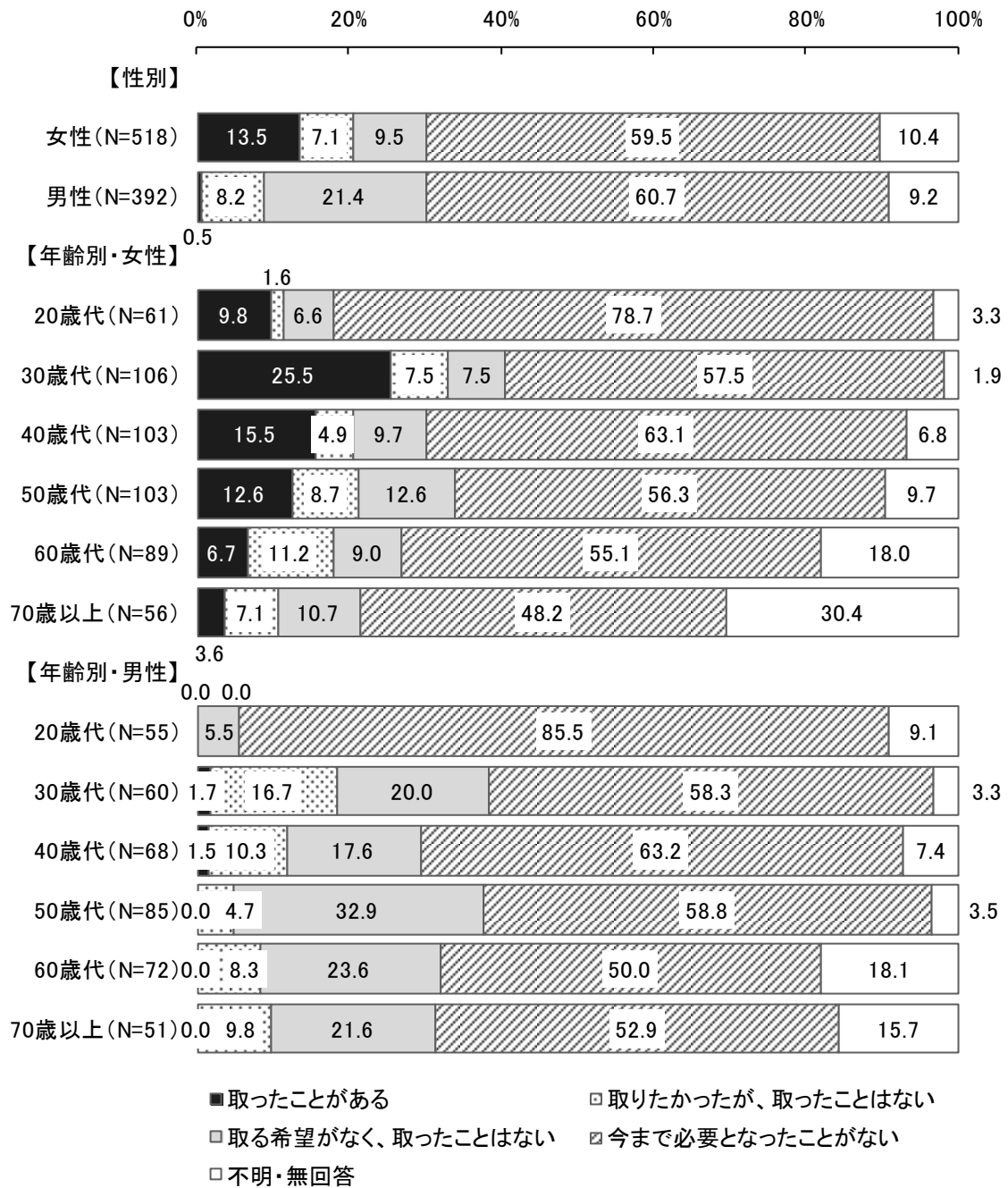
女性と男性で最も差が大きい項目は「A 育児休業制度」であり、「取ったことがある」は男性で 0.5%と、女性と比べて 13.0 ポイント低くなっています。なお、「取る希望がなく、取ったことはない」についても男性で 21.4%と、女性と比べて 11.9 ポイント高く、差が大きくなっています。



項目別集計結果

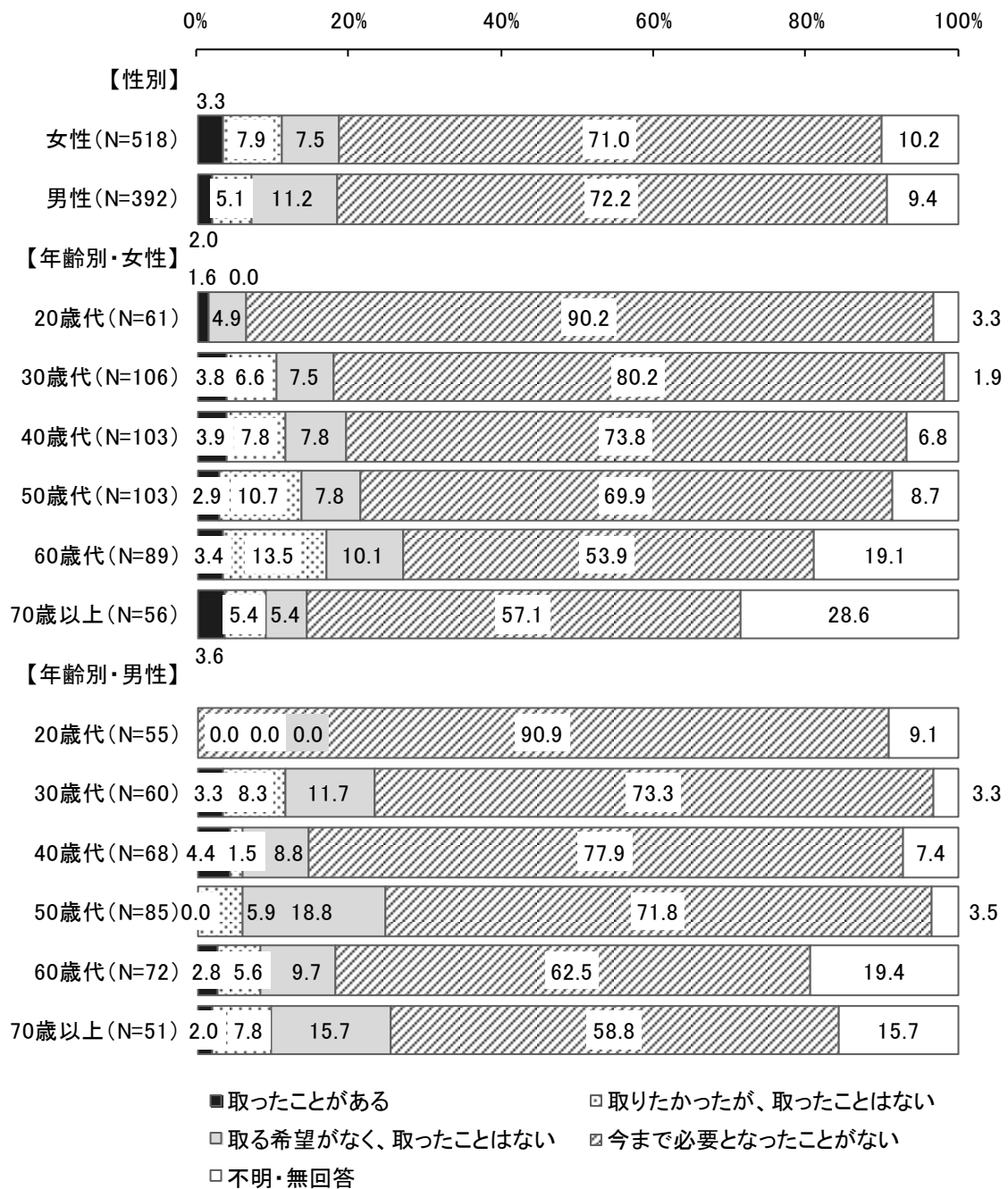
【A 育児休業】

「育児休業」の取得状況は、男性の20歳代で「取ったことがある」「取りたかったが、取ったことはない」がいずれも0.0%となっています。なお、50歳以上の男性では、「取ったことがある」は0.0%となっています。



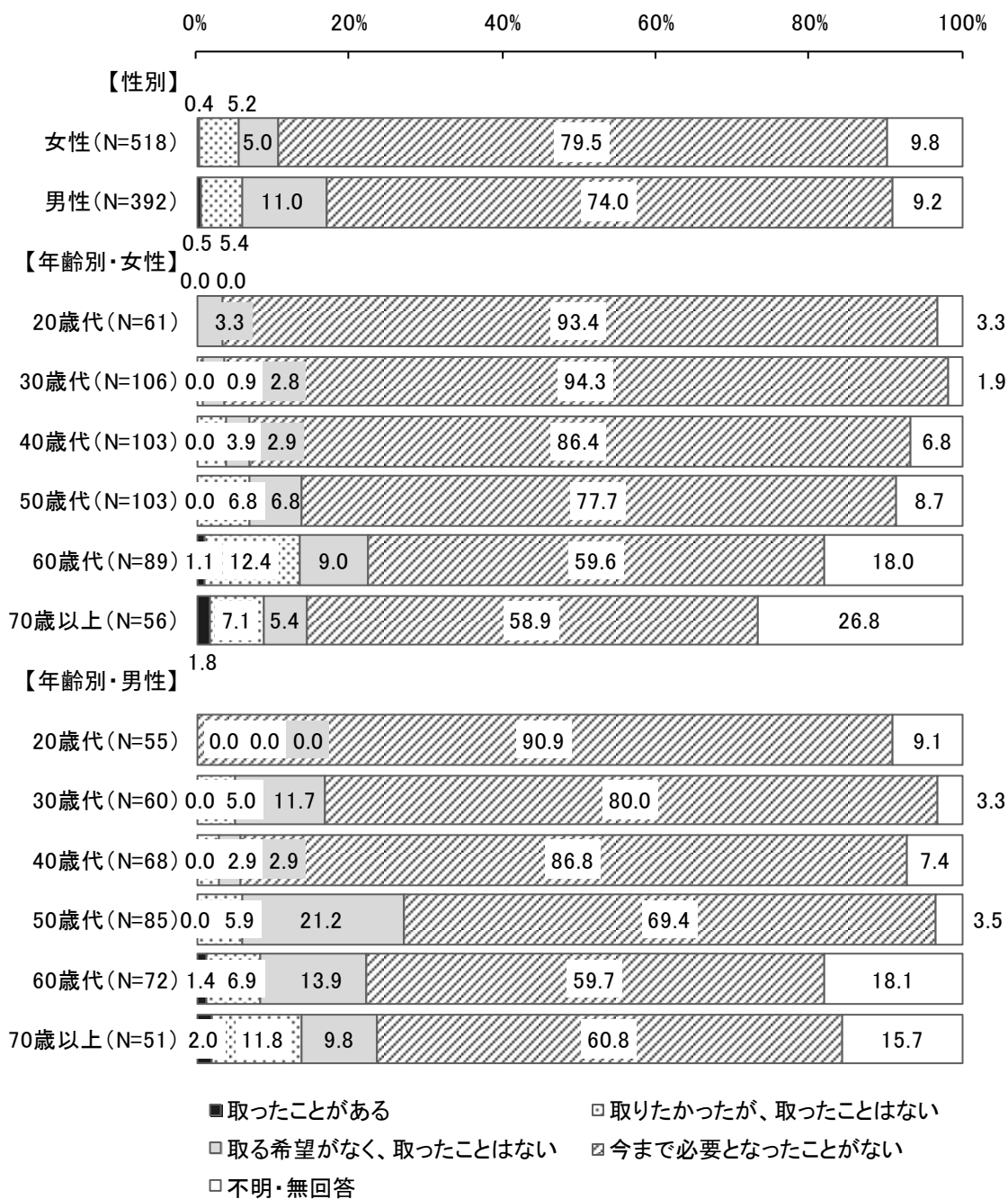
【B 子の看護休暇】

「子の看護休暇」の取得状況は、女性の「取ったことがある」はいずれの年代も数パーセントにとどまっています。



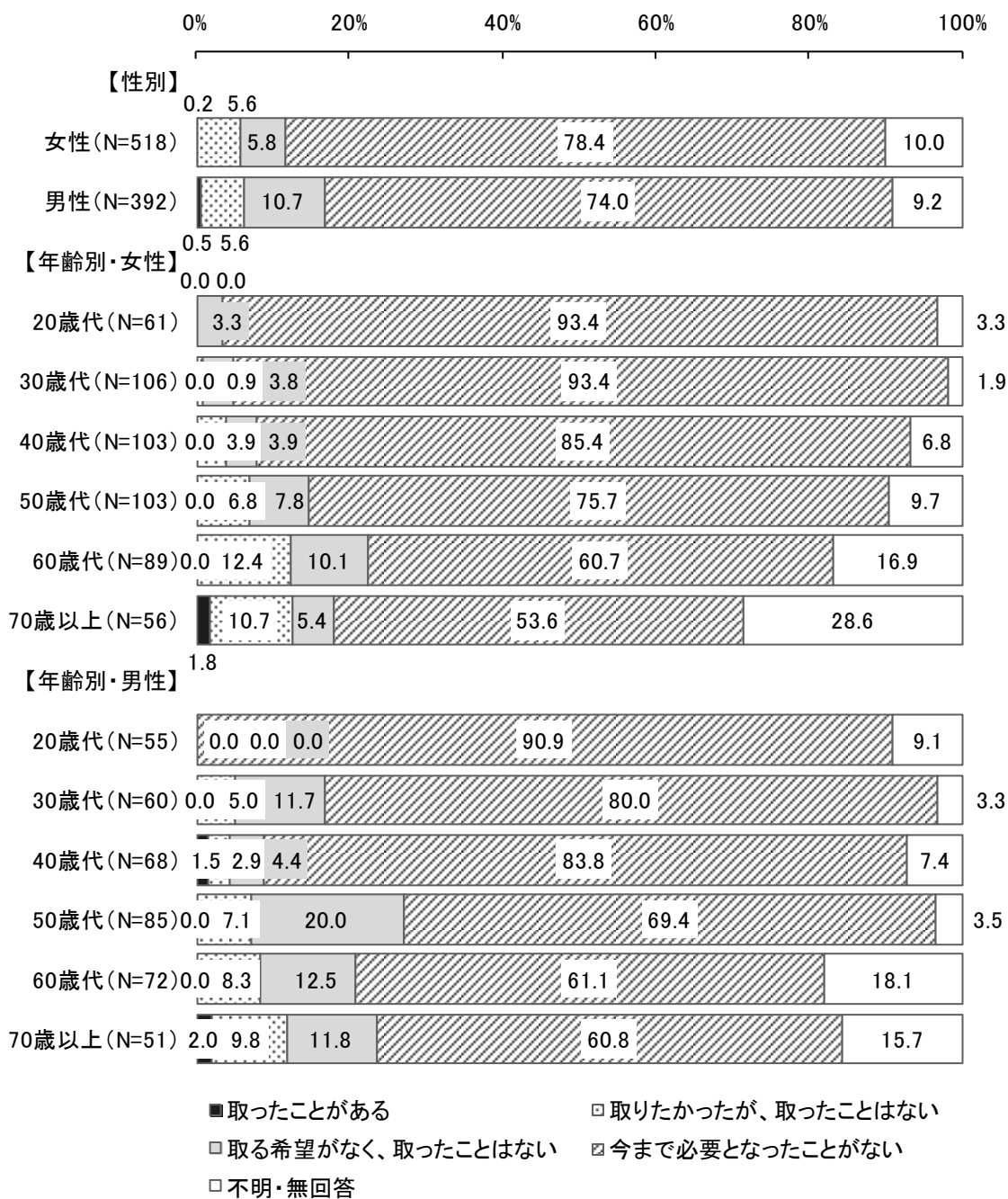
【C 介護休業】

「介護休業」の取得状況は、50歳代以下では女性、男性のいずれの年代も「取ったことがある」は0.0%となっており、60歳代以上でも数パーセントにとどまっています。



【D 介護休暇】

「介護休暇」の取得状況は、「取ったことがある」は女性の70歳以上及び男性の40歳代、70歳以上で数パーセントにとどまっています。

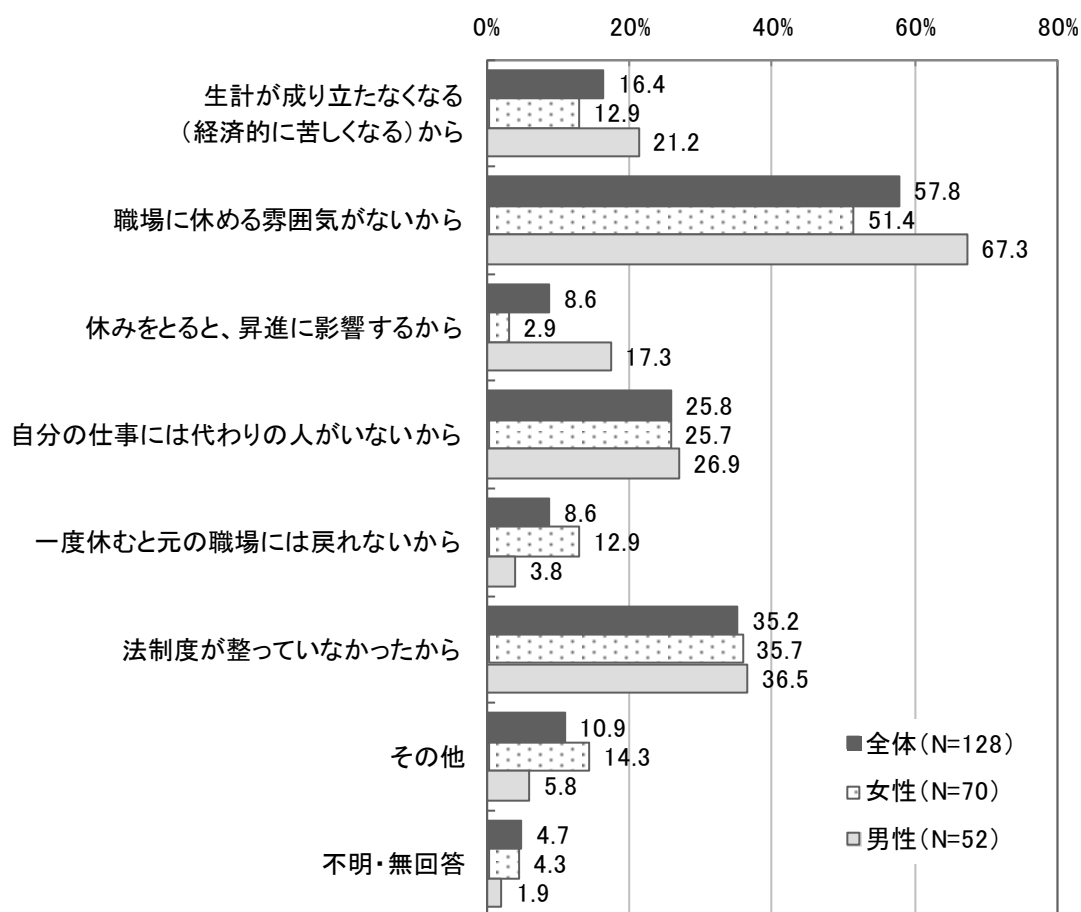


【問 14 の A～D のいずれかで「取りたかったが、取ったことはない」と回答した方のみ】

問 14-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。
(複数回答)

取りたかったが、取ったことはない理由は、全体で「職場に休める雰囲気がないから」が 57.8%と最も高く、次いで「法制度が整っていなかったから」が 35.2%となっています。

性別では、男性で「生計が成り立たなくなる（経済的に苦しくなる）から」「職場に休める雰囲気がないから」「休みをとると、昇進に影響するから」という理由が、男女差が大きくなっています。女性では「一度休むと元の職場には戻れないから」という理由が、男女差が大きくなっています



性別・年齢別比較

女性の30～40歳代、男性の30歳代で「職場に休める雰囲気がないから」「自分の仕事には代わりの人がいないから」という理由が上位となっています。

(単位: %)	生計が成り立たなくなる(経済的に苦しくなる)から	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると、昇進に影響するから	自分の仕事には代わりの人がいないから	一度休むと元の職場には戻れないから	法制度が整っていなかったから	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】								
30歳代(N=13)	0.0	53.8	7.7	38.5	0.0	15.4	23.1	0.0
40歳代(N=13)	7.7	76.9	0.0	46.2	7.7	30.8	15.4	7.7
50歳代(N=18)	16.7	38.9	0.0	33.3	16.7	55.6	11.1	0.0
60歳代(N=18)	22.2	50.0	5.6	5.6	16.7	22.2	16.7	5.6
70歳以上(N=7)	14.3	42.9	0.0	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3
【年齢別・男性】								
30歳代(N=12)	41.7	91.7	33.3	50.0	8.3	16.7	0.0	0.0
40歳代(N=8)	0.0	50.0	0.0	12.5	12.5	37.5	25.0	0.0
50歳代(N=9)	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	33.3	0.0	11.1
60歳代(N=13)	23.1	84.6	23.1	38.5	0.0	46.2	7.7	0.0
70歳以上(N=9)	11.1	44.4	11.1	11.1	0.0	44.4	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

※20歳代について、女性は回答者1名、男性は回答者なしであったため、掲載していません。

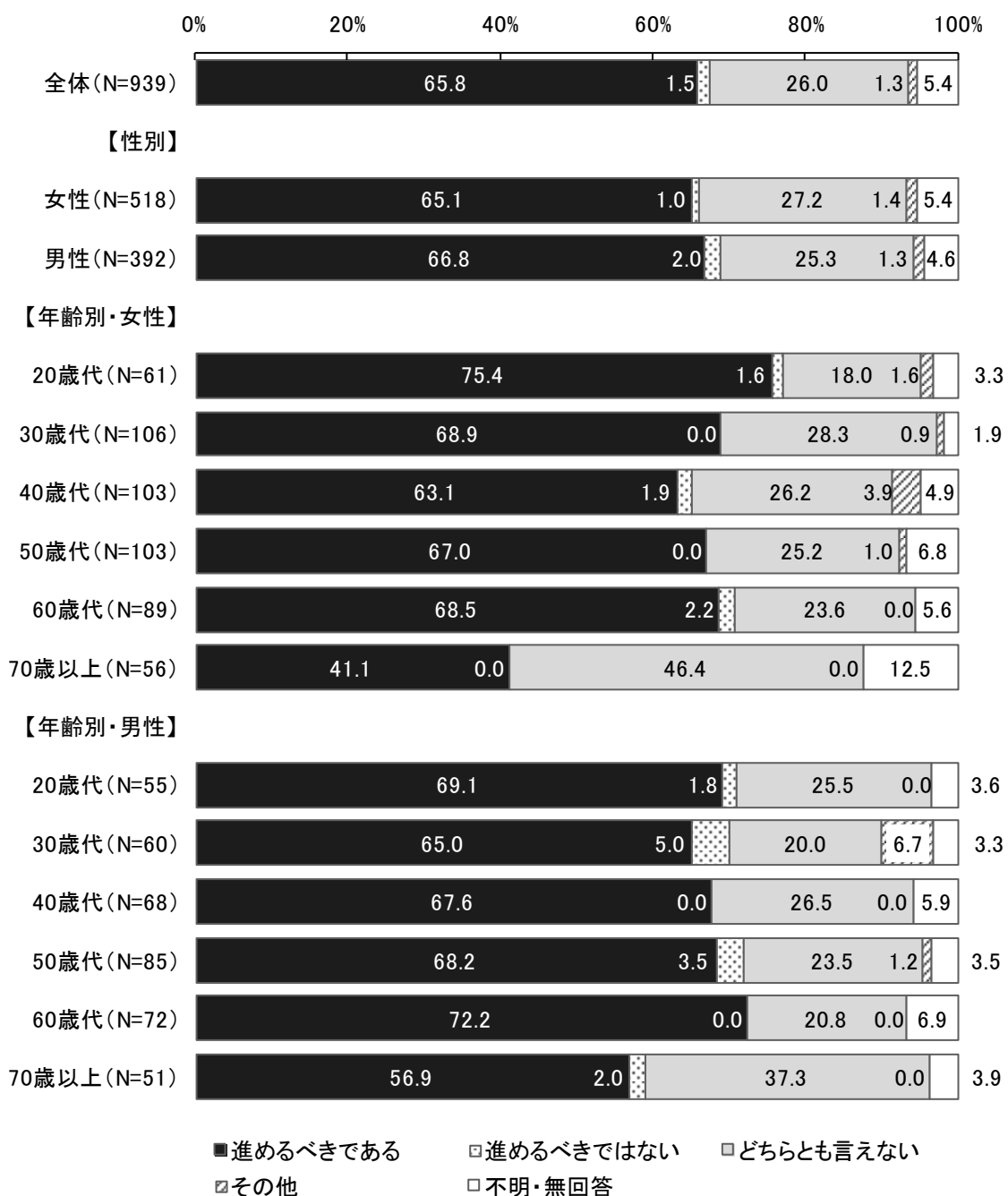
※回答者(N)が10件未満の年代については、順位の表記はしていません。

問 15 男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(単数回答)

男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについては、全体で「進めるべきである」が65.8%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が26.0%となっています。

性別では、「進めるべきである」が女性で65.1%、男性で66.8%と、大差はみられません。

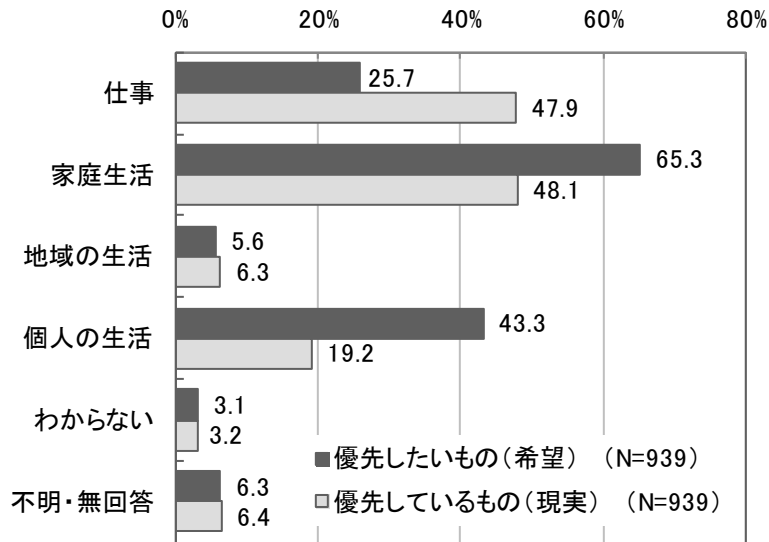
性別・年齢別では、「進めるべきである」が60歳代以下では女性、男性のいずれも7割前後となっています。なお、男性の30歳代及び50歳代で「進めるべきではない」が5.0%、3.5%と他の年代と比べて高くなっています。



問 16 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」などについて、優先させたいものの希望と現実を教えてください。(単数回答)

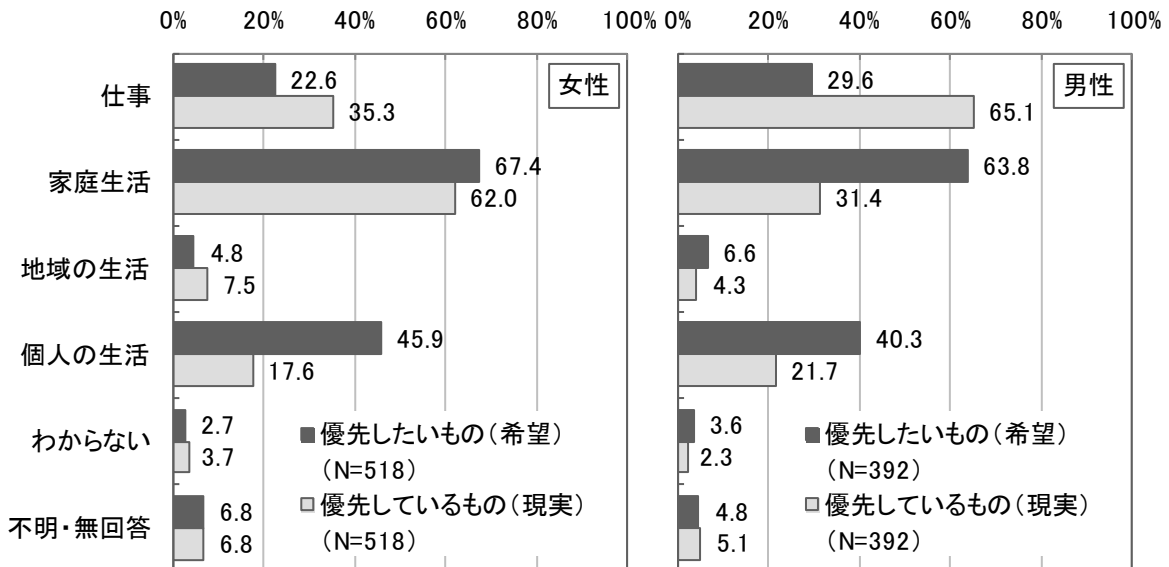
生活の中で優先させたいものの希望と現実とは、全体で「優先したいもの(希望)」は、「家庭生活」で65.3%と最も高く、次いで「個人の生活」が43.3%となっています。「優先しているもの(現実)」は、「家庭生活」で48.1%と最も高く、次いで「仕事」が47.9%となっています。

なお、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、「個人の生活」で24.1ポイント、「仕事」が22.2ポイント、「家庭生活」が17.2ポイントとなっています。



性別比較

性別で見ると、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、女性で「個人の生活」が28.3ポイント、「仕事」で12.7ポイント、男性で「仕事」が35.5ポイント、「家庭生活」が32.4ポイント、「個人の生活」が18.6ポイントとなっています。



項目別集計結果

【A 優先したいもの（希望）】

「優先したいもの（希望）」は、「家庭生活」「個人の生活」がいずれも上位となっているものの、男性の60歳代以上では「家庭生活」に次いで「仕事」が上位となっています。また、男性の20歳代では「個人の生活」が最も高くなっています。

(単位: %)	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】						
20歳代(N=61)	21.3	55.7	0.0	50.8	4.9	4.9
30歳代(N=106)	21.7	80.2	0.9	55.7	1.9	1.9
40歳代(N=103)	25.2	72.8	9.7	48.5	1.0	4.9
50歳代(N=103)	23.3	68.0	2.9	48.5	2.9	7.8
60歳代(N=89)	23.6	65.2	6.7	34.8	3.4	9.0
70歳以上(N=56)	17.9	48.2	8.9	30.4	3.6	16.1
【年齢別・男性】						
20歳代(N=55)	29.1	41.8	0.0	61.8	7.3	7.3
30歳代(N=60)	28.3	78.3	1.7	38.3	0.0	3.3
40歳代(N=68)	29.4	60.3	4.4	45.6	1.5	5.9
50歳代(N=85)	23.5	68.2	5.9	37.6	2.4	3.5
60歳代(N=72)	31.9	65.3	12.5	29.2	5.6	5.6
70歳以上(N=51)	37.3	64.7	15.7	33.3	5.9	3.9

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

【B 優先しているもの（現実）】

「優先しているもの（現実）」は、「仕事」「家庭生活」がいずれも上位となっているものの、男性の20歳代では「仕事」に次いで「個人の生」が上位となっています。

(単位: %)	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】						
20歳代(N=61)	57.4	29.5	1.6	23.0	8.2	3.3
30歳代(N=106)	36.8	70.8	6.6	17.0	2.8	1.9
40歳代(N=103)	35.0	68.0	11.7	20.4	2.9	4.9
50歳代(N=103)	39.8	69.9	5.8	18.4	1.0	6.8
60歳代(N=89)	23.6	62.9	10.1	10.1	4.5	10.1
70歳以上(N=56)	19.6	53.6	7.1	17.9	5.4	17.9
【年齢別・男性】						
20歳代(N=55)	60.0	9.1	0.0	38.2	5.5	7.3
30歳代(N=60)	83.3	30.0	0.0	11.7	0.0	3.3
40歳代(N=68)	77.9	27.9	0.0	17.6	1.5	5.9
50歳代(N=85)	76.5	27.1	1.2	11.8	1.2	3.5
60歳代(N=72)	50.0	44.4	12.5	26.4	2.8	6.9
70歳以上(N=51)	33.3	51.0	13.7	31.4	3.9	3.9

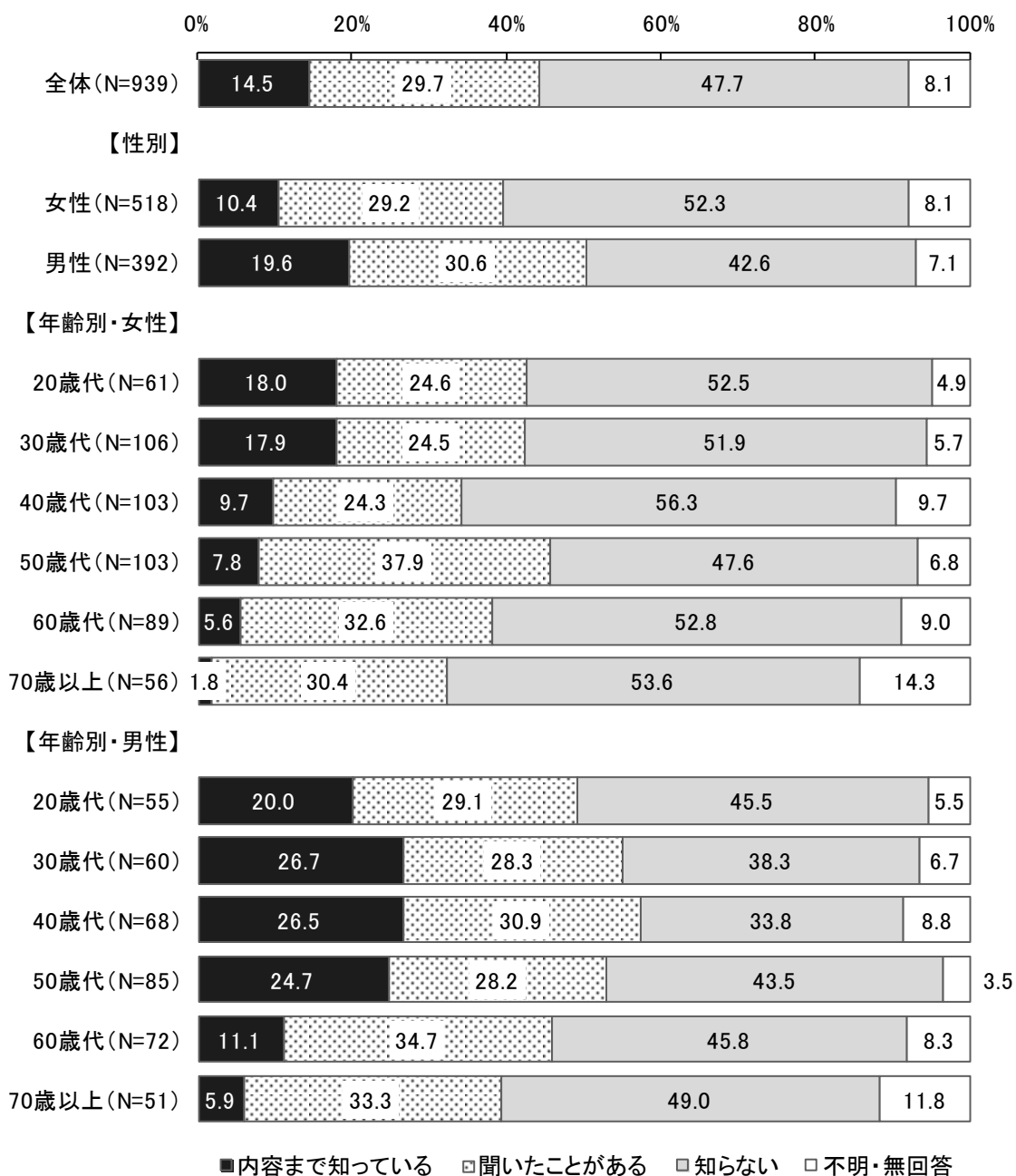
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問17 ワーク・ライフ・バランスという言葉についておたずねします。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度は、全体で「知らない」が47.7%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が29.7%となっており、「内容まで知っている」は14.5%にとどまっています。

性別では、「内容まで知っている」が女性で10.4%と、男性と比べて9.2ポイント低くなっています。

性別・年齢別では、男性の50歳以下で「内容まで知っている」が2割以上に対し、女性の50歳以下では20歳代の18.0%が最も高く、「知らない」が5割前後となっています。



問 18 あなたご自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況について教えてください。
(単数回答)

問 18 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

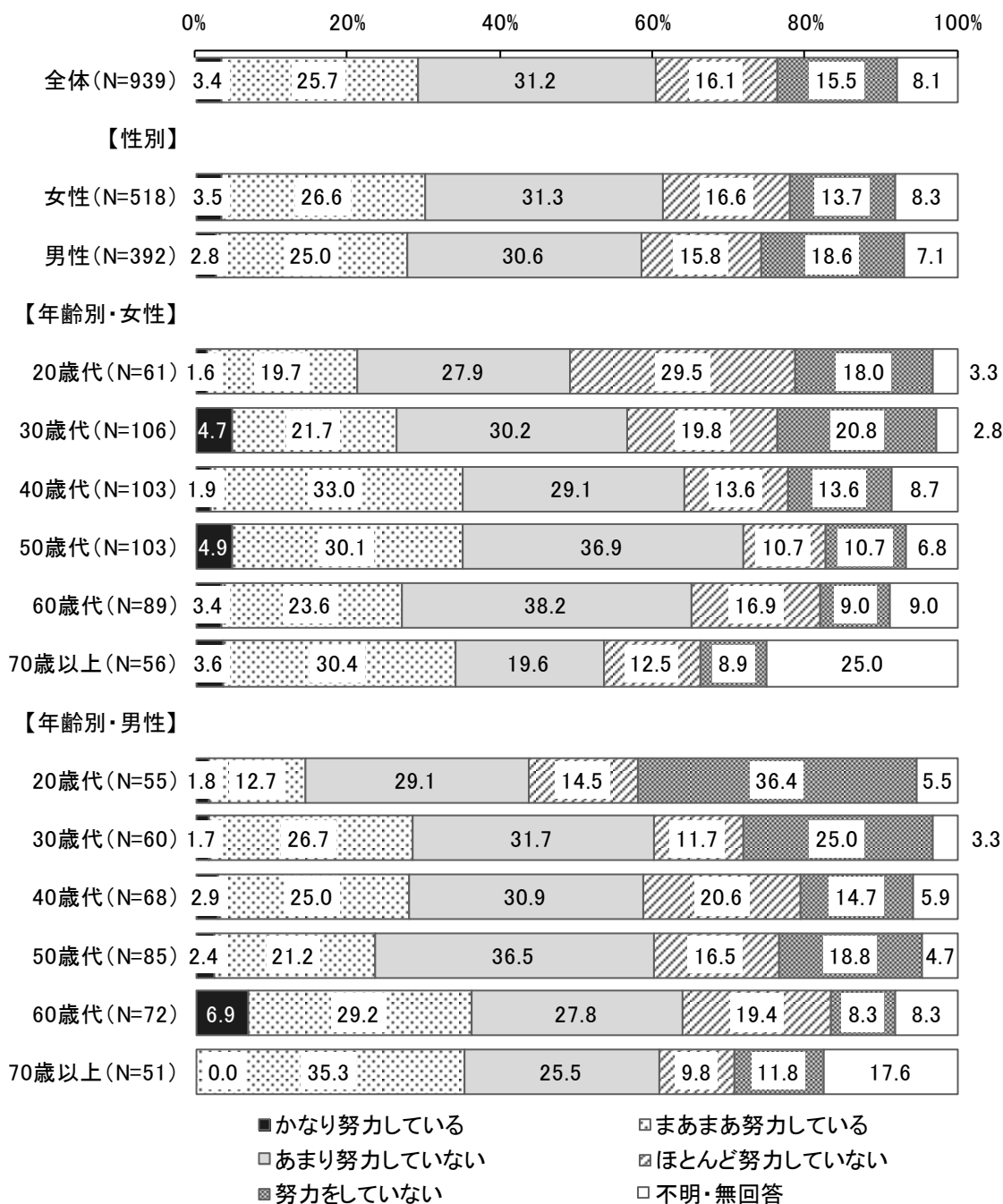
『努力している』…「かなり努力している」と「まあまあ努力している」を合算

『努力していない』…「あまり努力していない」と「ほとんど努力していない」と「努力をしていない」を合算

自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況は、全体で『努力している』が 29.1%、『努力していない』が 62.8%となっています。

性別では、『努力している』が女性で 30.1%と、女性は男性と比べて 2.3 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、『努力している』が男性の 20 歳代の 14.5%を除いて、いずれも 2～3 割強となっています。なお、女性の 20～30 歳代、男性の 20 歳代、50 歳代では『努力していない』が 7 割を超えて高くなっています。



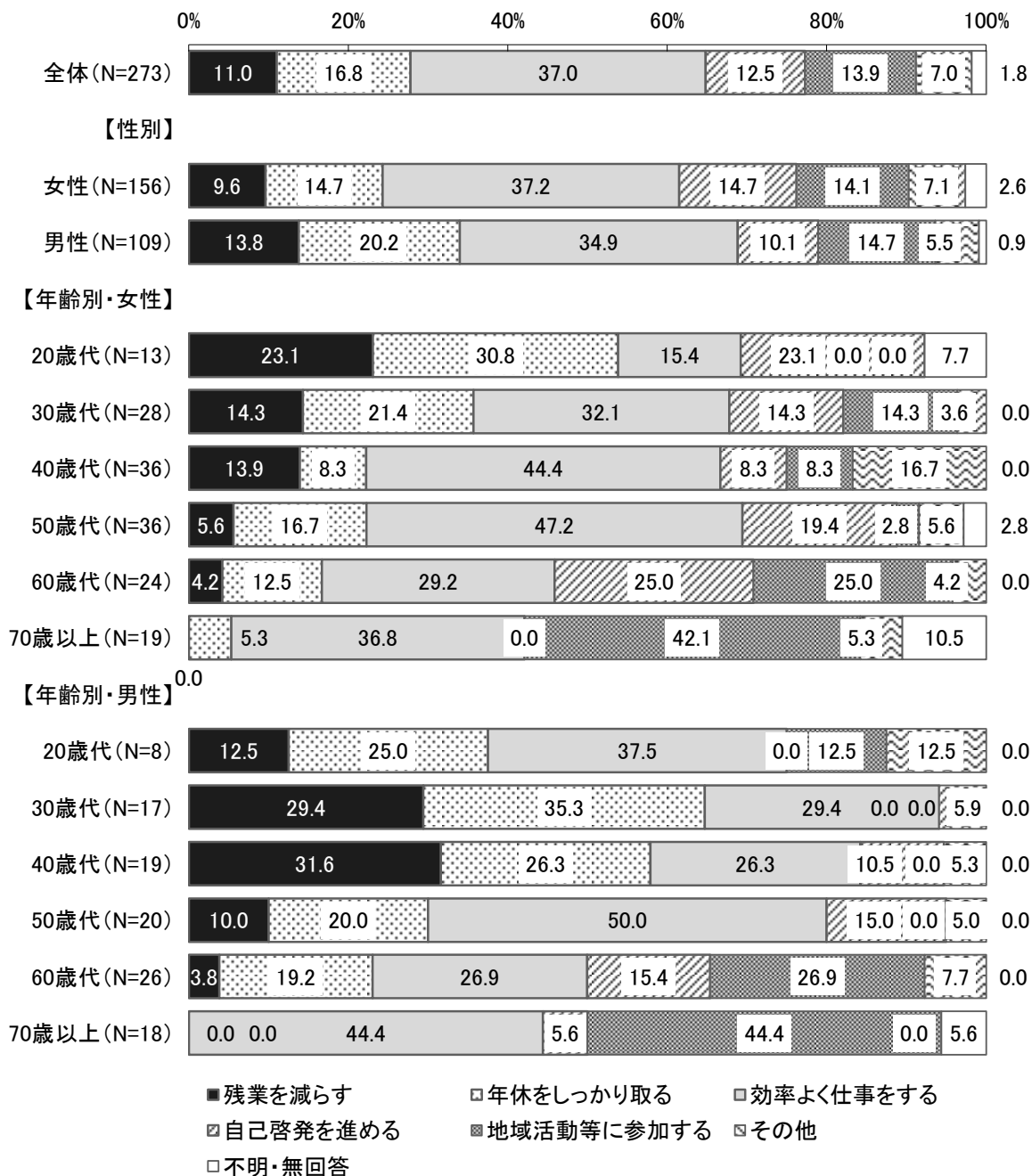
【問18で「1 かなり努力している」または「2 まあまあ努力している」と回答した方のみ】

問18-1 あなたがワーク・ライフ・バランス実現のためにやっていることをお答えください。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のためにやっていることは、全体で「効率よく仕事をする」が37.0%と最も高く、次いで「年休をしっかりとる」が16.8%となっています。

性別では、男性で「年休をしっかりとる」が20.2%と、女性と比べて5.5ポイント高くなっています。

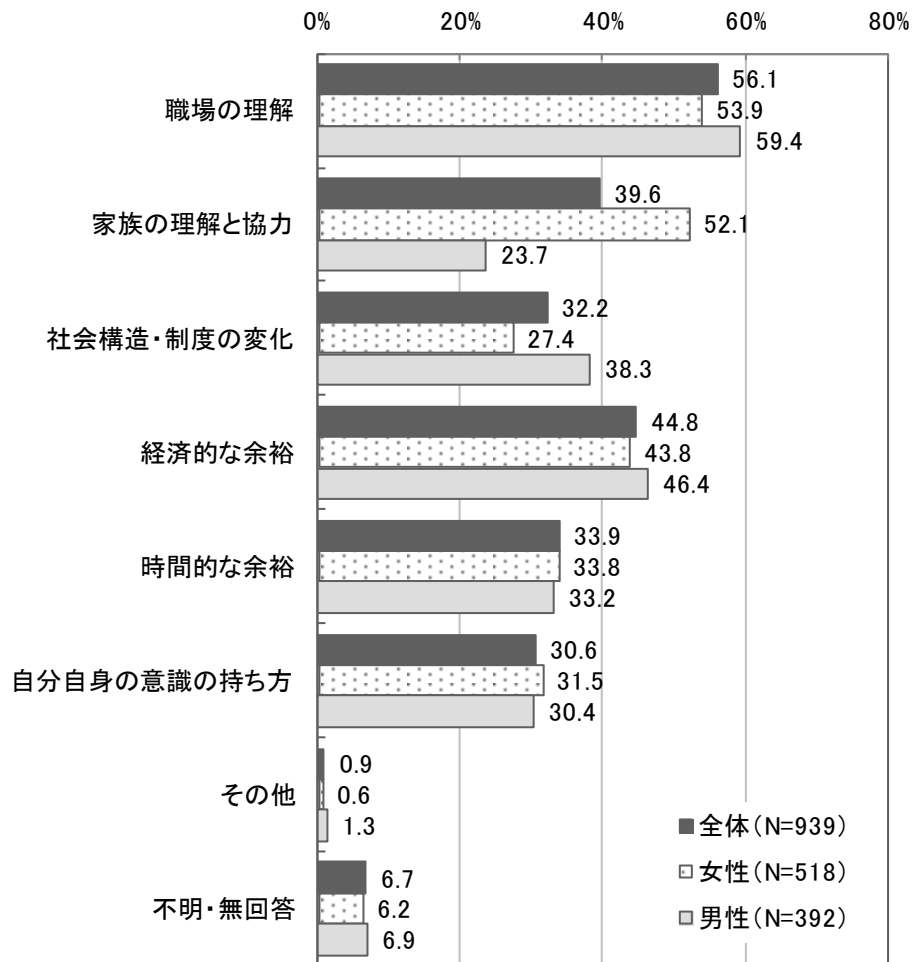
性別・年齢別では、男性の30～40歳代で「残業を減らす」が3割前後と高くなっています。



問19 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものをお答えください。(複数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものは、全体で「職場の理解」が56.1%と最も高く、次いで「経済的な余裕」が44.8%となっています。

性別では、「家族の理解と協力」で女性が52.1%と、男性と比べて28.4ポイント高く、「社会構造・制度の変化」では女性が27.4%と、男性と比べて10.9ポイント低くなっており、項目によっては男女差が明確となっています。



性別・年齢別比較

女性の20歳代は「職場の理解」「経済的な余裕」が、30～50歳代は「職場の理解」「家族の理解と協力」が、60歳代以上では「家族の理解と協力」「自分自身の意識の持ち方」がそれぞれ上位となっており、年代観の差がでています。また、男性の60歳以下で「職場の理解」が、70歳以上で「自分自身の意識の持ち方」が、それぞれ最も高くなっています。

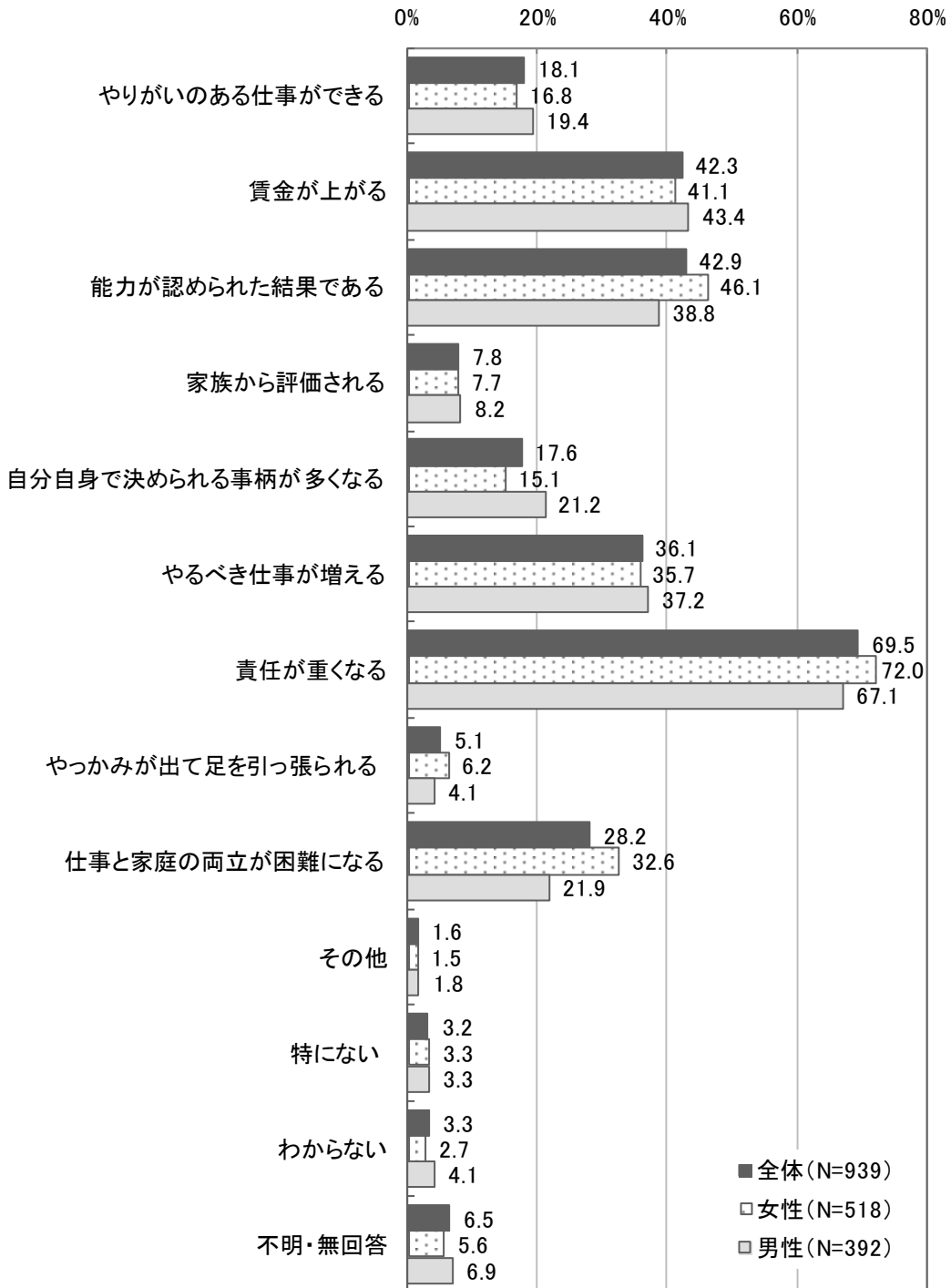
	職場の理解	家族の理解と協力	社会構造・制度の変化	経済的な余裕	時間的な余裕	自分自身の意識の持ち方	その他	不明・無回答
(単位:%)								
【年齢別・女性】								
20歳代(N=61)	73.8	36.1	39.3	57.4	29.5	26.2	0.0	1.6
30歳代(N=106)	71.7	56.6	33.0	52.8	38.7	18.9	0.0	0.9
40歳代(N=103)	54.4	47.6	27.2	40.8	41.7	30.1	1.9	7.8
50歳代(N=103)	47.6	54.4	31.1	43.7	31.1	35.0	0.0	5.8
60歳代(N=89)	39.3	59.6	16.9	37.1	33.7	40.4	1.1	6.7
70歳以上(N=56)	32.1	53.6	14.3	28.6	19.6	42.9	0.0	17.9
【年齢別・男性】								
20歳代(N=55)	76.4	20.0	29.1	54.5	41.8	27.3	0.0	7.3
30歳代(N=60)	73.3	18.3	55.0	55.0	33.3	18.3	0.0	0.0
40歳代(N=68)	58.8	14.7	38.2	50.0	39.7	35.3	2.9	2.9
50歳代(N=85)	63.5	29.4	40.0	47.1	35.3	21.2	2.4	3.5
60歳代(N=72)	48.6	29.2	38.9	38.9	26.4	40.3	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	35.3	29.4	23.5	31.4	19.6	43.1	2.0	21.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 20 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(複数回答)

管理職以上に昇進することについては、全体で「責任が重くなる」が 69.5%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が 42.9%となっています。

性別では、「仕事と家庭の両立が困難になる」で女性が 32.6%と、男性と比べて 10.7 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性、男性のいずれの年代も「責任が重くなる」が最も高く、特に女性の20～30歳代では8割を超えています。なお、「仕事と家庭の両立が困難になる」は30歳代の女性で43.4%、男性で36.7%と、他の年代と比べても高くなっています。

(単位: %)	やりがいのある仕事ができる	賃金が上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	やっかみが出て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】													
20歳代(N=61)	21.3	62.3	54.1	9.8	24.6	36.1	85.2	8.2	32.8	0.0	1.6	1.6	1.6
30歳代(N=106)	20.8	54.7	47.2	7.5	17.9	49.1	82.1	4.7	43.4	0.9	0.0	2.8	0.0
40歳代(N=103)	19.4	43.7	46.6	7.8	15.5	39.8	70.9	5.8	32.0	1.9	1.9	1.9	6.8
50歳代(N=103)	10.7	36.9	47.6	7.8	15.5	33.0	73.8	7.8	33.0	2.9	1.9	1.0	5.8
60歳代(N=89)	10.1	22.5	39.3	5.6	11.2	24.7	67.4	3.4	28.1	2.2	5.6	5.6	7.9
70歳以上(N=56)	21.4	25.0	42.9	8.9	3.6	25.0	44.6	8.9	19.6	0.0	12.5	3.6	14.3
【年齢別・男性】													
20歳代(N=55)	12.7	56.4	61.8	3.6	21.8	40.0	70.9	1.8	10.9	0.0	3.6	5.5	7.3
30歳代(N=60)	23.3	50.0	41.7	11.7	25.0	45.0	78.3	5.0	36.7	0.0	5.0	3.3	0.0
40歳代(N=68)	20.6	47.1	32.4	5.9	25.0	51.5	72.1	5.9	17.6	2.9	0.0	2.9	2.9
50歳代(N=85)	17.6	40.0	24.7	8.2	16.5	35.3	75.3	2.4	22.4	4.7	2.4	1.2	4.7
60歳代(N=72)	20.8	37.5	44.4	6.9	22.2	25.0	55.6	6.9	26.4	1.4	4.2	4.2	9.7
70歳以上(N=51)	21.6	31.4	35.3	13.7	17.6	27.5	45.1	2.0	15.7	0.0	5.9	9.8	19.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

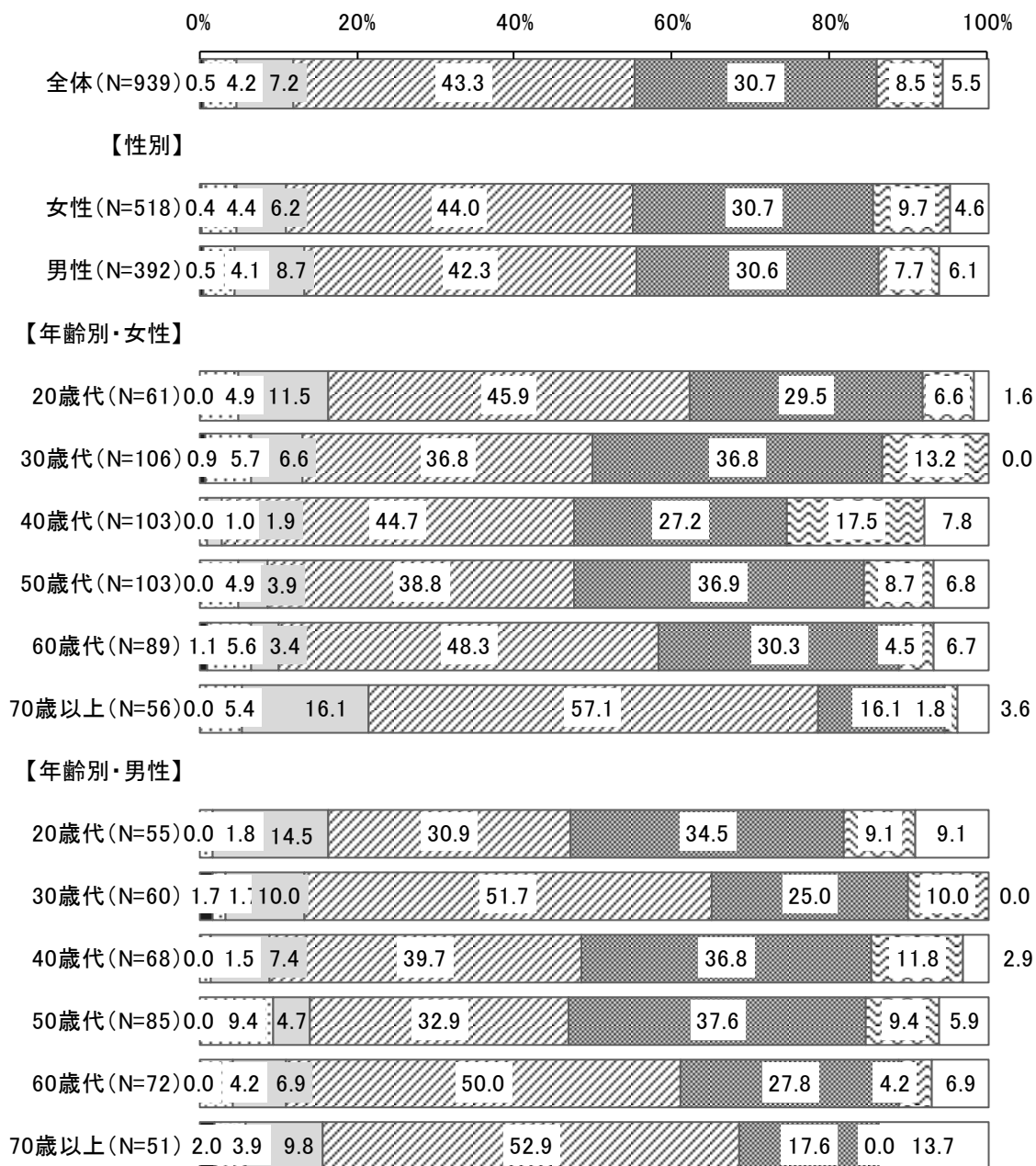
4 女性の活躍推進について

問21 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が43.3%と最も高く、次いで「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が30.7%となっています。

性別では、いずれの項目も大差はみられません。

性別・年齢別では、男性の20歳代、50歳代で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」を上回っています。なお、「女性は仕事を持たない方がよい」が女性の30歳代、60歳代及び男性の30歳代、70歳以上で数パーセント出現しています。



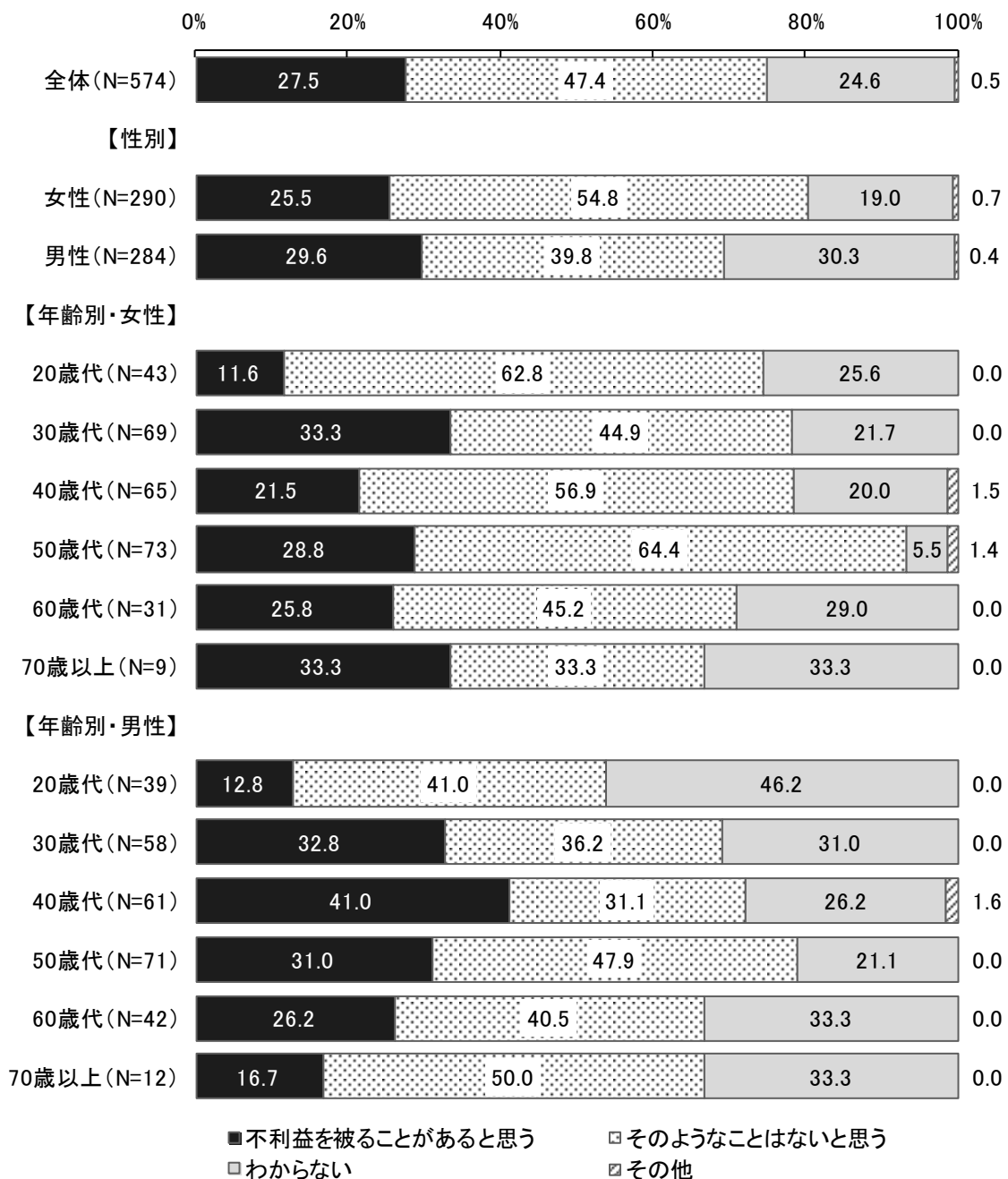
- 女性は仕事を持たない方がよい
- 結婚するまでは、仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事をする方がよい
- ☑ 子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい
- ▣ 結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい
- ☑ その他
- 不明・無回答

問 22 現在働いている方におたずねします。現在の職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思いますか。(単数回答)

現在働いている職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思うかは、全体で「そのようなことはないと思う」が 47.4%と最も高く、次いで「不利益を被ることがあると思う」が 27.5%となっています。

性別では、「不利益を被ることがあると思う」が男性で 29.6%と、女性と比べて 4.1 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「不利益を被ることがあると思う」が女性の 30 歳代及び男性の 30～50 歳代で 3割を超えています。



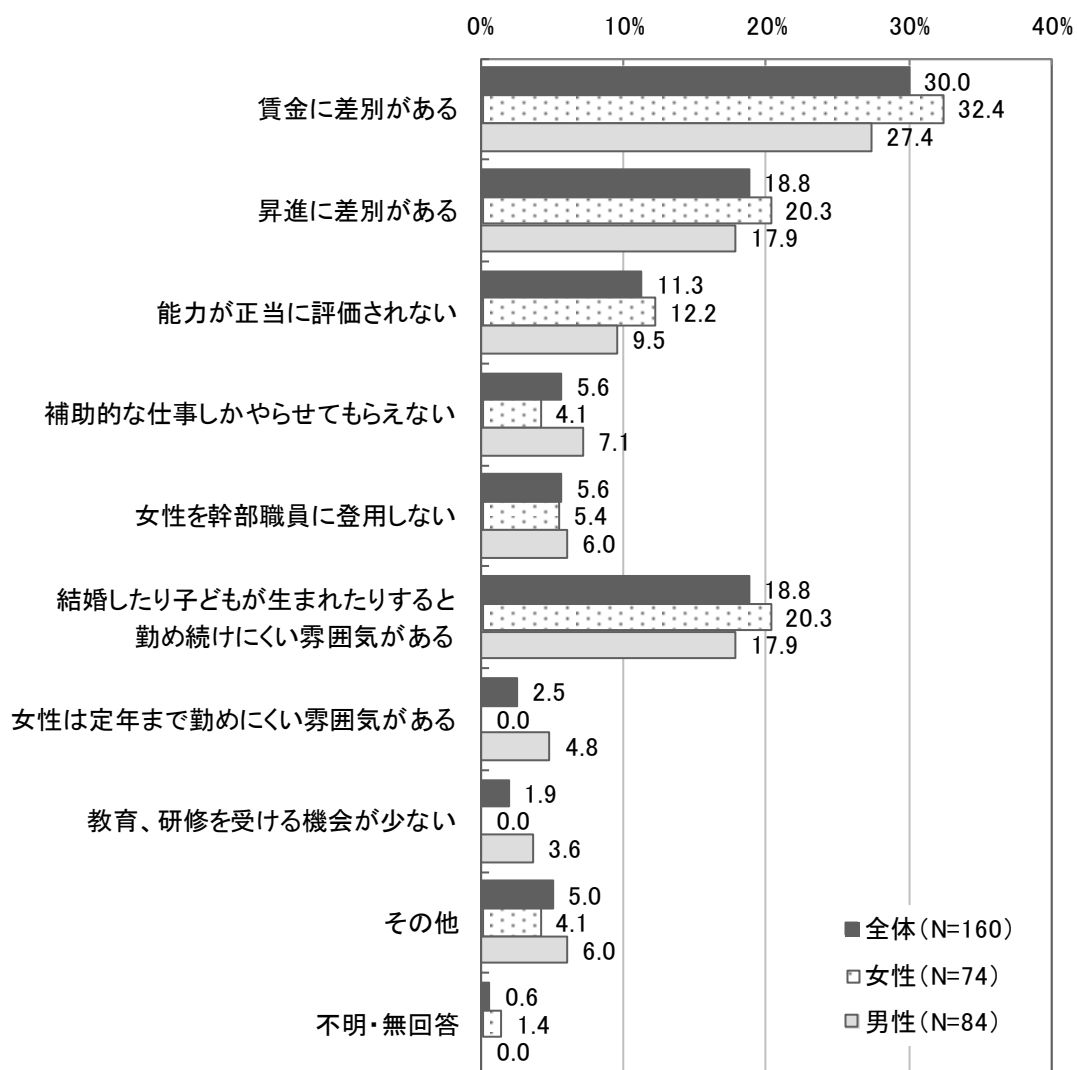
※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

【問 22 で「1 不利益を被ることがあると思う」と回答した方のみ】

問 22-1 具体的にはどのようなことですか。(単数回答)

不利益を被ることがあると思う具体的な内容は、全体で「賃金に差別がある」が 30.0%と最も高く、次いで「昇進に差別がある」「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」がそれぞれ 18.8%となっています。

性別では、「賃金に差別がある」が女性で 32.4%と、男性と比べて 5.0 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

「賃金に差別がある」が女性の30～50歳代及び男性の50～60歳代で、高くなっています。

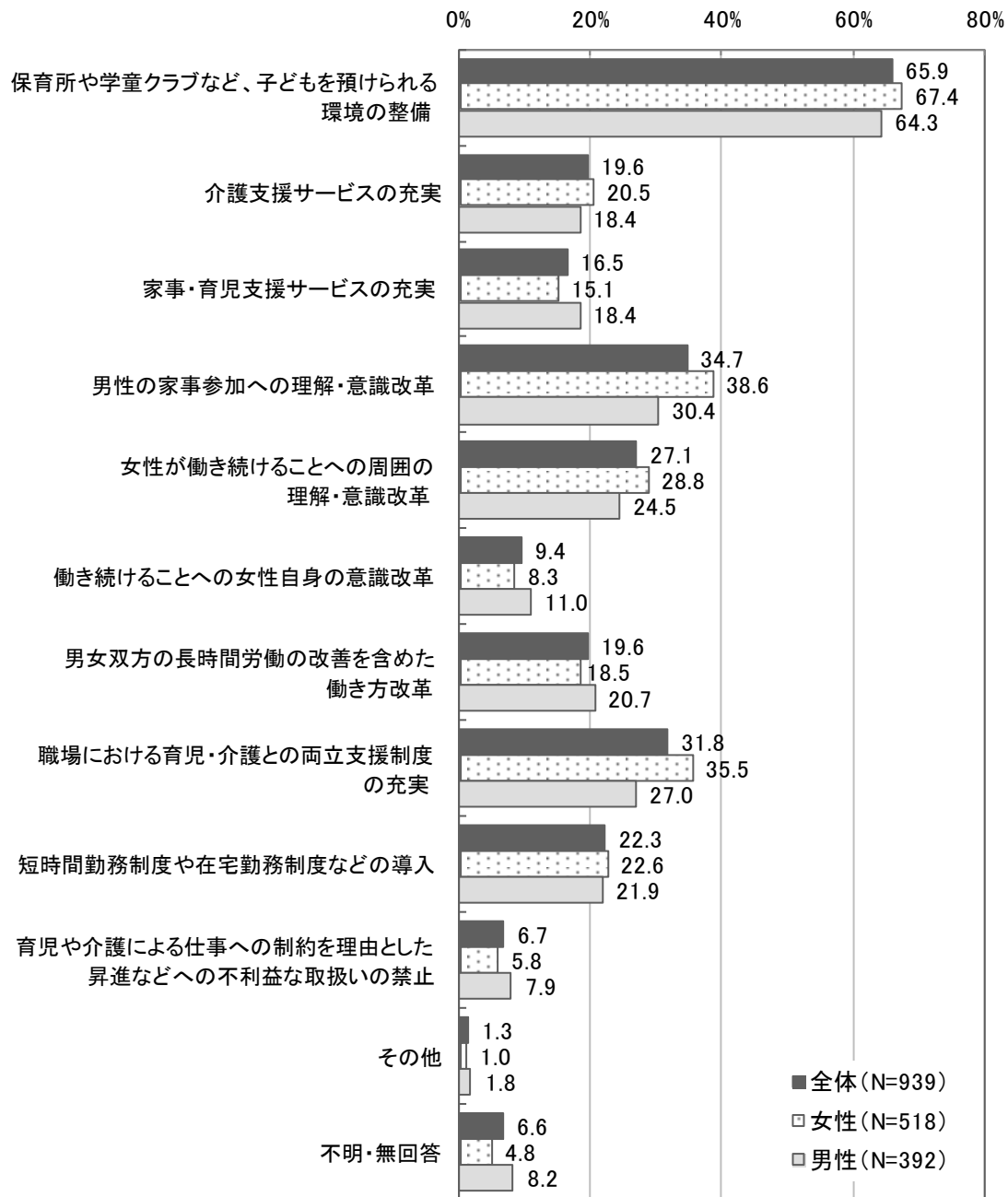
(単位: %)	賃金に差別がある	昇進に差別がある	能力が正当に評価されない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を幹部職員に登用しない	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	教育、研修を受ける機会が少ない	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】										
20歳代(N=5)	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=23)	30.4	26.1	4.3	0.0	4.3	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0
40歳代(N=14)	28.6	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
50歳代(N=21)	42.9	19.0	19.0	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8
60歳代(N=8)	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
【年齢別・男性】										
20歳代(N=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=19)	21.1	26.3	10.5	5.3	15.8	10.5	5.3	0.0	5.3	0.0
40歳代(N=25)	16.0	20.0	16.0	12.0	0.0	24.0	0.0	4.0	8.0	0.0
50歳代(N=22)	31.8	22.7	4.5	9.1	4.5	13.6	4.5	4.5	4.5	0.0
60歳代(N=11)	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0
70歳以上(N=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 23 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。(複数回答)

女性が働き続けるために必要なことは、全体で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が65.9%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が34.7%となっています。

性別では、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」で8.5ポイント、「男性の家事参加への理解・意識改革」で8.2ポイント、それぞれ女性は男性と比べて高くなっています。



性別・年齢別比較

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が30歳代の女性で83.0%、男性で70.0%と、他の年代と比べても高くなっています。

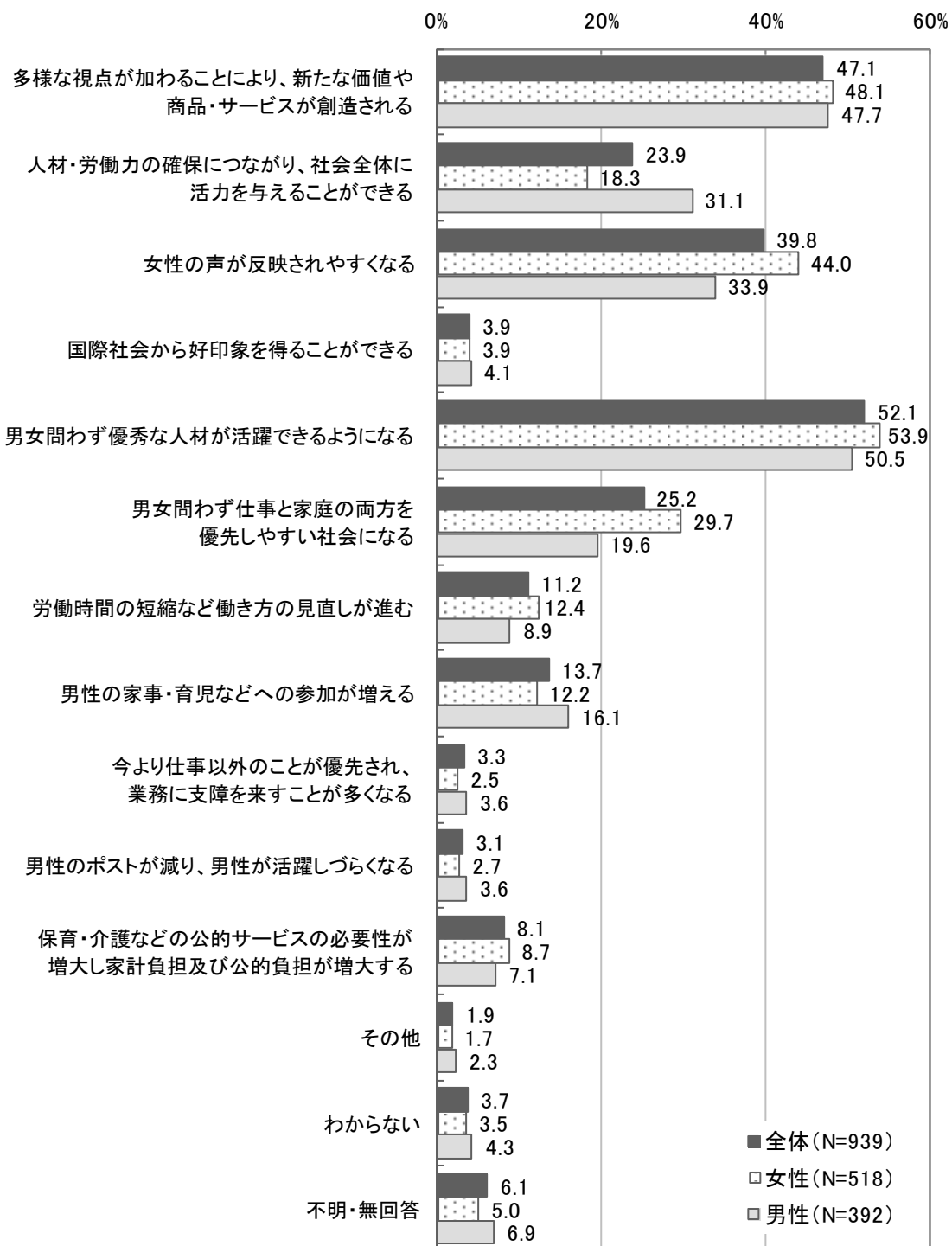
(単位: %)	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	働き方改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】													
20歳代(N=61)	73.8	3.3	16.4	49.2	21.3	8.2	24.6	47.5	21.3	8.2	1.6	1.6	
30歳代(N=106)	83.0	13.2	19.8	39.6	26.4	6.6	19.8	37.7	34.0	2.8	0.0	0.0	
40歳代(N=103)	61.2	24.3	20.4	40.8	31.1	6.8	14.6	33.0	20.4	5.8	1.0	6.8	
50歳代(N=103)	60.2	28.2	13.6	37.9	29.1	7.8	22.3	35.9	17.5	9.7	0.0	5.8	
60歳代(N=89)	64.0	23.6	7.9	36.0	31.5	13.5	19.1	28.1	19.1	3.4	2.2	6.7	
70歳以上(N=56)	60.7	26.8	8.9	26.8	32.1	7.1	8.9	33.9	21.4	5.4	1.8	8.9	
【年齢別・男性】													
20歳代(N=55)	60.0	9.1	16.4	34.5	25.5	7.3	16.4	30.9	25.5	7.3	0.0	9.1	
30歳代(N=60)	70.0	6.7	21.7	43.3	26.7	10.0	31.7	26.7	30.0	8.3	1.7	1.7	
40歳代(N=68)	63.2	19.1	10.3	35.3	20.6	8.8	22.1	33.8	22.1	8.8	2.9	4.4	
50歳代(N=85)	67.1	27.1	27.1	27.1	32.9	11.8	20.0	21.2	14.1	5.9	3.5	5.9	
60歳代(N=72)	65.3	22.2	15.3	27.8	19.4	15.3	19.4	33.3	20.8	9.7	1.4	6.9	
70歳以上(N=51)	56.9	21.6	15.7	13.7	19.6	11.8	11.8	15.7	23.5	7.8	0.0	25.5	

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 24 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増える
とどのような影響があると思いますか。(複数回答)

政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響がある
と思うかは、全体で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 52.1%と最も高く、次いで「多
様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 47.1%となっています。

性別では、女性で「女性の声が反映されやすくなる」「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会
になる」が男性と比べて、男性で「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」
が女性と比べて、それぞれ差が明確になっています。



性別・年齢別比較

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が上位となっているほか、「女性の声が反映されやすくなる」という期待も高くなっています。

(単位: %)	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
【年齢別・女性】							
20歳代(N=61)	45.9	19.7	42.6	6.6	60.7	27.9	8.2
30歳代(N=106)	50.0	15.1	50.0	1.9	57.5	31.1	22.6
40歳代(N=103)	48.5	12.6	38.8	5.8	47.6	24.3	11.7
50歳代(N=103)	47.6	23.3	48.5	1.9	59.2	31.1	7.8
60歳代(N=89)	49.4	22.5	37.1	3.4	50.6	34.8	10.1
70歳以上(N=56)	44.6	17.9	46.4	5.4	46.4	28.6	10.7
【年齢別・男性】							
20歳代(N=55)	40.0	7.3	34.5	0.0	49.1	25.5	10.9
30歳代(N=60)	58.3	30.0	28.3	8.3	50.0	13.3	8.3
40歳代(N=68)	54.4	36.8	23.5	2.9	51.5	17.6	14.7
50歳代(N=85)	56.5	28.2	41.2	4.7	51.8	25.9	7.1
60歳代(N=72)	40.3	47.2	41.7	2.8	55.6	18.1	5.6
70歳以上(N=51)	31.4	33.3	29.4	5.9	43.1	15.7	5.9

(単位: %)	男性の家事・育児などへの参加が増える	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し家計負担及び公的負担が増大する	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】							
20歳代(N=61)	11.5	1.6	1.6	9.8	3.3	1.6	1.6
30歳代(N=106)	11.3	3.8	2.8	5.7	0.9	2.8	0.9
40歳代(N=103)	9.7	3.9	2.9	10.7	4.9	4.9	6.8
50歳代(N=103)	14.6	1.9	0.0	7.8	0.0	1.0	5.8
60歳代(N=89)	10.1	1.1	2.2	11.2	1.1	4.5	6.7
70歳以上(N=56)	17.9	1.8	8.9	7.1	0.0	7.1	8.9
【年齢別・男性】							
20歳代(N=55)	12.7	7.3	5.5	3.6	3.6	5.5	9.1
30歳代(N=60)	16.7	0.0	8.3	5.0	6.7	8.3	0.0
40歳代(N=68)	17.6	4.4	5.9	5.9	1.5	4.4	4.4
50歳代(N=85)	22.4	5.9	1.2	4.7	2.4	1.2	5.9
60歳代(N=72)	9.7	0.0	1.4	9.7	0.0	2.8	6.9
70歳以上(N=51)	15.7	2.0	0.0	15.7	0.0	5.9	17.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

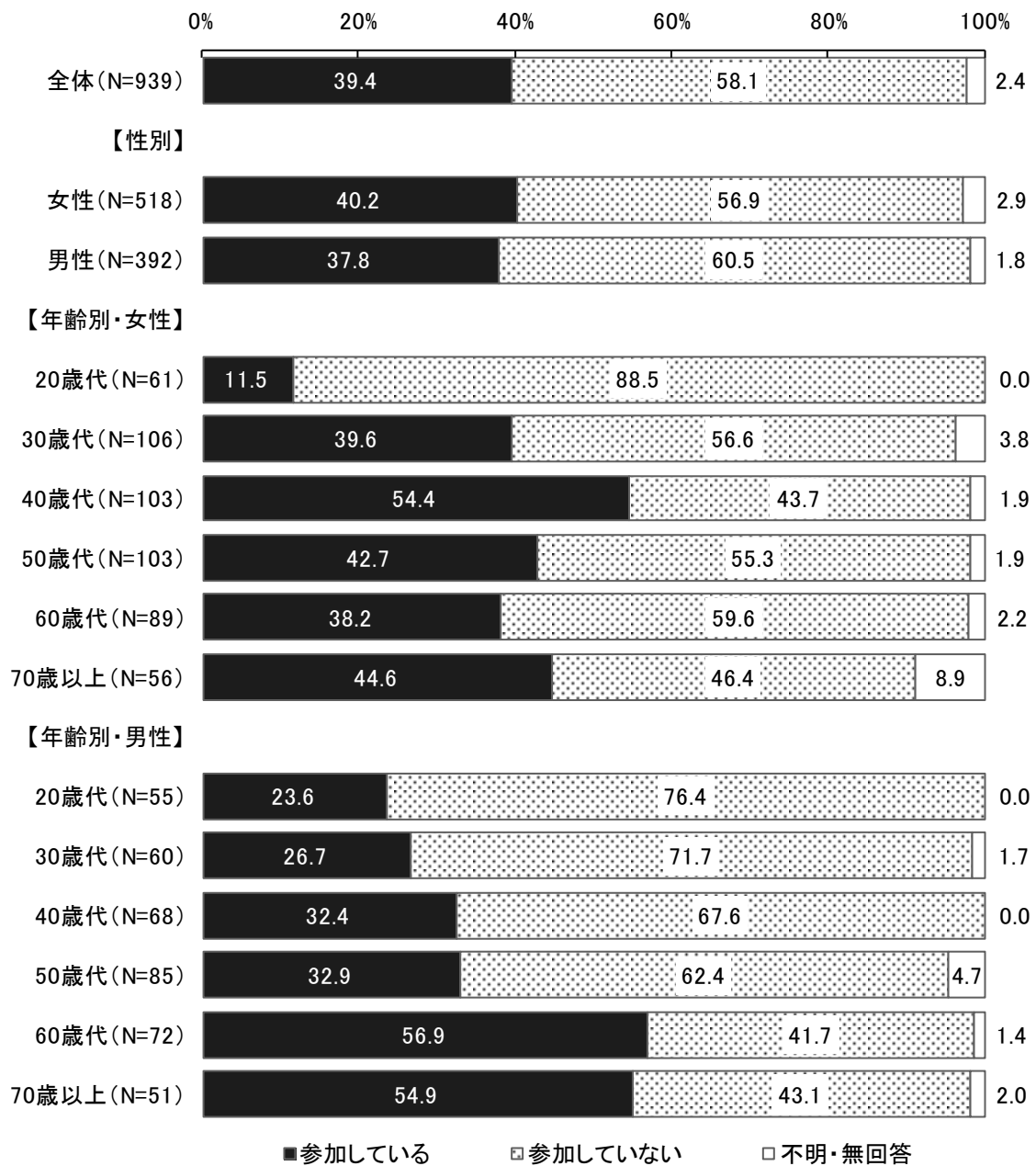
5 地域活動への参加状況について

問 25 あなたは、現在、地域の活動に参加していますか。(単数回答)

地域の活動への参加は、全体で「参加している」が39.4%、「参加していない」が58.1%となっています。

性別では、「参加している」が女性で40.2%と、男性と比べて2.4ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「参加している」が女性は30歳代以上で4割前後から5割を超えているものの、男性は40～50歳代で3割強、60歳代以上で5割を超えており、性別・年齢別の差が明確となっています。

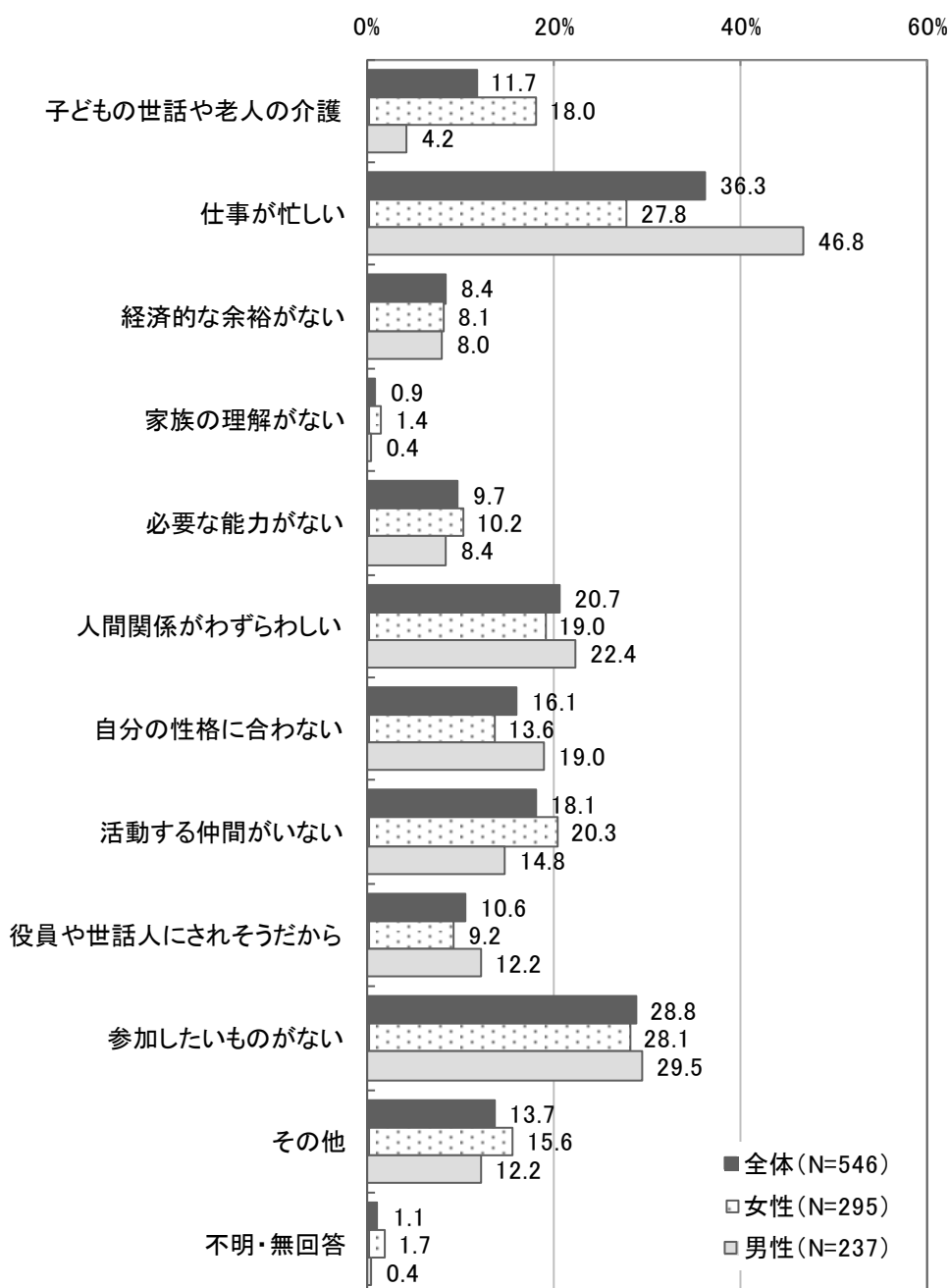


【問 25 で「2 参加していない」と回答した方のみ】

問 25-1 地域の活動に参加しない理由は何ですか。(複数回答)

地域の活動に参加しない理由は、全体で「仕事が忙しい」が 36.3%と最も高く、次いで「参加したいものがない」が 28.8%となっています。

性別では、「仕事が忙しい」が男性で 46.8%と女性と比べて 19.0 ポイント、「子どもの世話や老人の介護」が女性で 18.0%と男性と比べて 13.8 ポイント、それぞれ高くなっています。



性別・年齢別比較

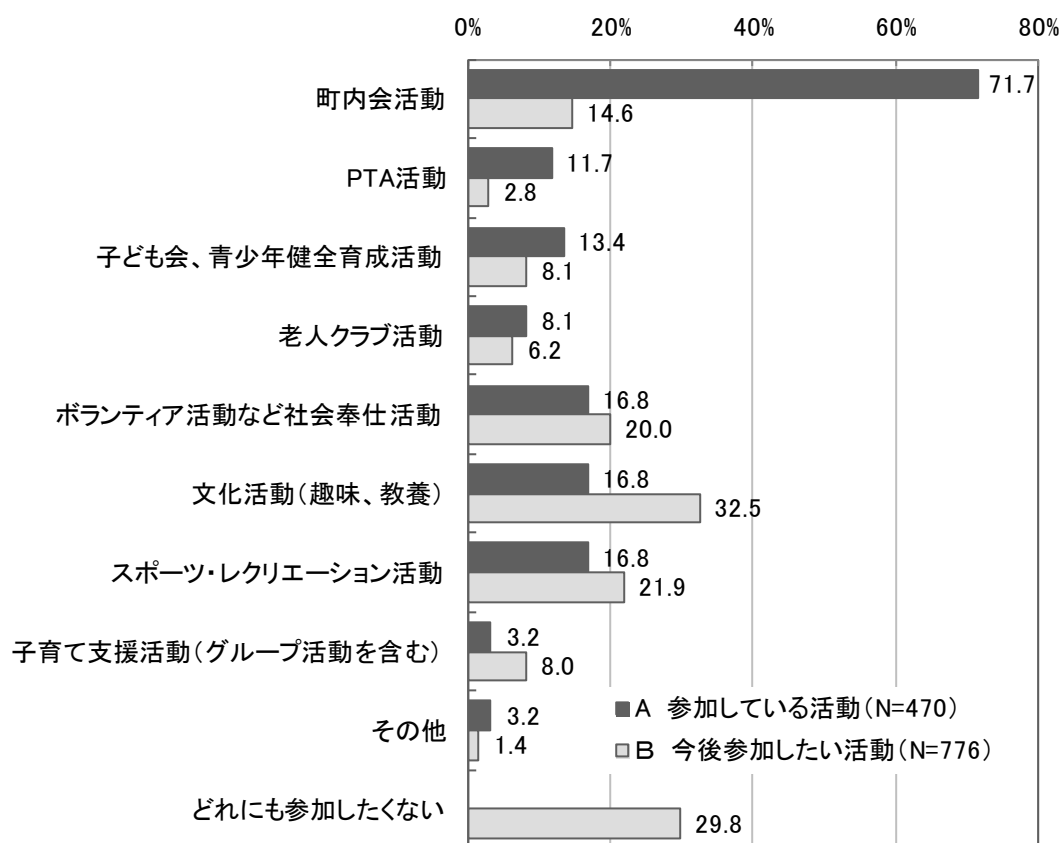
「参加したいものがない」が、女性の20歳代、70歳以上で最も高くなっています。50歳代以上になると、女性、男性のいずれも「必要な能力がない」「人間関係がわずらわしい」が上位となっており、男性は60歳代以上で「自分の性格に合わない」も上位となっています。

(単位: %)	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	経済的な余裕がない	家族の理解がない	必要な能力がない	人間関係がわずらわしい	自分の性格に合わない	活動する仲間がない	役員や世話人からそれさうだから	参加したいものがない	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】												
20歳代(N=54)	7.4	31.5	3.7	0.0	1.9	16.7	5.6	25.9	5.6	51.9	14.8	1.9
30歳代(N=60)	33.3	18.3	5.0	0.0	1.7	15.0	16.7	20.0	8.3	25.0	20.0	3.3
40歳代(N=45)	13.3	37.8	15.6	0.0	11.1	15.6	17.8	20.0	13.3	22.2	15.6	0.0
50歳代(N=57)	15.8	40.4	12.3	1.8	7.0	22.8	10.5	15.8	12.3	17.5	19.3	0.0
60歳代(N=53)	20.8	18.9	5.7	1.9	20.8	22.6	17.0	20.8	9.4	20.8	9.4	1.9
70歳以上(N=26)	11.5	15.4	7.7	7.7	30.8	23.1	15.4	19.2	3.8	34.6	11.5	3.8
【年齢別・男性】												
20歳代(N=42)	0.0	45.2	4.8	0.0	2.4	7.1	0.0	7.1	2.4	38.1	16.7	2.4
30歳代(N=43)	7.0	58.1	2.3	0.0	2.3	11.6	16.3	18.6	7.0	30.2	14.0	0.0
40歳代(N=46)	4.3	60.9	8.7	0.0	8.7	26.1	23.9	23.9	17.4	26.1	6.5	0.0
50歳代(N=53)	5.7	50.9	13.2	0.0	7.5	32.1	17.0	15.1	13.2	30.2	13.2	0.0
60歳代(N=30)	3.3	33.3	16.7	0.0	10.0	33.3	36.7	10.0	16.7	23.3	13.3	0.0
70歳以上(N=22)	4.5	4.5	0.0	4.5	31.8	27.3	31.8	9.1	22.7	27.3	9.1	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問26 あなたは、どのような地域の活動に参加していますか。また、今後参加したいですか。(単数回答)

参加している地域活動の内容は、全体で「町内会活動」が71.7%と最も高くなっています。
 今後参加したい地域活動の内容は、全体で「文化活動(趣味、教養)」が32.5%と最も高く、次いで「どれにも参加したくない」が29.8%となっています。



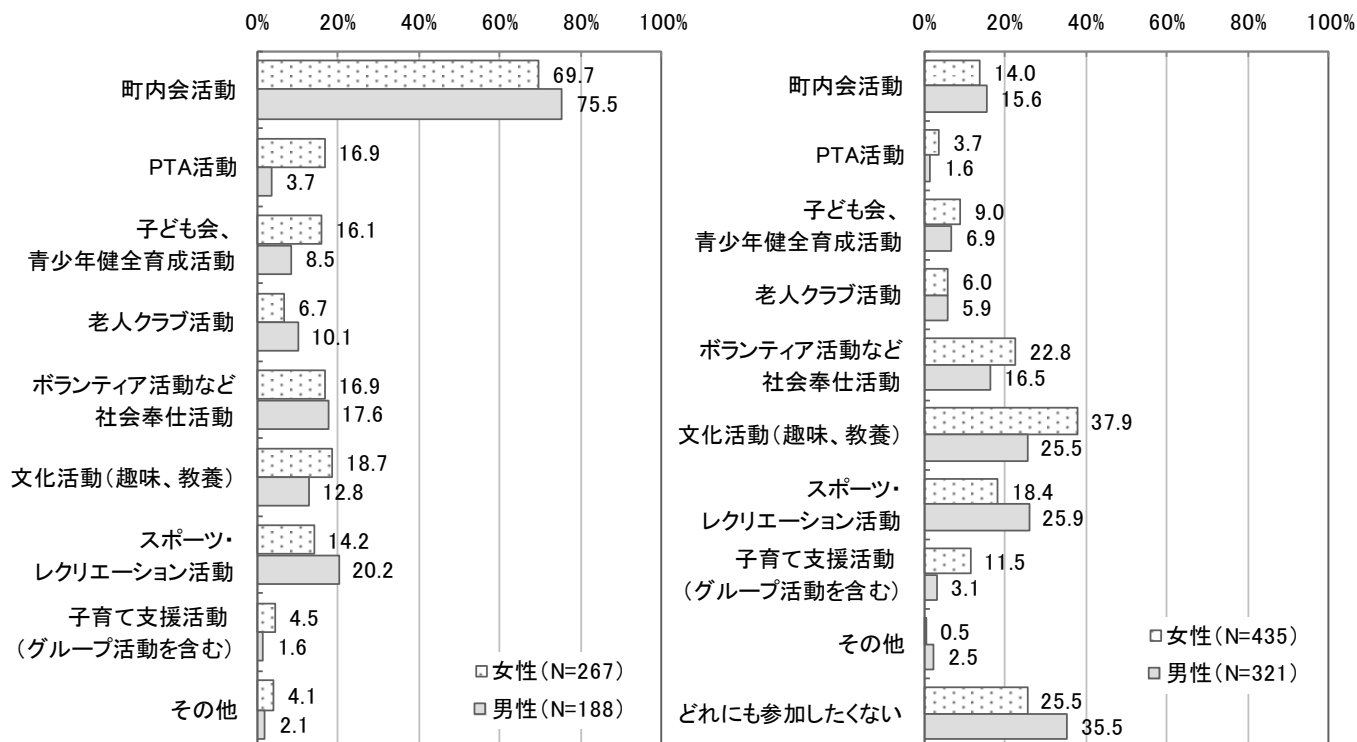
※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

性別比較

女性と男性で最も差が大きい項目は、参加している活動では「PTA活動」で13.2ポイント、今後参加したい活動では「文化活動（趣味、教養）」で12.4ポイントとなっています。

【A 参加している活動】

【B 今後参加したい活動】



※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

項目別集計結果

【A 参加している活動】

「参加している活動」は、女性、男性のいずれの年代も「町内会活動」が最も高く、女性の20歳代を除いて6割を超えています。

(単位: %)	町内会活動	PTA活動	子ども会、青少年健全育成活動	老人クラブ活動	ボランティア活動など社会奉仕活動	文化活動(趣味、教養)	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動(グループ活動を含む)	その他
【年齢別・女性】									
20歳代(N=12)	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	33.3
30歳代(N=48)	66.7	33.3	29.2	0.0	8.3	6.3	6.3	12.5	2.1
40歳代(N=68)	70.6	33.8	33.8	0.0	19.1	16.2	8.8	4.4	2.9
50歳代(N=57)	78.9	8.8	3.5	0.0	8.8	15.8	19.3	1.8	1.8
60歳代(N=47)	72.3	2.1	6.4	8.5	23.4	31.9	12.8	2.1	6.4
70歳以上(N=35)	65.7	0.0	2.9	40.0	28.6	31.4	34.3	0.0	0.0
【年齢別・男性】									
20歳代(N=16)	56.3	0.0	0.0	0.0	18.8	6.3	12.5	0.0	6.3
30歳代(N=16)	87.5	6.3	18.8	0.0	18.8	0.0	18.8	0.0	0.0
40歳代(N=27)	66.7	11.1	14.8	0.0	7.4	7.4	25.9	3.7	3.7
50歳代(N=49)	77.6	4.1	8.2	0.0	14.3	6.1	14.3	4.1	4.1
60歳代(N=46)	87.0	2.2	6.5	8.7	19.6	19.6	21.7	0.0	0.0
70歳以上(N=34)	67.6	0.0	5.9	44.1	26.5	26.5	26.5	0.0	0.0

※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

※回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

【B 今後参加したい活動】

「今後参加したい活動」は、「文化活動（趣味、教養）」が女性の40歳代以上、男性の60歳代以上で最も高くなっています。なお、女性の20～30歳代及び男性の20～50歳代では、「どれにも参加したくない」が最も高くなっています。

(単位: %)	町内会活動	PTA活動	子ども会、青少年健全育成活動	老人クラブ活動	ボランティア活動など社会奉仕活動	文化活動(趣味、教養)	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動(グループ活動を含む)	その他	どれにも参加したくない
【年齢別・女性】										
20歳代(N=59)	10.2	3.4	13.6	0.0	11.9	25.4	16.9	11.9	0.0	40.7
30歳代(N=93)	15.1	8.6	22.6	1.1	14.0	30.1	11.8	21.5	0.0	32.3
40歳代(N=83)	16.9	7.2	8.4	2.4	26.5	37.3	20.5	12.0	1.2	22.9
50歳代(N=88)	10.2	0.0	0.0	5.7	38.6	50.0	20.5	8.0	1.1	17.0
60歳代(N=75)	17.3	0.0	0.0	10.7	22.7	45.3	24.0	4.0	0.0	21.3
70歳以上(N=37)	13.5	0.0	8.1	27.0	16.2	35.1	16.2	8.1	0.0	18.9
【年齢別・男性】										
20歳代(N=47)	17.0	2.1	12.8	0.0	12.8	19.1	29.8	6.4	2.1	40.4
30歳代(N=48)	22.9	4.2	14.6	0.0	12.5	12.5	31.3	2.1	0.0	47.9
40歳代(N=60)	11.7	3.3	5.0	1.7	18.3	21.7	25.0	1.7	1.7	36.7
50歳代(N=75)	16.0	0.0	5.3	2.7	20.0	30.7	29.3	1.3	2.7	33.3
60歳代(N=56)	14.3	0.0	1.8	16.1	21.4	33.9	16.1	3.6	3.6	30.4
70歳以上(N=34)	11.8	0.0	2.9	20.6	8.8	35.3	23.5	5.9	5.9	20.6

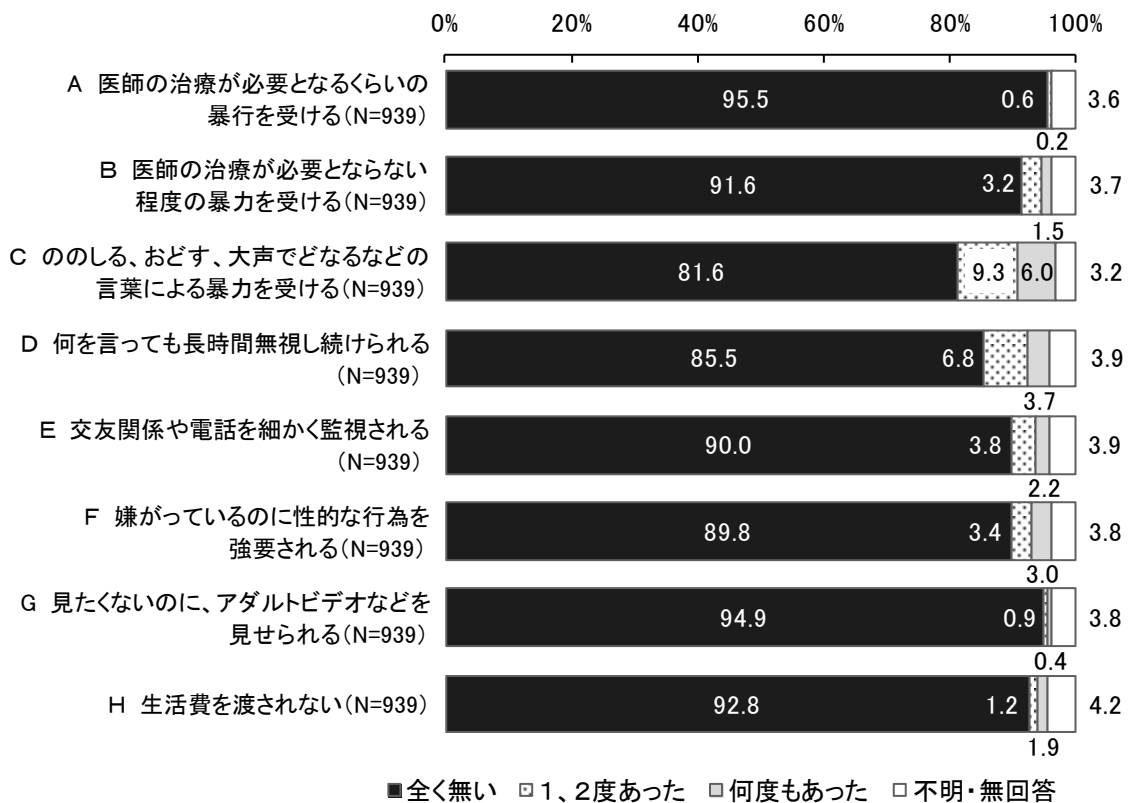
※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

※回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

6 DV(ドメスティック・バイオレンス)について

問 27 男性・女性に関わらず、おたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから次にあげるような行為を受けたことがありますか。(単数回答)

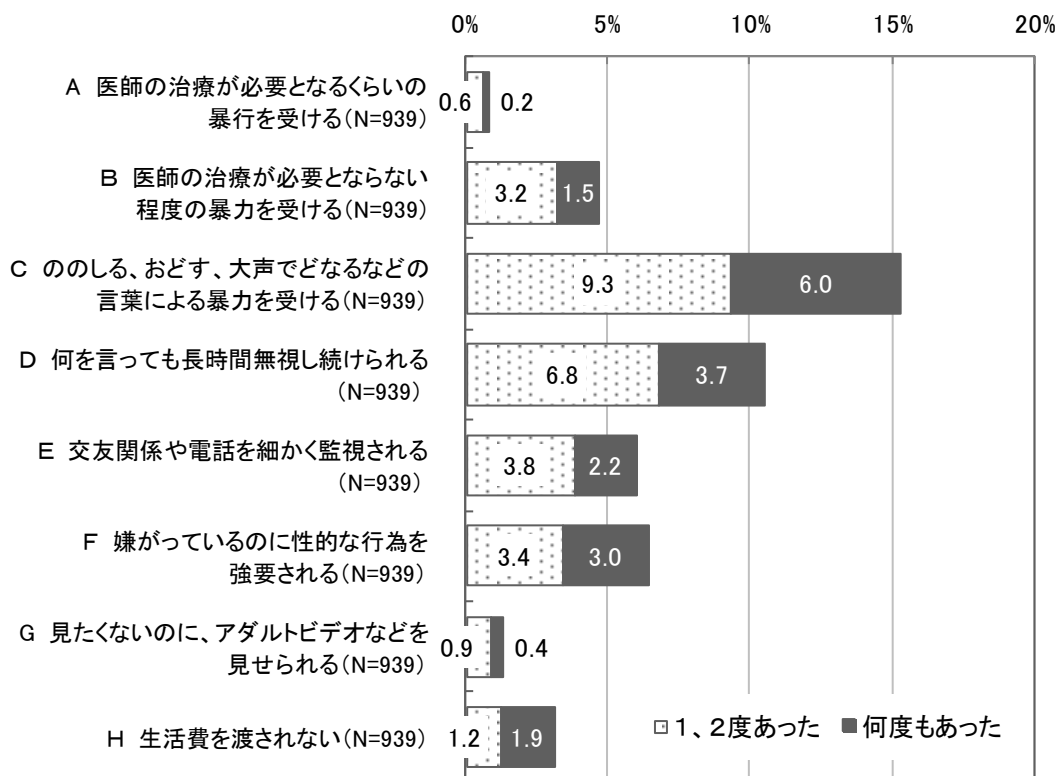
配偶者や恋人などからの暴力等の経験の有無について、全体で「1、2度あった」「何度もあった」が高い内容は「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、次いで「D 何を言っても長時間無視し続けられる」となっています。その他の内容についても数パーセントあり、様々な暴力を受けている様子がみられます。



項目別DV経験者

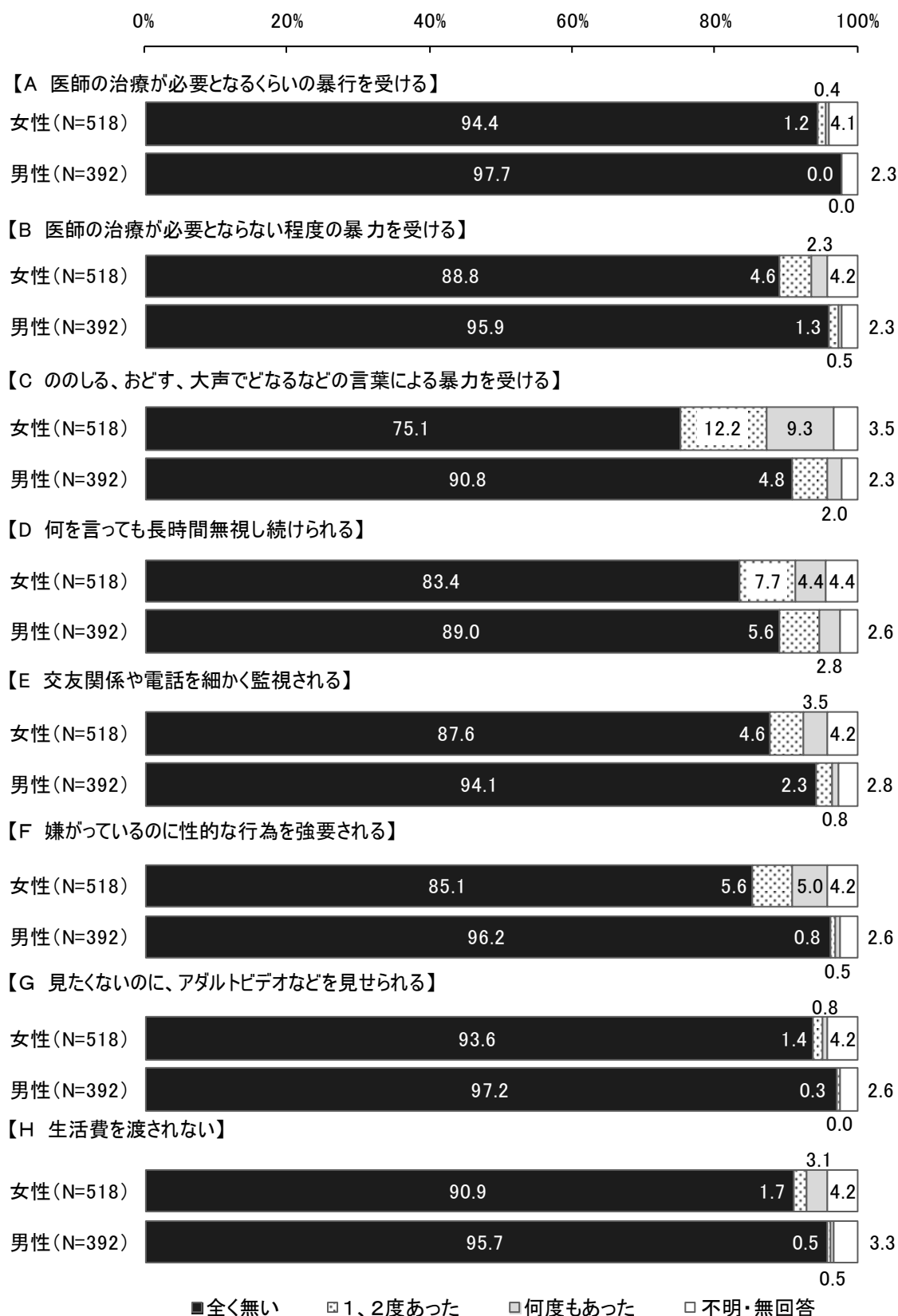
配偶者や恋人などからの暴力等の経験がある人は、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ9.3%、6.0%となっています。次いで「D 何を言っても長時間無視し続けられる」が、それぞれ6.8%、3.7%となっています。

なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」の経験者は合わせて0.8%、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」の経験者は合わせて4.7%となっています。



性別比較

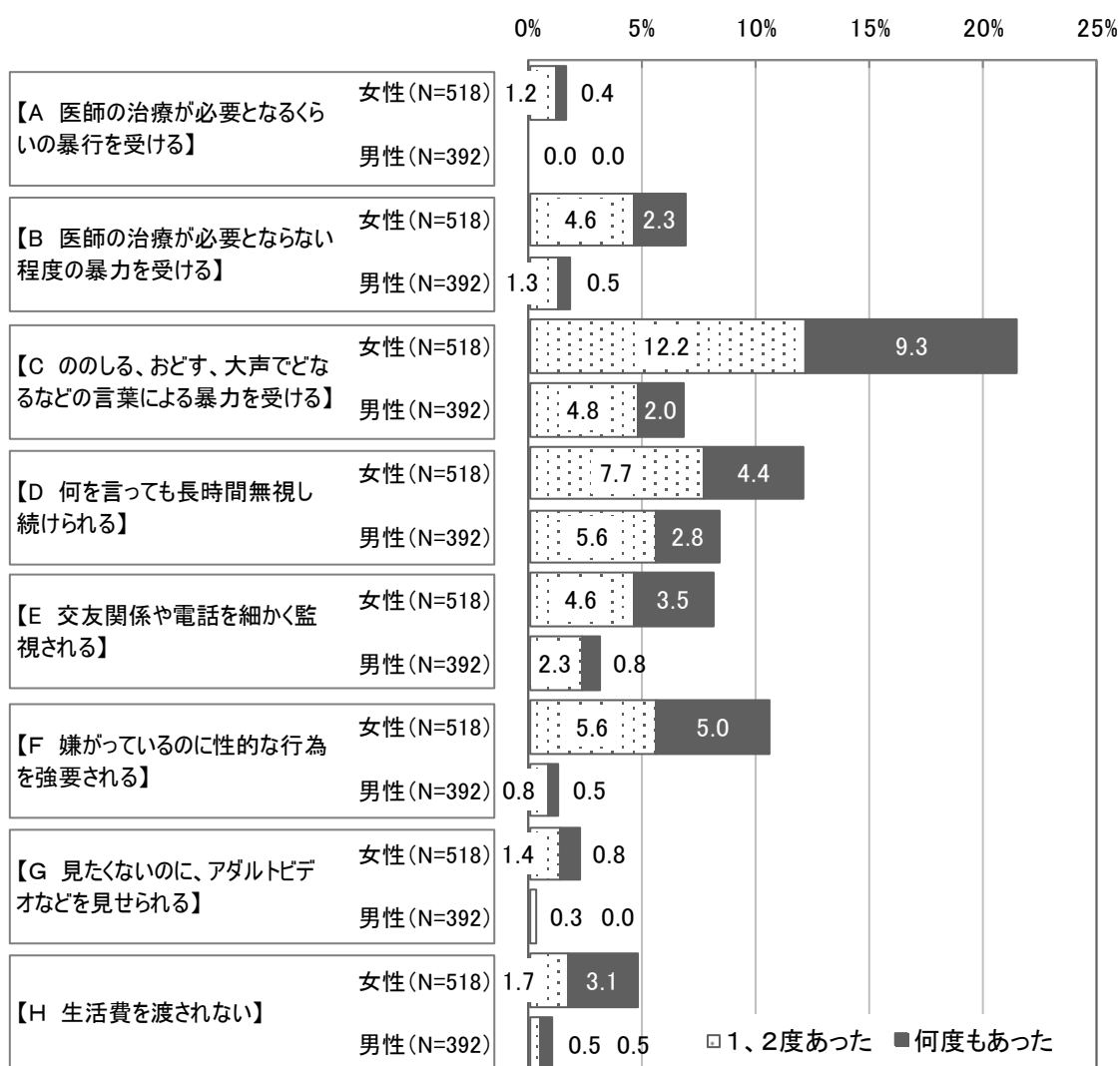
ほとんどの暴力において女性に対する暴力が多く、「1、2度あった」「何度もあった」を合わせると「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が21.6%と最も高くなっています。なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」女性は1.6%となっています。



項目別性別DV経験者

女性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ12.2%、9.3%となっています。男性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「D 何を言っても長時間無視し続けられる」それぞれ5.6%、2.8%となっています。

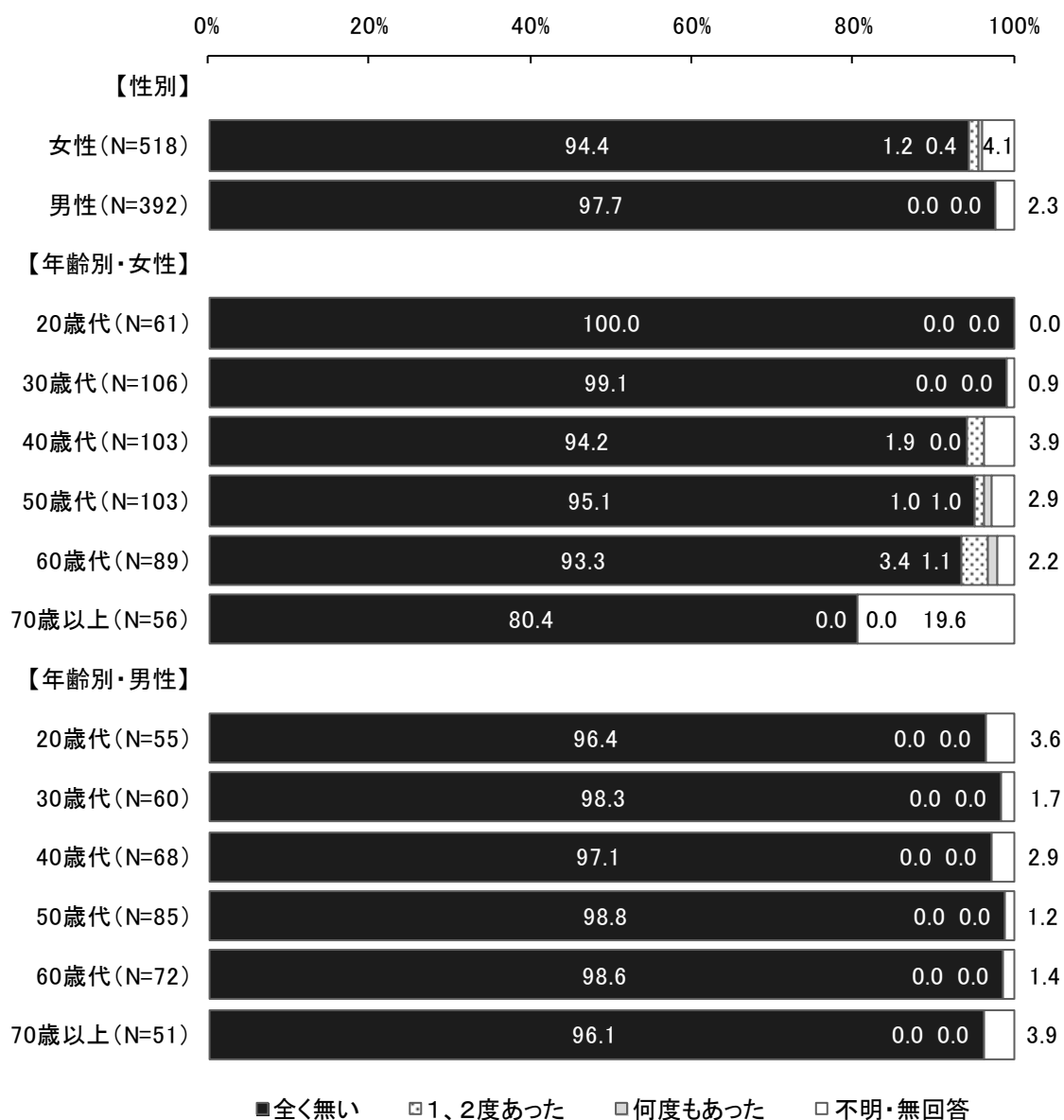
なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」の経験者は合わせて女性で1.6%であり、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」の経験者は合わせて女性で6.9%、男性で1.8%となっています。



項目別集計結果

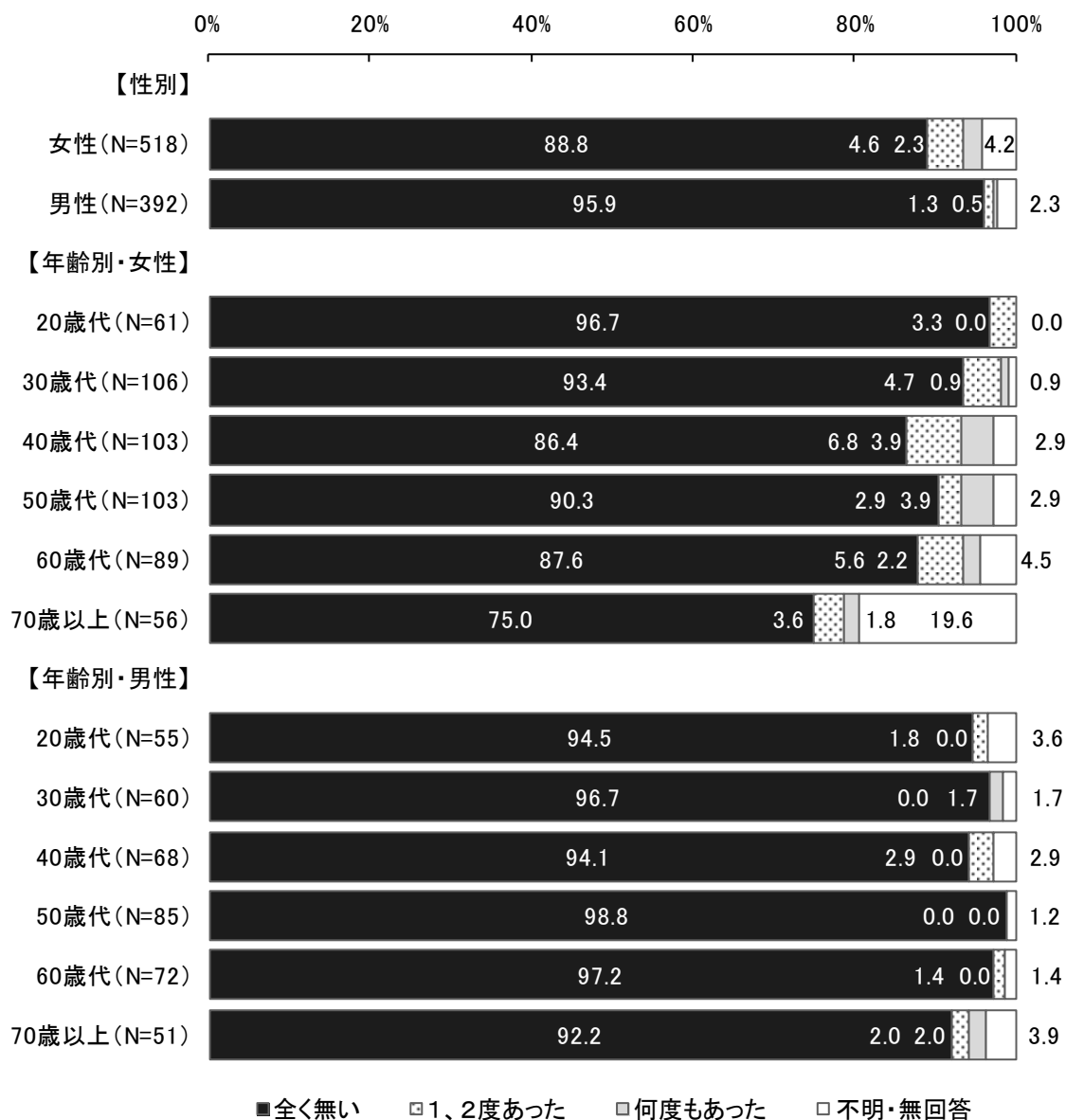
【A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける】

医師の治療が必要となるくらいの暴行については、女性の30～60歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



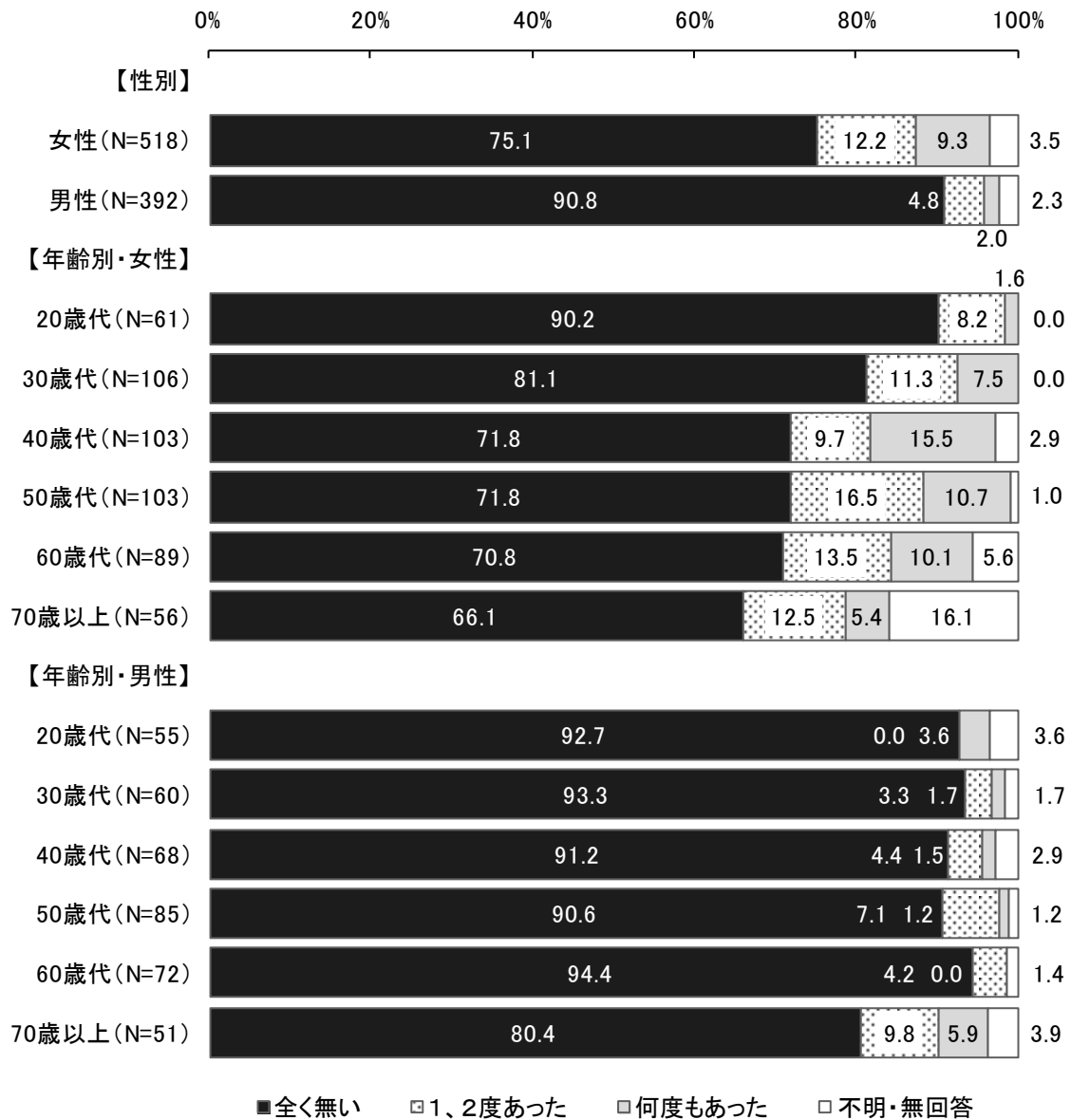
【B 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける】

医師の治療が必要とならない程度の暴力については、女性のすべての年代で「1、2度あった」「何度もあった」が出現しており、40～50歳代で「何度もあった」が高くなっています。男性でも50歳代を除いて散見されます。



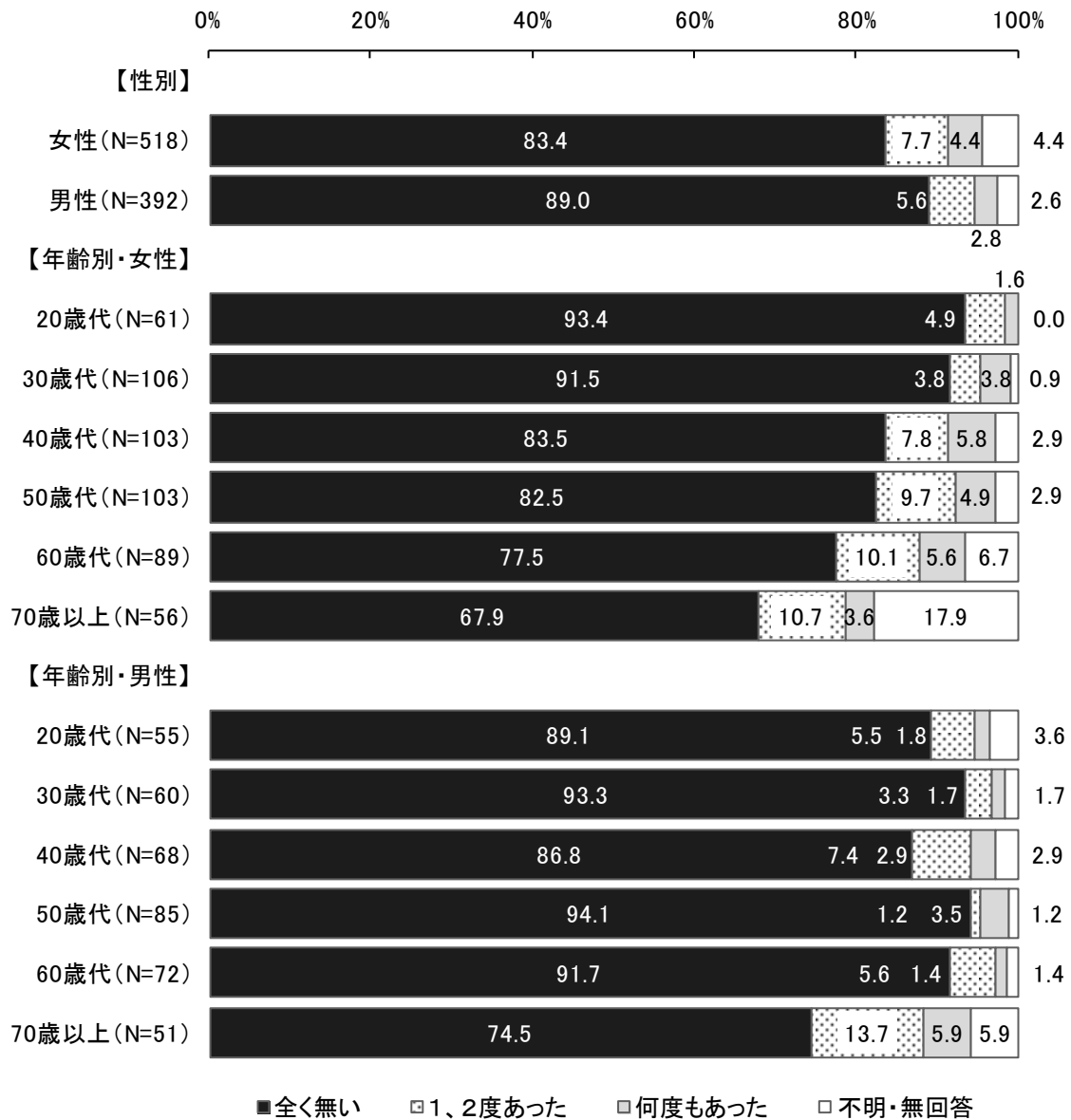
【C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける】

ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力については、女性の40～60歳代で「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。また、男性の70歳以上で「1、2度あった」「何度もあった」が、他の年代と比べて高くなっています。



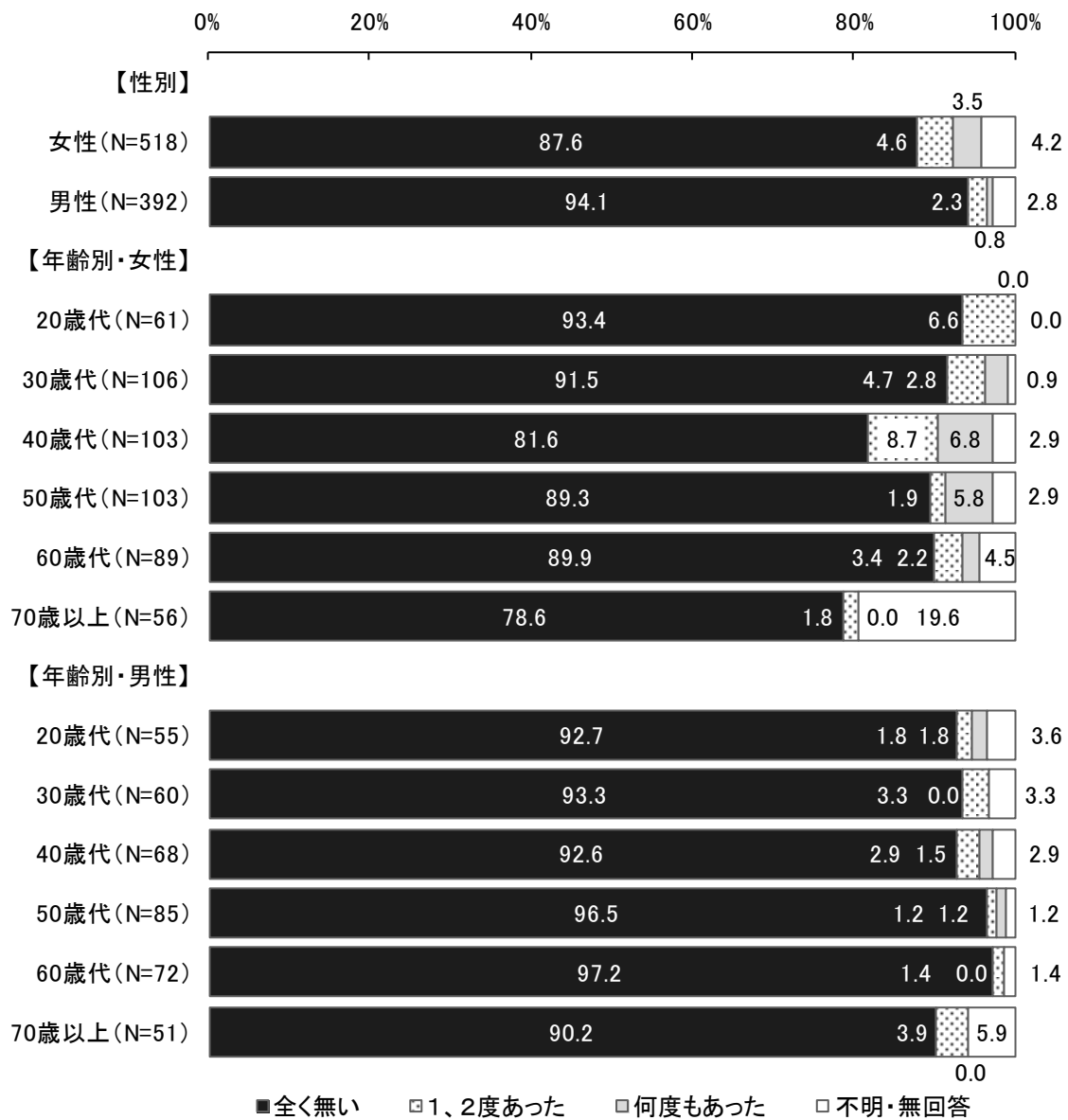
【D 何を言っても長時間無視し続けられる】

何を言っても長時間無視し続けられる暴力については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。また、男性の70歳以上で「1、2度あった」「何度もあった」が、他の年代と比べて高くなっています。



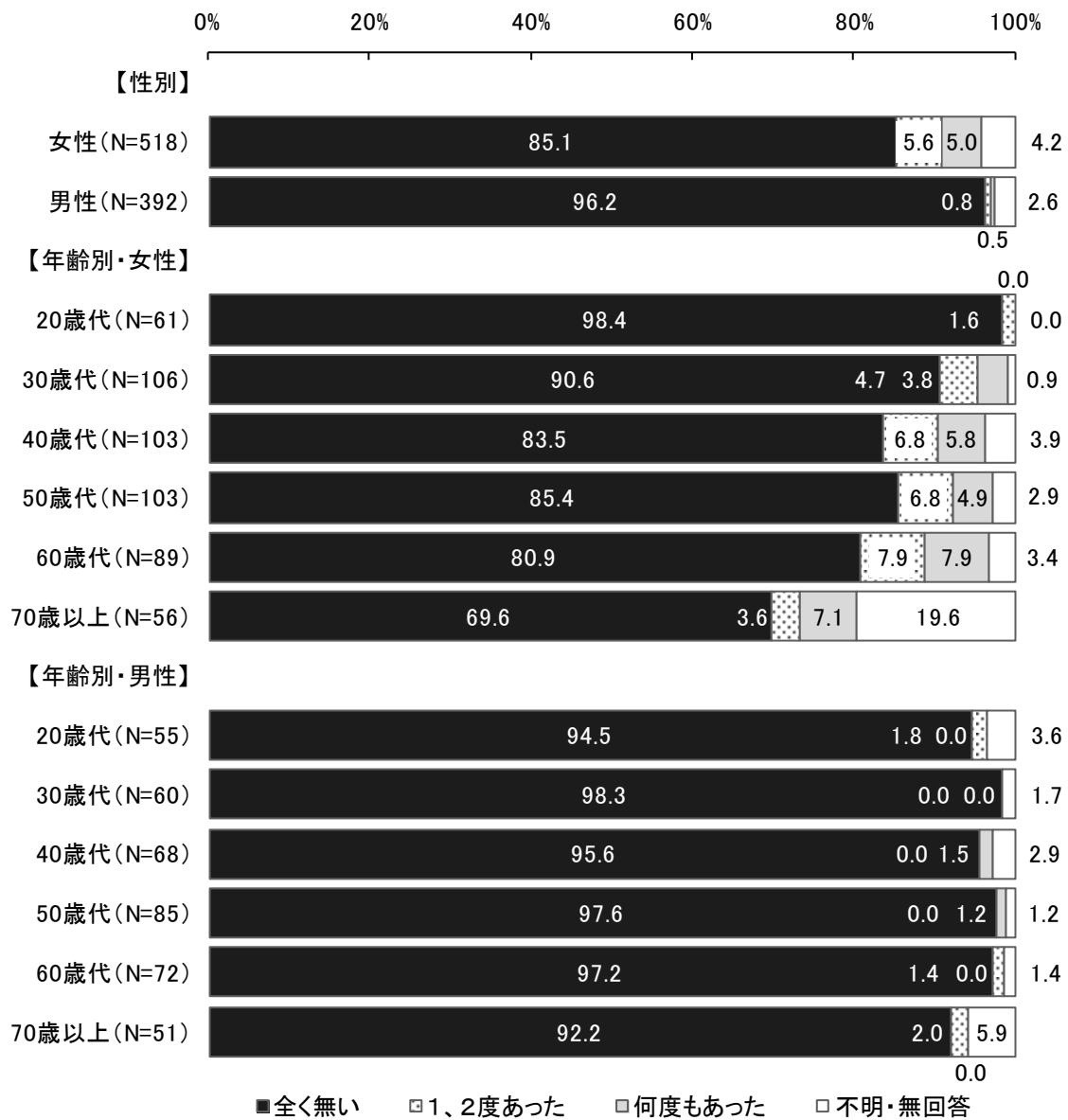
【E 交友関係や電話を細かく監視される】

交友関係や電話を細かく監視される暴力については、女性の40歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



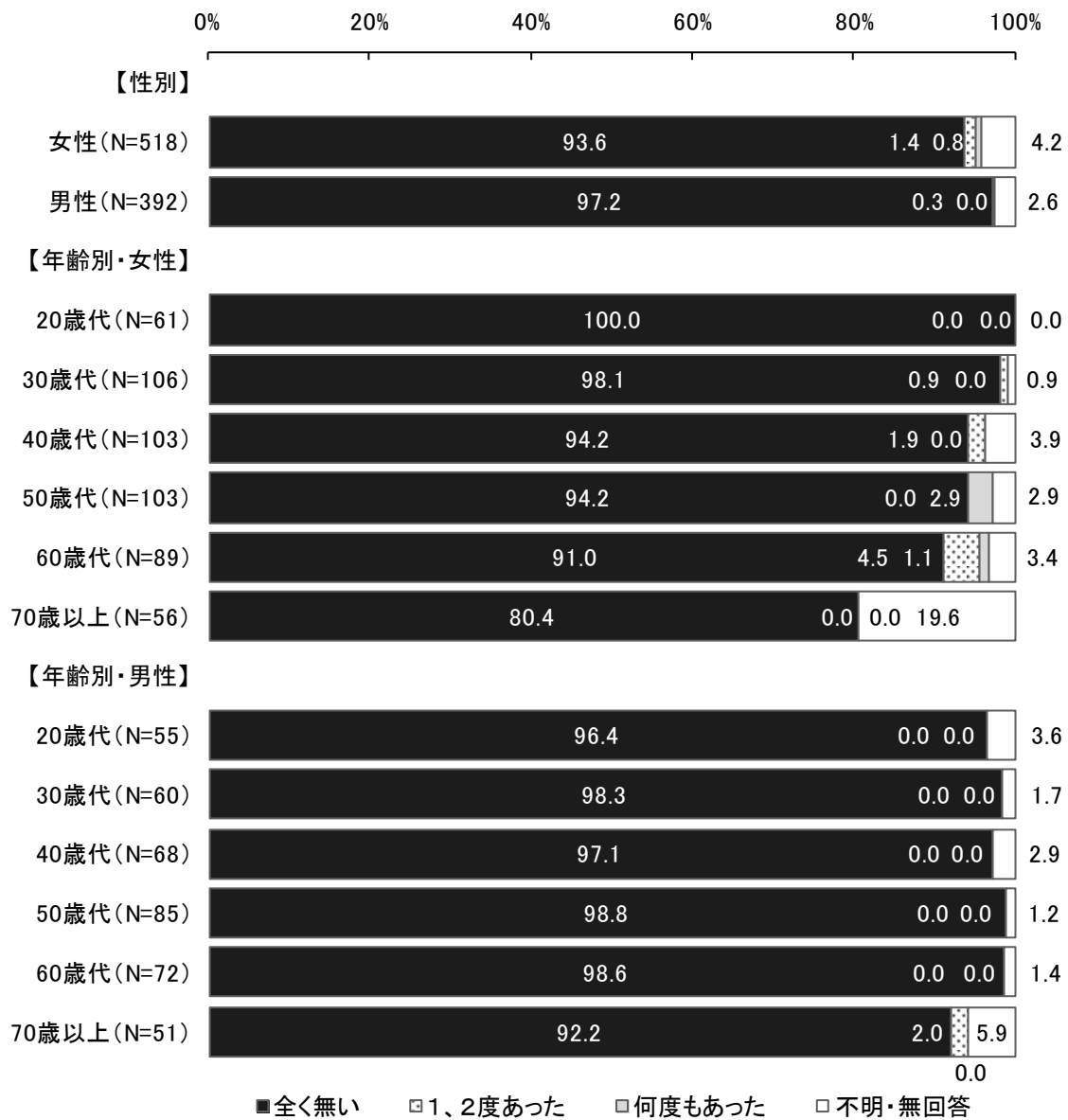
【F 嫌がっているのに性的な行為を強要される】

嫌がっているのに性的な行為を強要される暴行については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。



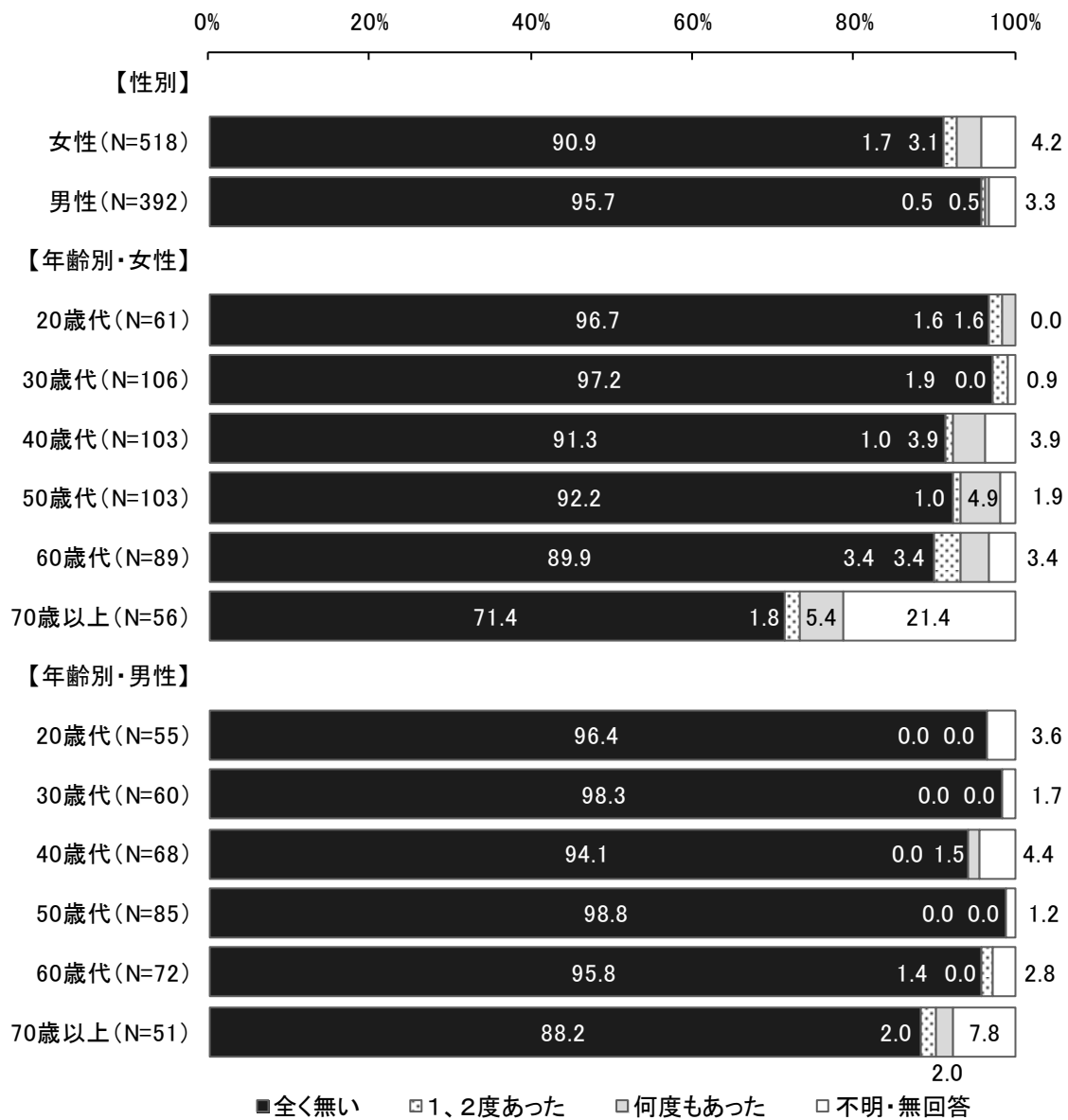
【G 見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる】

見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる暴行については、女性の60歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



【H 生活費を渡されない】

生活費を渡されない暴行については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。

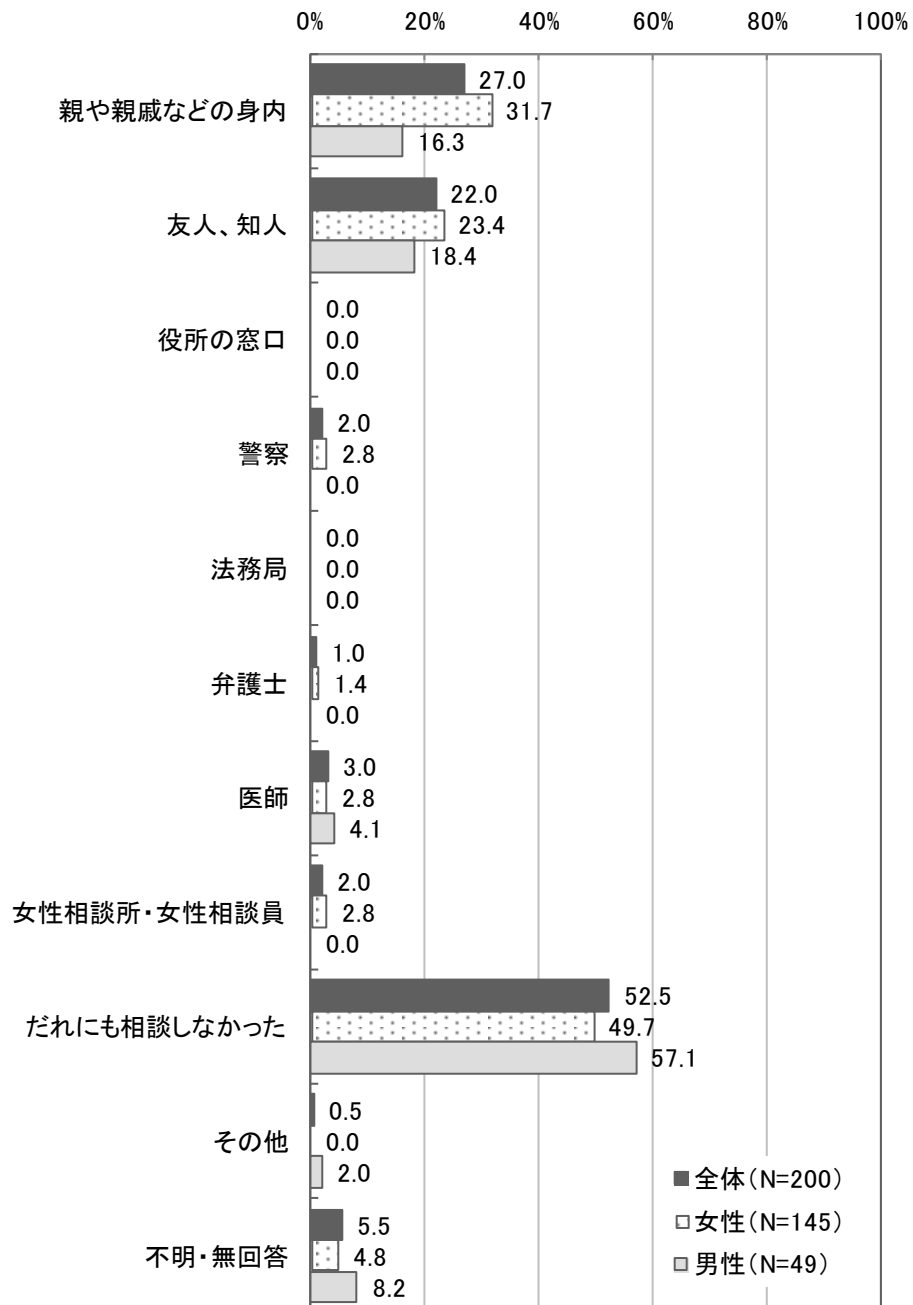


【問27で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ】

問27-1 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。
（複数回答）

だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「だれにも相談しなかった」が52.5%と最も高く、次いで「親や親戚などの身内」が27.0%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が男性で57.1%と、女性と比べて7.4ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

相談先として女性は「親や親戚などの身内」「友人、知人」が高くなっています。

(単位: %)	内親や親戚などの身	友人、知人	役所の窓口	警察	法務局	弁護士	医師	女性相談所・女性相談員	だれにも相談しなかった	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】											
20歳代(N=8)	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0
30歳代(N=21)	19.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.6	0.0	4.8
40歳代(N=32)	37.5	28.1	0.0	3.1	0.0	0.0	3.1	6.3	43.8	0.0	0.0
50歳代(N=34)	32.4	17.6	0.0	8.8	0.0	2.9	2.9	2.9	55.9	0.0	5.9
60歳代(N=32)	34.4	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	3.1	50.0	0.0	6.3
70歳以上(N=18)	27.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	11.1
【年齢別・男性】											
20歳代(N=6)	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代(N=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
40歳代(N=9)	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	11.1
50歳代(N=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	60.0	10.0	20.0
60歳代(N=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
70歳以上(N=14)	28.6	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	7.1

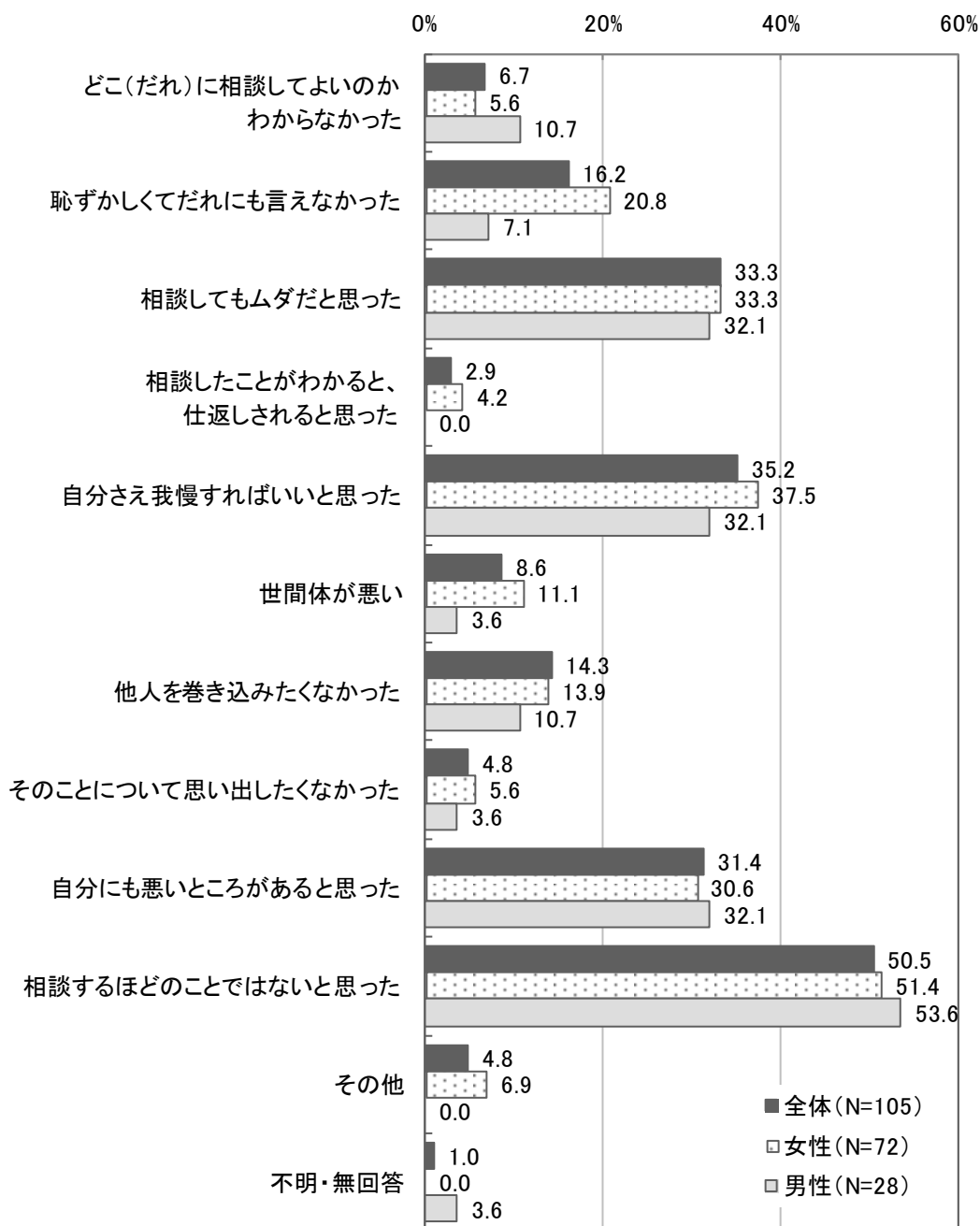
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

【問 27-1 で「だれにも相談しなかった」と答えた方のみ】

問 27-2 だれにも相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

だれにも相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではないと思った」が 50.5%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が 35.2%となっています。

性別では、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が女性で 20.8%と、男性と比べて 13.7 ポイント高くなっています。また、男性は「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった」が 10.7%と、女性と比べて 5.1 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の30歳代以上で「相談してもムダだと思った」「自分さえ我慢すればいいと思った」「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」といった理由が高くなっています。

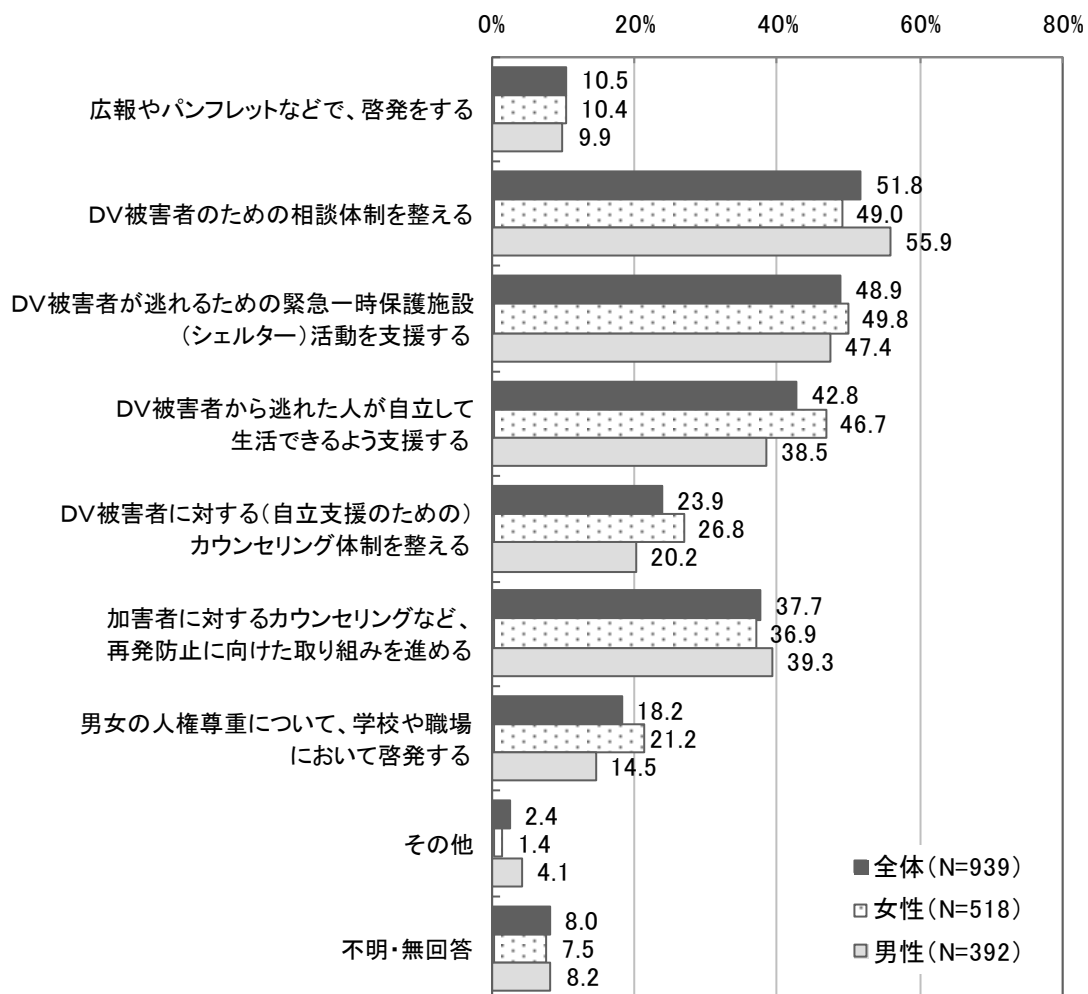
(単位: %)	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった	恥ずかしくてだれにも言えなかった	相談してもムダだと思った	相談したことがわかると、返されれると思った	自分さえ我慢すればいいと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	そのことについて思い出しにくかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】												
20歳代(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
30歳代(N=10)	10.0	20.0	50.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
40歳代(N=14)	7.1	14.3	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	7.1	21.4	50.0	21.4	0.0
50歳代(N=19)	0.0	15.8	42.1	10.5	36.8	5.3	15.8	0.0	26.3	52.6	0.0	0.0
60歳代(N=16)	6.3	31.3	25.0	6.3	56.3	18.8	12.5	12.5	25.0	43.8	6.3	0.0
70歳以上(N=10)	10.0	30.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	10.0	40.0	70.0	10.0	0.0
【年齢別・男性】												
20歳代(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
40歳代(N=7)	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0
50歳代(N=6)	16.7	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
60歳代(N=5)	20.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
70歳以上(N=6)	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 28 配属者や恋人からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）に対して、行政はどのような対応をする必要があると思いますか。（複数回答）

配属者や恋人からの暴力に対して、行政はどのような対応をする必要があると思うかは、全体で「DV被害者のための相談体制を整える」が 51.8%と最も高く、次いで「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」が 48.9%となっています。

性別では、女性で「DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」が 46.7%、「男女の人権尊重について、学校や職場において啓発する」が 21.2%、男性と比べてそれぞれ 8.2 ポイント、6.7 ポイント高くなっています。男性では「DV被害者のための相談体制を整える」が 55.9%と、女性と比べて 6.9 ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

女性の20～30歳代では「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」、40～60歳代では「DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」、70歳以上では「DV被害者のための相談体制を整える」がそれぞれ最も高くなっています。男性では「DV被害者のための相談体制を整える」「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」が上位のほか、60歳代以上では「加害者に対するカウンセリングなど、再発防止に向けた取り組みを進める」が上位となっています。

(単位: %)	広報やパンフレットなどで、啓発をする	DV被害者のための相談体制を整える	DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する	DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する	DV被害者に対する（自立支援のための）カウンセリング体制を整える	加害者に対するカウンセリングなど、再発防止に向けた取り組みを進める	男女の人権尊重について、学校や職場において啓発する	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】									
20歳代(N=61)	4.9	54.1	70.5	31.1	41.0	44.3	4.9	0.0	3.3
30歳代(N=106)	9.4	50.9	63.2	50.0	30.2	34.9	18.9	1.9	2.8
40歳代(N=103)	9.7	49.5	47.6	50.5	25.2	40.8	30.1	1.9	3.9
50歳代(N=103)	8.7	51.5	52.4	54.4	29.1	39.8	20.4	1.0	3.9
60歳代(N=89)	12.4	42.7	33.7	46.1	23.6	34.8	28.1	1.1	10.1
70歳以上(N=56)	19.6	44.6	26.8	37.5	8.9	23.2	17.9	1.8	30.4
【年齢別・男性】									
20歳代(N=55)	1.8	54.5	47.3	43.6	16.4	41.8	16.4	7.3	3.6
30歳代(N=60)	8.3	50.0	56.7	38.3	25.0	33.3	16.7	3.3	5.0
40歳代(N=68)	4.4	70.6	51.5	36.8	25.0	45.6	8.8	7.4	5.9
50歳代(N=85)	12.9	54.1	47.1	44.7	14.1	37.6	11.8	5.9	8.2
60歳代(N=72)	19.4	52.8	52.8	34.7	23.6	38.9	18.1	0.0	6.9
70歳以上(N=51)	9.8	51.0	25.5	31.4	17.6	39.2	17.6	0.0	21.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

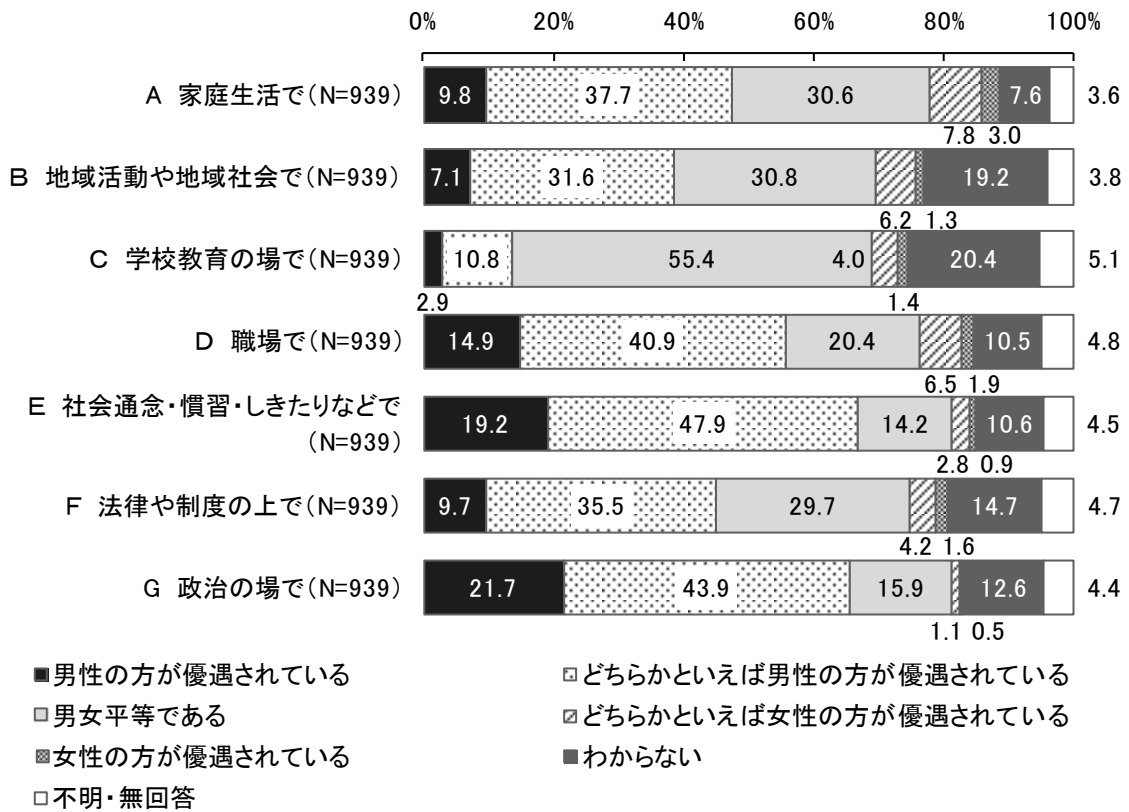
7 男女の平等観について

問 29 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(単数回答)

問 29 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

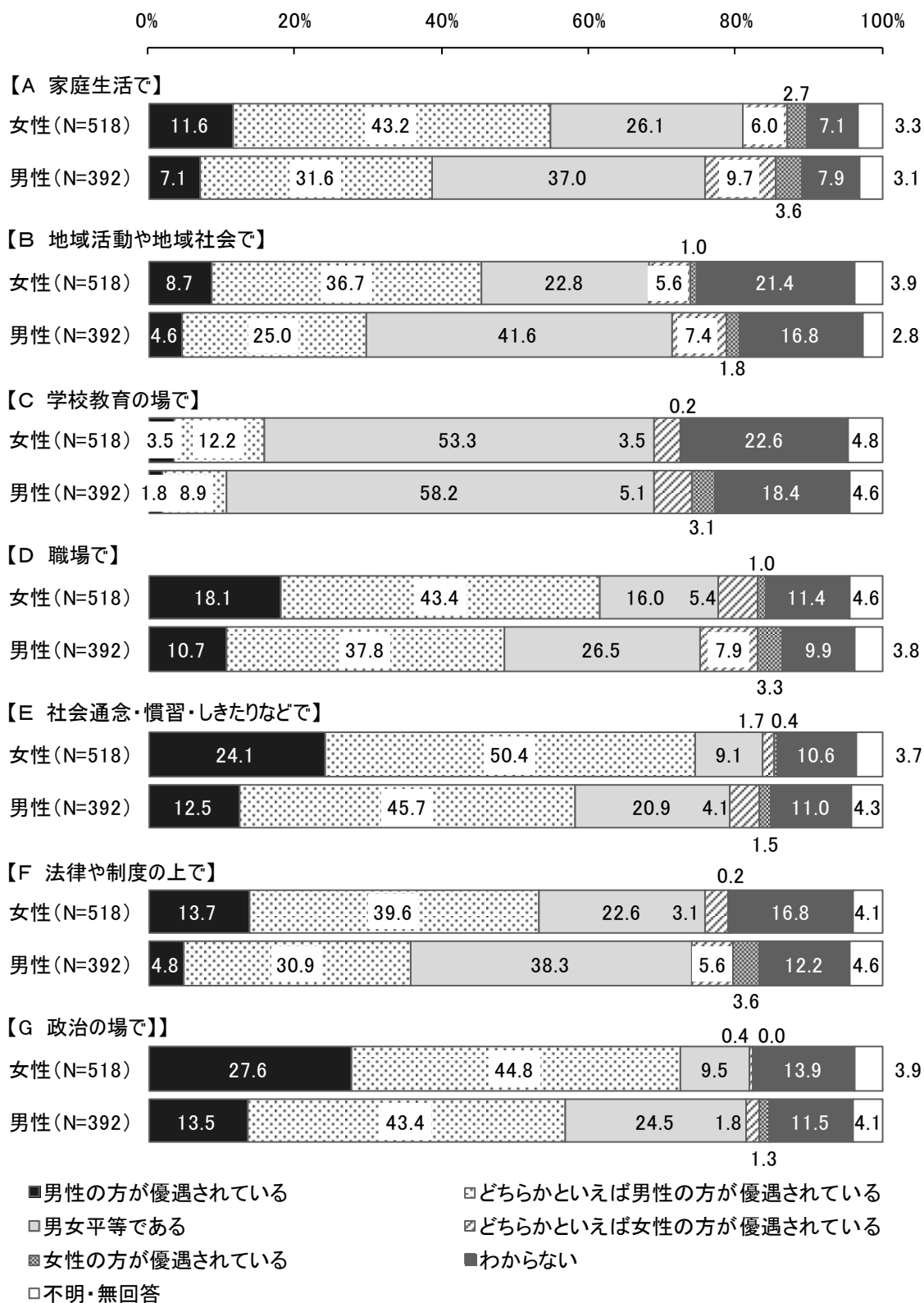
『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算
 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

各分野での男女の平等意識について、最も「男女平等である」が高い分野は「C 学校教育の場で」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「E 社会通念・慣習・しきたりなどで」「G 政治の場で」が6割を超えています。



性別比較

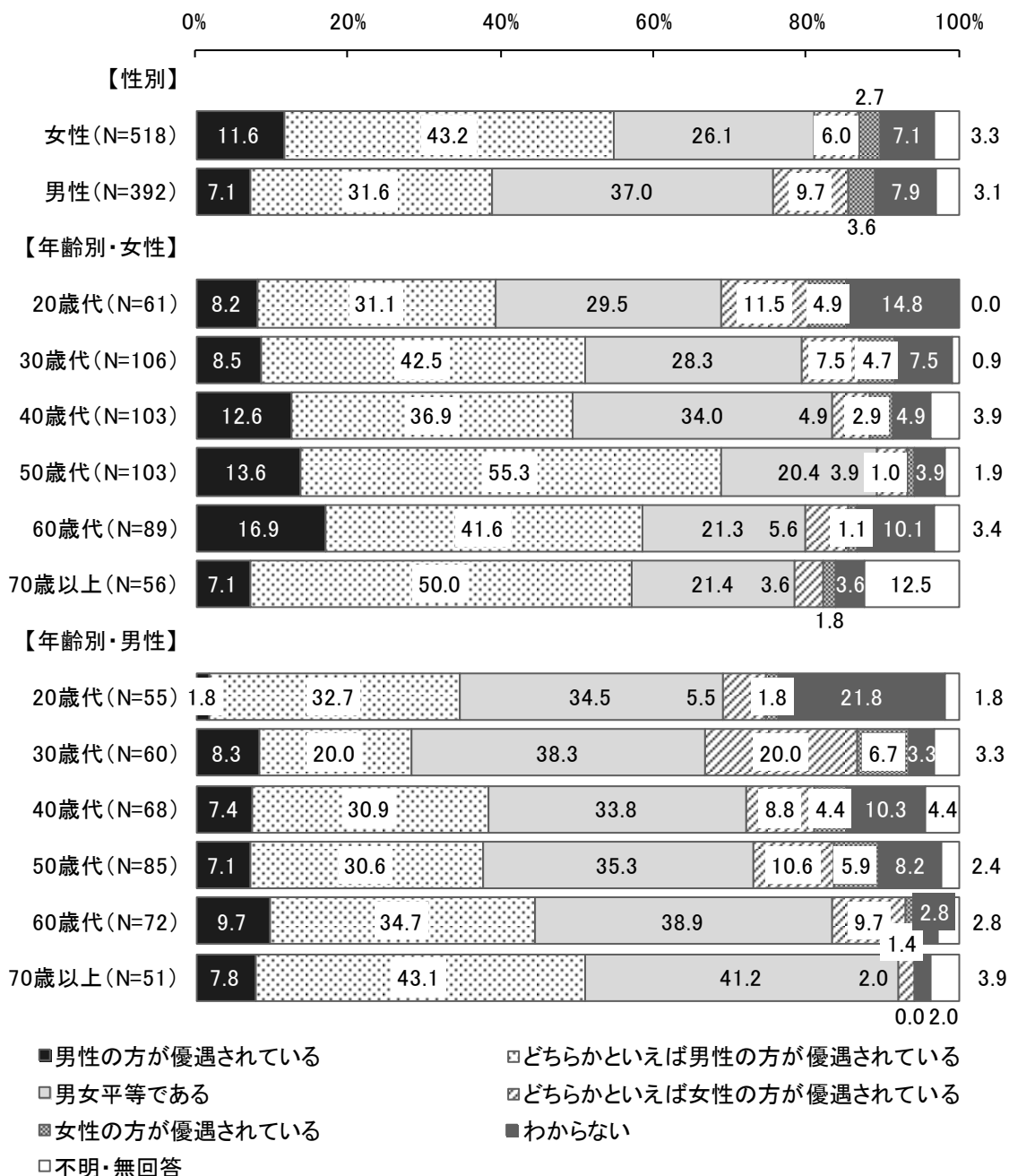
いずれの分野においても女性は男性に比べて『男性優遇』が高く、「C 学校教育の場で」を除いた分野で男性と比べて10ポイント以上の差となっています。一方、いずれの分野においても男性では女性に比べて「男女平等である」が高く、女性と比べて10ポイント以上の差となっています。



項目別集計結果

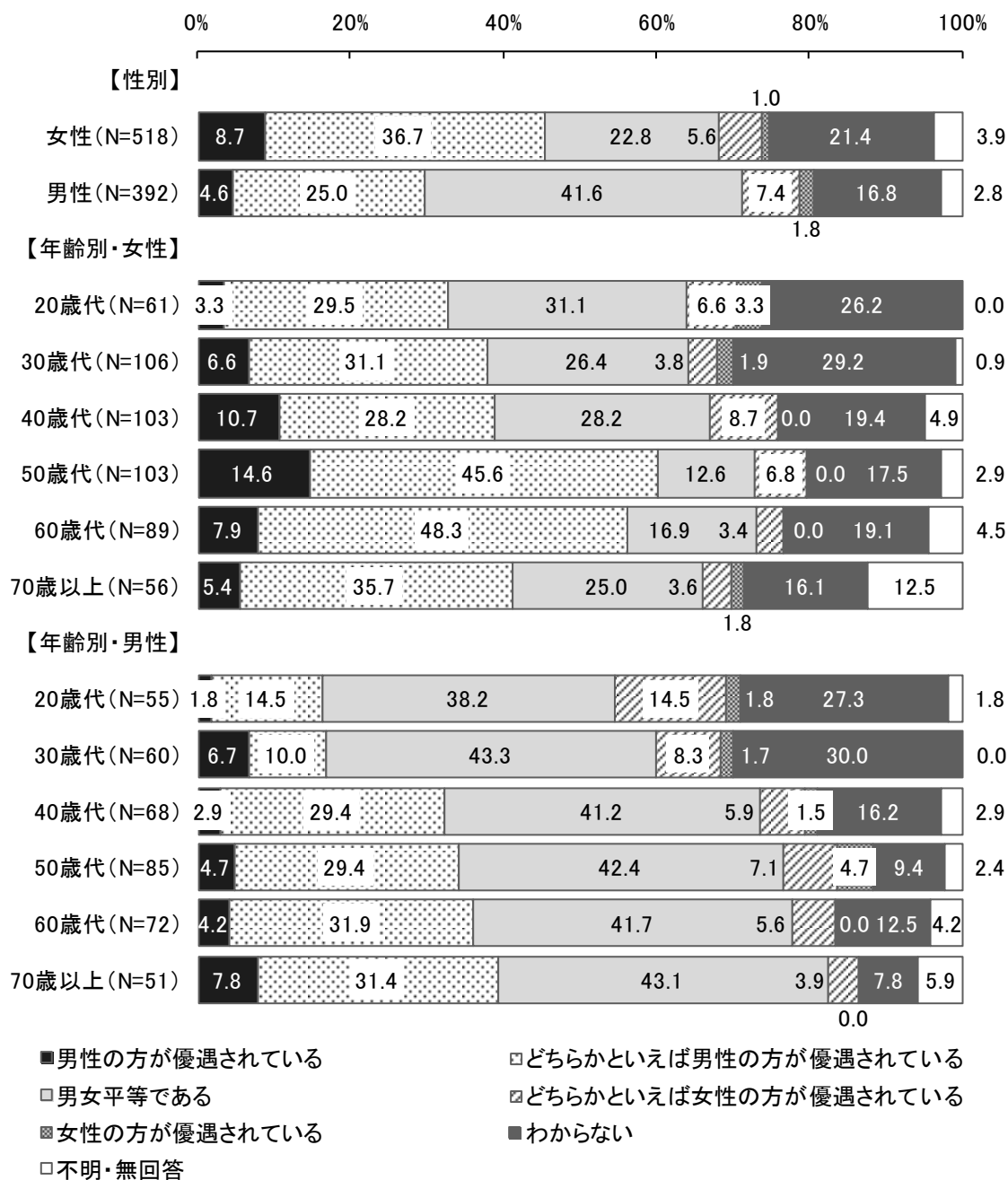
【A 家庭生活で】

家庭生活における男女の平等意識については、女性の30歳代以上で『男性優遇』が約5割を超えて高くなっています。男性では20歳代、30歳代、50歳代で「男女平等である」が3割を超え、高くなっています。



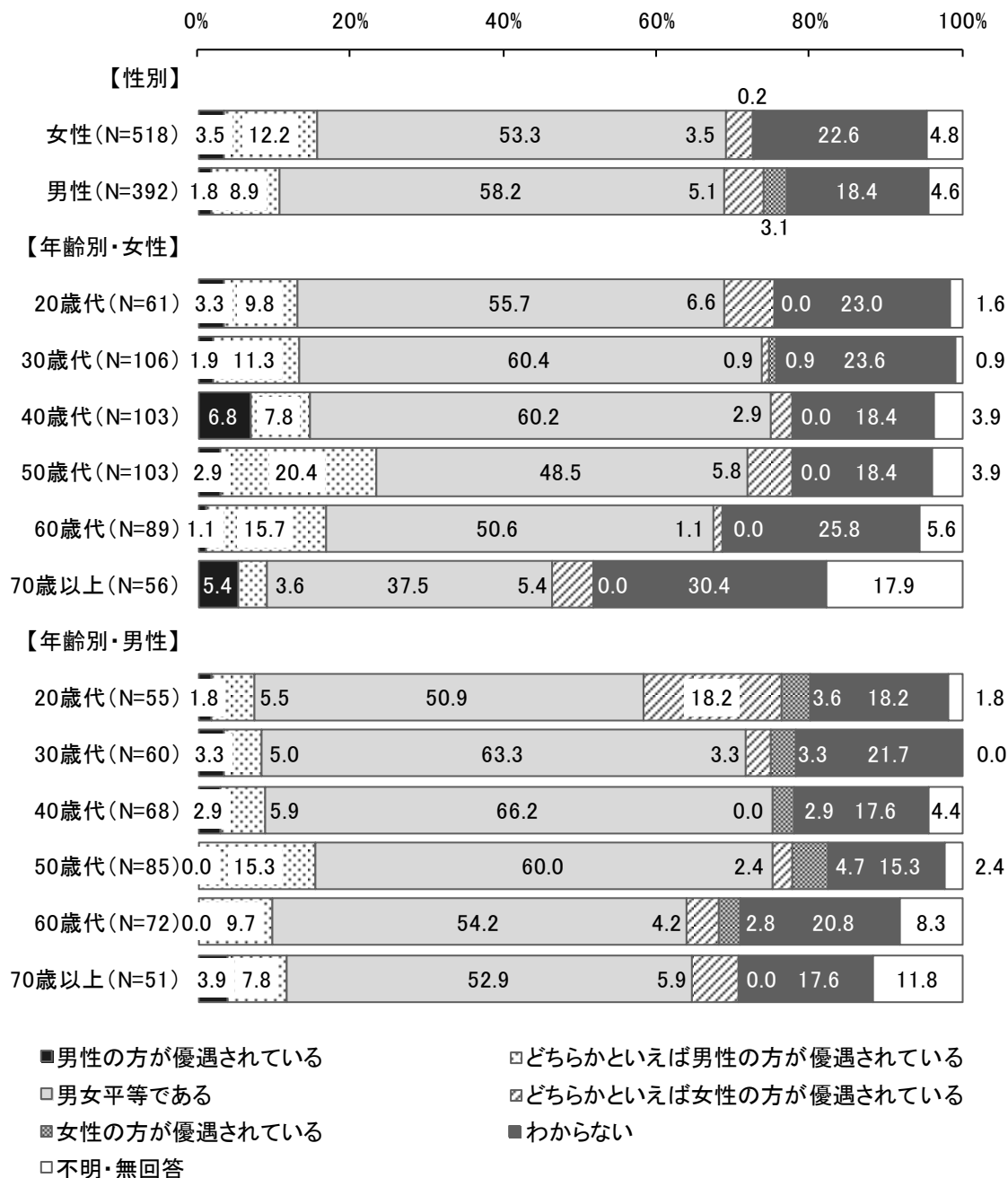
【B 地域活動や地域社会で】

地域活動や地域社会における男女の平等意識については、女性の50～60歳代で『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性ではすべての年代で「男女平等である」が4割前後と高くなっています。



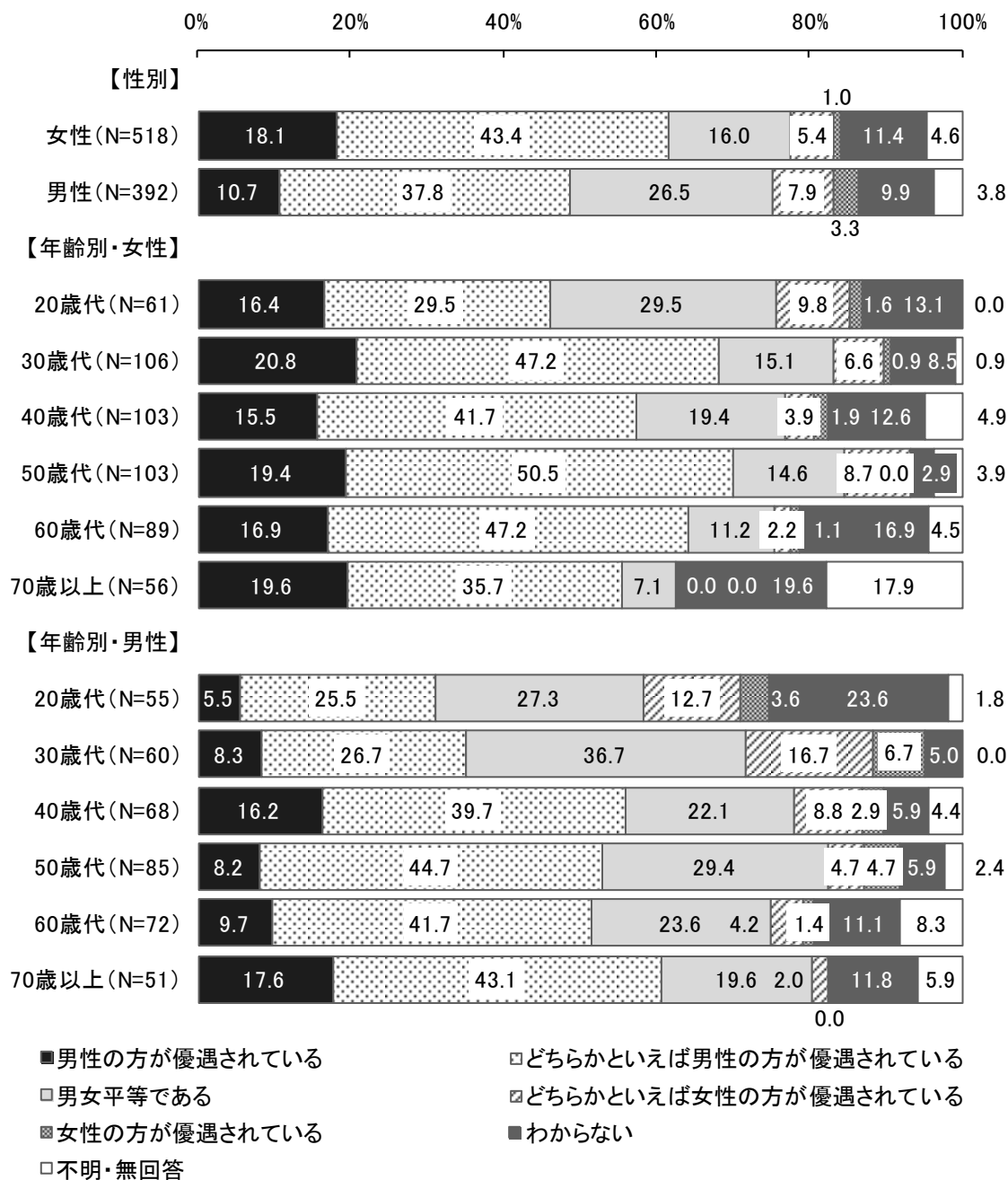
【C 学校教育の場で】

学校教育の場における男女の平等意識については、女性、男性のいずれの年代でも「男女平等である」が高くなっています。なお、女性の50歳代で『男性優遇』が、男性の20歳代で『女性優遇』がそれぞれ他の年代と比べて高くなっています。



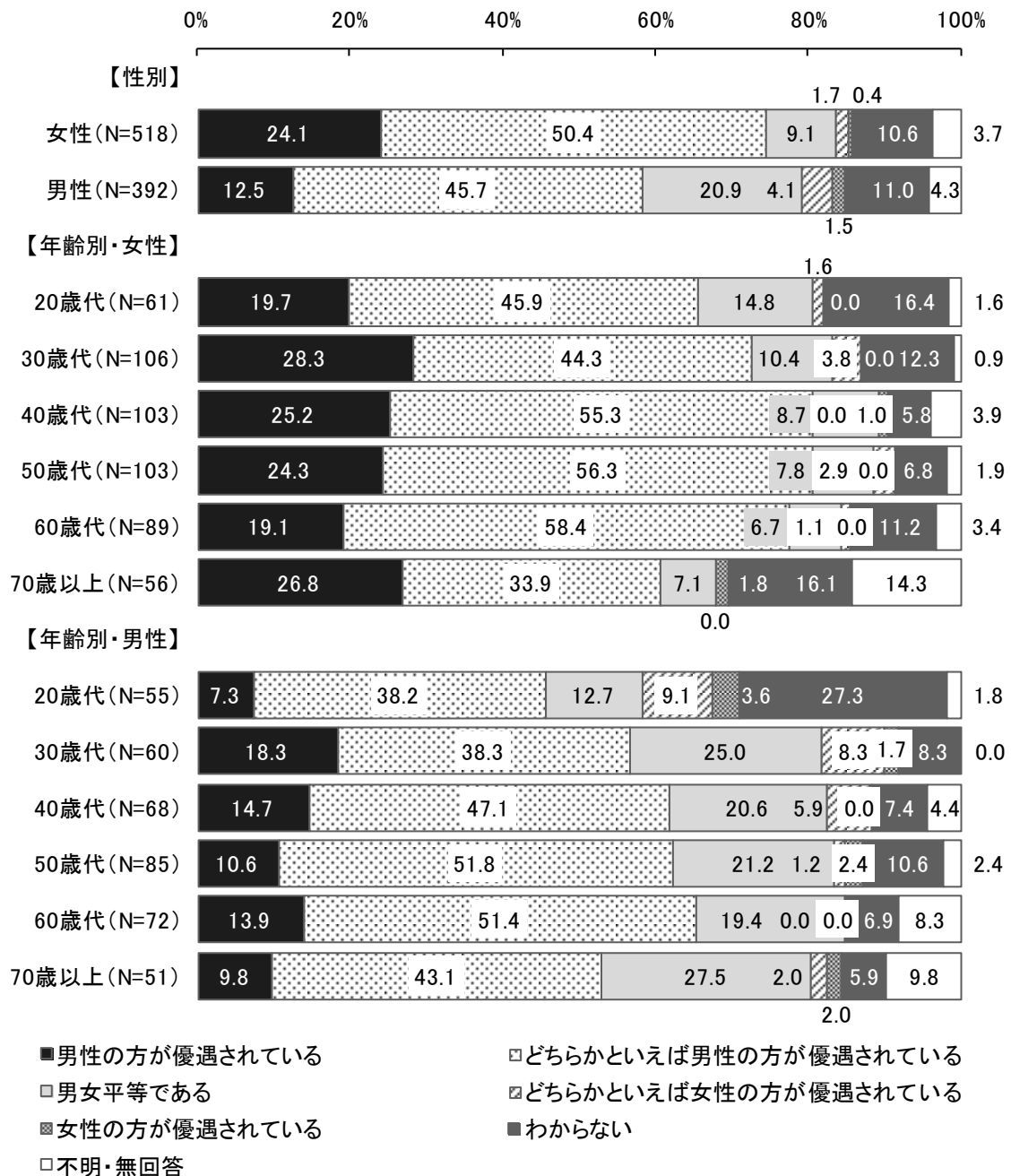
【D 職場で】

職場における男女の平等意識については、女性の30歳代以上では『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性では40歳代以上で『男性優遇』が5～6割強と高くなっています。なお、女性の20歳代及び男性の30歳代では「男女平等である」が、他の年代と比べて高くなっています。



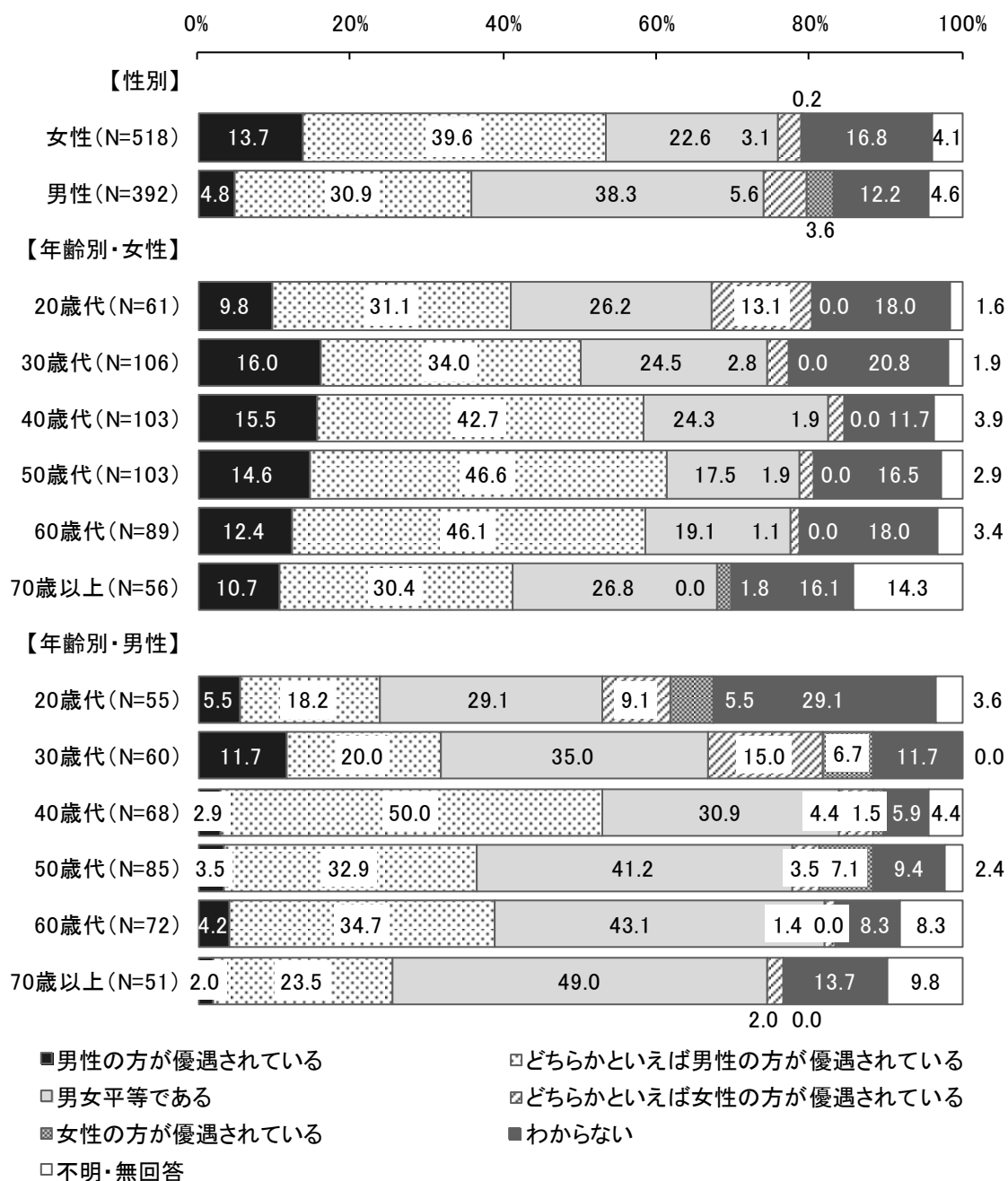
【E 社会通念・慣習・しきたりなどで】

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の平等意識については、女性の30～60歳代は『男性優遇』が7割を超えて高くなっています。男性の40～60歳代は、『男性優遇』が6割を超えて高くなっています。なお、男性の30歳代以上で「男女平等である」が2割前後となっており、70歳以上では27.5%と、20歳代と比べて14.8ポイント高くなっています。



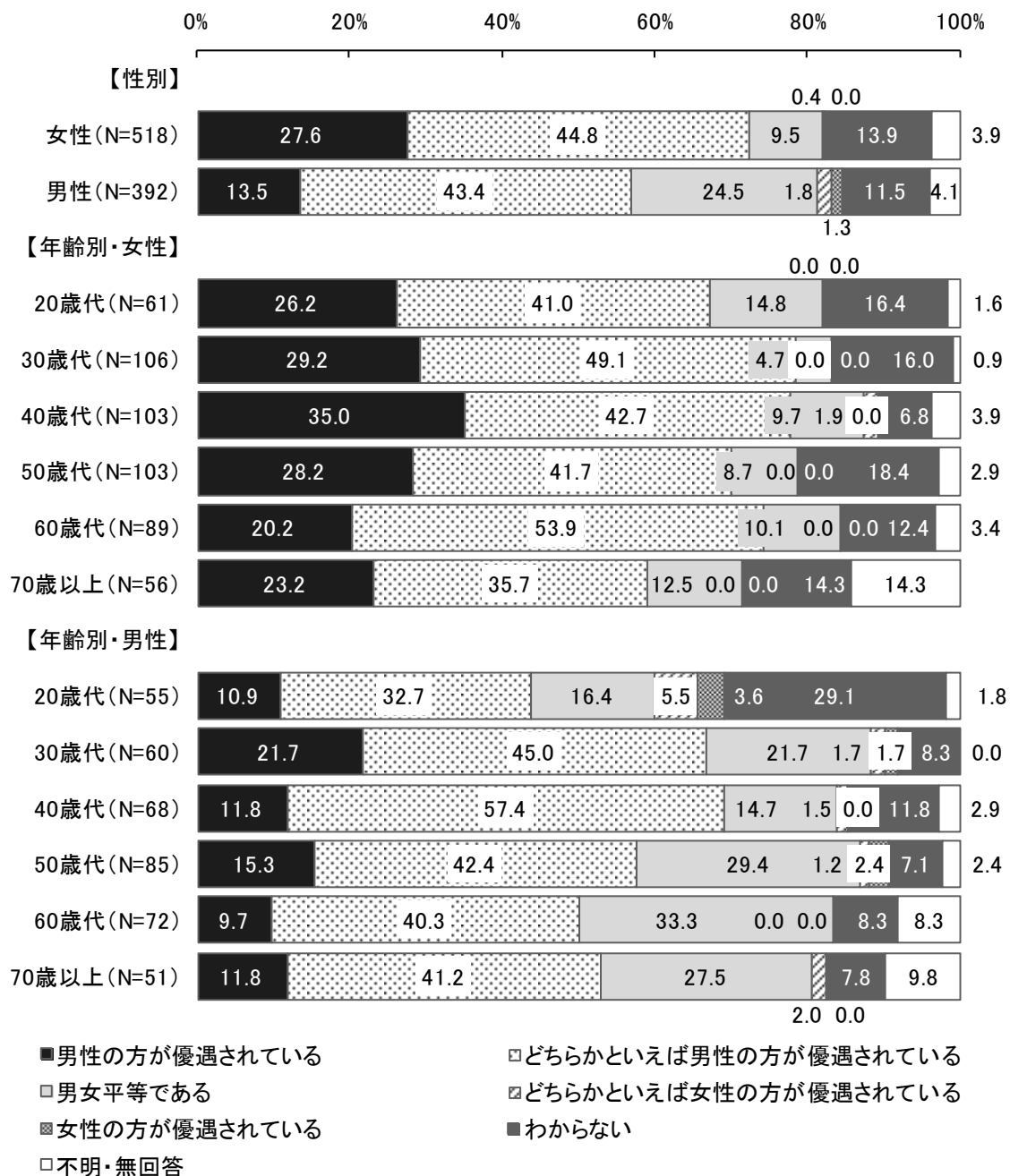
【F 法律や制度の上で】

法律や制度の上における男女の平等意識については、女性の40～60歳代は『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性の40歳代は、『男性優遇』が52.9%と他の年代と比べて高くなっています。なお、男性の30歳代以上で「男女平等である」が4割前後となっており、70歳以上では49.0%と、20歳代と比べて19.9ポイント高くなっています。



【G 政治の場で】

政治の場における男女の平等意識については、女性の20～60歳代は『男性優遇』が7割前後～8割弱と高くなっています。男性の30～50歳代は、『男性優遇』が6割前後～7割弱と高くなっています。なお、男性の50歳代以上で「男女平等である」が3割前後となっており、60歳代では33.3%と、40歳代と比べて18.6ポイント高くなっています。



8 市の施策への女性意見の反映について

問30 あなたは、社会問題や市政について関心がありますか。(単数回答)

問30の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

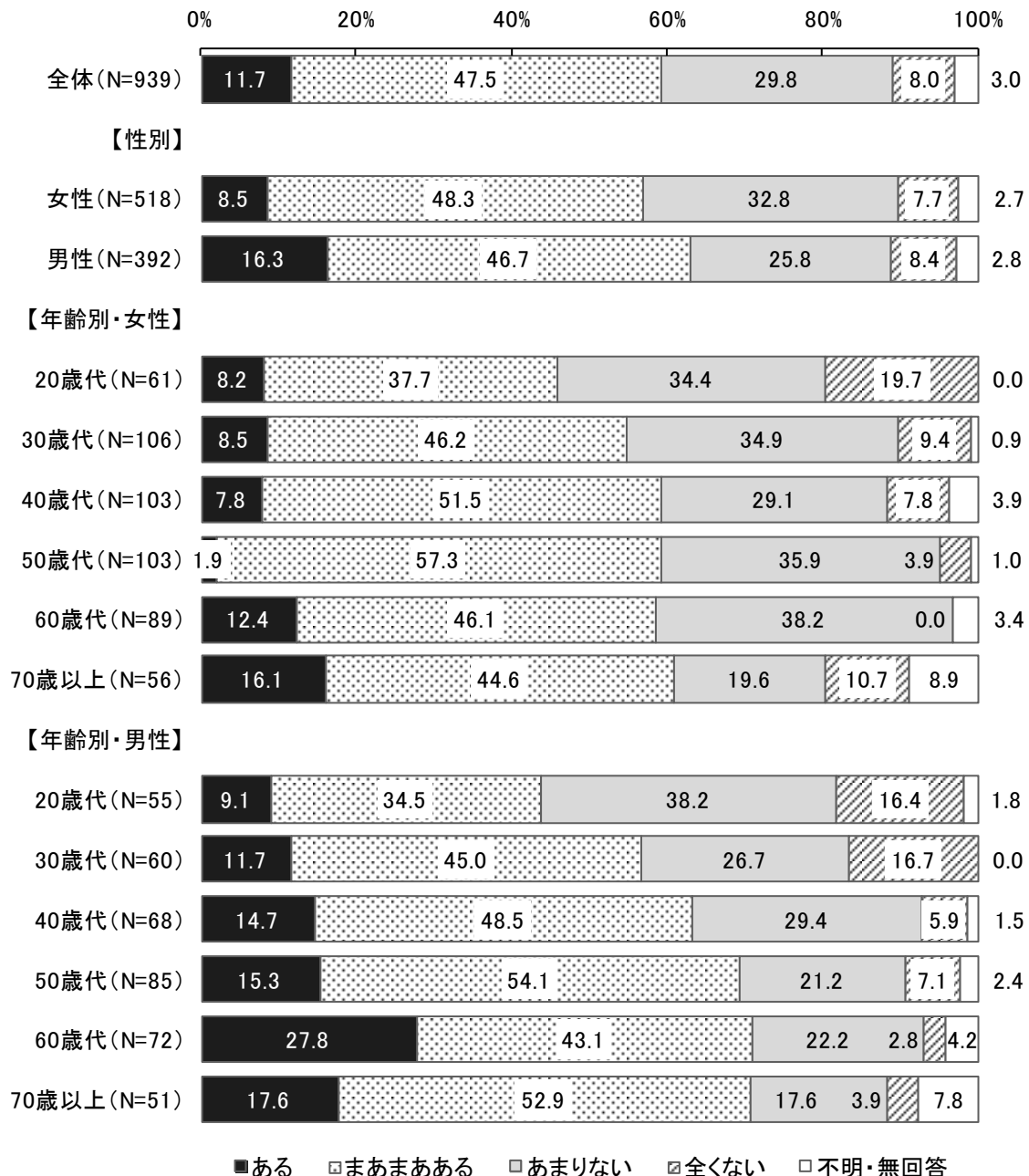
『ある』…「ある」と「まあまあある」を合算

『ない』…「全くない」と「あまりない」を合算

社会問題や市政について関心の程度は、全体で『ある』が59.2%、『ない』が37.8%となっています。

性別では、『ある』が男性で63.0%と、女性と比べて6.2ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性、男性の30歳代以上では『ある』が5割を超えているものの、20歳代では4割強にとどまっています。なお、女性の50歳代で「ある」が他の年代と比べても低くなっています。



問 31 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。(単数回答)

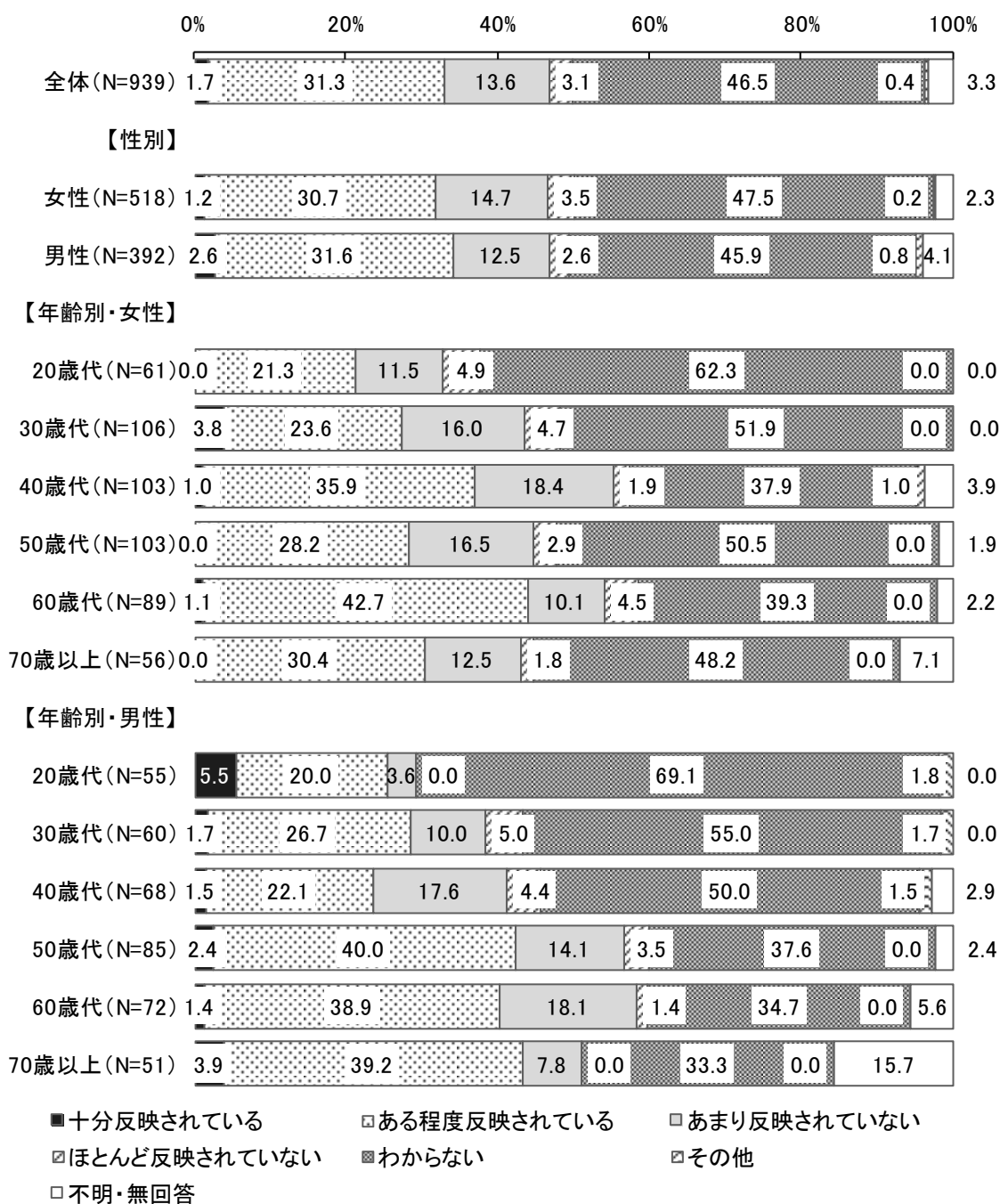
問 31 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『反映されている』…「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合算
- 『反映されていない』…「ほとんど反映されていない」と「あまり反映されていない」を合算

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思うかは、全体で『反映されている』が 33.0%、『反映されていない』が 16.7%となっています。

性別では、『反映されている』が男性で 34.2%と、女性と比べて 2.3 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性の 60 歳代及び男性の 50 歳代以上では『反映されている』が 4 割を超えて高くなっています。なお、男性の 20 歳代で「十分反映されている」が他の年代と比べても高くなっています。

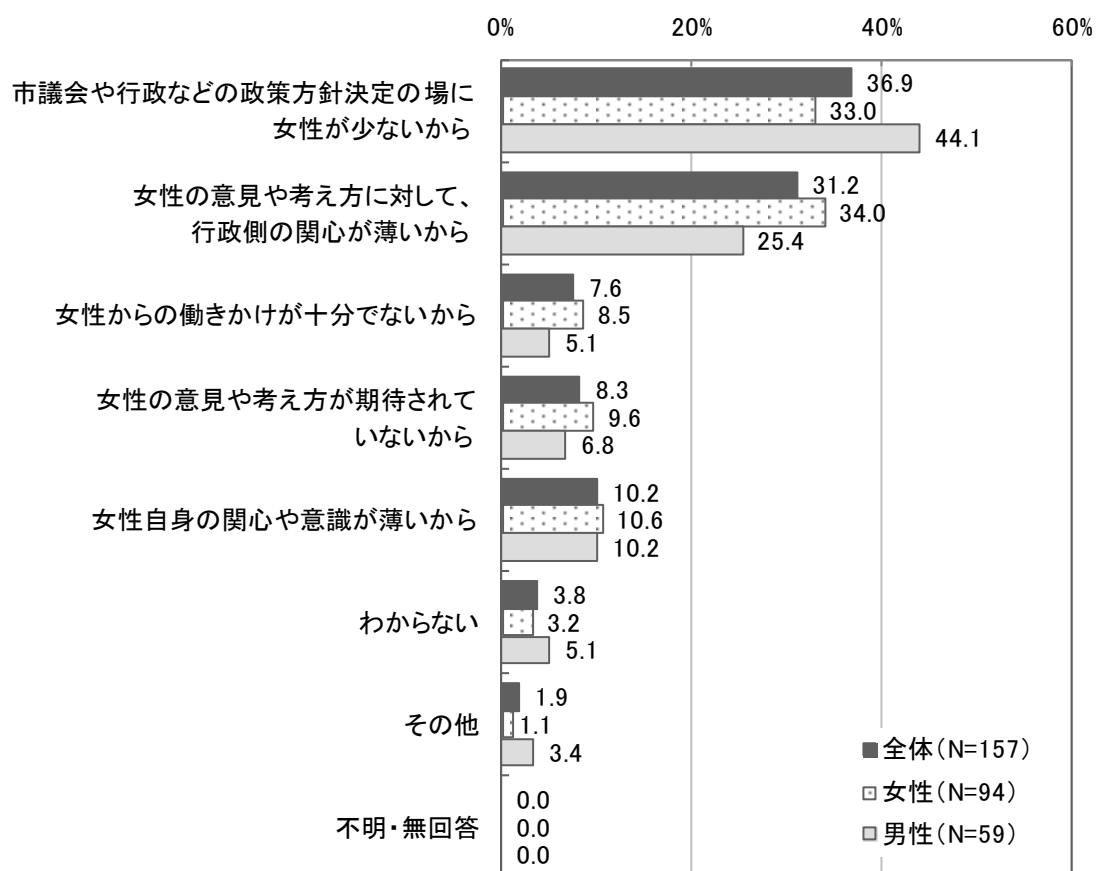


【問31で「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と答えた方のみ】

問31-1 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思われる理由は何ですか。(単数回答)

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は、全体で「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が36.9%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が31.2%となっています。

性別では、女性で「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が34.0%と、男性と比べて8.6ポイント、男性は「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が44.1%と、女性と比べて11.1ポイント、それぞれ高くなっています。



性別・年齢別比較

「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」のほか、女性の20歳代で「女性の意見や考え方が期待されていないから」、女性の60歳代及び男性の40歳代で「女性自身の関心や意識が薄いから」が上位となっています。

(単位: %)	市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから	女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから	女性からの働きかけが十分でないから	女性の意見や考え方が期待されていないから	女性自身の関心や意識が薄いから	わからない	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】								
20歳代(N=10)	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=22)	27.3	36.4	9.1	13.6	0.0	9.1	4.5	0.0
40歳代(N=21)	33.3	47.6	0.0	4.8	14.3	0.0	0.0	0.0
50歳代(N=20)	25.0	35.0	15.0	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0
60歳代(N=13)	30.8	15.4	7.7	7.7	30.8	7.7	0.0	0.0
70歳以上(N=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【年齢別・男性】								
20歳代(N=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=9)	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代(N=15)	46.7	20.0	6.7	0.0	20.0	0.0	6.7	0.0
50歳代(N=15)	46.7	20.0	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	0.0
60歳代(N=14)	50.0	21.4	14.3	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
70歳以上(N=4)	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

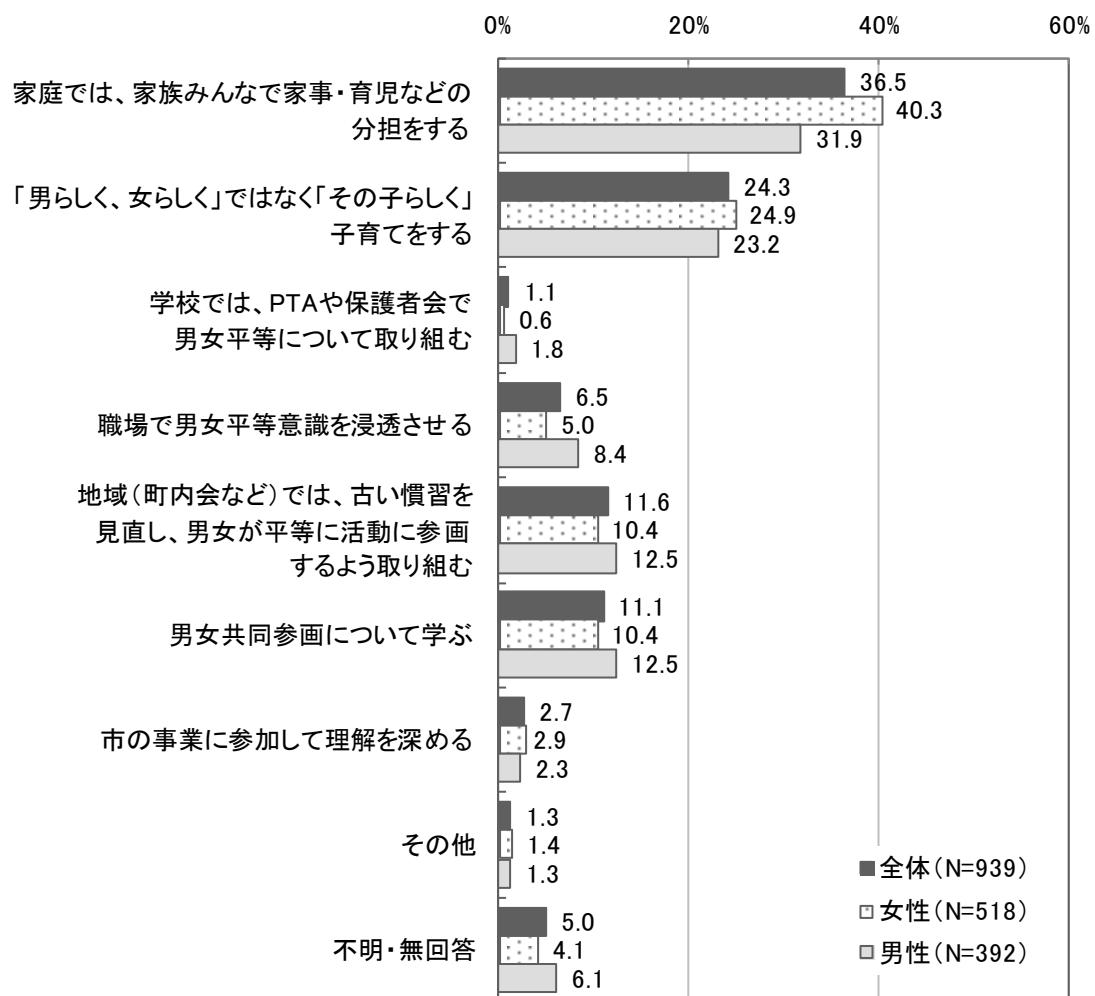
※回答者(N)が10件未満の年代については、順位の表記はしていません。

9 男女共同参画に関する考え方について

問 32 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。あなたなら、どんなことができると
 思いますか。(単数回答)

男女共同参画のできることは、全体で「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が36.5%と最も高く、次いで「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が24.3%となっています。

性別では、家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が女性で40.3%と、男性と比べて8.9ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が女性で、年代が若いほど高くなる傾向があります。

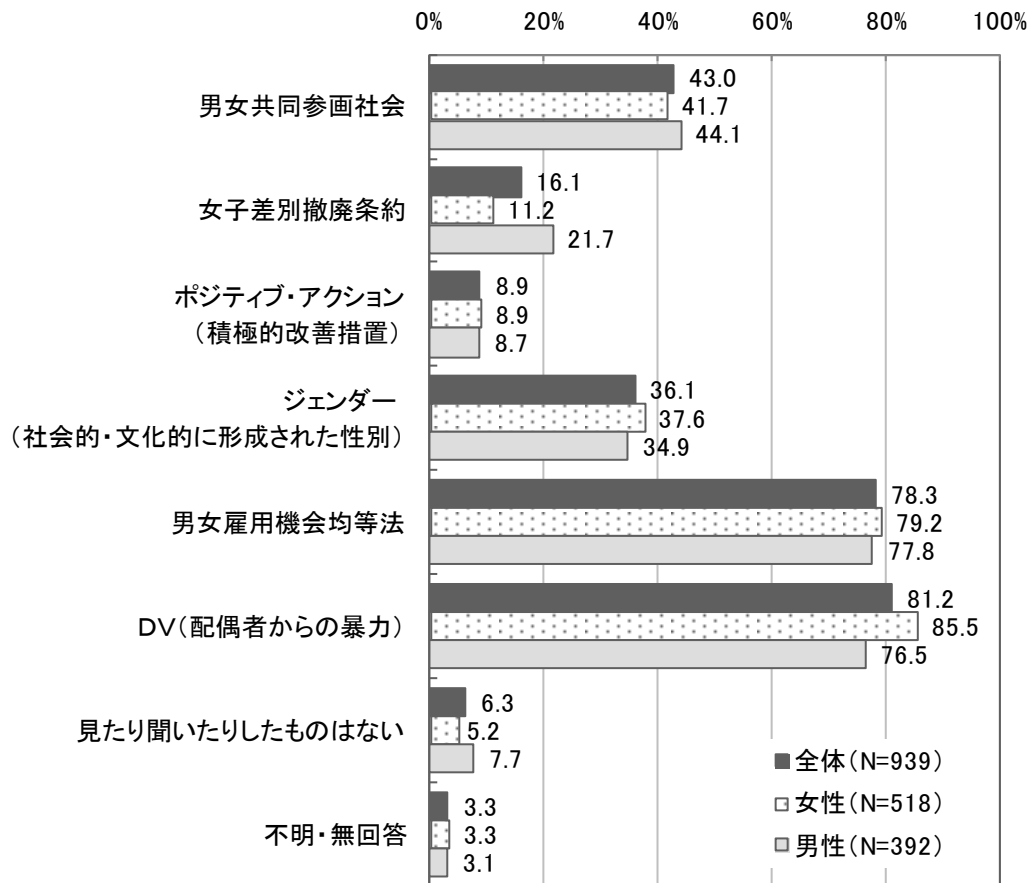
(単位: %)	家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする	「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする	学校では、PTAや保護者会で男女平等について取り組む	職場で男女平等意識を浸透させる	地域(町内会など)では、古い慣習を見直し、男女が平等に活動に参加するよう取り組む	男女共同参画について学ぶ	市の事業に参加して理解を深める	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】									
20歳代(N=61)	50.8	29.5	0.0	3.3	4.9	8.2	1.6	0.0	1.6
30歳代(N=106)	44.3	27.4	0.9	5.7	11.3	7.5	1.9	0.0	0.9
40歳代(N=103)	44.7	28.2	1.0	5.8	2.9	7.8	2.9	3.9	2.9
50歳代(N=103)	36.9	22.3	1.0	6.8	10.7	13.6	3.9	1.0	3.9
60歳代(N=89)	33.7	23.6	0.0	1.1	12.4	15.7	2.2	2.2	9.0
70歳以上(N=56)	30.4	16.1	0.0	7.1	25.0	8.9	5.4	0.0	7.1
【年齢別・男性】									
20歳代(N=55)	29.1	32.7	1.8	12.7	14.5	3.6	1.8	0.0	3.6
30歳代(N=60)	43.3	23.3	0.0	6.7	5.0	10.0	1.7	1.7	8.3
40歳代(N=68)	35.3	22.1	0.0	10.3	8.8	17.6	1.5	1.5	2.9
50歳代(N=85)	32.9	21.2	4.7	15.3	4.7	15.3	1.2	3.5	1.2
60歳代(N=72)	26.4	16.7	2.8	2.8	23.6	15.3	2.8	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	23.5	25.5	0.0	0.0	21.6	9.8	5.9	0.0	13.7

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 33 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。(複数回答)

見聞きしたことがある言葉については、全体で「DV（配偶者からの暴力）」が81.2%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が78.3%となっています。

性別では、「女子差別撤廃条約」が男性で21.7%と、女性と比べて10.5ポイント高くなっています。



性別・年齢別比較

「女子差別撤廃条約」が女性の40歳代以上で認知度が低くなっています。

(単位:%)	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	法	男女雇用機会均等	DV(配偶者からの暴力)	見たり聞いたりしたものは無い	不明・無回答
【年齢別・女性】									
20歳代(N=61)	63.9	21.3	13.1	67.2	80.3	95.1	1.6	0.0	
30歳代(N=106)	36.8	22.6	5.7	50.0	86.8	92.5	3.8	0.9	
40歳代(N=103)	38.8	6.8	6.8	46.6	81.6	91.3	2.9	1.9	
50歳代(N=103)	43.7	5.8	7.8	33.0	81.6	84.5	6.8	1.9	
60歳代(N=89)	38.2	4.5	12.4	10.1	68.5	77.5	11.2	5.6	
70歳以上(N=56)	33.9	7.1	10.7	17.9	71.4	66.1	3.6	12.5	
【年齢別・男性】									
20歳代(N=55)	58.2	27.3	9.1	67.3	78.2	87.3	3.6	1.8	
30歳代(N=60)	31.7	25.0	11.7	40.0	70.0	78.3	10.0	3.3	
40歳代(N=68)	39.7	23.5	11.8	32.4	76.5	80.9	8.8	2.9	
50歳代(N=85)	47.1	17.6	11.8	35.3	82.4	80.0	3.5	2.4	
60歳代(N=72)	51.4	22.2	5.6	23.6	87.5	77.8	2.8	4.2	
70歳以上(N=51)	35.3	15.7	0.0	13.7	68.6	51.0	19.6	3.9	

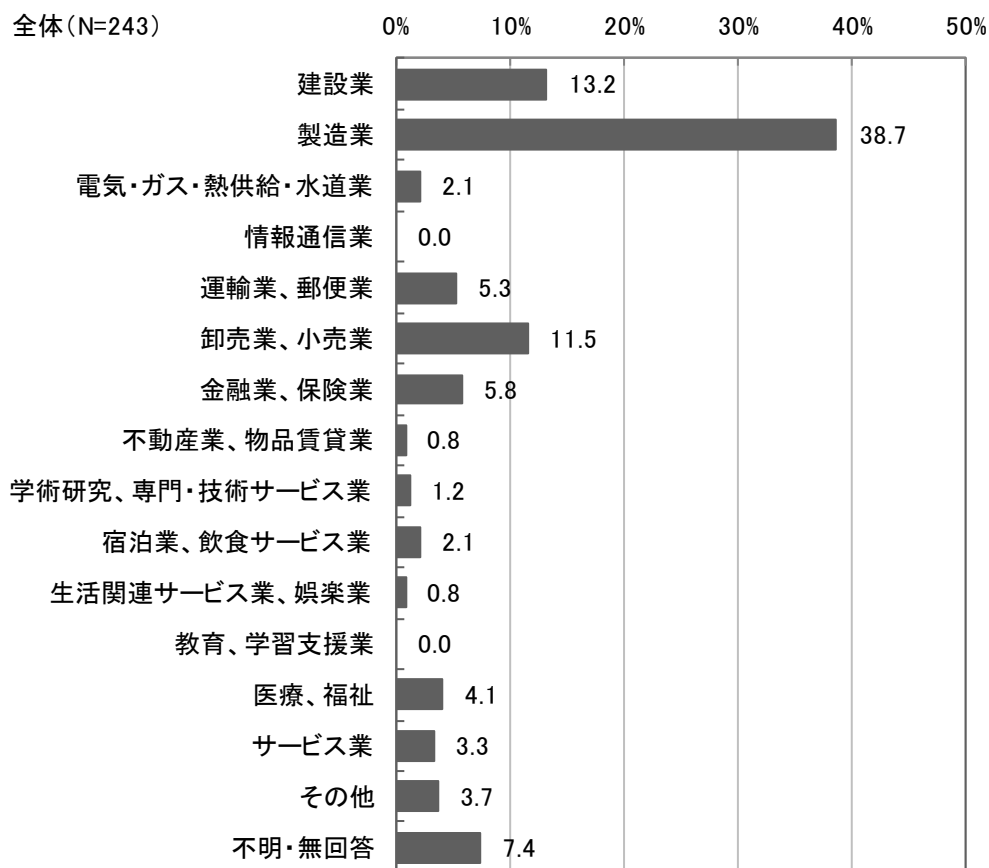
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

Ⅲ 企業調査結果

1 回答企業の概要

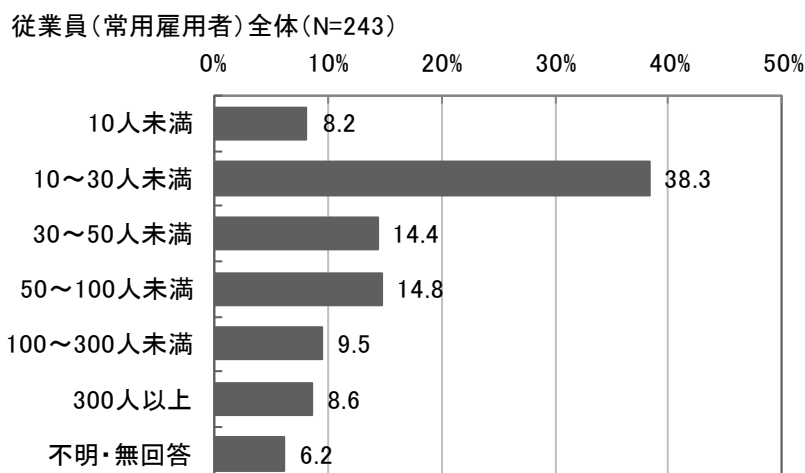
問1 貴社の主な業種について、あてはまるものをお答えください。(単数回答)

主な業種は、「製造業」が38.7%と最も高く、次いで「建設業」が13.2%となっています。



問2 貴社の従業員（常用雇用者）の人数を教えてください。(数量回答)

従業員（常用雇用者）の人数は、全体で「10～30人」が38.3%と最も高く、次いで「50～100人」が14.8%となっています。

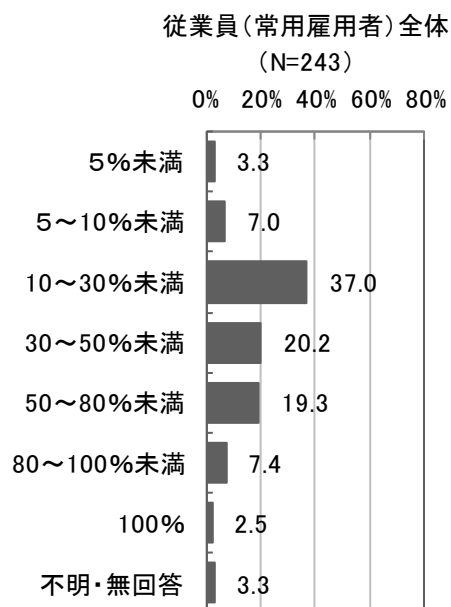
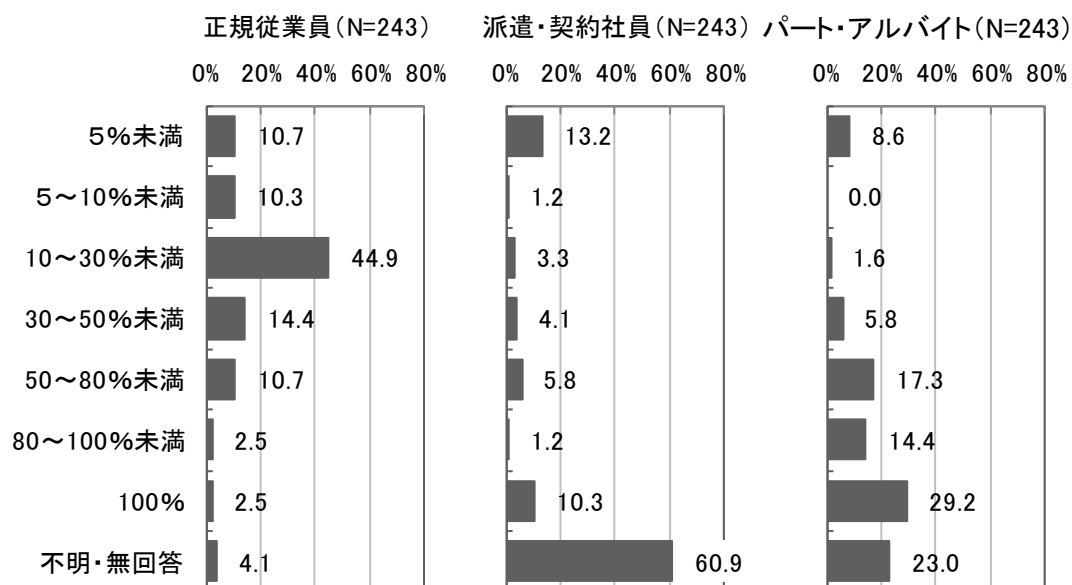


雇用形態別の女性比率

雇用形態別の女性比率についてみると、正規従業員は「10～30%」が44.9%と最も高く、次いで「30～50%」が14.4%となっています。

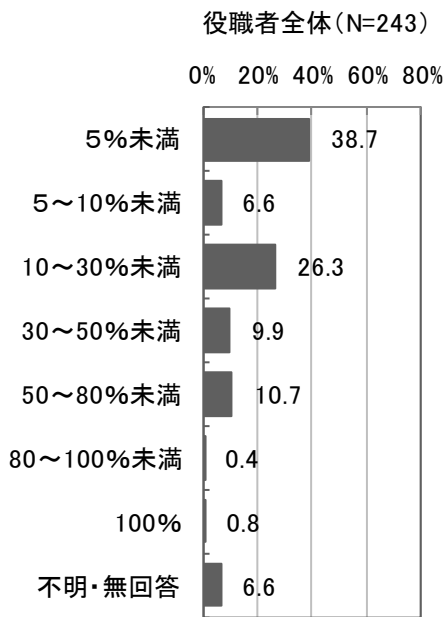
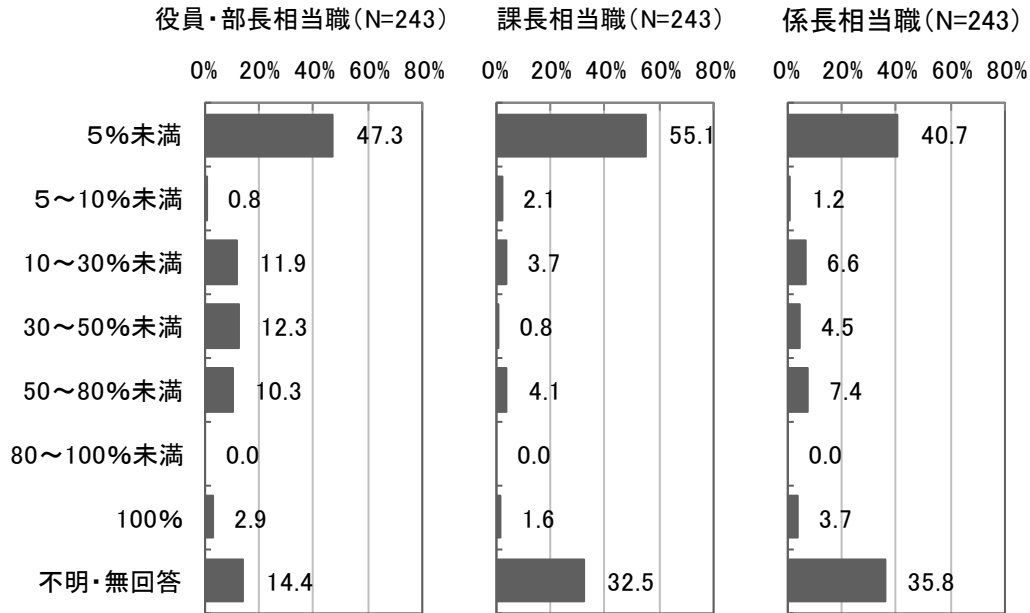
パート・アルバイトは「100%」が29.2%と最も高く、次いで「50～80%」が17.3%となっています。

従業員（常用雇用者）全体では、「10～30%」が37.0%と最も高く、次いで「30～50%」が20.2%となっています。



問3 役職者の女性比率

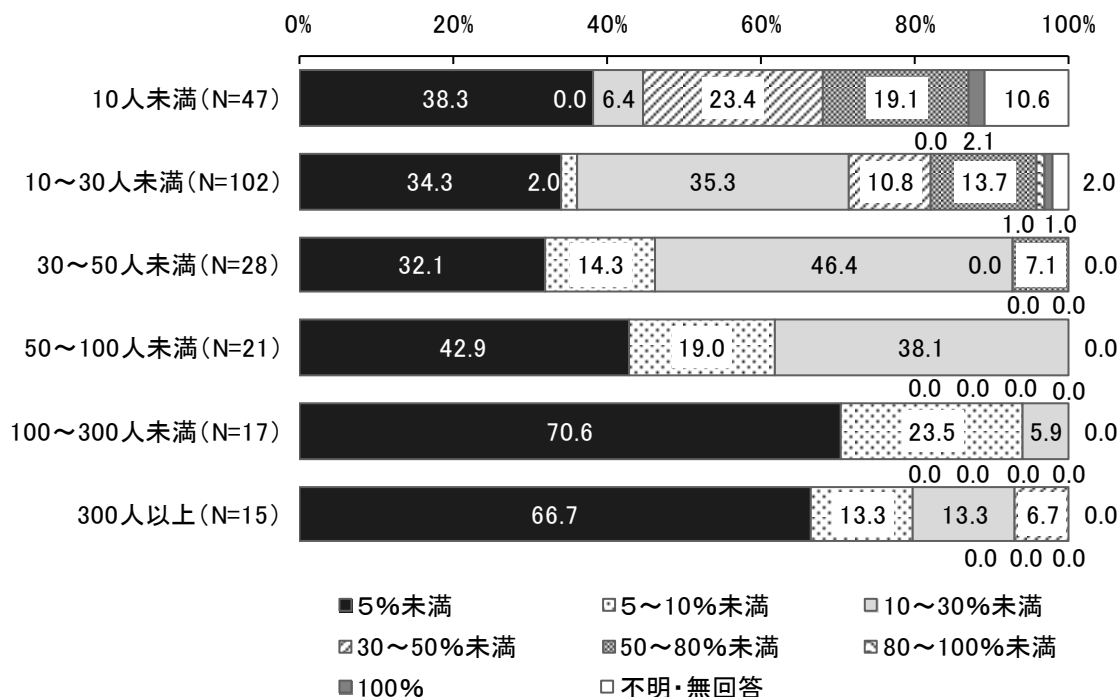
役職別の女性比率についてみると、役員・部長相当職、課長相当職及び係長相当職のいずれも、「5%未満」が最も高く、役員・部長相当職が47.3%、課長相当職が55.1%、係長相当職が40.7%となっています。
 役職者全体では、「5%未満」が38.7%と最も高く、次いで「10~30%」が26.3%となっています。



事業所規模別の女性比率

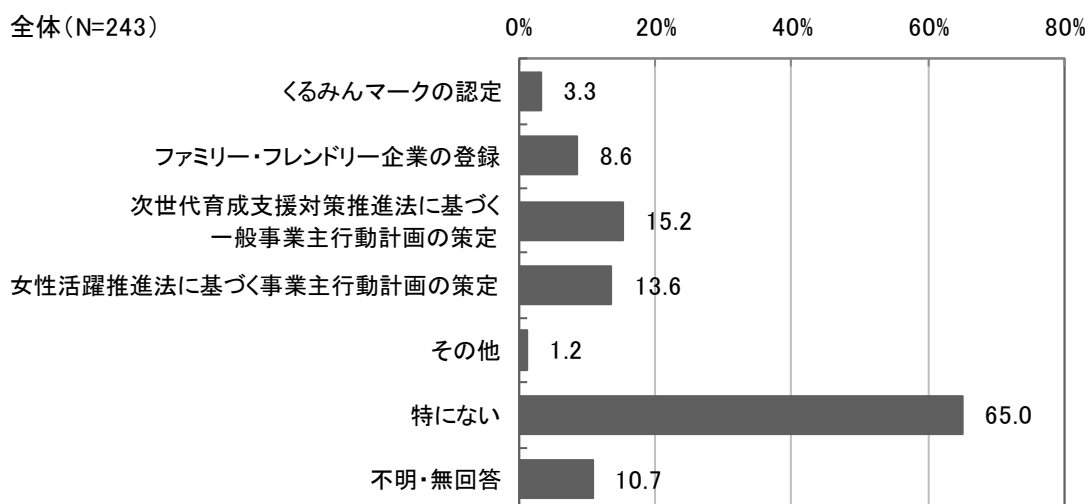
事業所規模別の女性比率についてみると、10人未満、50～100人未満、100～300人未満及び300人以上の事業所では「5%未満」が、10～30人未満及び30～50人未満の事業所では「10～30%未満」がそれぞれ最も高くなっています。特に、100人以上の事業所では「5%未満」が7割前後と高くなっています。

なお、10人未満の事業所では、「50～80%未満」が19.1%、「100%」が2.1%と、他の規模と比べて高くなっています。



問4 貴社は、次のような取組を行っていますか。(複数回答)

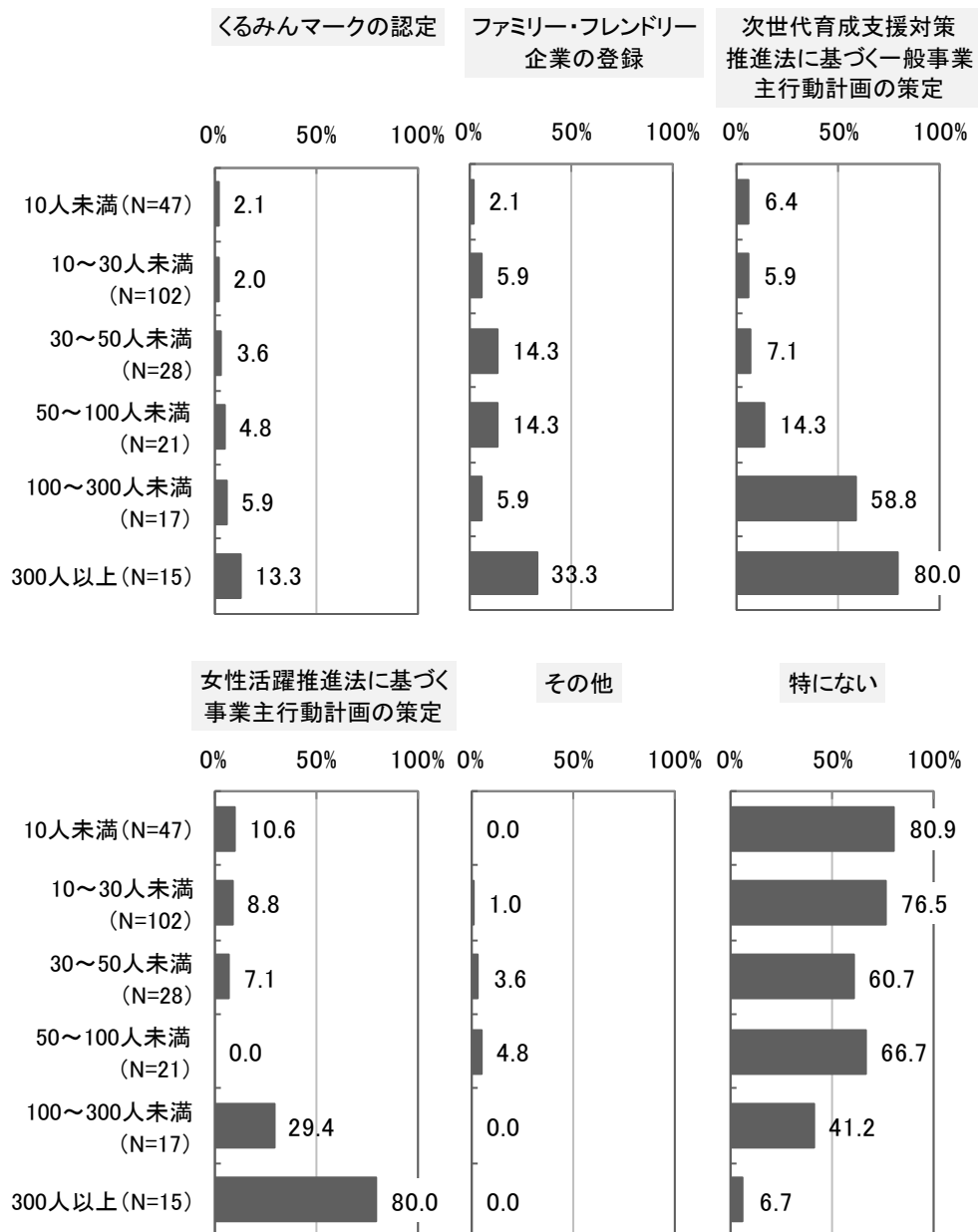
各企業における取組は、「特にない」が65.0%と最も高くなっています。なお、取組んでいる企業では「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」が15.2%と高く、次いで「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が13.6%となっています。



事業所規模別の取組

事業所規模別における取組は、100人未満の事業所で「特にない」が6割を超えて高くなっています。

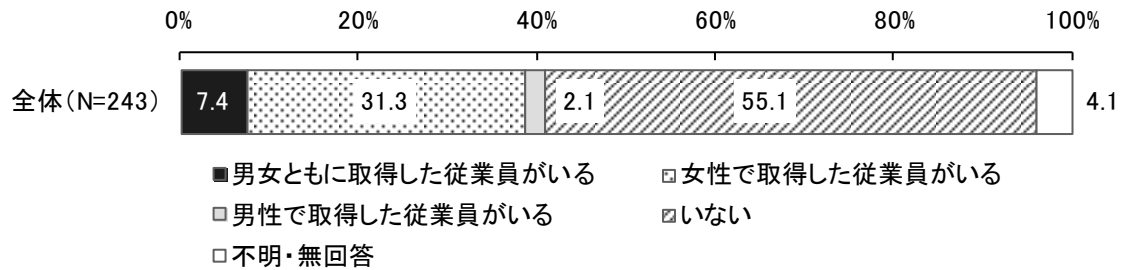
なお、取り組んでいる項目のうち、100人以上の事業所で「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が、100人未満の事業所と比べて高くなっています。なお、50～100人未満の事業所で「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が0.0%となっています。



2 育児や介護に関する制度について

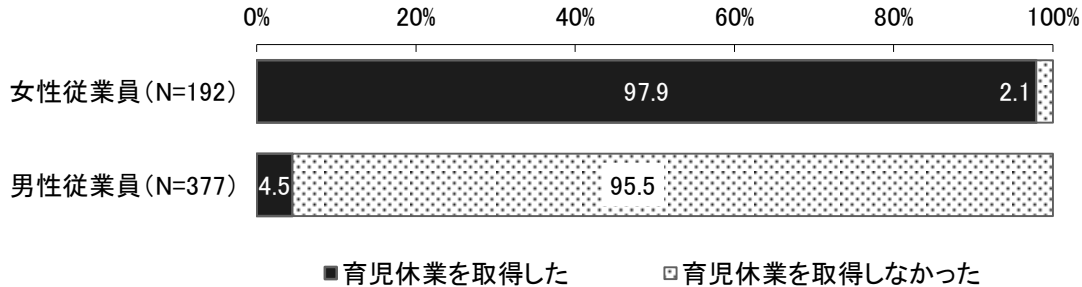
問5 貴社では、これまでに育児休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)

これまでに育児休業制度を利用した従業員は、「いない」が55.1%と最も高く、次いで「女性で取得した従業員がいる」が31.3%となっています。



問6 平成27年度の1年間の育児休業取得率

出産した女性従業員は97.9%が育児休業を取得していますが、配偶者が出産して育児休業を取得した男性従業員は4.5%にとどまっています。

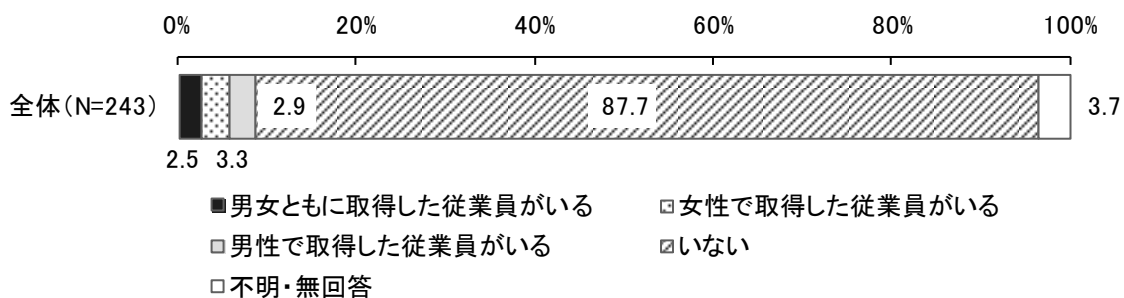


$$\text{※女性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{出産した女性従業員のうち育児休業を取得した女性従業員数}}{\text{回答のあった企業(N=243)中で出産した女性従業員数}} \times 100$$

$$\text{※男性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{配偶者が出産した男性従業員のうち育児休業を取得した男性従業員数}}{\text{回答のあった企業(N=243)中で配偶者が出産した男性従業員数}} \times 100$$

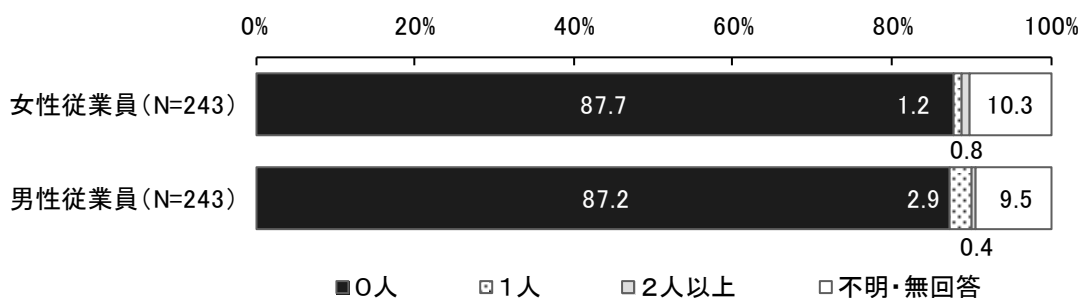
問7 貴社では、これまでに介護休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)

介護休業制度を利用した従業員は、「いない」が87.7%と最も高く、「男女ともに取得した従業員がいる」「女性で取得した従業員がいる」「男性で取得した従業員がいる」はいずれも数%にとどまっています。



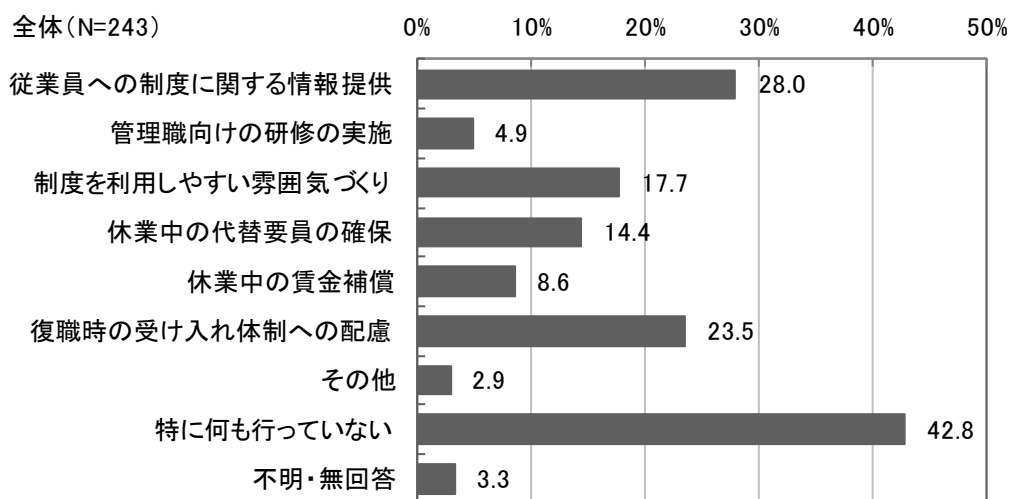
問8 平成27年度の1年間に介護休業を取得した人数を教えてください。(数量回答)

平成27年度の1年間に介護休業を取得した従業員は、男女ともに「0人」が最も高く、女性従業員が87.7%、男性従業員が87.2%となっています。なお、介護休業を取得した従業員は、男女ともに数%にとどまっています。



問9 貴社で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。(数量回答)

育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは、「特に何も行っていない」が42.8%と最も高く、次いで「従業員への制度に関する情報提供」が28.0%となっています。

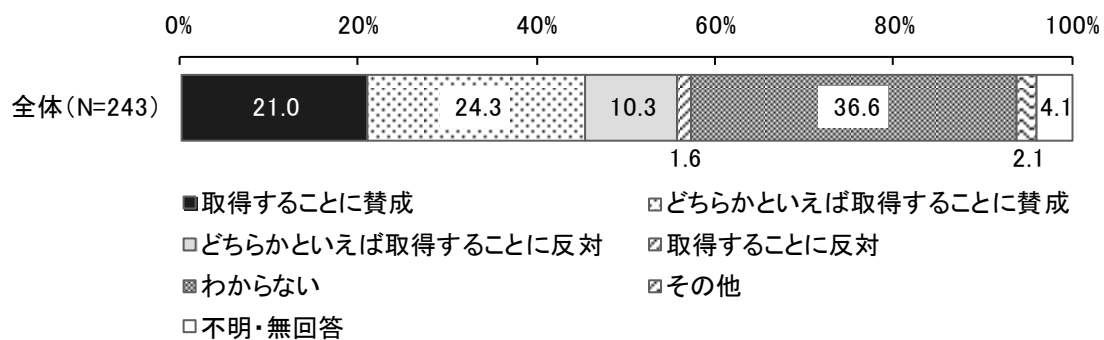


問 10 男性が育児休業や介護休業等を取得することについての貴社の考えに最も近いものはどれですか。(単数回答)

問 10 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『賛成』…「取得することに賛成」と「どちらかといえば取得することに賛成」を合算
- 『反対』…「取得することに反対」と「どちらかといえば取得することに反対」を合算

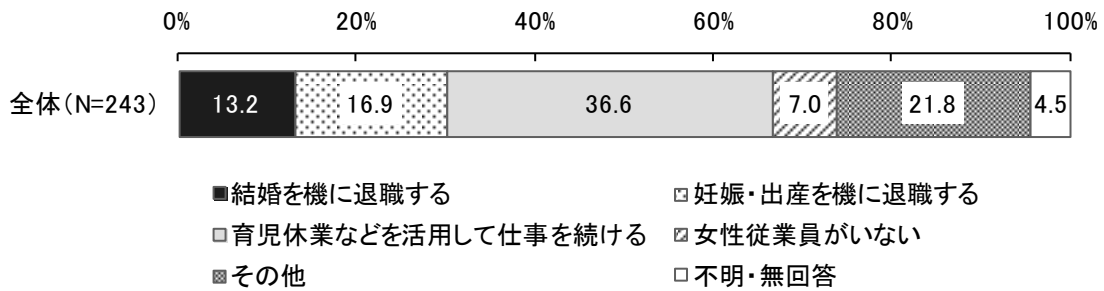
男性が育児休業や介護休業等を取得することについての企業の考えに最も近いものは、『賛成』が 45.3% と最も高く、次いで「わからない」が 36.6% となっています。なお、『反対』は 11.9% となっています。



3 女性従業員について

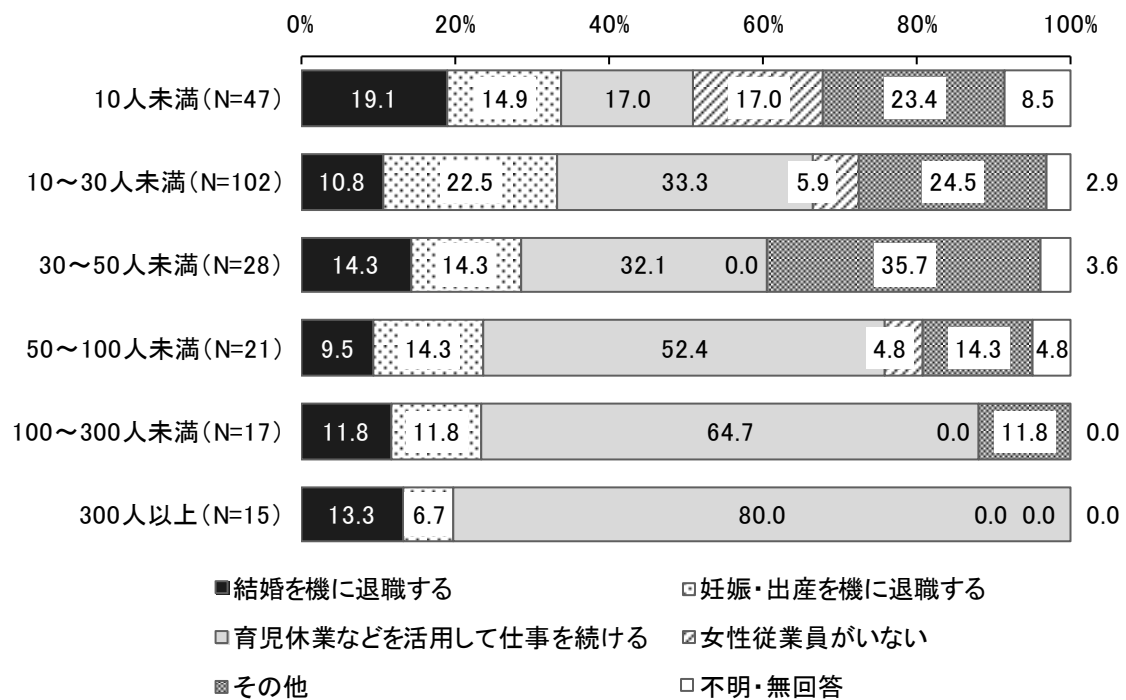
問 11 貴社の女性従業員の働き方として、どのようなかたちが多いですか。(単数回答)

女性従業員の働き方は、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が36.6%と最も高く、次いで「その他」が21.8%となっています。なお、「妊娠・出産を機に退職する」は16.9%、「結婚を機に退職する」は13.2%となっています。



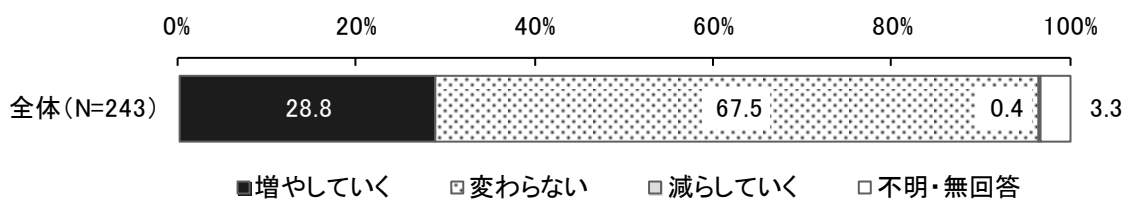
事業所規模別の働き方

事業所規模別の女性従業員の働き方は、事業所規模が大きくなるにしたがい「育児休業などを活用して仕事を続ける」が高くなる傾向があります。なお、「結婚を機に退職する」はいずれの規模の事業所も1割前後あり、10人未満の事業所では19.1%と高くなっています。



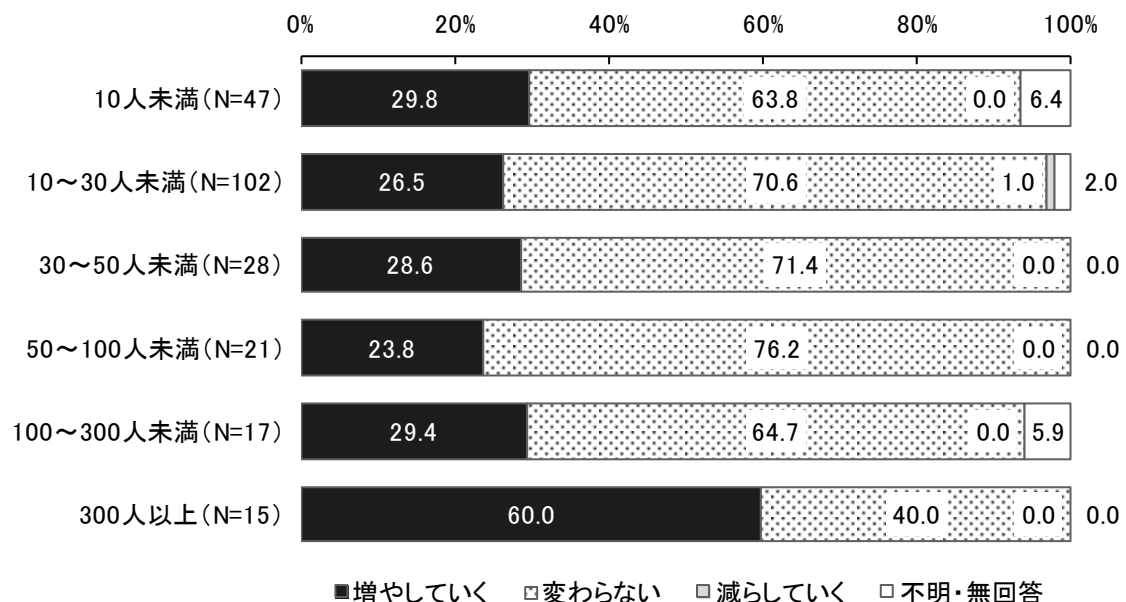
問 12 女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えはありますか。(単数回答)

女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えは、「変わらない」が67.5%と最も高く、次いで「増やしていく」が28.8%となっています。



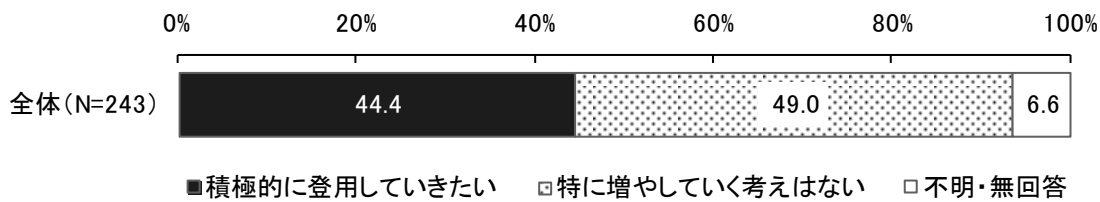
事業所規模別の増員計画

事業所規模別の女性従業員の増員計画は、「増やしていく」が300人未満の事業所で3割前後、300人以上の事業所で60.0%となっています。



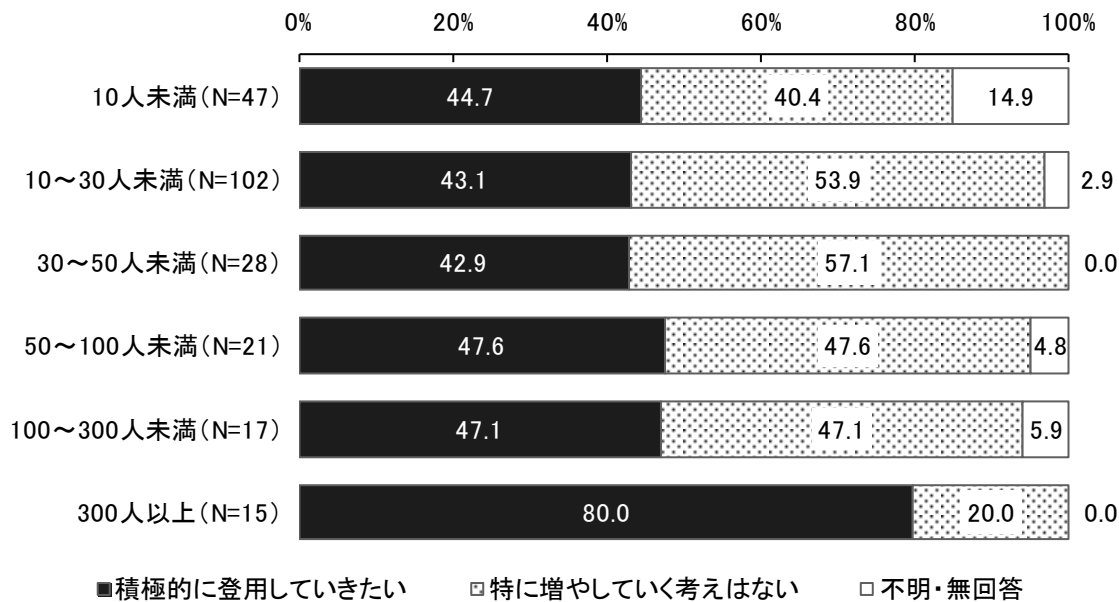
問 13 今後管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。(単数回答)

今後管理職に女性を積極的に登用しようと考えているかは、「特に増やしていく考えはない」が49.0%と最も高く、次いで「積極的に登用していきたい」が44.4%となっています。



事業所規模別の管理職登用

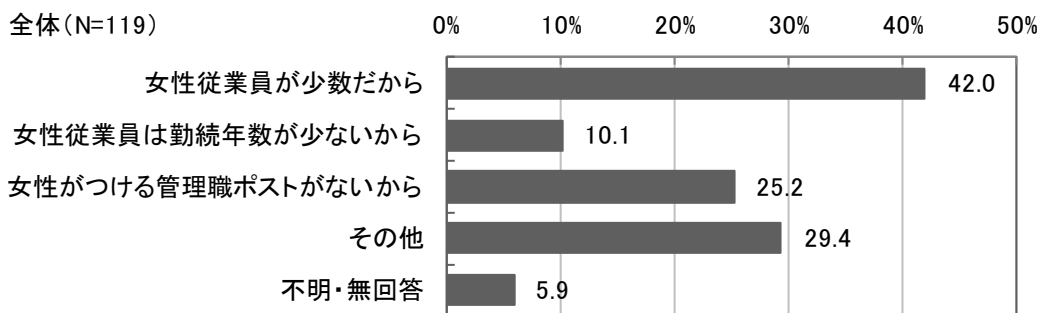
事業所規模別の女性の管理職登用は、「積極的に登用していきたい」が300人未満の事業所で4割強、300人以上の事業所で80.0%となっています。



【問 13 で「特に増やしていく考えはない」と回答した方のみ】

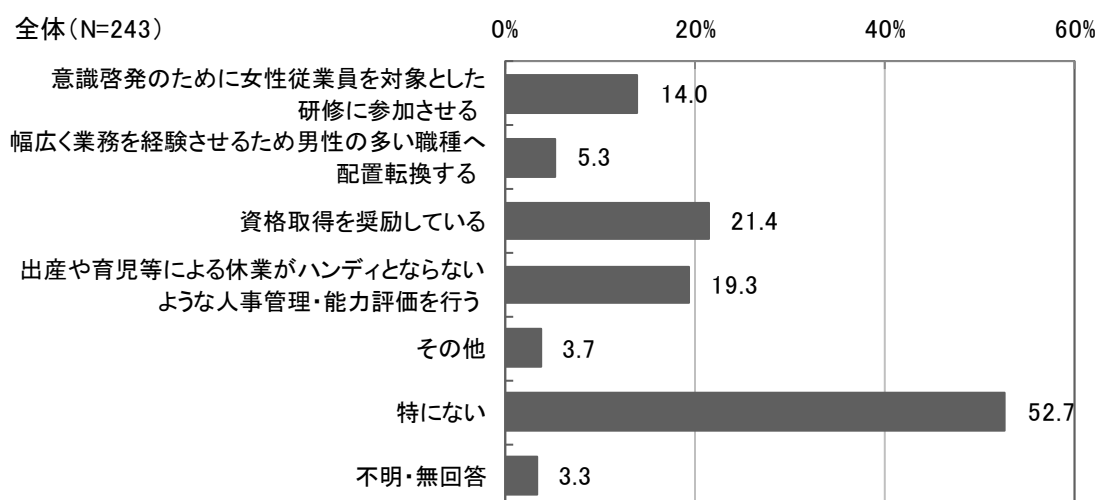
問 13-1 その理由は何ですか。(複数回答)

特に増やしていく考えはない理由は、「女性従業員が少数だから」が42.0%と最も高く、次いで「その他」が29.4%となっています。



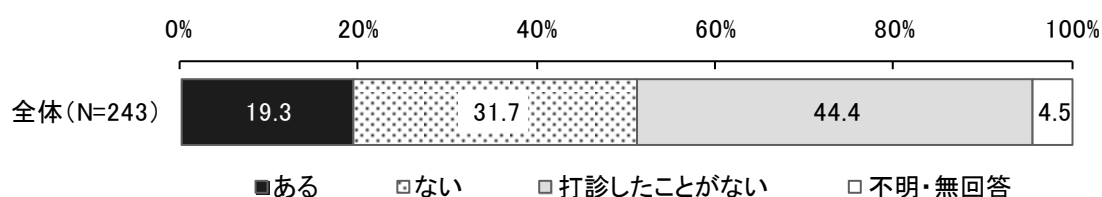
問 14 女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることはありますか。(複数回答)

女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることは、「特にない」が52.7%と最も高く、次いで「資格取得を奨励している」が21.4%となっています。



問 15 管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことがありますか。(単数回答)

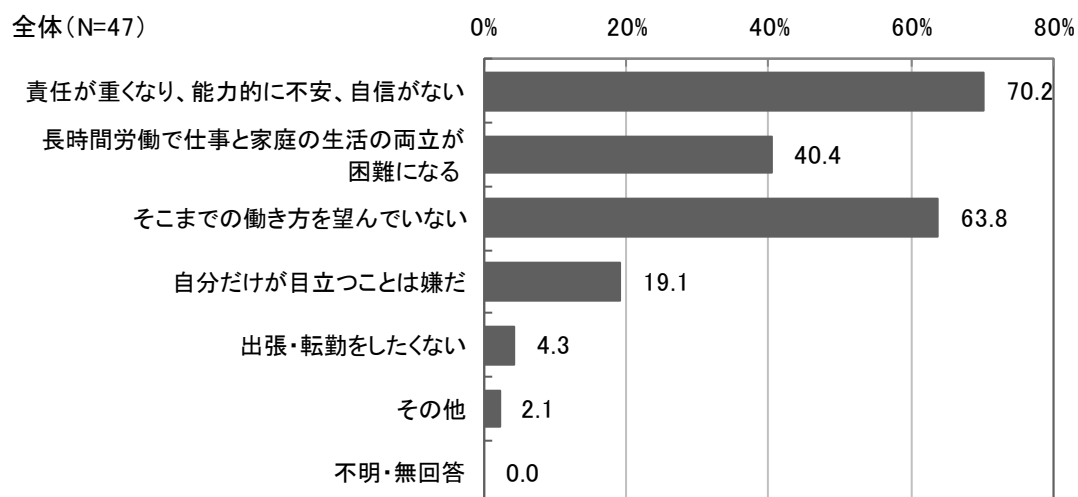
管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことは、「打診したことがない」が44.4%と最も高く、次いで「ない」が31.7%、「ある」が19.3%となっています。



【問 15 で「ある」と回答した方のみ】

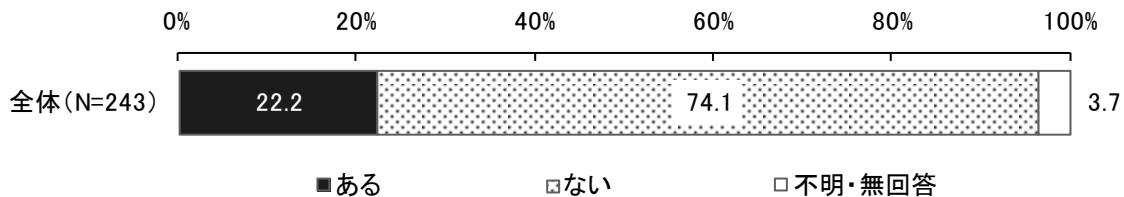
問 15-1 断られた理由は何ですか。(複数回答)

断られた理由は、「責任が重くなり、能力的に不安、自信がない」が70.2%と最も高く、次いで「そこまでの働き方を望んでいない」が63.8%となっています。



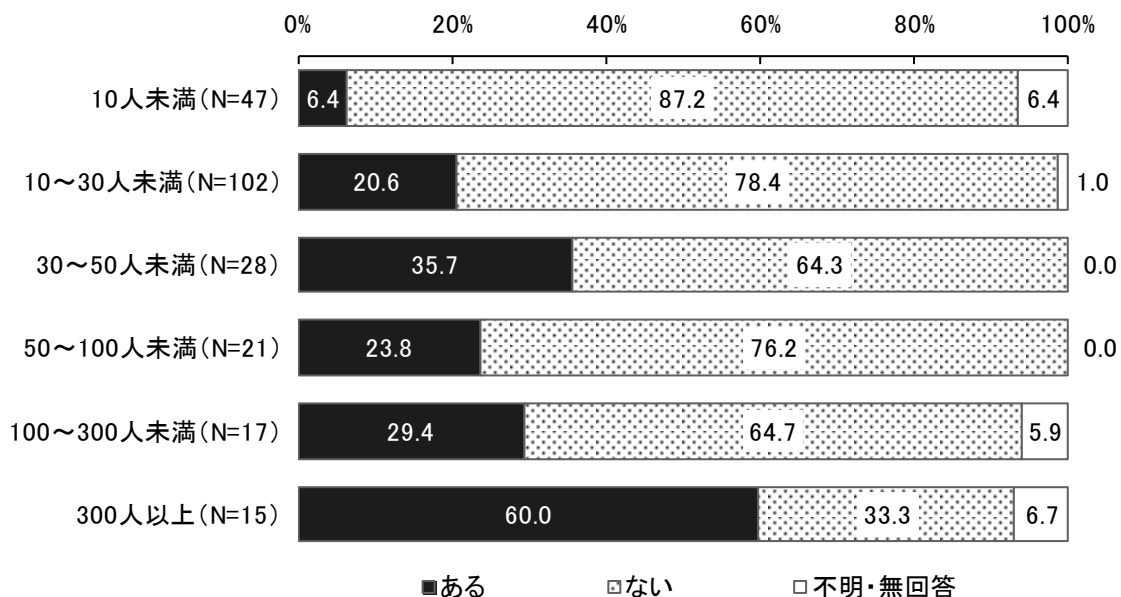
問 16 今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことがありますか。(単数回答)

今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ない」が74.1%、「ある」が22.2%となっています。



事業所規模別の積極的登用

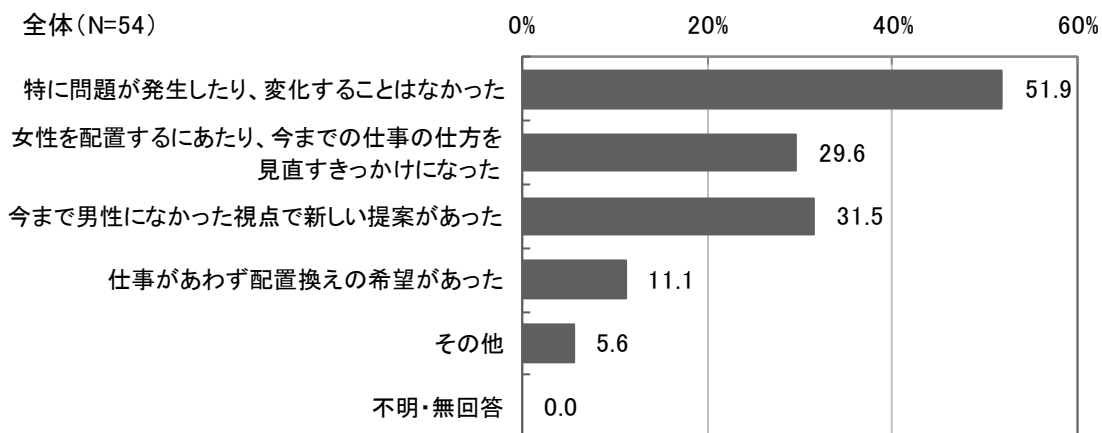
今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ある」が10人未満で6.4%、10～300人未満の事業所で2～3割強、300人以上の事業所で60.0%となっています。



【問 16 で「ある」と回答した方のみ】

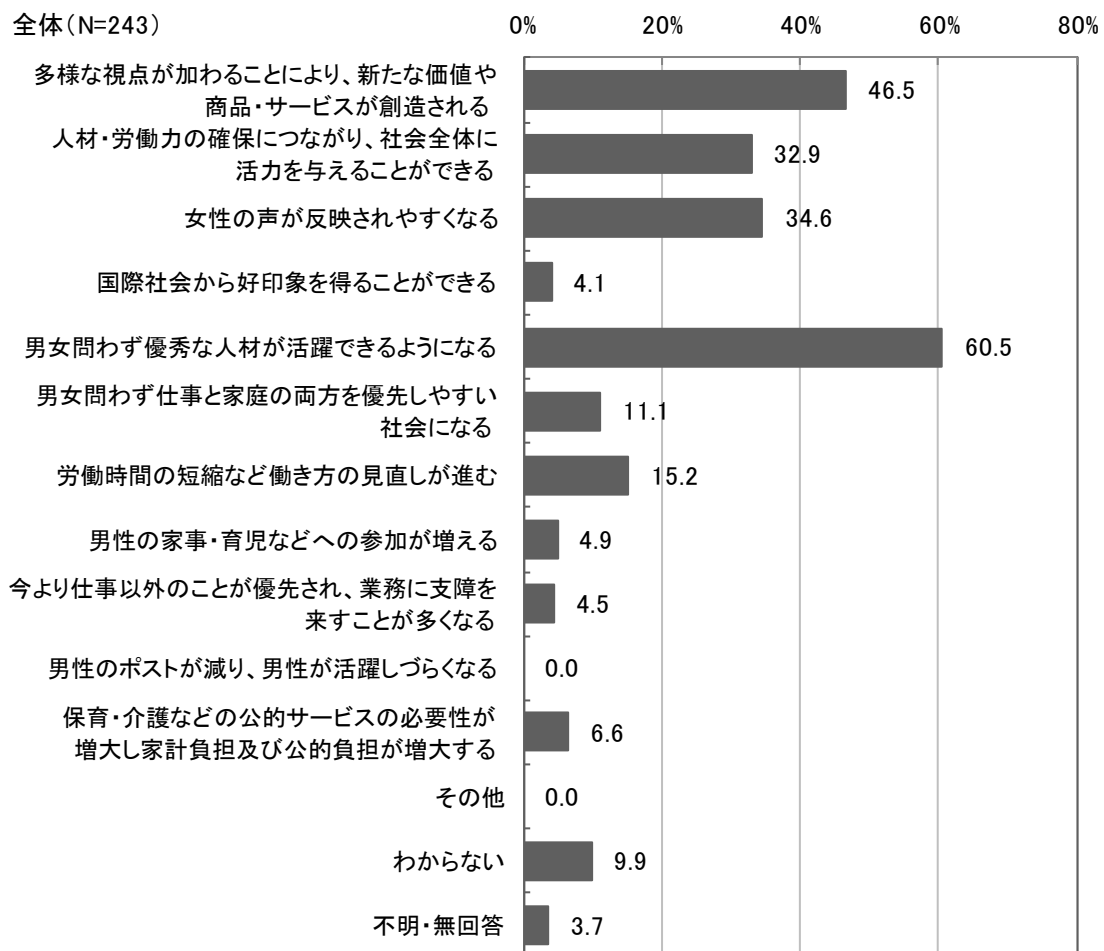
問 16-1 配置してどうでしたか。(複数回答)

配置した結果は、「特に問題が発生したり、変化することはなかった」が51.9%と最も高く、次いで「今まで男性になかった視点で新しい提案があった」が31.5%となっています。



問17 女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることによる影響は、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が60.5%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が46.5%となっています。



4 男女共同参画全般について

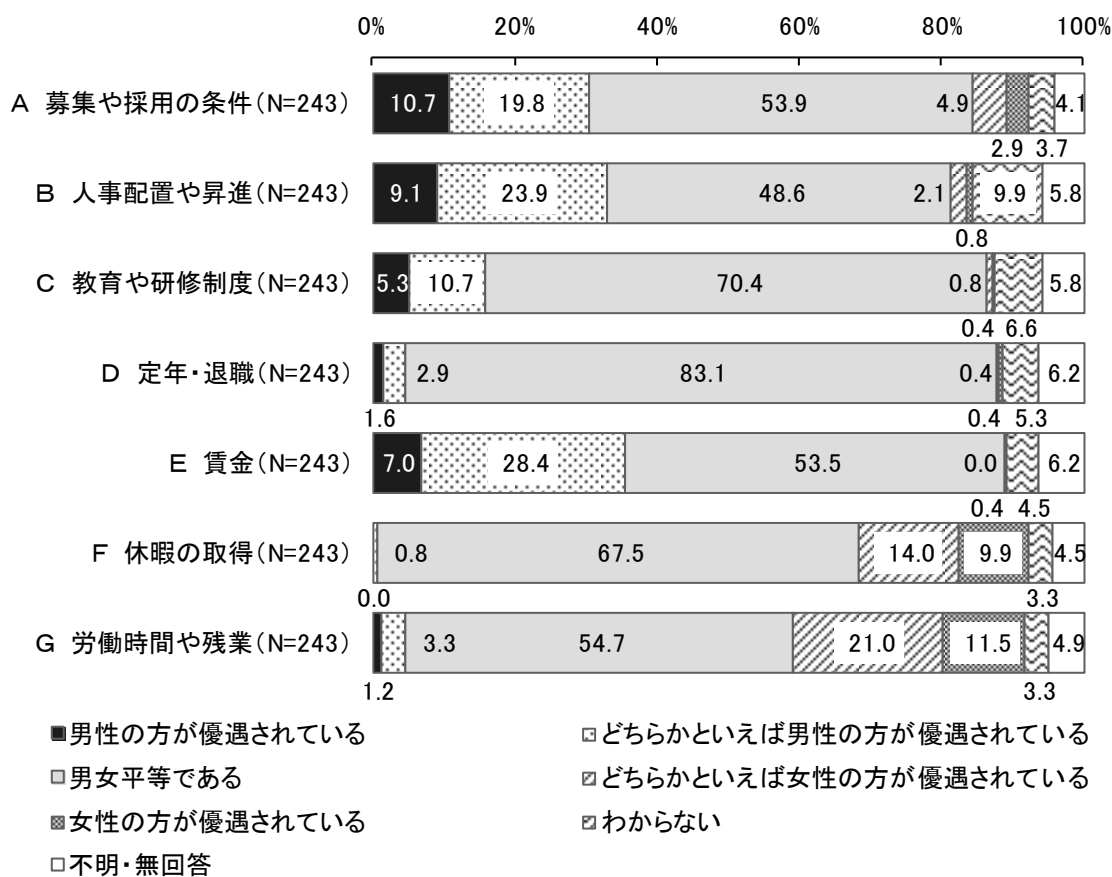
問 18 貴社では、次の項目の性別の状況はどの程度だと思われますか。(単数回答)

問 18 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算

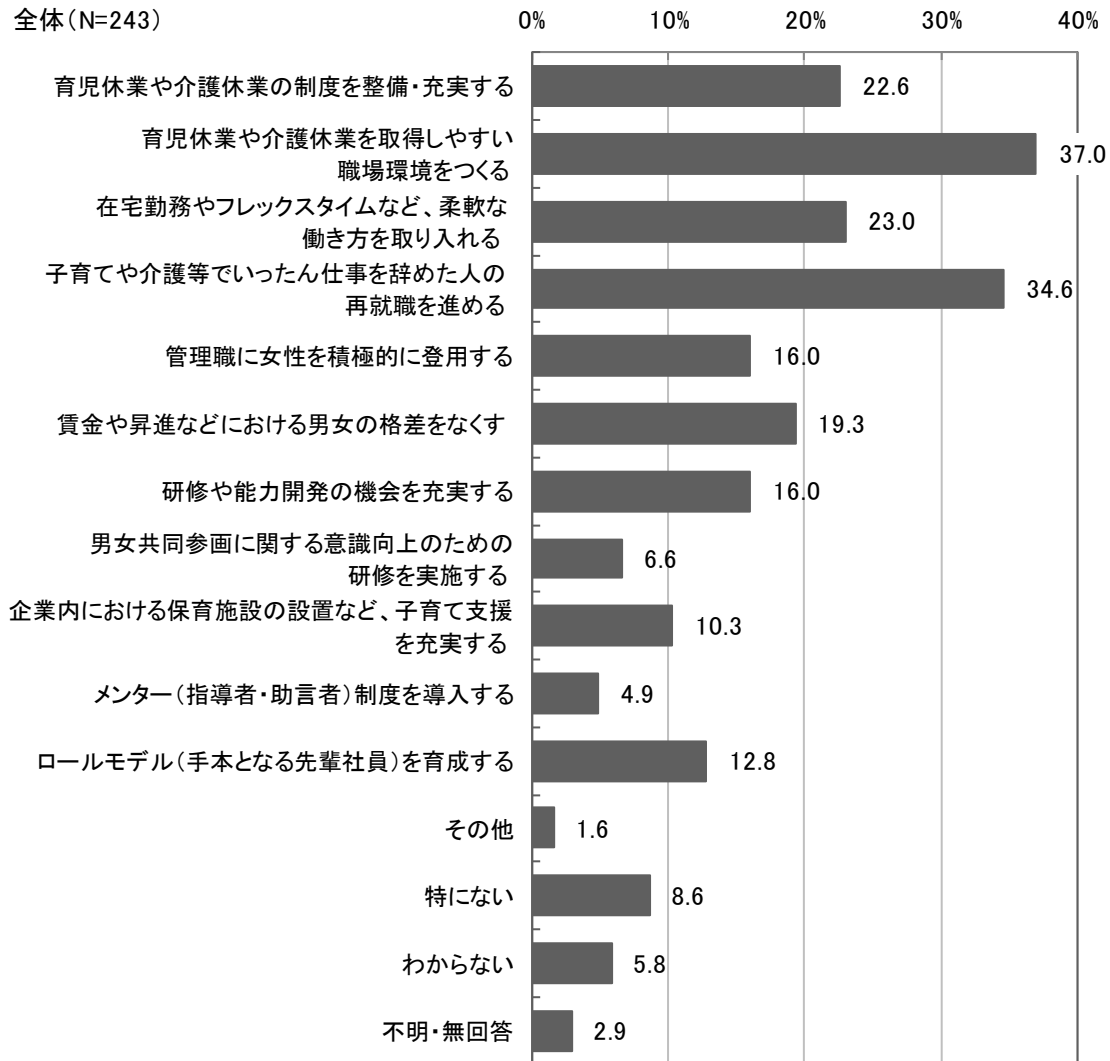
『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

企業における性別の状況は、「A 募集や採用の条件」「B 人事配置や昇進」「E 賃金」について『男性優遇』が、「G 労働時間や残業」については『女性優遇』がそれぞれ3割を超え、高くなっています。「C 教育や研修制度」「D 定年・退職」については、「男女平等である」が7～8割強と高くなっています。



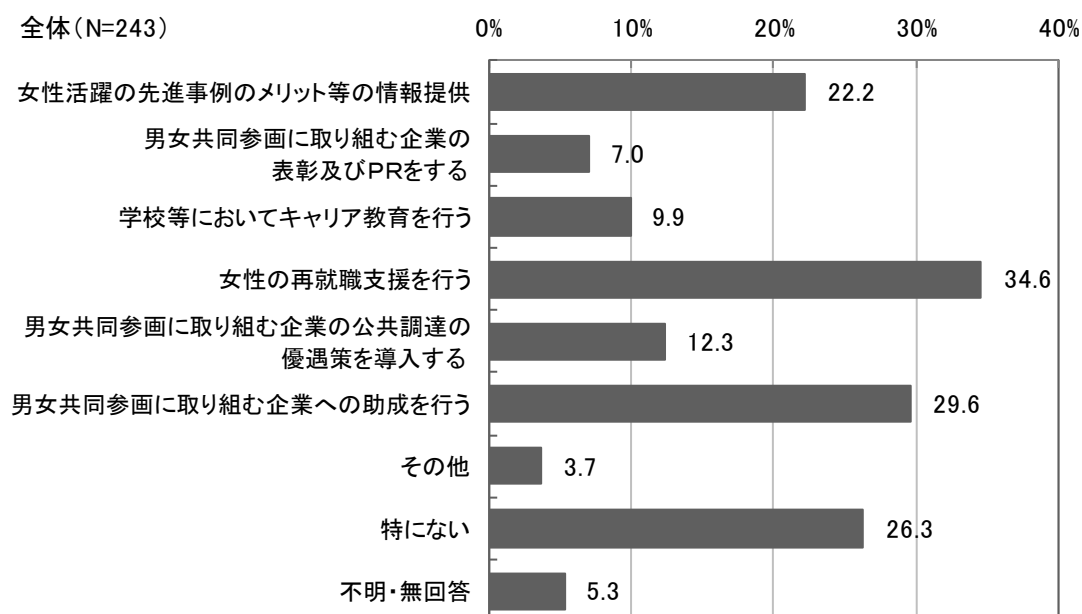
問 19 男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

男女共同参画社会を実現するために、企業が今後力を入れていくべきことは、「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が37.0%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が34.6%となっています。



問 20 職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援にはどのようなものがありますか。(複数回答)

職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援は、「女性の再就職支援を行う」が34.6%と最も高く、次いで「男女共同参画に取り組む企業への助成を行う」が29.6%となっています。



問 21 男女共同参画に関する独自の取り組みや優良事例がありましたら、ご記入ください。(女性従業員の活躍や、仕事と家庭の両立支援に関する実際の事例など)

業種	回答内容	件数
製造業	当社の場合、女性社員の労働時間は家事等を考慮し8:30~16:45としており、このため、長期間勤務する社員が多いと考えている(一般社員)。家庭事情による休暇取得も特に制限を設けず、自由に取得できる環境にある	1
電気・ガス・熱供給・水道業	電気工事会社としてやっているが、男性の多いイメージとは違い、女性の人数がとても多い。育休の取得率も非常に高く、とても働きやすい会社だと思う(短時間正社員制度有)	1
卸売業、小売業	女性課長職(店長1名 本部3名)登用し、現在、課長職以上に占める女性の割合は約3%となっている。今後、係長登用、課長登用を積極的に推進し、5%以上を目標に行動計画を策定し、従業員にも社内報で情報発信した。ワーク・ライフ・バランスを重視し、働き方、環境を見つめ直し、会社全体で勤務時間(残業時間)の短縮にも取り組んでいる。また、現在働くパートナーから社員登用も積極的に推進しており、働きがいのある職場を目指し、女性視点で売場に新たな商品やサービスが生まれる事を期待している。	1

業種	回答内容	件数
	やはり課題としては、結婚を機に退職する女性社員がいるので、結婚しても働き続けることのできる会社づくりを進めていきたいと考えている	
卸売業、小売業	優秀な女性が子どもを持つと職場復帰したくても子どもを預ける場所（保育所）がなく、なかなか職場復帰できない。男女共同参画を唱える前に、まず環境を整えるべきではないか。人間の意識改革・会社への要望ばかり要求されても、政治が一番の問題だと思う。中小零細企業にとって会社を続けていく事が一番の課題であり、大企業同様に政策ばかり押し付けられても、現実には不可能に等しい。男女問わず優秀な人材を採用したくても、来てくれないのが現実である	1
金融業、保険業	パートタイマーに対して「正職員登用制度」を行っている。平成 26 年に制度を導入し、平成 27 年度には 2 名、平成 28 年度は 3 名、パートタイマーから正職員へ登用している	1
宿泊業、飲食サービス業	全社で積極的に女性の登用をしている。155 店あるホテルのフロントは 8 割が女性、全国の店の支配人の 9 割は女性である。本社の役員にも女性の占める割合が多く、社長も女性である。各ホテルのパート従業員も 8 割程度が女性なので、女性が運営し支えている会社と言える。社の方針も「女性が働きたい職場を目指す」というものである。多くの女性が活躍し輝いている、数少ない企業のひとつであると思う	1
その他	育休を利用してしている従業員へのフォロー、復職前のフォローを実施する。地域の保育園（認可外）へ保育うけ入れの協力依頼。保育料の一部補助制度を設けた	1
その他	介護事業のため、女性が多い職場である。仕事と家庭の両立のためフルタイムではなく、パート社員としての働き方を進めている	1
その他	介護施設（デイサービス、介護付ホーム、居宅介護支援）。職業柄か、女性が多く活躍している。逆に男性が少なく、男性も活躍ができる（例えば、世帯主として家庭を支えられる収入を確保できる）介護サービスを願っている	1

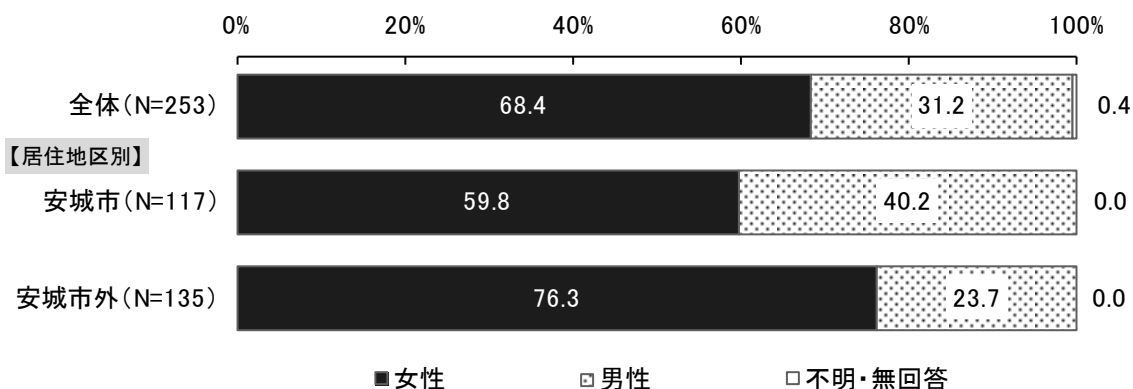
IV 高校生調査結果

1 回答者の属性

問1 性別（単数回答）

性別は、全体で「女性」が68.4%、「男性」が31.2%となっています。

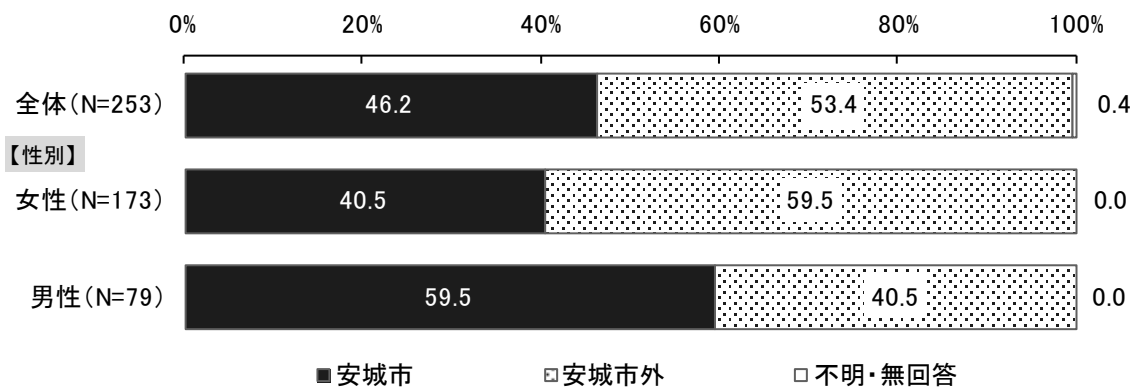
居住地区別では、女性が安城市で59.8%、安城市外で76.3%と、市内外のいずれも男性を上回っています。



問2 居住地区（単数回答）

居住地区は、全体で「安城市」が46.2%、「安城市外」が53.4%となっています。

性別では、女性で「安城市外」が59.5%、男性で「安城市」が59.5%と、それぞれ高くなっています。



2 男女共同参画の意識について

問3 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

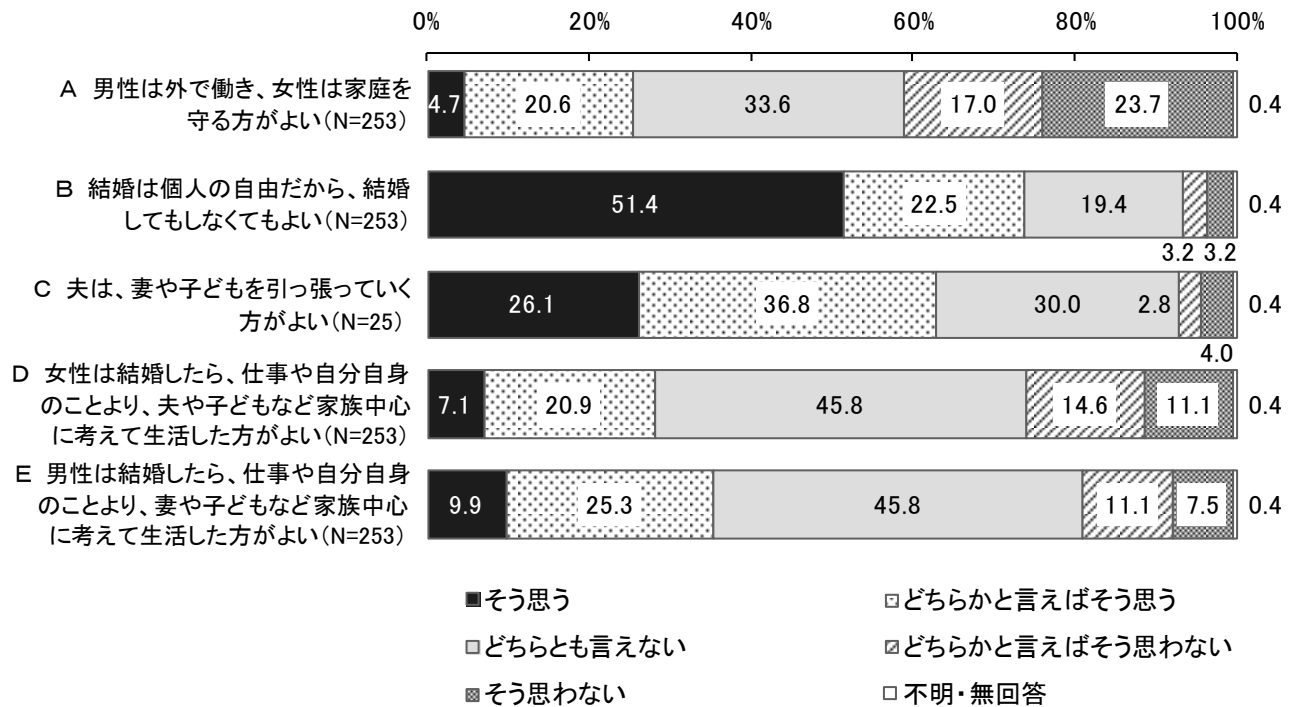
問3の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『そう思う』…「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合算

『そう思わない』…「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合算

家庭生活や結婚への意識については、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」において『そう思う』が73.9%、62.9%と高くなっています。

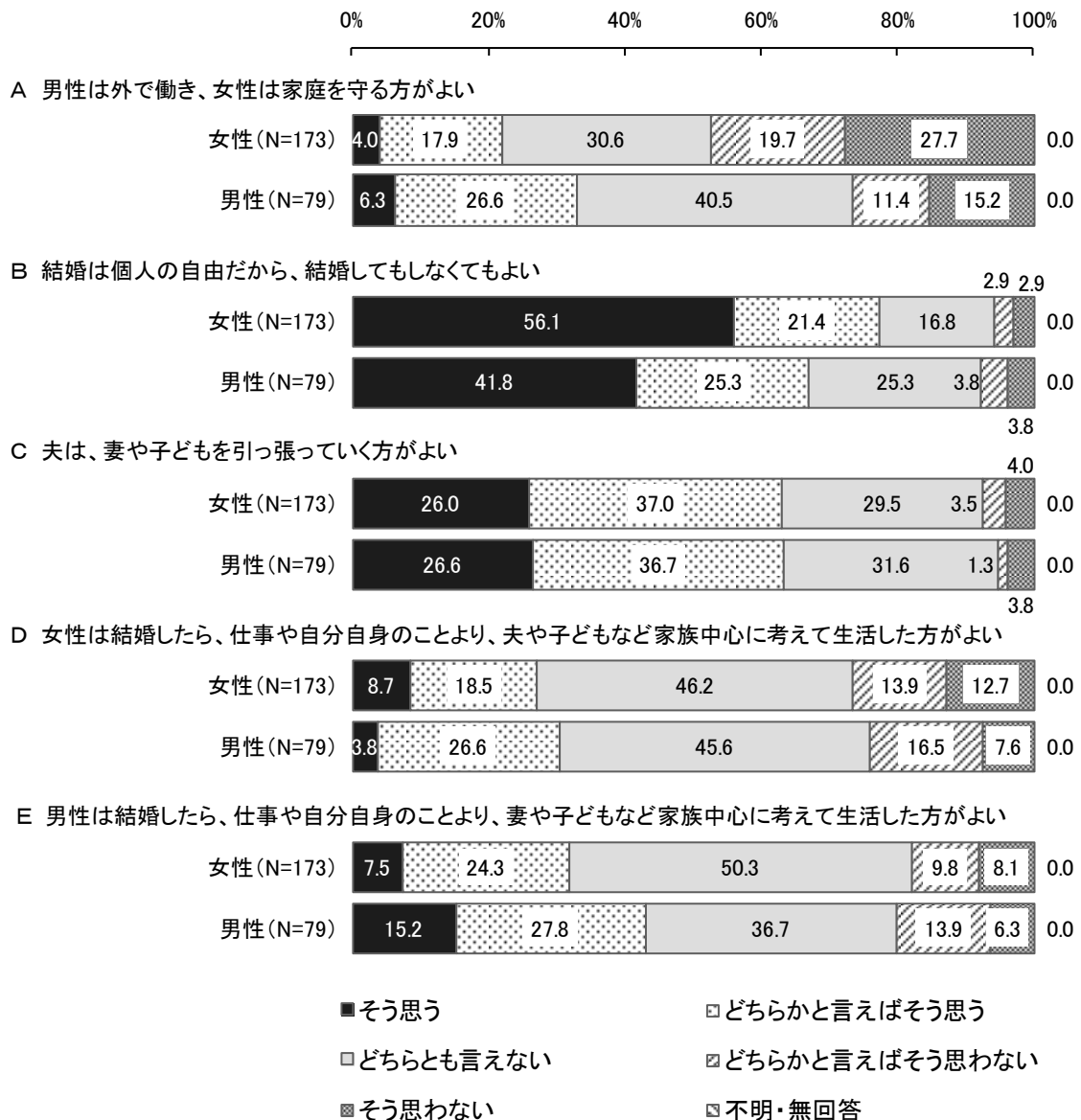
なお、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」において『そう思わない』が25.3%、28.0%と一定数あります。



性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」となっており、『そう思わない』割合は、女性で 47.4%、男性で 26.6%と 20.8 ポイント差となっています。

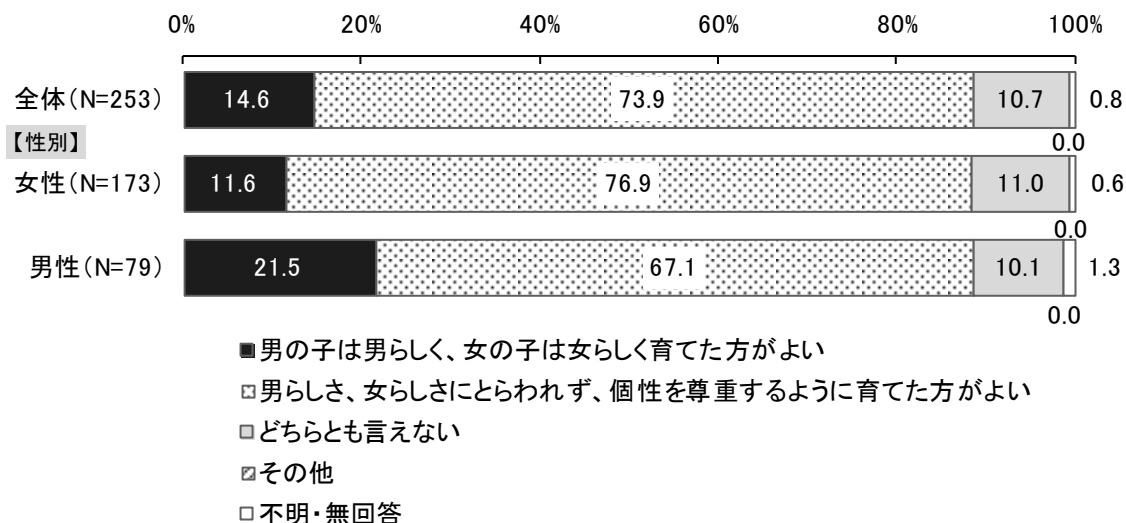
なお、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」においては女性と比べて『そう思う』が男性でそれぞれ 10 ポイント以上高く、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」においては男性と比べて『そう思う』が女性で 10 ポイント以上高くなっています。



問4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方については、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が73.9%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が14.6%となっています。

性別では、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が21.5%と、女性と比べて9.9ポイント高くなっています。



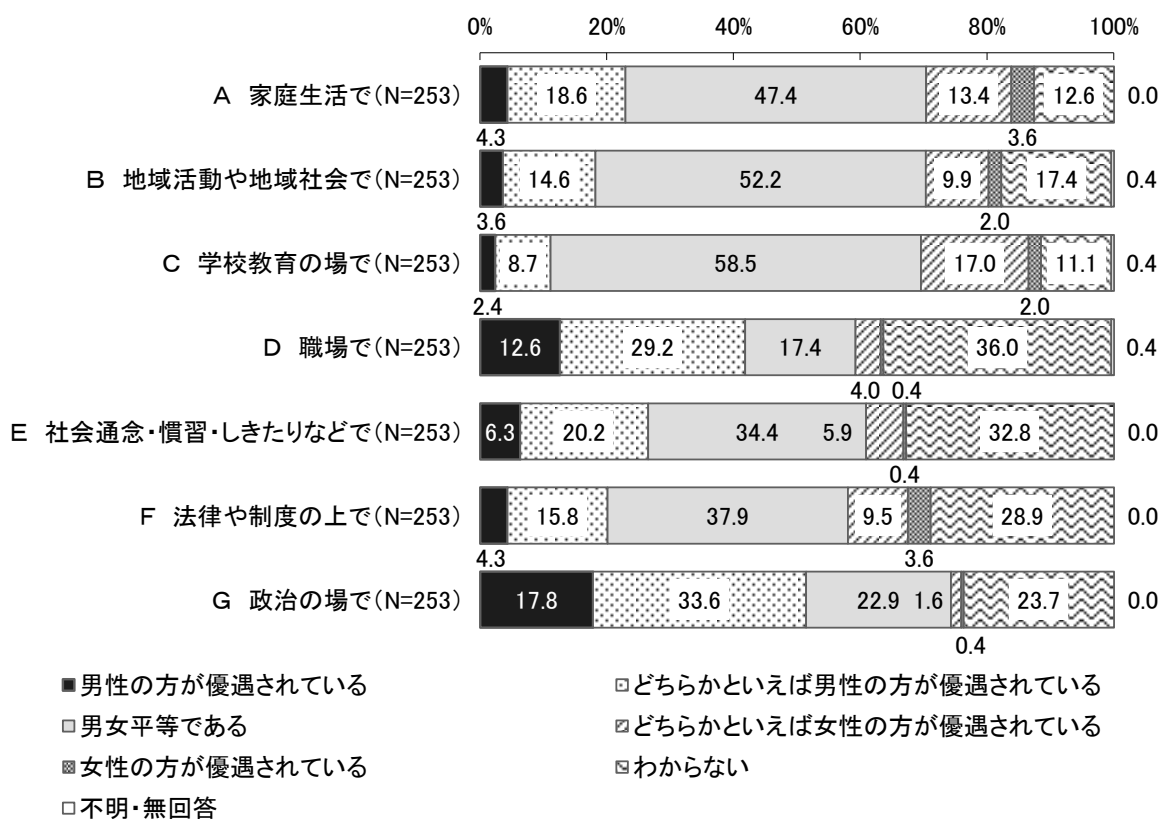
問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(単数回答)

問5の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算
 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

男女の地位の平等感については、「A 家庭生活で」「B 地域活動や地域社会で」「C 学校教育の場で」において「男女平等である」が5割弱～6割弱と高くなっています。

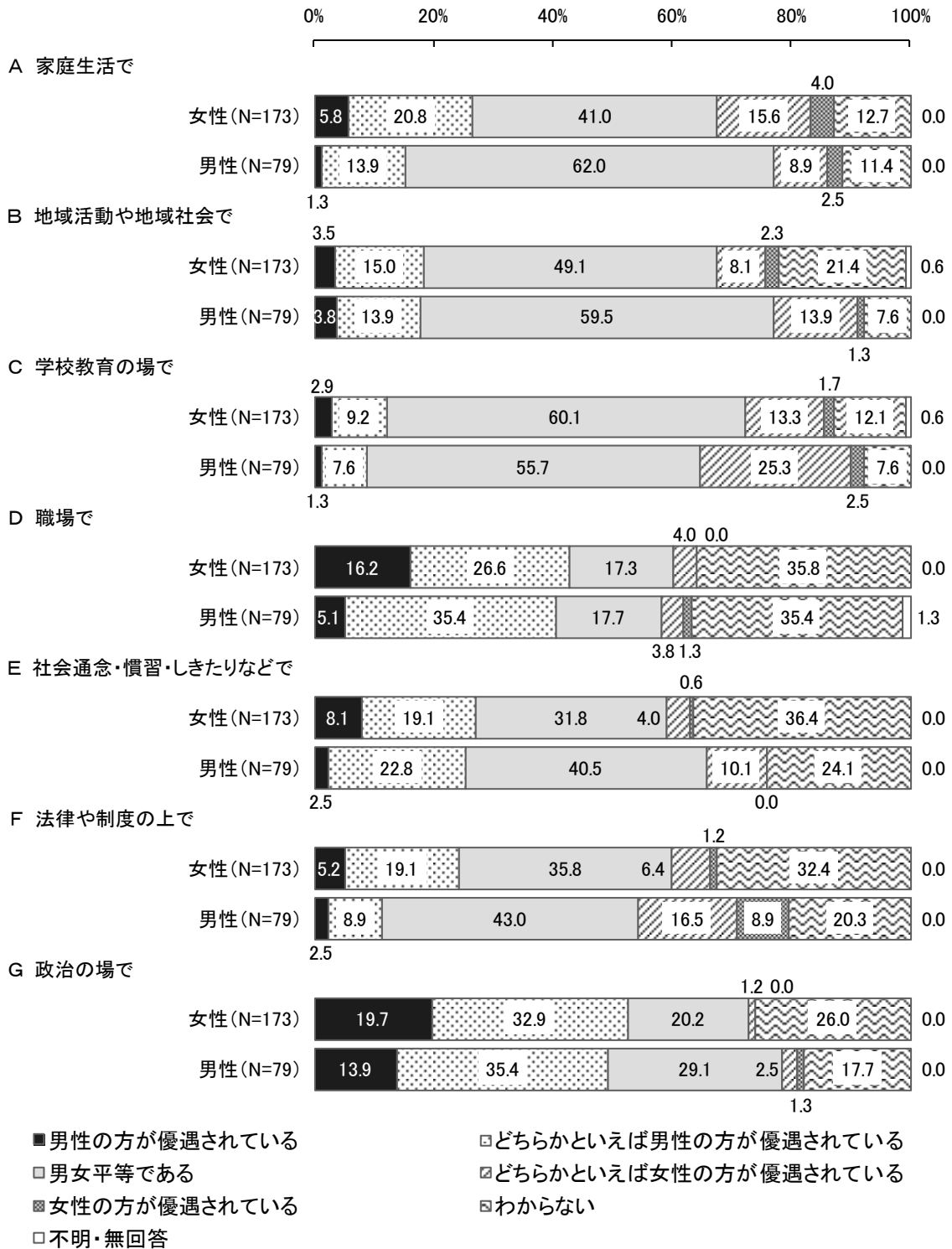
なお、『男性優遇』が高い項目として、「G 政治の場で」が51.4%、「D 職場で」が41.8%となっています。



性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「F 法律や制度の上で」となっており、『女性優遇』割合は、女性で7.6%、男性で25.4%と17.8ポイント差となっています。

なお、「A 家庭生活で」「F 法律や制度の上で」においては男性と比べて『男性優遇』が女性でそれぞれ10ポイント以上高く、「C 学校教育の場で」においては女性と比べて『女性優遇』が男性で10ポイント以上高くなっています。

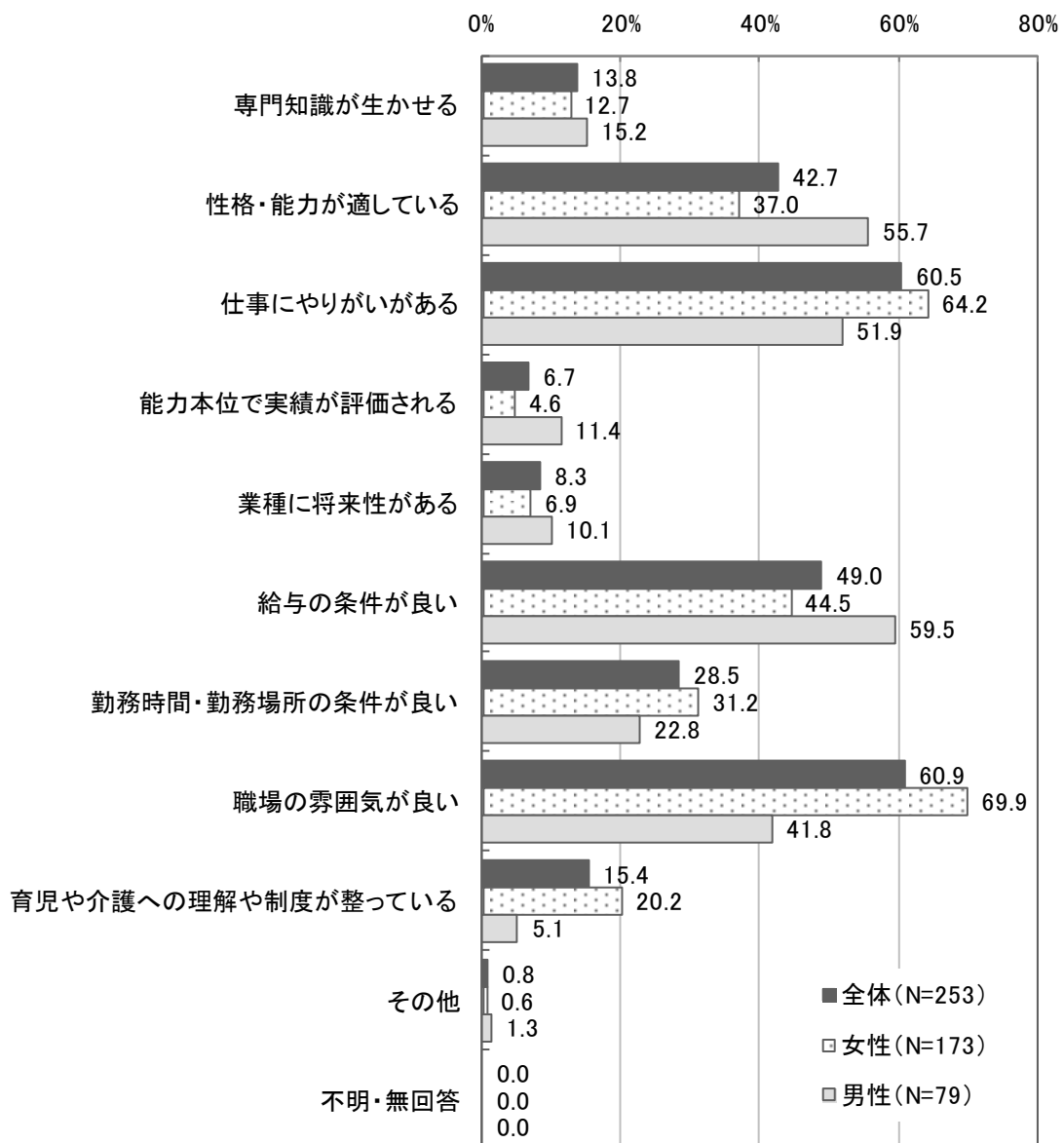


3 将来の働き方について

問6 あなたが仕事を選ぶ際に重視する(したい)ことは何ですか。(複数回答)

仕事を選ぶ際に重視する(したい)ことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が60.9%と最も高く、次いで「仕事にやりがいがある」が60.5%となっています。

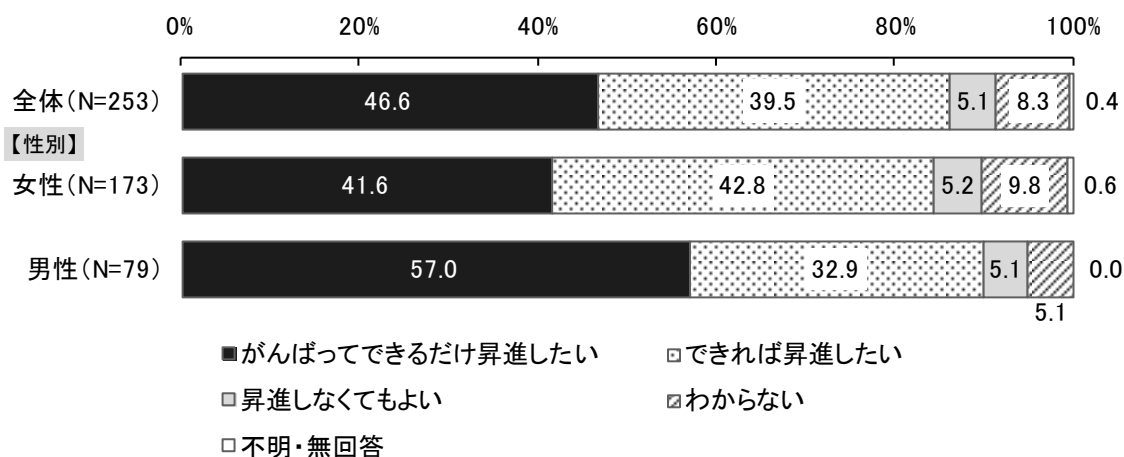
性別では、女性で「職場の雰囲気が良い」「仕事にやりがいがある」が、男性で「給与の条件が良い」「性格・能力が適している」が上位であり、それぞれの男女差も大きくなっており、性差が明確となっています。



問7 あなたは将来、就職先でどのくらいまで昇進したいですか。(単数回答)

将来、就職先でどのくらいまで昇進したいかは、全体で「がんばってできるだけ昇進したい」が 46.6%と最も高く、次いで「できれば昇進したい」が 39.5%となっています。

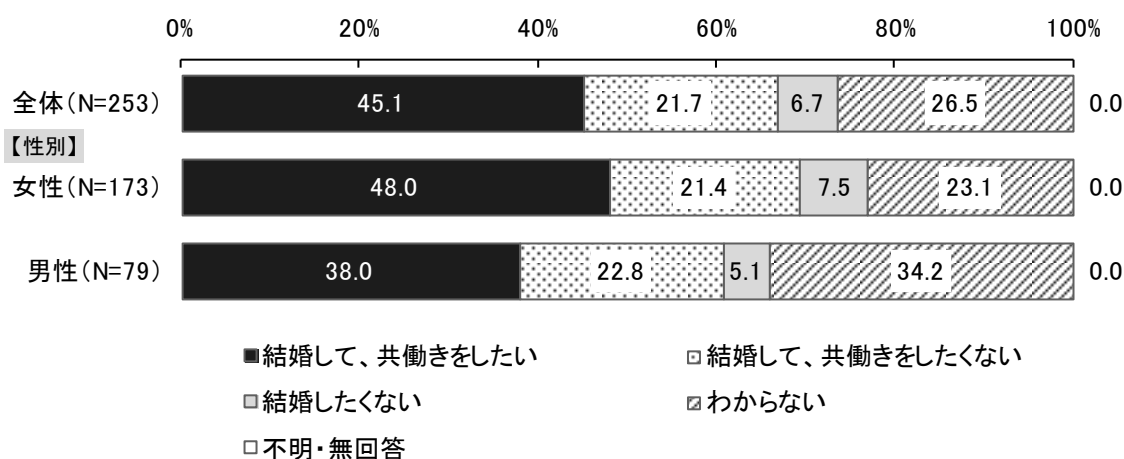
性別では、「がんばってできるだけ昇進したい」が男性で 57.0%と、女性と比べて 15.4 ポイント高くなっています。



問8 あなたは、将来、結婚したら共働きをするつもりですか。(単数回答)

将来、結婚したら共働きをするつもりかは、全体で「結婚して、共働きをしたい」が 45.1%と最も高く、次いで「わからない」が 26.5%となっています。

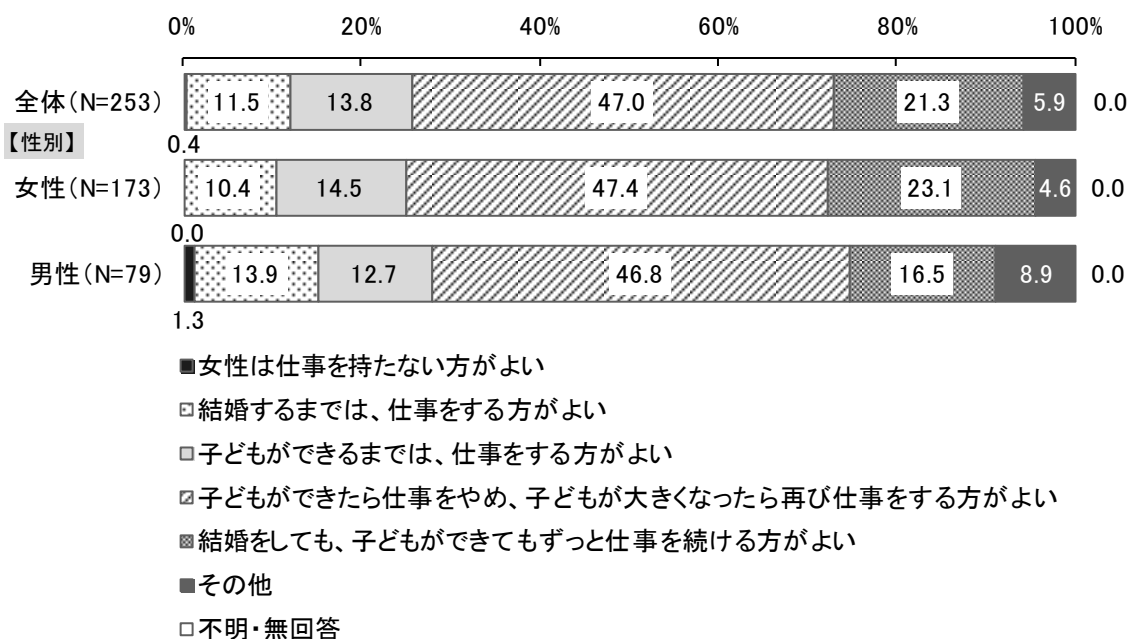
性別では、「結婚して、共働きをしたい」が女性で 48.0%と、男性と比べて 10.0 ポイント高くなっています。なお、「結婚したくない」が女性で 7.5%、男性で 5.1%と一定数みられます。



問9 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が47.0%と最も高く、次いで「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が21.3%となっています。

性別では、女性で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が23.1%と、男性と比べて6.6ポイント高くなっています。

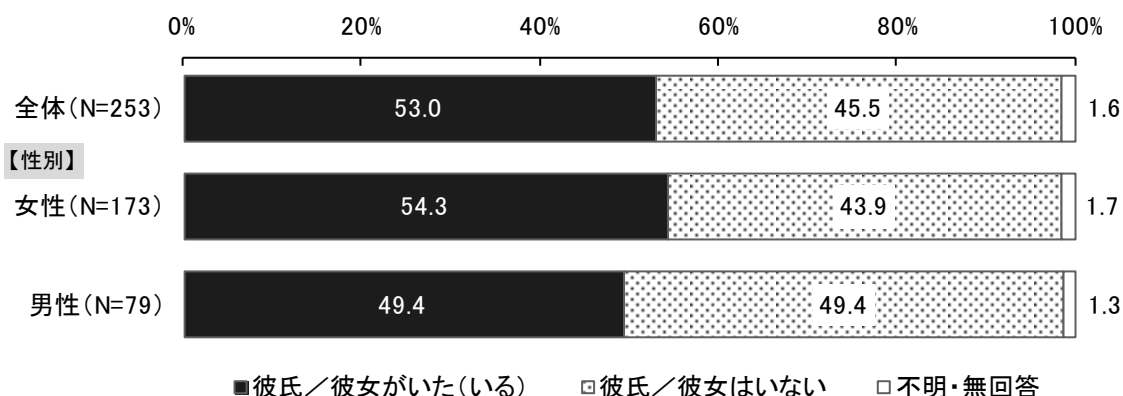


4 男女間の暴力について

問10 あなたは、現在、または過去において、彼氏／彼女がいましたか。(単数回答)

現在、または過去において、彼氏／彼女がいたかは、全体で「彼氏／彼女がいた (いる)」が53.0%、「彼氏／彼女はいない」が45.5%となっています。

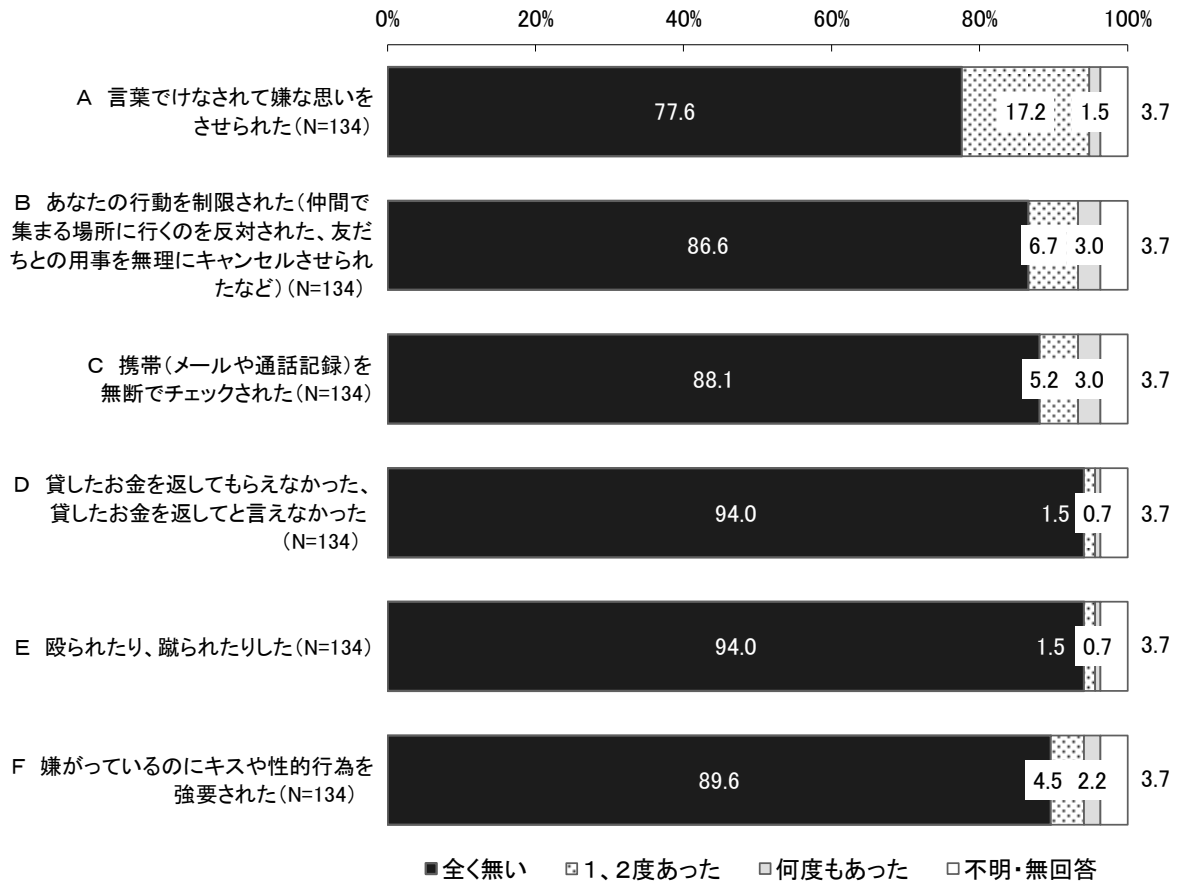
性別では、男女ともに「彼氏／彼女がいた (いる)」が5割前後となっています。



【問 10 で「1 彼氏／彼女がいた（いる）」と回答した方のみ】

問 10-1 あなたはこれまでに、次の行為を彼氏／彼女からされたことがありますか。（単数回答）

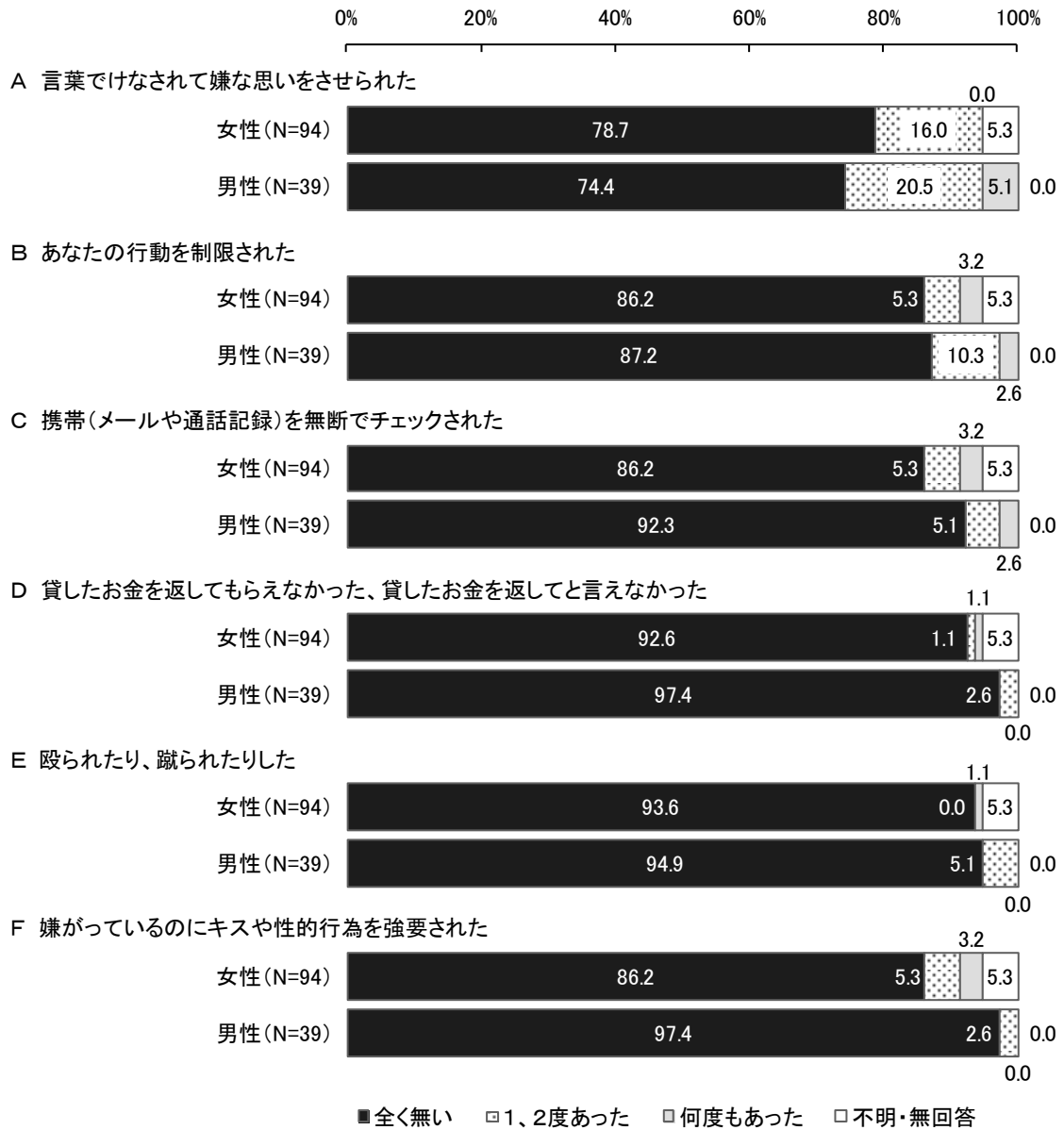
彼氏／彼女からされたDVは、いずれの項目においても「全く無い」が8割弱～9割強と高いものの、「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」で「1、2度あった」が17.2%と高くなっています。いずれの項目も「1、2度あった」「何度もあった」が一定数見られます。



性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」となっており、「何度もあった」割合は、女性で0.0%、男性で5.1%と5.1ポイント差となっています。

なお、「F 嫌がっているのにキスや性的行為を強要された」においては、女性で「何度もあった」が男性と比べて3.2ポイント高くなっています。

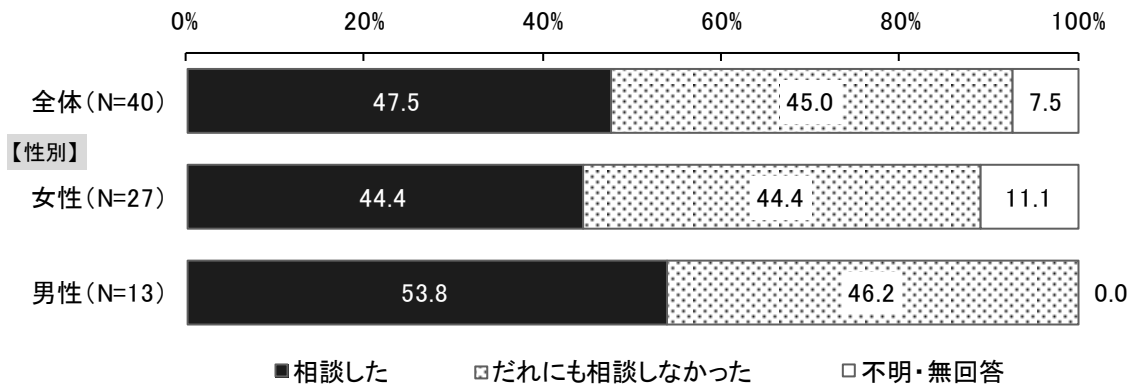


【問10-1で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ】

問10-2 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。
（単数回答）

DVを受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「相談した」が47.5%、「だれにも相談しなかった」が45.0%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が女性で44.4%、男性で46.2%となっています。

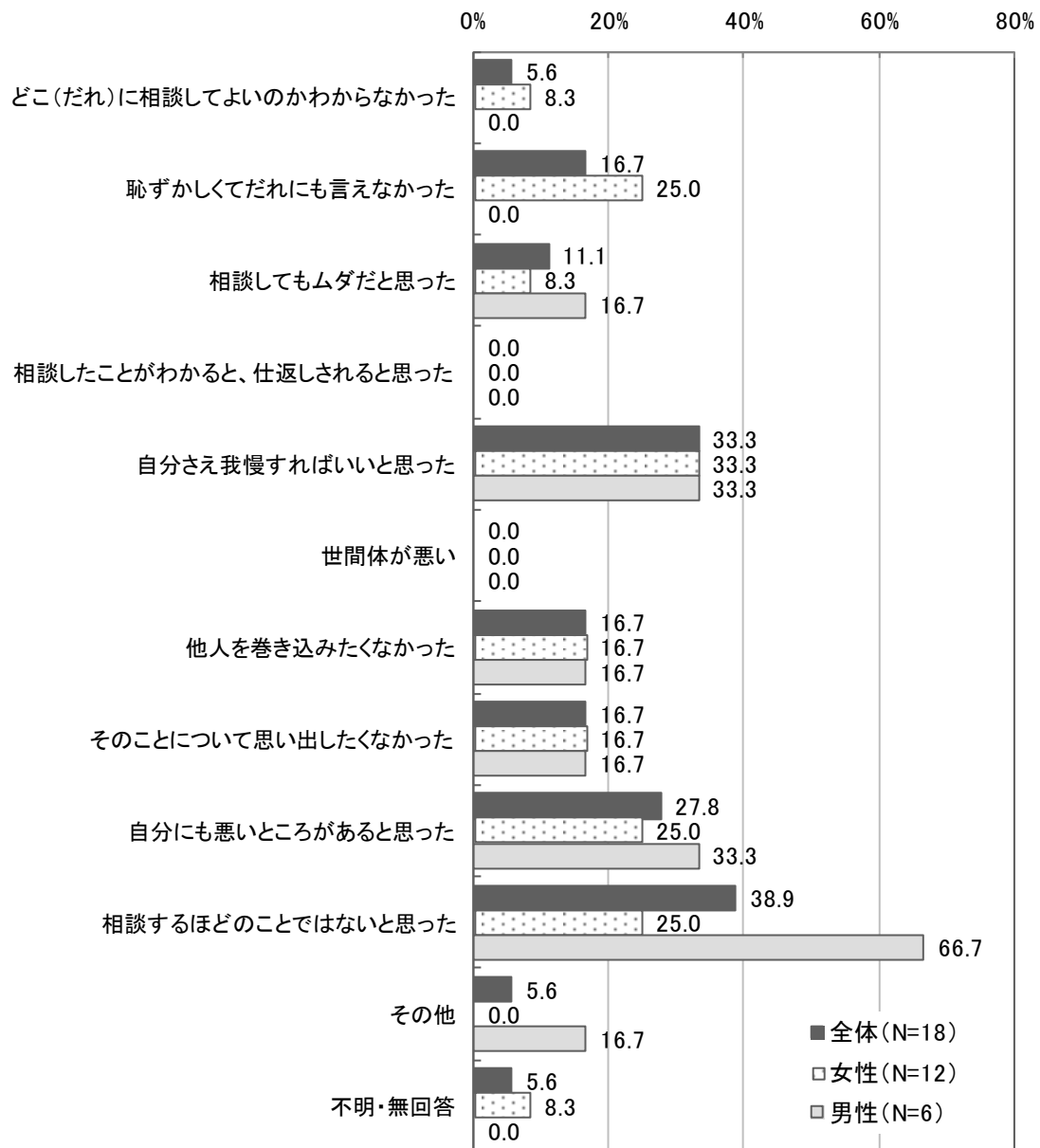


【問10-2で「2 だれにも相談しなかった」と回答した方のみ】

問10-3 相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではないと思った」が38.9%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が33.3%となっています。

性別では、男性で「相談するほどのことではないと思った」が66.7%と、女性と比べて41.7ポイント高くなっています。



V 町内会調査結果

1 回答者の属性

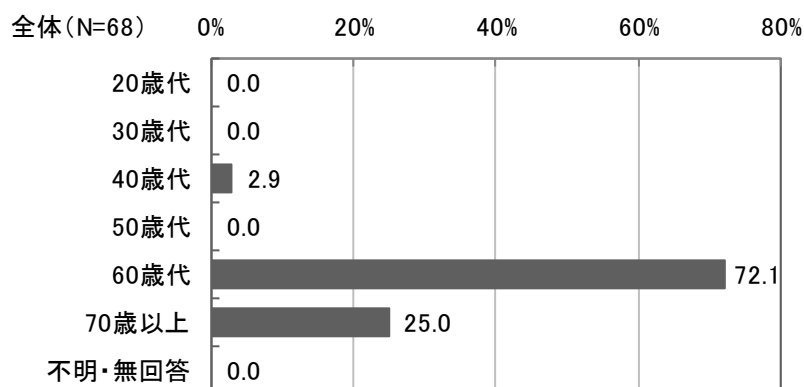
問1 性別（単数回答）

性別は、「男性」が100.0%となっています。



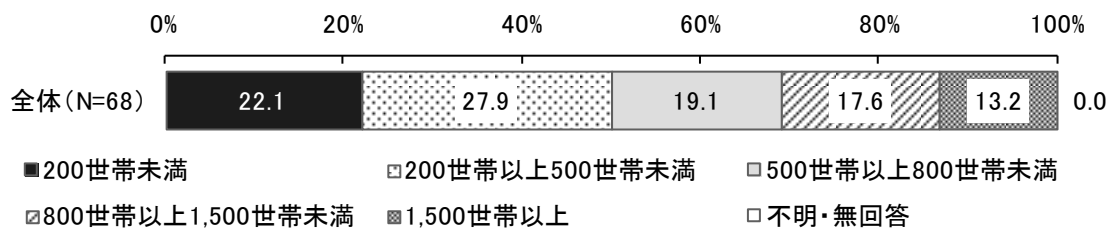
問2 年齢（単数回答）

年齢は、「60歳代」が72.1%と最も高く、次いで「70歳以上」が25.0%となっています。



問3 町内会の加入世帯数（単数回答）

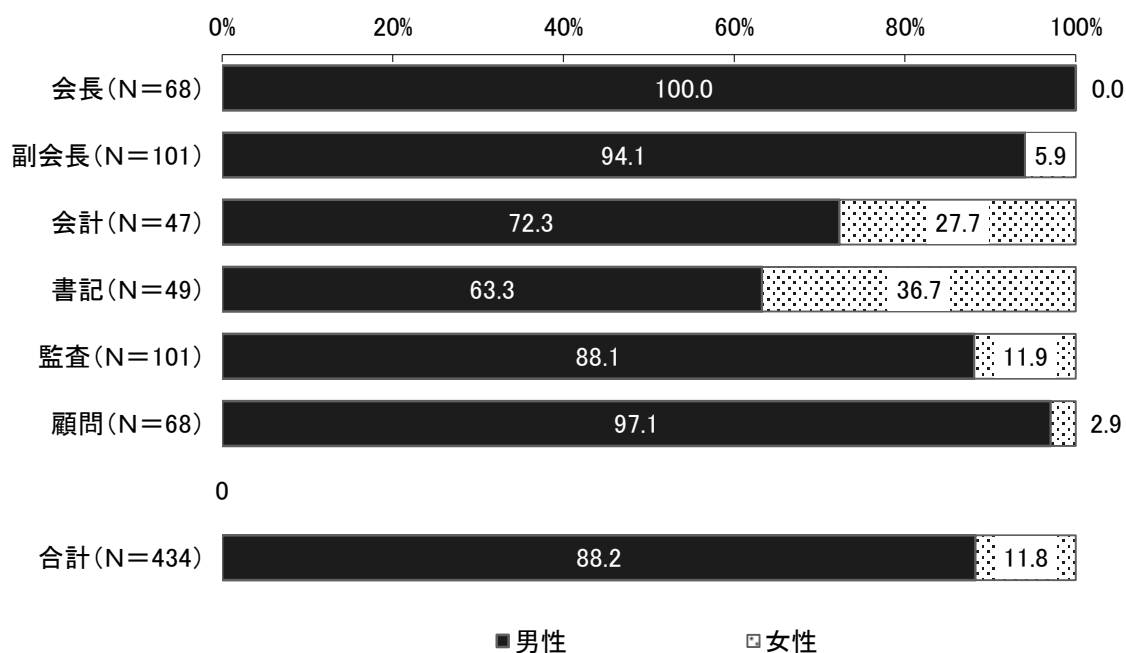
町内会の加入世帯数は、「200世帯以上500世帯未満」が27.9%と最も高く、次いで「200世帯未満」が22.1%となっています。



2 町内会活動における女性の参画について

問4 町内会役員構成員の性別（女性比率）

町内会役員構成員の女性比率は、会長が 0.0%、副会長が 5.9%となっています。役員合計人数に占める女性割合は 11.8%となっています。

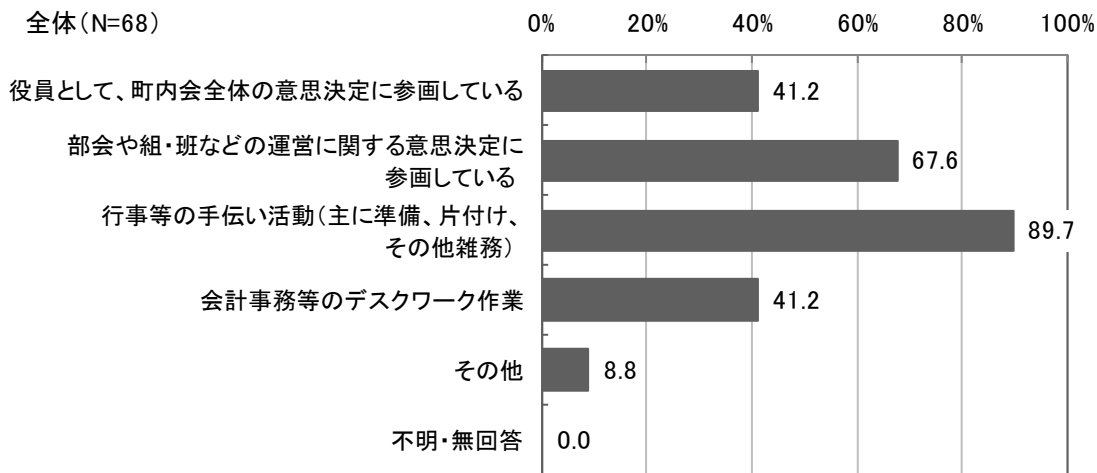


$$\text{※町内会役員女性の女性比率(\%)} = \frac{\text{各役員女性の女性数}}{\text{回答のあった町内会中の各役員数計(男性+女性)}} \times 100$$

※各役職の合計には兼務者を含んでいます。

問5 あなたの町内会において、女性が担っているのはどのような役割、活動ですか。町内会全会員についてお答えください。(複数回答)

町内会において、女性が担っている役割、活動は、「行事等の手伝い活動（主に準備、片付け、その他雑務）」が89.7%と最も高く、次いで「部会や組・班などの運営に関する意思決定に参画している」が67.6%となっています。

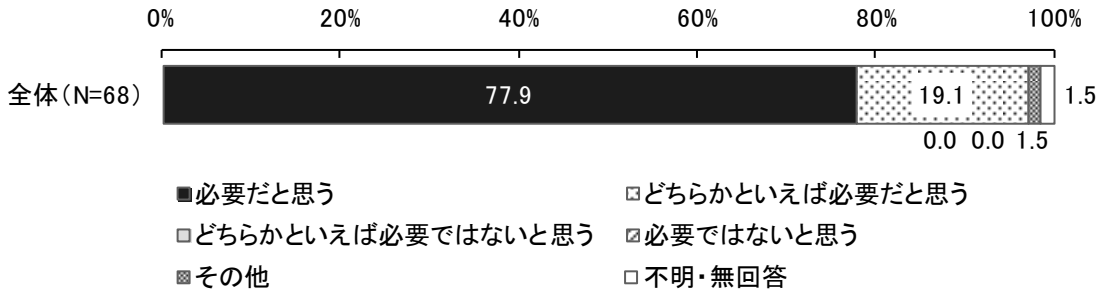


問6 町内会の役員など地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについて、どう思いますか。(単数回答)

問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

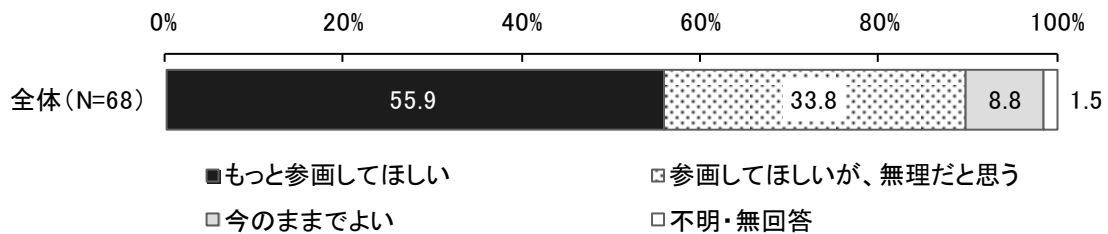
- 『必要だと思う』 … 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合算
- 『必要ではないと思う』 … 「女必要ではないと思う」と「どちらかといえば必要ではないと思う」を合算

地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについては、『必要だと思う』が97.0%と最も高くなっています。



問7 これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画について、どのように考えますか。(単数回答)

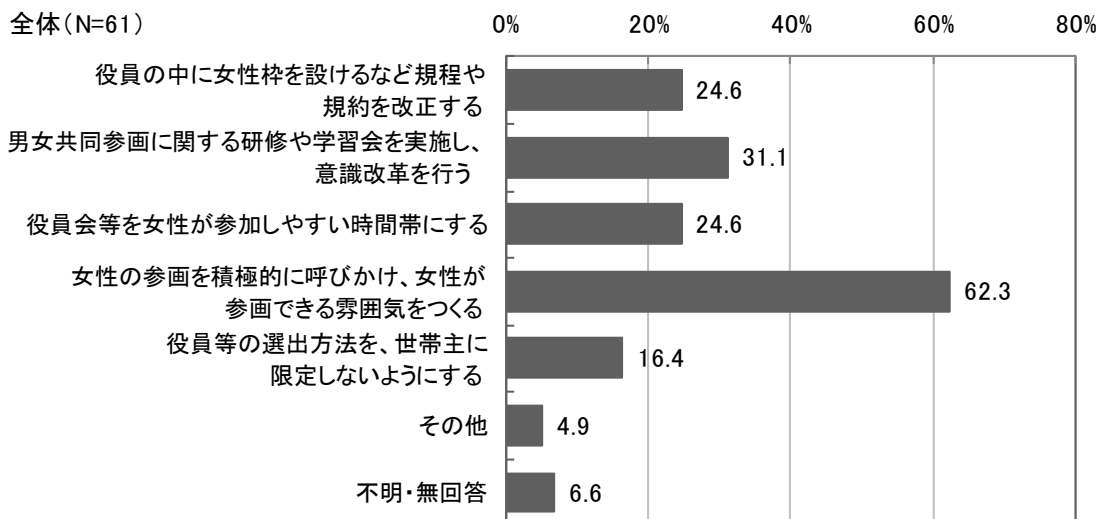
これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画については、「もっと参画してほしい」が55.9%と最も高く、次いで「参画してほしいが、無理だと思う」が33.8%となっています。



【問7で「もっと参画してほしい」「参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ】

問7-1 どのようにすれば、女性が参画できると思いますか。(複数回答)

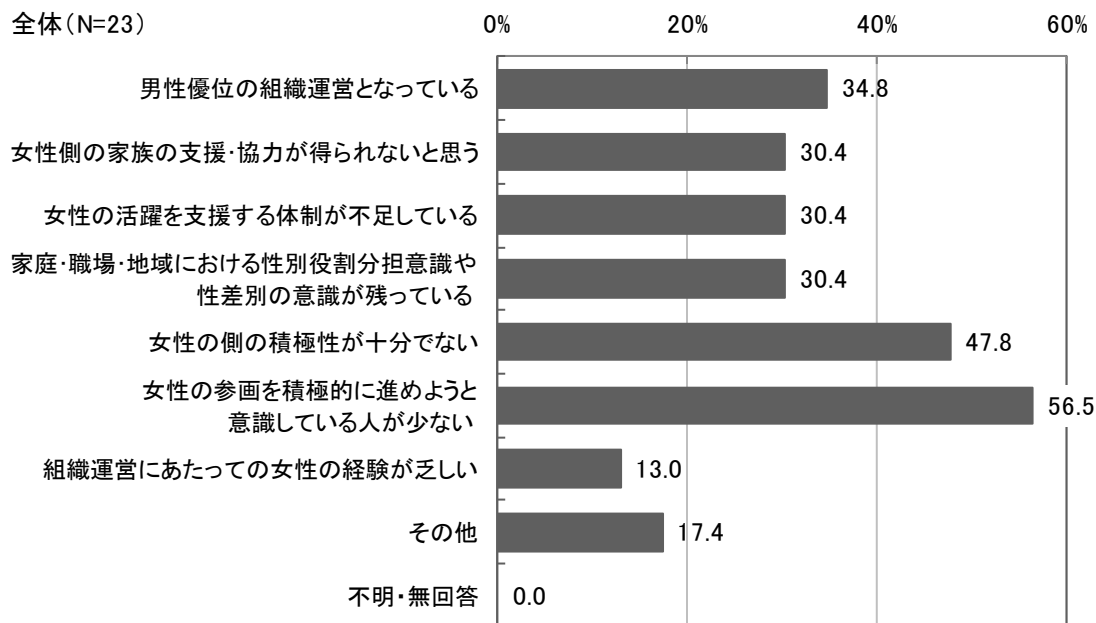
どのようにすれば、女性が参画できると思うかは、「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が62.3%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する研修や学習会を実施し、意識改革を行う」が31.1%となっています。



【問7で「参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ】

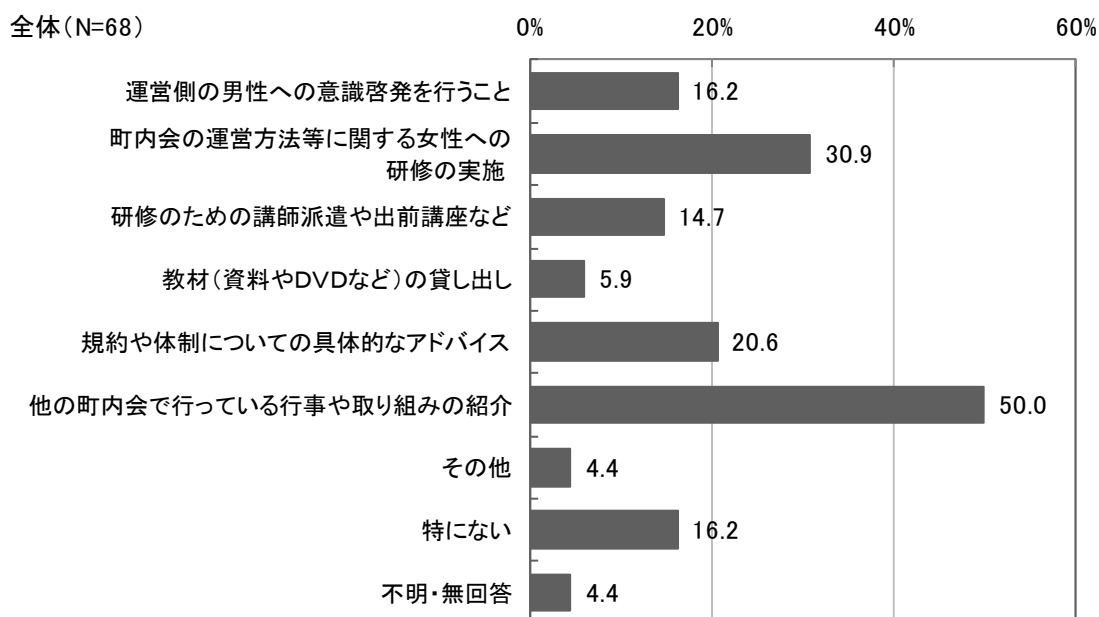
問7-2 無理だと思う理由をおきかせください。(複数回答)

無理だと思う理由は、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が56.5%と最も高く、次いで「女性の側の積極性が十分でない」が47.8%となっています。



問8 町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことはありますか。(複数回答)

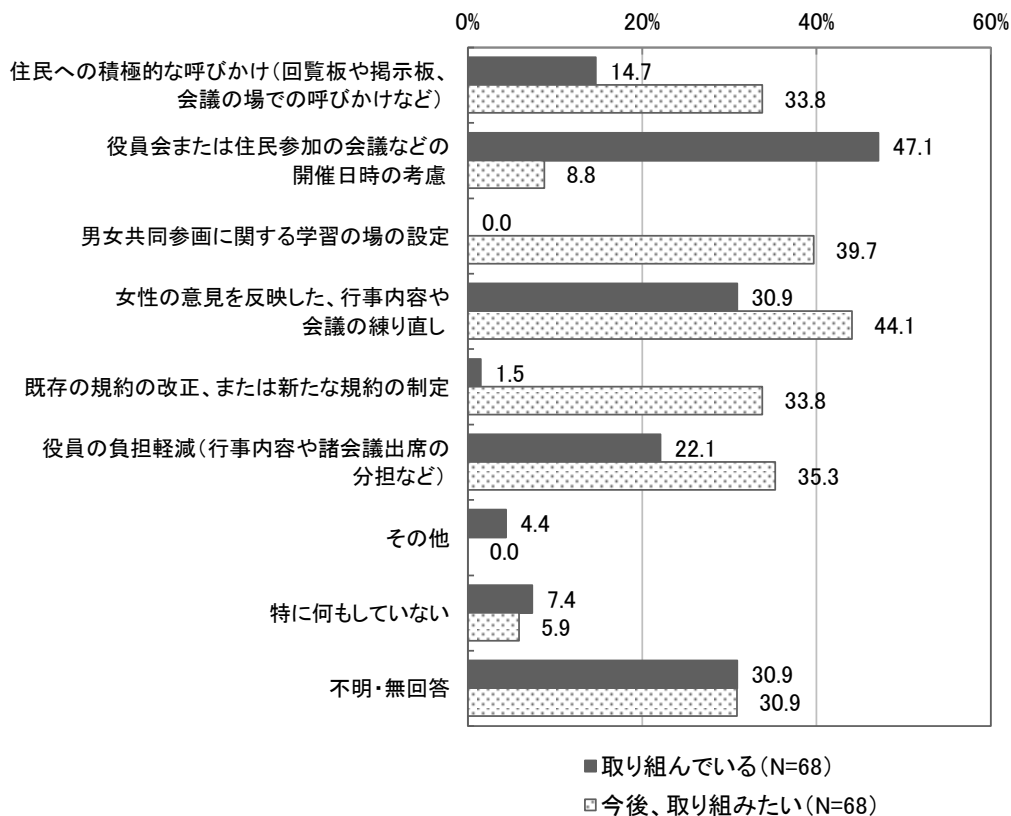
町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことは、「他の町内会でやっている行事や取り組みの紹介」が50.0%と最も高く、次いで「町内会の運営方法等に関する女性への研修の実施」が30.9%となっています。



問9 あなたの町内会では、女性が役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするために、何か取り組みを行っていますか。また、今後、取り組みたいと思いますか。(複数回答)

女性が役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするためにしている取り組みは、「役員会または住民参加の会議などの開催日時の考慮」が47.1%と最も高く、次いで「女性の意見を反映した、行事内容や会議の練り直し」が30.9%となっています。

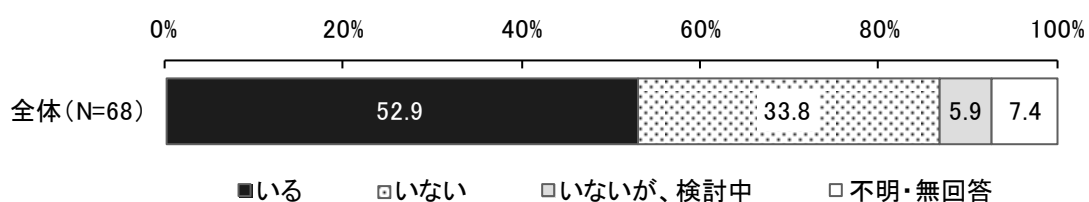
また、今後取り組みたいことは、「女性の意見を反映した、行事内容や会議の練り直し」が44.1%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する学習の場の設定」が39.7%となっています。



3 災害時対策について

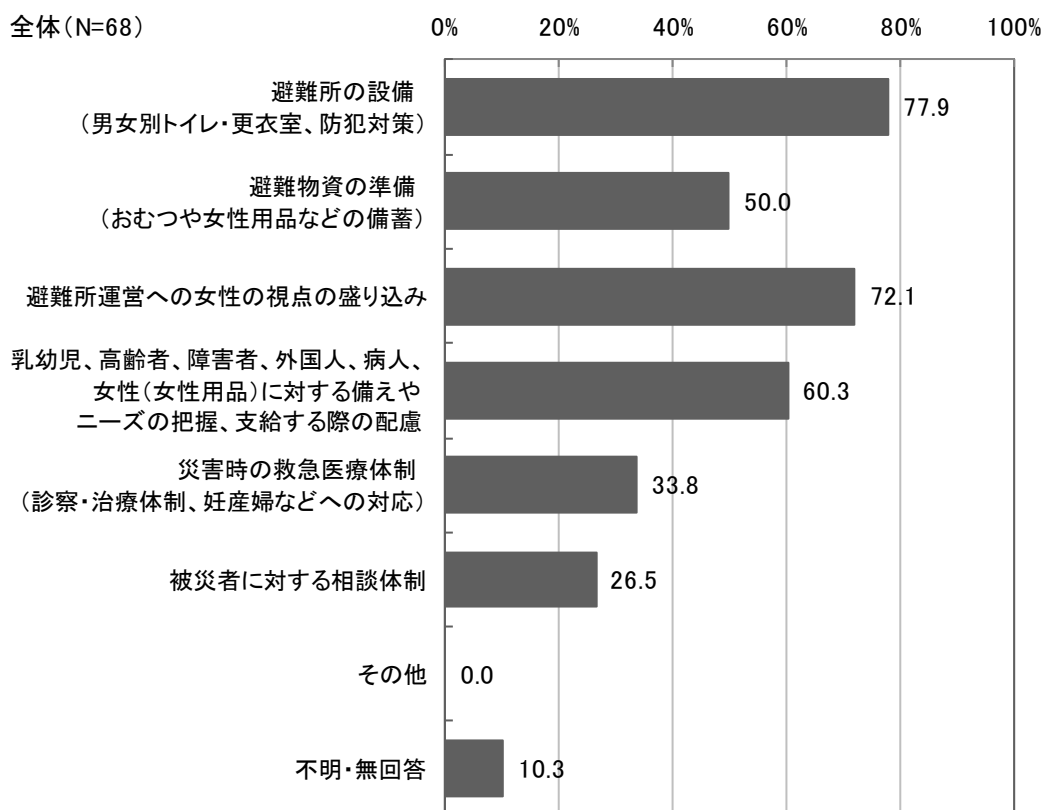
問10 あなたの町内会では、自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画していますか。(単数回答)

自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画しているかは、「いる」が52.9%と最も高く、次いで「いない」が33.8%となっています。



問 11 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(複数回答)

防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは、「避難所の設備（性別トイレ・更衣室、防犯対策）」が 77.9%と最も高く、次いで「避難所運営への女性の視点の盛り込み」が 72.1%となっています。



VI 自由意見

1 市民

意見内容
1 家庭と仕事との両立や働き方について (33件)
まず、女性が仕事を辞めてしまうのは子育てだと思うので、仕事をしながらでも子育てができる環境を優先してもらいたいです。
現状、子どもができたら会社を辞めるつもりです。現在の職場はとても産休を取得しづらい環境です。結局、取得できる人は、大企業や公務員といった制度が整っている会社に限られると思います。
働く人は皆、正社員にしてほしい。保育や介護で働く人は公務員にする。
中小企業においても、育児休暇が取得できるような社会が必要だと思います。
私の子どもはもう成人となりましたが、子どもが小学校のころ、私設の学童保育でお世話になりました。その頃、安城市の議員の方と学童保育についてお話をさせて頂く機会もありましたが、子どもは女親が面倒を見るべきだと言われ、学童保育について理解を頂けなかった印象がとても強く残っています。私は会社では管理職ですが、同世代で中間管理職であった女性社員が自ら管理職を外してほしいと会社へ訴えたケースを見て感じたのは、責任を伴う仕事はしたくないが給料は上げてほしいという女性が多い。また、実際に優秀な女性人材はひと握りだなという印象。ただその女性の方々は家庭はとても円満です。リーダーとなることが果たして素晴らしい事なのか？女性で優秀なサポーターである方はとても多いと思います。社会通念においてPTAや近所づきあい、配偶者の親との摩擦を避ける術を身につけているから…。逆に言えば、その習慣が身につけていると自ら考え、意見を述べるという行為が難しいのでは…。掘り下げて物事を考える女性は少ないような気がします。ただ、マネジメントの考え方でリーダーとは仕事であるという言葉があり、とりあえず環境をつくってみるというチャレンジ部分も必要かもしれません。どのように発展させるかを見ていきたいと思います。
男性でも女性でも働きやすく、家庭生活もしやすい社会になってほしいと思います。
イクメンという言葉がおかしい。自分の子どもの世話・相手をするのは当然。育児をやっている母親は決してイクママ、イクハハなどとは呼ばれない。男性（父親）たちは未だに育児に参加する、協力するという考えを持っている。参加、協力ではない。母親はそんな考えはない。未だにまだ他人事、少し離れてみている感がある。それと女性の意見を取り入れる、尊重しろと言うが、それは男性差別にはならないのか？日本は多くの人が男性側の姓を名乗る。男女別姓にならない限り、女性の自立はないと思う。
男女平等について間違っている認識の人が多。仕事量や役割とか違うと思う。体力の差とか。女性だと生理痛の辛さ、妊娠…全く男女、同じようにできるわけがない。その事を踏まえうえで働ける職場（上司）が必要である。
このアンケートがどのような役に立つかわかりませんが、将来、社会復帰（就労するとき）する時に少しでも働く環境が良くなっていけばいいなと思います。制度は整っていても使えない、使わせてもらえないでは、行政としてやれる事は限られるでしょうが改善されることを望みます。
育児休暇の3年間は母親のみが3年間取得するのではなく、2歳頃からは1年間は父親が母親に変わって育児をすれば母親の職場でのブランクの解消や父親の家事育児への参加で体験しての理解が深まるのではないかと考えます。
育児については、育児する女性の目で色々言われているが、育児される子どものためになるように（よい人間形成や環境）考えた方がよいと思う。そこまで女性が働かないといけないのか、古い世代の私には分かりません。介護については若い人たちが仕事や家庭生活に支障が出る程、負担しなくてはならないのが悲しく心配です。人に迷惑をかけずに楽しく生きていける（歳をとっていける）ようになるよう願うばかりです。
現在、育児休業中ですが、復職後に家事と仕事を両立できるか不安です。女性が出産後も働き続けるには家庭での夫の協力が不可欠ですが、男性の長時間労働（残業ありき、休日出勤）を改めなければ、女性側の負担が増すばかりです。男性も子育てに参加したいと思っている人は多いと思いますが、社会全体の意識を変えていかなければ男性が育児休業を取得したり、日常生活で子育てを実践するのは無理です。

<p>私は自営業なので〇〇休業や〇〇休暇などありません。休めば収入はゼロ。その立場から言わせていただくと、〇〇休業中に給料の〇%もらえるというのはおかしいと思っています。半年位休んで、その間誰かがその人の仕事をカバーしてその席を残しておくのか…。一度辞めて、再度仕事を探せばいいと思います。介護の問題はその子どもたちがやるべき、長男の嫁がやるのはおかしい。そこから変えるべき。仕事も子育ても介護もやれというのは無理！税金だけ上がって、介護認定は取れなくなり、仕事を辞めなければできないし、だいたい男は何もしない。口だけ出してきれい事。少子化を進めているのは、女も仕事をしないと生活していけないから。物価や税金は上がるが、老後は自分で何とかしろとか、自分の事だけで精一杯。男らしく、女らしくではなく、「自分らしく」は自分さえよければいいとなりかねません。男は人や女を守る、女は家庭や子どもを守る、それは基本（人間として）だと思う。それがなければ、少子化は悪化すると思う。なぜ、世の中に男と女がいるのか…考えてほしいです。</p>
<p>問 13 のように制度はできている。問 14B のように普段健康ならいいが、子どもたちがインフルエンザ、休園、たびたびの発熱のある子、そんな時子どもを預かってくれる人がいなかったら、母親はそんなに休暇をとれる仕事場ばかりでしょうか？大変困っています。登園が許されるまで子どもを預かってくれる所も十分あるのでしょうか？子どもが手を離れるまで両親が共に働くことは今も大変な人たちがいます。母親が仕事を辞めざるを得なかった。男女共同参画はとてもいいが、子どもが犠牲になってはならないよう、愛情をもって育てるべきだと思います。</p>
<p>意識は大事だがそれだけで解決はしない。本格的な法的拘束力を持たせた取り組みをしない限り、絶対にこの問題は解消されない。制度の認識や意識だけでどうにかなるなら、休暇の取得状況はここまで悪いわけがない。制度を個人や社会が知っていて、なお、それを使わせまいとする圧力がある。それを力づくでも跳ね返さないと解決しない。</p>
<p>女性が仕事を多くするようになるということは、男性が家庭にたくさん入ると言うことになる。子育てを夫婦のどちらかがするのか他人に任せるのかいろいろな選択ができるようになると良いと思う。一昔前は妻が仕事に出ることすら少なかったのだし。その時、その家庭、その個人で選択できる世の中であると良いと思う！</p>
<p>結婚して子どもができるまで女性という意識はなく乗り越えてこられたが、子どもを出産してから意識がかなり変わった。おじさんやおばさんの協力なしでは乗り越えられなかったことがかなりある。育休明け仕事に就いたが、子どもが1歳だったため、ほとんど病気で帰ってくるのが多くて、仕事を続けることになりかなり悩んだ。産休・育休で2年ほど休んだせいもあり、専門知識を思い出すのにかなり苦労した。職場は近かったのが助かったが、名古屋で働いたりする場合、かなり大変で、仕事を続けること自体困難だと思います。</p>
<p>時間的な事だけではないと思いますが、労働時間の上限をもっと下げるべきだと考えます。そうするためには会社の理解、法改正、1時間あたりの賃金アップ等が必要。さらに現在進んでいる技術の進捗の速度を遅くすることが重要だと思います。早すぎるとそこに関わる人たちがその速度について行けず、結局時間が増加してしまう傾向になりかねないと考えます。また、男女共同には子どもから高齢者まで、動ける人たちが活躍し、支えあることが大事であると思います。</p>
<p>育休、産休制度はあって当然の制度と思うが、育休をとるだけとって期間が終わると退職する人が多いので、人員管理に支障が出やすい。</p>
<p>男性がもっと積極的に家事に参画するようPRを行うと良い。具体的にどのように行くと良いか分かるものがあると良い。</p>
<p>職場の先輩方から話を聞くと、結婚して子どもが生まれて働き続けるためには、両親によるサポートが必要不可欠だそうです。女性が社会で活躍し続けるために、身近に両親など家族のサポートがない方でも働き続けられる行政または職場の体制が充実していたら助かるのではないかと思います。</p>
<p>娘が仕事しています。小3と2歳の子どもがいる。熱が出たときや体調不良で学校、保育園へ行けない時の対応があればよいと思う。すぐそばに親がいる人はサポートできるが、いない人は仕事を休まざるをえない。役職についていても欠席が多かったら良く職からはずされる事が多いと思います。子どもが体調不良の時の預かり施設があると思う。病院の中とか小児科のなかとかサポートする場所がない限り男女平等とは言えないと思います。我が家では夫は育児に参加していません。当然孫達はじいちゃん誰？という表情を見せます。</p>

<p>職場などで男女平等に向け取り組みが進み始め、育児休暇や介護についてはとりやすくなっている。だが、男性の残業が多く、労働時間に1日のほとんどを使われ、帰ってきてても疲れているから家事はできないと言われ、共働きなのに定時で仕事を終わり、子育てと家事を両方行い主人の世話もする。主人は残業後、自分の趣味をして寝る。このような生活を毎日するとイライラも募る。まだまだ男性は家事子育てを手伝うという意識の人が多く、一緒に行っている（やらなければいけないもの）という意識が少なすぎる。男性の意識改革が必要。労働時間に規制が欲しい。フィンランドやデンマークなどの国のように仕事より家族優先がいい。子育て・介護にお金を使ってくれるなら税金が多くてもいい。</p>
<p>男女平等にするなら…配偶者は自営業。自営業者の妻は年金、健康保険をきちんと払っているのに、会社員の妻が払ってないのに年金をもらえるのはおかしい。103、106、130万円など区別なくして皆が払えばいいと思う。将来が心配、生きていけない。男の人だから遅くまで休みの日など働いてないで、家事・育児も自分がやらないといけなくて責任を持って欲しい。働いていけばいいわけではないと思う。子ども会、地域の行事で男の子はソフトボール、女の子はフットボール。大きな大会は女の子がソフトをやっているも出場できない現状。市子連に言ってもダメ。これは差別に当たります？仕事と家庭・地域の活動を充実させるとワーク・ライフ・バランスはとれるけど、お金がないです。経済負担になります。</p>
<p>私は60代後半女性です。80代後半の母親、主人の両親を世話し見送った者として、今の自分の年代は蓄えも着実にできる世の中で両親達も経済的に困らなかった。自営をしつつ人を雇いやってきたが、自分の意識の持ち方で、その都度ストレスをためないよう、子育て期、介護期、働く順位を決めてやれば良かった。しかし、会社勤めではそうはいかない。学童保育や育児休暇か息子の嫁（警察官）など6年休んでいて、来年より復帰する。公務員が見本を示せば大企業、中小企業へと普及していくので（土日休み制度も）だんだんいい方向に進んでいると思う。機会のある度、息子夫婦の子育てを私の両親（80代）達が見ることで、抵抗があったが、いまでは頼もしく思っている。高齢化の進んだ地区では、1人住まいの家が多いので、この人達を外出し、子育てなどをボランティアする機会をもっともっと生き甲斐を出してもらい、両方が助け合えれば、嬉しい。それが昔の向こう三軒両隣の精神ではないか。</p>
<p>男女共同参画ということは進めて行くべきだが、何でもかんでも男女平等ということと同義にしないで欲しい。個人々が暮らしやすい環境を整えるために進める施策であるので、障害となっていることを取り除くことに努め、女性を優遇し、逆差別的な対応をすることで解決をしたつもりにはならないでいただきたい。これまでの旧来の性別役割分担は変わっていると思うが、現状としては、男も女も働き、仕事に追われゆとりのない生活をしているように感じる。男女ともに仕事中心の生活から抜けることができなければ育児や介護を両方ともできなくなると思うので、仕事における働き方の多様性が生まれる施策を期待したい。</p>
<p>現実的には、日本はまだまだ進んでいないと思います。女性活躍のための社会的制度不足や男性側の女性軽視も感じます。女性が上に立つためには、家庭について男性の理解がまず無ければ難しいです。まだ学生の頃までは、ほぼ平等にきた子ども達が社会にでると、男性以上の能力が女性にあっても認められないと感じます。会社側の女性は結婚して、子どもができたならやめるとかあてにならないと言う考え方はやめ、働けるための能力をいかしていくための制度や、育児休暇の男性取得の義務化が必要ではないでしょうか。</p>
<p>男女平等になる事で女性も社会進出していく。それについてはとても良い事だと思うが、そうしたことで、子育ては誰が行うのか。子どもは、託児所、保育所、学童などに預けられ、親と触れ合う、関わる時間が減ってしまい、子ども達の将来に影響はないか。とても心配です。ただ、男女分担をして行けば、この問題は解決するのかもしれないので、職場や、地域、社会全体で家庭内での様々な分担などを行い、子ども達が健やかに育てる環境をつくって欲しい。”保育所や学童に子どもを預けられないから働けない→保育所、学童を増やす”という考えではなく、男女ともに子育てがしやすいような職場づくりや育児休暇制度の充実をしていかないといけないと思う。子どもを育てるのは親であり、子どもも親とのふれ合いと関わりが大切であることをもっと分かってほしい。”男女平等に”職場だけでなく、子育てしやすい制度など考えて欲しい。</p>
<p>大企業ならば現代社会の風潮にあわせて（世間体を気にして？）女性が活躍できる機会を増やしたり、育児休暇や在宅勤務など制度を取り入れる企業も増えてきていると思うが、実際はそれで生活が楽になるわけでもなく、賃金が増えることもなく、結局のところ、女性は家にいて夫が外で稼ぐという何も変わっていない（女性にとって嬉しくない）のが実情だと思う。大企業でその状態だから、中小企業はもっと大変で困難な事だと思う。会社が儲からないのに世間が男女共同参画の風潮だからと言って育児休暇を率先して取り入れはしないと。 (中小企業にそんなゆとりはないから…)。もっと国全体で中小企業の末端まで男女共同参画が行き渡るような仕組みが必要だと思う。大企業はその気になれば対応できる！中小企業など末端まで男女共同参画を浸透させないとほんとに女性が活躍できる社会になったとは言えないと思う。</p>

<p>「子育てをしている女性には重要な仕事は任せられない」と考えている男性の管理職の方が多いのが現実だと思います。確かに、急に熱が出たり子どもの具合が悪くなって、仕事を休むことも考えられますが、では、なぜ、既婚の子持ちの男性は、そのように思われませんか？子育てを女性に任せきりのような男性ほど「女性は当てにならない」と考えているように思います。働き方の多様化、職場環境がもっと一般に広がれば女性も働きやすくなると思います。「子育て」が仕事において不利益だと考えず、未来の社会において、大変重要なことだという認識を男性にも女性にも持ってほしいと考えます。「女性親だけで子育てをする」というより、地域で子ども達を見守り、育てていけると良いと思います。小学校の登下校で付き添って歩いてくださるボランティアの方々には、感謝しています。子どもとも親しくなって見守っていただきます。このような取り組みはもっと参加していただいて、地域全体で子どもの安全を見ていけるようになると良いと思います。母親の負担を軽くして、社会との繋がり持つことが、子育て後の社会への職場復帰へ繋がると思います。</p>
<p>以前、働いていた時に感じたことは、子どものいる方のパートタイム希望時間が皆さん同じなので、シフトの都合上や売り上げ都合上でカットされる事が多く、収入面の不安や不満を口にする方が多く見えました。そして、その時間帯の求人も少ないと感じています。子どもが学校に行っている時間帯だけ働ける職場が増えれば、女性ももっと自由にできるのかなと思います。自身に関しては、夫がサラリーマンで、転勤のある職種のため、正規雇用職はあきらめておりますが、パートですらそれを理由に面接で断られることもありました。それも、男女共同参画となりうるとは思います。大切な人と一緒に暮らしたい。そのために職を失う（介護、育児も含む）そんな世の中が常識になっている方が怖いです。一番変えていかなければいけないと思うのは非正規雇用制度だと思います。今の世の中、男性ですら非正規で収入が安定せず、結婚をあきらめる人も多いと聞きます。男女共同参画もいいですが、それ以前に男女ともに自立して生きていけるような仕組みづくりを行政にお願いしたいです。女性の活躍～ではなく、すべての人が活躍できる社会にしてください。</p>
<p>労働力の確保のために男女問わず働きましようというのは分かりますが、今の労働状況（勤務時間、賃金等）では、子どもなんて産めないと思っています。夫婦のどちらかが家庭を優先できることが理想ですが、よほど恵まれていないと難しい。もっと長い目で考えてくれないかと呆れます。社会的に男女平等ならどちらが育休を取っても問題ないようにするべきだし、2人、3人、4人と子どもをつくれるような余裕をもてる社会を目指すべきだと思います。男らしく、女らしくが無くなってしまふのは怖い事です。それに替わる基準ができる前になくしてしまうのは無個性にもつながります。それに男児と女児がつかみ合いのケンカをしても何も思わないような人は増やしたくないです。「女の子に優しく」と教える親を差別と批判するのは理解できません。</p>
<p>育児に男性が協力する事が、普通（珍しいと言われなくなる）となる日が来ると良いですね。男、女問わず、DVに遭われてる方（大人も子どもも）がヘルプサインを出しやすい日が来ますように。たくさんありますが、過去にDVされメンタルクリニックに通い、子どもを育てる時期に、頼る場所がなく、2人の子どもの守りきれず、一度離婚してしまいました。（子ども達は2人とも不登校児、7年間の引きこもり）現在は、安城に来て元気に働いてますが、育児疲れ、介護疲れ、または病気でいろんな事のある身内の少ない方が、男性・女性・問わず相談しやすい安城市になると良いですね。介護の仕事もしていましたが、1人で誰にも相談できず心の病気になる人も多かったです。（特に男性）自宅で親を見る方もこれから多くなると思いますが、福祉関係で働く方大変さも分かります。良い方向になりますように。</p>
<p>2 女性の活躍について （7件）</p>
<p>女性の管理職が増えるともっと住みやすい社会になると思います。代議士と言われる人でも全然、女性の数が少ないと思います。政府の重要ポストの人の中でもまだ、女性を下に見ている人が多いからでは？</p>
<p>まずは参画する女性と男性の比率が5：5からスタートしないとフェアではないし、始まらないと思う。参画比率が同等であれば、おのずと生の意見が聞けるし、発言力も出てくる。少子化で若者が少なくなっている現在、若い女性を戦力として活用、登用すべき。男性中心ではもはや限界が来ていると思う。最近では女性の方が圧倒的にパワーと行動力が男性を上回っていると感じる。男尊女卑なんてもはや過去の化石で、男がどうの、女がどうのなんて言うこと自体、ナンセンスで時代遅れ。一日も早く優秀な女性たちの力を借りないと乗り遅れていくと思う。もし、共同参画が成功したら、次は男性差別についてどう思いますか？のアンケートになるかもしれませんね！その方が案外うまくいくのかもしれませんが。</p>
<p>市の企画、主催事祭などの市行政、県行政、国行政行事の主催者側担当および担当補助者、責任者などの主催者側女性比率を60%以上の参加を求め、公表継続の数値比較を10年以上続け、目標率を決め、その結果にたえず改善策を実施し続ける。</p>
<p>各種スポーツの大会等で女性の参加者が大変多くなり結構な事だと思っています。</p>

<p>回答に悩む所がいくつかありました。家庭生活について、どちらが主に働き、どちらが家事をするか、または両方平等にやるか、個々の能力によって違うと思う。違って良いと思うというべきか。仕事上、女性であるために不利益を被ることがあるか？利益と不利益が両方あると思う。女性だから許されている部分と女性だから取引先の方などに必要な要件があって電話くださいと言ってもこちらからかけるまでかかってこないと思われる時があり、軽視されていると感じることがある。私はパートなので、それを理由にこれ以上はできないと盾にしているところもある。能力にちゃんと合った評価がされているかどうかの問題だと思う。</p>
<p>行政では市議会議員の女性比率が少ないのはあるが多いから女性意見が反映されるとは言えない。あくまで比率にこだわるのであれば比率を高くする仕組みが必要と考える。男女比の話もあるが市の周辺での高齢化もあり、長い目で見て考えると高齢者問題も十分議題にするのが望ましいかと考える。</p>
<p>男女共同参画を進めていくには、国と大企業の責任が重大です。また、自治体の役割も大事です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 働く女性への差別を是正する。女性の賃金は正社員で男性の7割、管理職の女性比率は1割以下です。大企業ほど賃金差別が大きく、女性管理職比率が低い傾向にあります。働く女性の2人に1人はパートや派遣で60%が会社や仕事について「賃金が安い」「雇用が不安定」など「不満・不安がある」と答えています。働く女性がおかれている差別と格差を是正する必要があります。また、最低賃金の大幅な引き上げも必要です。市は公契約条例を制定するべきです。 あらゆる意志決定の場に女性の平等な参加を保障する政治や行政、司法、経済などの分野で、政策・方針決定過程に参加する女性（指導的地位につく）の登用を抜本的に改善する事です。
<p>3 男女共同参画の意識について (38件)</p>
<p>男女とすることがすでに差別のように感じられます。個人尊重でいいのではないのでしょうか。</p>
<p>重要なことを決めている年配の方の考えを変えない限り、男女共同参画は難しいと思います。</p>
<p>男女共同参画という言葉は1ページの説明によれば、性差にとらわれず本人の自由意思によりそれぞれの能力に応じて社会に参画し、豊かな人生を送っていきける世の中にする事と理解したのですが、問32の回答を見ると、やたら男女平等という言葉が出てきている。果たして男女共同参画イコール男女平等なのだろうか？と疑問に感じた。</p>
<p>男女平等を教育する事は大切だが、男女の違いも大切。力の差や犯罪被害対策など。何でもかんでも同じにすればいいというものではないという事も大切。</p>
<p>女性は、男女共同参画という総論に賛成するが各論では、女性自身能力があるのにもかかわらず、アシスタント的な立場で甘んじることもある。考え方によっては、この方が精神的にも楽だからと思われる。もっと女性を組織の中で能力に応じ、責任ある役職に積極的に登用することが肝要と思います。</p>
<p>テーマについて個人的には理解しているが、専業主婦の場合にあたって市政と関連付けて理解する事が未だできていない。専業主婦に対する市の支援策が現存するのでしょうか？今後もどのように努めていく事が市政に寄与する事になるのかよく分からない。職場への支援が廻り回って、家庭の共同参画へとつながる事になると理解すればよいか…。</p>
<p>「女性の何々」ではなくて、男性、女性、若年者、高齢者など関係なく、誰でも自由に意見や考え方を言える環境がつくられることを望みます。言える環境をつくるとともに、まず、意見などを受け入れられる器の大きい社会環境も同時につくらないと声の大きい人、力のある人の意見へと傾くことがある。マイノリティの中にも優れた意見はあると思います。面倒でもすべての意見を開示してほしい。</p>
<p>男性、女性にかかわらず、若い人も高齢者も大人も子どももそれぞれが上手に役割分担をし、思いやりの心を持った社会になっていくことが、人間性を良い方向へ高めていく事が重要であると思う。家庭の中から少しずつ心がけていくことが一番大切と思う。</p>
<p>我々の年代(60代後半)では、せつかく男性の方から平等に活動に参画するよう声掛けをしても女性の方から「私は女だから引き受けられない。」と断られることが多い。意識改革が必要と思われるが。</p>
<p>主に男性が職場で学ぶべき。特に若い世代は。意外とまだまだ若い方の意識が薄いと思います。</p>
<p>男性も女性もお互いに相手を認め、尊重し合って明るい家庭をつくれたらいいと思います。</p>
<p>女性という言葉だけが先行して、向き不向きを無視した議論があるのは間違っていると思う。</p>
<p>男女問わず、個々の人間性の問題だと思う。男だからどうか、女だからどうかではなく、人としてモラルがしっかりしていれば物事は順調に決まるし成り立っていくのではないかと思う。</p>

<p>理想は何とでも言えますが、現実に男女平等は無理だと思います。我が家も昭和一桁生まれの義父は、嫁が家事、育児、介護をするのは当たり前。男子厨房に入らずの人ですので、私が仕事までしたら寝る暇もなく、倒れるのがおちです。まず、高齢者の意識改革をやるべきだと思います。これからの高齢化社会で家での看取りを勧める風潮がありますが、いつ終わるか分からない介護をすべて女性に、嫁に任せていいのでしょうか？今の医学の進歩で人間は長生きになりました。そして老人は、わがままになりました。その中で、女性は我慢して生きています。男女平等なんて家庭の中では全く通用していない事を忘れていただきたいと思います。私だって自分の資格を生かして外で働きたいです。</p>
<p>男女平等になる事は無いと思いますし、平等でなくても良いと思います。</p>
<p>男女は平等であるべきですが、できるの事に対して、違いがあります。男と女では全く異なる部分も多くあります。それを相互に認め合い、相手の性に対して理解できるような、教育が必要だと考えます。</p>
<p>性同一性障害の場合を除いて、子育てにおいて男らしさ、女らしさを完全に無視することは、不健全に思う。なぜなら男性と女性では身体の特徴以外にも、精神的な面（嗜好）でも異なる傾向にあるからである。そして、その違いによって、どの時代においても社会の男女観は必ず存在するように思う。その社会の男女観を全く無視して子育てや教育を行うことは、子どもが社会に出るための準備とはならない。男女平等のための一歩は、男と女の違いについて考えることだと私は思う。</p>
<p>理念を掲げるだけでは、今までの習慣などをかえることは難しいと思う。男子にしかできないこと女子にしかできないことは数多くあり、男女共同参画がどうしても必要なことなら法律でも使って参加実習という形で、1人1人に経験させないといけないと思います。ある程度の強制がないと、話が立ち消えになると思います。</p>
<p>人として男・女で何ができるかを根本で考えていく必要がある。男が家事をする家庭もあれば、女が家事をする家庭もある。話をすることが大事。男は働き、女は家を守るのが当たり前と考える家庭もあれば、それを違和感と思う家庭もある。</p>
<p>男女共同参画の言葉が堅いのではないかな？参加に身を引いてしまうのでは？</p>
<p>「男女共同参画」と言う言葉を恥じながら今回初めて知りました。なので、理解を深めると共にもう少し世間に広まるといいなと思いました。</p>
<p>男女共同といいますが、女の人にしかできないこと、男の人にしかできないことがあると思います。なんでもかんでも男女共同、共同という事はどうかと思います。力仕事は、どうがんばっても男の人に勝てないと、そう考えれば、女の方は優遇される事になると思いますが、どうでしょうか？男の方は、がんばっても、子どもを産むことはできないですよ！できることをできる人がすればいいと思います。</p>
<p>男女共同参画社会を実現することは素敵なことだと思いますが、成果目標を女性の採用・登用、割合で定めるのは少し腑に落ちません。その割合がどうであれ、満足度が高ければいいと思います。</p>
<p>このアンケート調査票の第1ページの「一人ひとりの豊かな人生の実現」の内容がどうも現実味がないように思われます。今の社会情勢を考えるとまともに答える人が何%いるのか？疑問に思えてなりません！</p>
<p>大変良い企画に参加させていただきありがとうございました。この度の参の候補者の制作等々参考になり、ぜひ実現を…と思いました。しかし、現状の日本は男性が上との考えが根強く思いました。いつまでも世界が平和で、一人一人の子ども達が伸び伸びと成長できますよう、私たち大人が努力を惜しまず、前進をしたいと思います。まずは安城市から期待しております。</p>
<p>「男女平等」と向き不向きを混同している者が多すぎる。体格、体の構造から男と女では違う。すべて平等というなら女も力仕事を行い、災害の場合避難順序のも平等にするのか？あり得ない。男・女それぞれが体格や性格に合った所へ適材適所で活躍できる社会が理想である。</p>
<p>男女共同参画という言葉自体にいかにも男女性の意識が低いか分かる。”共同”ではなく”優先”ぐらいの気持ちがあれば今ある状況に何ら変化はないと思う。</p>
<p>男女平等になると良いことも悪いことも出てくるので、なかなか難しいですね！すぐにすぐ社会を変えられるものではないので、やりたくてもできない感じですね…。</p>
<p>日本ではまだまだ男性優位の社会で、認識を改める活動を広める必要がある。</p>

<p>考え方だけでなく、男女共同に関し改善レベルアップできると思われるアイデア等については、具体的な方策を決めて、実施することが大事だと思います。実施する中で、何か問題点等発生した場合は見直し改善を積み重ね結果（効果）が出るまで、継続（小さい問題はあるかも分からないが…）することが重要（男の人、女の人が男女共同に対して、（考え方が変わる…理解するようになる）自然に行動できるようになる）だと考えます。子ども時代から、男女共同参画に対して教育すると、何年後、何十年後からは、自然にそのような社会になっているかもです。</p>
<p>男女の賃金格差が著しい家庭では意志決定を「稼ぎ手」の意志が左右するのは避けられない思いがします。専業主婦である限り、夫主導の家庭生活を是とするしかありません。娘が2人おりますので、彼女達が社会に出る頃には結婚するしないにかかわらず不当な扱いを受ける事なく出産、子育てができる（フランスのような）社会に近づいていることを望みます。悪筆お許しください。</p>
<p>男と女を何でも同じにするというのは本当の平等なのか？男は男、女は女。それぞれの特性を最大限発揮できる環境を整えることが本当の男女共同参画なのではないでしょうか。</p>
<p>法律や行政を見直しても結局は一般の会社が十分に理解しないと無理だと思う。男とか女とかではなく、働き続けたいと言う気持ちが会社の人全員に理解してもらえないと。</p>
<p>全て均一に見える事ではない。男性、女性それぞれの長所を最大限生かすにはどうすべきかを考えるべき。違う者は違うので。まずは、昔からの古い考え、偏見をリセットすることと、頭が固まってしまっている人間（たとえば本アンケートなんて無視する人とか）に対する対策が重要。前向きな人は救っておけば、各自がんばるので。安城市が愛知県のリーダーシップをとるつもりで色々取り組んでみて欲しい。協力はしたいと思います。</p>
<p>「男女共同参画」について、自分自身ももっと内容を知る必要があると感じました。男性、女性が同じ立場では重要であると思いますが、とても難しい事だと私は感じています。私自身が育った時代、親からの教えで形成されているので、自分の子どもにも同じように言い聞かせている所があると思います。学校教育の場で、子ども達に教え育つ事も大切でし、今から、私自身も知っていくことが第一歩だと感じます。</p>
<p>男女共同参画は今から家庭をつくる世代には良いと思うが、すでに家庭を持ち、特にシニア世代には不可能である。なぜなら生きてきた時代背景が違いすぎることで、すでに配偶者も年寄りになり、今さら男女参画など不可能！従って、男女共同参画を含め、新しい施策はこれから家庭を築く、若い世代にのみ有効であり、定年を迎える世代にとっては、関係のないことで、逆に男女共同参画が今さらなってもらったら困る関係者の方が多い！簡単に言えば、若い世代には得、シニア世代には損ということ。</p>
<p>女性が男性と同じように平等に社会に出てという時代であるが、私自身は望んでいない。主人の働き方により、社員でなくパートがいいと思っても仕事を辞めざるを得ない人が多いのでは？それを女性の社会進出という言葉にしてしまうのは安易だと思う。能力的に男性の方が判断力があるような気がする。気がある女性は、男性と同じように進出すればいい。本当は男性にはたくましくいて欲しいというのが根本にあるが、男女平等という風潮から現在このような世の中になっている。男性があまりに頼りなくなってしまうような気がする。男は男らしくありたい。女性はそのかわり、地域の事で貢献したい。今、地域の繋がりが薄いので…。</p>
<p>紙面や表では平等になどと言われていますが、実際問題は例えば、学校や幼稚園で問題があった時は、どんなに母親が言っても先生の受け応えは薄く、父親が一言出るだけで、動いてくれたりします。また、地区、役所でも女の人の意見や要望は、「また言ってる」とか「クレームだ」などと扱われ、軽く受け止められているように思えてならない。行政は市民が伝えたい事を、その本質を的確に老若男女、そしてそれぞれの人（大人も子ども）あらゆる分野で社会参加活躍できるように、市民の目線になって考えてほしい。</p>
<p>4 DVやハラスメントについて （6件）</p>
<p>職場の雰囲気についてですが、パワハラ、セクハラはもちろん、悪口、陰口、嫌味など、陰湿ないじめ（表面的には分かりにくい部分）に対する対策もご検討よろしくお願いします。今までの職場でこのような場面を目撃したり、私も被害に遭いました。いじめの対策があると皆、働きやすくなると思います。特に強化してほしいです。本当によろしくお願いします。世の中、男女問わず、大人になっても弱い者いじめをする人が多く絶望してしまいました。</p>
<p>女性同士の意識がいがみ合いが多いように思う。男性は女性に対しては普段は優しいが、意見をいうと押さえつけるところがある。女性の意見も良いものがあるのでよく話を聞き、会話をする。</p>
<p>DVについて自分が被害にあったこともないし身近な人で聞いた事がない。テレビなどで見た事しかないが、もしかしたら、言えずにいるだけかもしれない。もし安城市でもそういう方がいるのなら救ってあげて欲しい。</p>

<p>DVに関して、市役所の方に話をしたら、その窓口の方が何も分かってくれなかった。あげくの果てに、脅しのような事を言われ、非常に傷ついた事があった。</p>
<p>小学校、中学、高校と子どもの時からビデオ等を使ってDVに対して啓発活動が必要だと思います。家庭内で父が母にしている事が当たり前だと思っていたことが実は間違っていると気づくこともあると思います。学生のデートDVも多いと聞きます。また、女の子の考え方も束縛されるのは愛されているからだ、などと思っている子も多いように思います。ぜひ、教育の現場でがんばって下さい。</p>
<p>DVをする人は心が弱いからではないか。加害者のカウンセリングが必要だと思います！</p>
<p>5 地域での男女共同参画について (5件)</p>
<p>地域でも男女が平等に活動できるように地方自治体も積極的に取り組んで欲しい。</p>
<p>地域の行事に積極的に参加して、コミュニケーションをとる。広報にうたって欲しい。書いてほしい。外国人の方が多いのもっとコミュニケーションを安城広報誌にも少し、ポルトガル語を。</p>
<p>町内会活動やPTA活動が「バツゲーム」のような感覚があるため、活動方法や運営方法が改善される事を希望します。</p>
<p>私自身に体力があったら、以前のように健康だったら、地域活動に参加したりボランティア活動など、いろいろなことをして小さな声を聞いてそれを大きな輪にしていきたい。そんな元気が欲しいです。</p>
<p>町内会などでは、結構、歳がいった人が上の方の役についているので若い人の意見がとおりにくい。従来の規定に縛られすぎていると思う。頭の固い人が多く、柔軟性がない。若い人の意見を聞かないのだから、女の人の意見など聞いてくれるはずがない。</p>
<p>6 アンケートについて (13件)</p>
<p>このような取り組み・アンケートを実施することは良いことだ。民衆の意見を聞こうとする事は素晴らしい。</p>
<p>社会人1年生です。まだまだ未熟者なので、これからアンケートを踏まえて自分の身の回りから社会への目を養っていこうと思いました。</p>
<p>このアンケートが使用されるか分かりませんが、市役所の皆さんの今後の活動に期待します。</p>
<p>このアンケート調査は役に立つのでしょうか？</p>
<p>このアンケート自体が何の役に立つの？疑問を感じてしまい、抽象的すぎてよく理解できない。役所仕事な内容のアンケートだと思いました。</p>
<p>理由を書く欄が無く、機械的だなと感じました。</p>
<p>かなり以前から言われている事であるが、なぜ今アンケートをとるのか不思議である。安城市では今まで取り組みがなされていなかったのでしょうか？</p>
<p>このアンケートの目的が理解できない。意図が分からない。潜在的なDVに関してなら、問27、28は有効かもしれませんが、問8や21など回答に困りました。</p>
<p>ブラジル人ですが日本語がわかりません。今回は会社にて一緒質問を答えながら進めました。分からないところたくさんありました。</p>
<p>無作為に何名調査したのでしょうか。私のように70歳で子育てや就労とかけ離れた生活をしている者にアンケートしても…と思わずにいられませんでした。大切な市税でアンケートを行うのですから、的を絞ってされた方が良いのではないのでしょうか。</p>
<p>過去の設問が多いため、回答がしにくい。70歳以上になると回答がしにくい。</p>
<p>このアンケートの目的が分からず、読むのもめんどくさいです。家庭の事まで聞かれる筋合いはありません。余計なお世話です。</p>
<p>良い勉強をさせてもらいありがとうございました。</p>
<p>7 その他 (13件)</p>

<p>男女共同参画に関する事ではありませんが、市の行っている事について市民の意見は反映されているのでしょうか？デンパークしかり、厚生病院跡地しかり、毎年赤字を出していると噂があとを絶たないデンパーク。もっと市民の意見を聞いたらいかがですか？厚生病院跡地を図書館にする？今どき図書館って？安城市の中心市街地ですよ。もっと人が集まる工夫をするべきではないですか？若い人が日常的に行き来するような大学（一部の学部）とかを誘致する事はできなかったのでしょうか？まず、市民の意見を聞く。市民が意見を言いやすい場をつくるなど、広く一般から声を集める事が必要だと思います。市長、市議の皆さん、市役所の皆さん、頑張ってください。</p>
<p>老化してきた老人をすごく安値で預かってくれる施設の増加に力を入れて、親の世話に不安を抱くことなく女性（娘や嫁）が生活できること。そうすれば女性は親の世話にとられていた時間がぐっと減り、家事と仕事の時間にあてられる。もしくは男性の収入がぐっと高くなり、女性が働かなくても男性の収入のみで十分安心して暮らせるようにする。そうすれば女性は家族の世話と家事に集中できる。男性は仕事が安心してできるように。ノイローゼにならないように過度の長時間労働をしなくても暮らしていける収入が得られること。余談ですが、自営業者が国や市に納める税金額が高すぎると思います。納税のために自分のプライベートを我慢してお金を使わないように生きていて納税することに 365 日追われています。納税額をもっと国民全体に平等に分配すれば、1 人あたりの額が少なくなるはずですよ。子が就職したら子からも納税額の負担ができるようにしたらどうでしょうか？</p>
<p>やはり貧乏な家に生まれた時点で「その後の人生」が決まります。下剋上等あり得ないです。「人生、運がすべて」。その通りだと思います。先進国に生まれたことに感謝しつつ、中国、韓国でなかった点で感謝すべきことだと思います。「日本国籍を有するもの」これ以上の贅沢はありません。ある程度、生活に余裕ができれば女性も一人立ちして欲しいものです。IT化のため、女性特有の仕事は機会に置き換わります。やはり、結婚という制度が時代遅れになっていると思います。癌にならないのみです。治療費で破産します。親戚は冷たいです。隣近所の人の方が優しいです。「連帯保証制度」、借金だけでなく、賃貸、就職など女性の自立を妨げるものと考えます。憲法改正などを合わせて時代に応じて変えていくべきです。</p>
<p>私は 60 代後半の老女です。これから迎える超高齢化社会、医療、介護、死後の納骨、色々悩みはつきません。孫に恵まれましたので若い方が迎える世の中が今後、すばらしいとまではいなくても経済的にも普通に精神的も安心して過ごせる安城市になってほしいと思います。歳のせいか納骨の事が気になります。墓がありません。納骨堂など建設する予定などがあつたらいいなと思います。</p>
<p>男女、仕事をもって収入もあります。できるだけ子育てに参加し、家庭も家事分担をし、お互いに助け合って家族をつくっていくことが必要です。でも、給料をたくさん頂かないといけません。税金で出ていきます。もっとも国は考えないと過ごせませんから、うまく税金を使いましょう。60 歳になり 65 歳から年金はもらえますが、生活できません。足りません。医療費を使わないように安城市は減塩食を徹底する。ボランティアの方に塩分測定器を持って各家庭に回ってもらう。とにかく、筋肉をつけるように、町内会が真剣に運動する場をつくる。ロコモティブシンドロームについての勉強。健康医療コーディネーターの受講をしています。安城市は住みやすいです。もっと良くしていきましょう。</p>
<p>男女共同参画社会を良くしていくことは、必要だと思う。しかし、国が今盛んに共同参画を促すのは、ただ単に生産性を維持させたいだけである。収入を増加させたいだけなのだ。そのために幼い内から子どもを施設に預けさせ、親子を引き離す。十分な愛を受けられなかった子どもが愛を理解し得ず、DVや反社会的な行動に走るのは、因果である。国際機関を隠れ蓑にしながら、実は世界を破壊せんとするユダヤ人（アシュケナージ系）の拝屋主義に基づいた倫理観の侵略を無自覚に許してきた我々国民（市民）にある。（非正規雇用者の拡大、リーマンショックなど問題はいつもユダヤ系勢力の圧力がもとで引き起こされている。）本気で、真の男女共同参画社会を実現させたいと思っているのならば、これに関わる関係者が世界を支配する 1%の者らの陰謀を理解し、対峙し、見極めた上で、取り組まない限り、問題は増々山積みしていくばかりだ。（ユダヤ問題は、宇野正美氏、中丸薫氏、リチャード興水氏、ベンジャミンフルフォード氏、安部よしひろ氏らの著作物が分かりやすい。）</p>
<p>経済的な理由で夫がパート、私が常勤の仕事になりました。豊かな生活、人生は人それぞれで、今のところ一生懸命に過ごしているだけで、意識したことはありません。毎日、少しでも、笑顔で過ごせる心がけていきます。</p>
<p>女性が活躍できる社会の実現は、2040～の就業人口にとっても影響ある事。一方で育児をはじめ、行政のお金の使い方はそれに伴っていないと思います。例えば、田舎道になぜ歩道がついたか、きれいな道が必要なのでしょうか？国からの補助金を出してもらうための不要な工事等。お金の使いどころをもっと考えてほしい。最後に返信用の封筒に識別のマーキング入れるな！右下の赤色、何が個人や地域を特定せずにアンケート！まじめにやれ！市民の意見を真剣に聞く気があるならこんなことは自分ならやらない。地元を大事に思う 4 人の子育て世代の父親より。</p>

<p>男女共同参画は非常に幅広い活動が必要である。市役所の仕事すべてに関係しているといつて良い。職場・社会・家庭。啓発主体の行政ばかりでなく、市として具体的に実施できるものも多い。保育所や介護施設の充実などである。そうした目に見える事を充実してほしい。</p> <p>質問①デイサービスの縮小はなぜですか？民間に任す？財政圧迫？民間は地域で充実していますか？助成策を考えていますか？男女共同参画に逆行しないようにお願いします。</p> <p>質問②民間学童保育は廃屋でダニと生活するような施設に追いやられているところがある。学校ではできないですか？民間への助成はなされていますか？子どもへの十分な支援があつてこそ、真の男女共同参画であると思います。</p>
<p>自分の母親は踊りの師範の仕事だったので自分の意志さえあればかなりの事はできていくものだと思っています。</p>
<p>税金で箱物ばかり作っている。市長がやりたいことを行うのではなく、未来への事業をやって欲しい。</p>
<p>参加するのも今の状況では、その事に関して参加ができる状況ではないと思います。毎日の家のことや用事で、アンケートには答えは出せてもその時だけ。家庭があれば優先順位で動くのでただただ、その場しのぎの考えで終わってしまいます。</p>
<p>勝手に推進してください。</p>

2 企業

意見内容
1 男女共同参画に取り組みたい (2件)
現在、事務職のみの採用。建設業(現場管理者)の仕事では、共同参画は、難しい面もあると思います。人材不足のため、取り組んでいきたいと、思うのですが…。
いつもお世話になります。弊社も最近、意識を向け始めたばかりですので、今後しっかりと取り組んでいきたいと思えます。安城市内で、女性の再就職を支援する窓口を設置したらいかがでしょうか?派遣社員さんで、「5時間勤務等、自分のペースで働ける職場がなく、探すのに困った」とよくお話を伺います。安城市は最近企業さまも多く、活躍されているので、男女関係なく働く場が増える市となれば良いと願っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます!
2 家庭の協力が必要である (1件)
仕事をやる以上、責任という事がついてくる。女性は上に上がりたいが責任はもちたくない。やはり甘えがあるのか?と言われてしまう。旦那様そして、家族の人達みんなが協力し合ってやらなければ、家庭不和となってしまう。素直な気持ちで人に命令されるのではなく、自主的に行動に移すことができる人間に、まずならなくてはならないと思えます。「素直な心とは、単に人に逆らわず、従順であるといういうことではありません。何ものにもとらわれず、物事の真実と何が正しいかを見きわめて、これに従う心です」松下幸之助「PHP友の会」より。
3 女性の参画は難しい (2件)
当社は機械類の製造業(鉄工業)であり、女性是不向きです。女性(5名、内パート1名)は35~65才で経理、総務の面で活躍している。業種柄、男女のバランスは取れている。
私は女ですが、家庭を持っている女性は家庭を第一に考えて仕事をするべきだと思う。なのでそんなに女性の仕事への男女共同参画をうったえる必要はないと思っている。独身女性なら別ですが、若い女性は私どものような中小企業の製造業はなかなか長続きしない人が多いです。
4 その他 (2件)
行政は、時系列のある1点を持ってこのような対応をするのはおかしいのでは。今の管理職の世代(50代)が出産・育児をしている時代、当時の市政は出産のための一時保育ですら、当時厚労省と文部省の管轄の違いとかで上の子を預かってもらえず、復職もすぐにできず。某市長さんは、子どもは母親が育てるべき、との意向で公立の保育園は増やさない、学童保育は実施しない、と公言されていた時代でしたよ。もっと長期的視点での施策が望まれます。
問について業務によって異なることが多いため、中立な回答となった。
落ち着いた環境で生活できたら良い。

3 高校生

意見内容	
1 男女平等に関する意見 (12件)	
	男女が平等な社会がいいと思う。仕事も平等がいいと思う。
	男女平等にした方が良い。
	まだ平等でない部分が多いと思うので直してほしい。
	全部の事が男女平等というわけではないけれど、全体的に平等だと思った。
	男女は差別なく平等に仕事をしたい。女の人には家庭を守れなど言われるが、私はそれはおかしいと思います。女の人にも仕事をしたい人もいたりするからです。男の人が一番上にするのはとても良くない事だと思います。平等で生活したいと思います。
	男女平等。
	女性が活躍できる社会ができればそれでいいと思う。
	昔は選挙権が男子にだけしかなかったり、女性は働かず、家庭を守るべきだということが定着したりすることがあったけど、現代では無くなり男女平等になるためにとっても考えられていると思う。
	男性だから女性だからと分けられるのはおかしいと思います。
	男や女など関係がないと思う。確かに気が弱く、すぐに泣けてしまう女性もいるが、逆に強く、子どもが3人いるのに女1人で育てる母もいる。女性も男性も同じ人間です。
	男の人が働いて女の人が家庭を守るのは自分の中では、少し違う気がする。男女平等にその時、お互いが納得したことで生活していくべきだと思う。
	人それぞれだから、その人のやりたい事をやらせてあげるべき。
2 固定的な性別役割分担に反対する意見 (8件)	
	政治の女性参加の人数が少ないと思う。
	亭主関白は古い。
	今、出産したらなかなか職場に戻ることができず、働きたいのに働けない女性が多くいるということが問題だと思います。または、戻ったけれどセクハラにあう人も多くいると思います。出産を終えた女性に優しい職場というものを多くつくってほしいです。
	男性だからといって何でもさせるべきではないと思う。
	男性が家庭を守ってもいいのではと思います。例えば男性が専業主夫をしたり、女性が働いて男性が家事をしたり。
	仕事はまだ女性より男性の方が優しくされており、女性は上にあがることができない。
	男性にも女性にも差別はなくしてほしい。TOYOTAやデンソーで働ける人となると男性というイメージではなくて、女性も働けることを分かってほしい。
	だんだん男女平等な社会に変わってきていると思うが、職場など個人個人の考えはあまり変わっていないと思う。
3 制度等の改善に関すること (6件)	
	電車で女性専用車両と男性専用車両を日替わりでやってほしい。
	だんだん平等になってきているから良いと思う。男性、女性優先の場合（電車など）も必要だからもう政治やりに任せます。
	女性のためのサービスが沢山あるなら、男性のためのサービスを増やしてもいいと思う。

男女で付き合っている時に起こるDVとかを相談しやすい環境をつくった方がいいと思います。
女性が離婚した後、何日か結婚できないのはおかしい。
共働きもいいけど、せめて子どもが中学生になるまでは親のどちらかは家にいてあげた方がいいのではないかと思います。
4 その他、感想など (3件)
ちゃんと言えらなら言っておけば良かったなと思って後悔しています。
男はもっと女性に優しくするべきです。
奥野先生が平等じゃない。
落ち着いた環境で生活できたら良い。 昔は選挙権が男子にだけしかなかったり、女性は働かず、家庭を守るべきだということが定着したりするこ

4 町内会

意見内容	
1 女性の参画が必要である (7件)	
	今後、女性の役員（例えば、会長、副会長等）の登用や女性パワーの活用が望まれる。一方男性の意識改革も必要だと思われる。
	男子主体制の考えが今でも多い。福祉委員会等などの会議に子ども会を含む会議等に参画して少しでも多くの参加を増やしていきたい。
	今後、女性の活躍は絶対必要です。
	町内会の役員は地域の選挙で選ばれた総代、副総代で構成されているが、今まで女性が選ばれたことはない。女性を役員にするには、女性枠を設ける必要があるので今後検討したい。
	町内会という組織が男性中心で動いているというのをとても強く感じます。（我が町内は女性も活躍しています）女性がお手伝い等だけではなく、企画、運営までできるようになった時、初めて良いまちづくりができるのではないかと思います。
	今後の地域を考えた時、少子高齢化、生活様式の変化等の中で地域は急速に変わっていくと思う。従来の町内会活動に男女共同参画による地域活動が重要と考えます。（女性参加の地域活動）地域の女性の声を活動に展開し実践していくにはと模索しております。
	市から町内会へ積極的にアピールしてほしい。実施している町内会があれば、紹介してください。
2 女性の参画は難しい (6件)	
	役員を選出などに女性の参画を促す雰囲気は現段階ではない。行うためには「女性だけ」との強制的なものとしなないとできない状況にあるため、依頼する側からの要請から始めないと…。
	町内会役員への女性参画については、市から、指導(?) ぐらいがないと進まないように思う。例えば、正副会長のうち1名は女性を選任してくださいとか…その準備として女性部を組織化し(助成もして)現状の男子による町内会運営、役員選任等を変えるのもどうか。
	女性自らが周囲の目を気にし過ぎ、かえってお互いをけん制し合う雰囲気がある。また、表面に立つと、ともすれば足を引っ張るような陰口がささやかれる。女性自身が変わろうとしなければ掛け声倒れになってしまう。
	地域の自治特に基礎的単位の集落、組の運営が世帯の中心に行われていることから、世帯主が女性でないかぎり地域の自治に参画する女性が増加する見込みは今のところないと思う。
	男女の区分はないが、行事等での予算が少なく共同参画を大きく前進できない。
	P T Aや子ども会の役員でさえ拒否する人が多数を占める現状で、女性の参画を期待することに疑問がある。少数の特定の女性が参画する会議、委員会をつくることは良いことなのか。出たい人より出したい人。委員会には、町内会からの推薦などを考えるようお願いしたい。
3 女性の参画状況の実態など (4件)	
	1. 問10では自主防が取り上げられていますが、福祉委員会・地域見守り活動での女性(おばさん)の活用のほうが進んでいる。私達の町内会では世話焼きさん21名のうち19名が女性、町内会長の意向を受けて活躍してくれている。適材適所でよいのではないのでしょうか。
	2. 町内会のいろんなイベントは子ども会の協力を得ているが、役員は女性(お母さん)が中心、町内会長との意思疎通も十分できており貴重な戦力となってきている。⇒女性の登用は町内会役員に限定して考えない方が、有効ではないかと考えます。町内会の運営は各種団体の協力の上に成り立っていると思います。

<p>現在、女性が町内会の主たる役職には付いてはいないが、女性のご意見は活動におおいに入れていていると感じている。女性が表には出ないが、男女ともに活動をしている。当町内会は、女性委員会、婦人防火クラブが有り、体育委員会にも多くの女性が活動している。福祉委員会においても女性が活動している。</p>
<p>町内行事は男女問わず組長、評議委員会等すべての協力で運営しています。</p>
<p>役員は基本的に1年ごとの交代、先期まで2年連続女性の会長。男性役員、ボランティアなど女性メンバーが多くてもフォロー体制ができていて、うまく運営できていたと思う。会議、行事でのあいさつ、今まで見ているとほとんどの人が大丈夫である。</p>
<p>4 活動全般に関すること、感想など (3件)</p>
<p>男女ともに高齢化になってきていますので、地域活動が難しく悩んでおります。</p>
<p>退職年齢が65才となり、以後再雇用となり、地域活動に対する年齢構成が高くなり町内会活動の人材不足が予想される。共同で参画する年齢構成が年々高齢化となっているので、若い世代の参画が望まれる。</p>
<p>男が…。女性が…。と言っている時点でいかななものかと思う。</p>

平成 28 年度
安城市男女共同参画に関するアンケート調査
【調査結果報告書】

平成 28 年 11 月発行

発行 安城市 市民生活部 市民協働課

〒446-8501
安城市桜町 1 8 番 2 3 号
TEL : 0566(71)2218
FAX : 0566(72)3741